

山 梨 県 北 杜 市

寺 所 遺 跡

経営体育成基盤整備事業寺所地区ほ場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

北杜市教育委員会
山梨県中北農務事務所

山 梨 県 北 杜 市

てらどこいせき

寺 所 遺 跡

経営体育成基盤整備事業寺所地区ほ場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

北杜市教育委員会
山梨県中北農務事務所



調査地点遠景 南上空から



15号住居と16号掘立柱建物

例 言

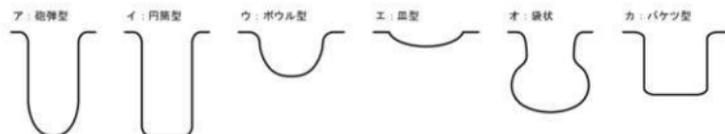
1. 本書は、県営経営体育成基盤整備事業寺所地区ほ場整備に伴い北杜市教育委員会が平成27年度に実施した寺所遺跡発掘調査の報告書である。
2. 調査地点は山梨県北杜市大泉町288番地ほか2筆で、調査面積は10,962㎡である。
3. 発掘調査は北杜市が実施し、調査経費は山梨県中北農務事務所と北杜市が負担した。
4. 現地における発掘調査は平成27年8月19日に着手し、平成27年12月25日に完了した。整理作業は平成28年9月4日に着手し、平成30年3月30日に完了した。
5. 調査組織は以下の通りである。
調査主体………北杜市教育委員会教育長
調査事務局………北杜市教育委員会学術課
調査担当………北杜市教育委員会学術課文化財担当 佐野隆
6. 発掘調査において特定非営利法人茅ヶ岳歴史文化研究所に調査支援業務を委託した。
7. 本書は、小熊詩音（特定非営利活動法人茅ヶ岳歴史文化研究所調査技師）の調査記録をもとに、佐野が執筆、編集した。
8. 遺構の写真は小熊詩音が撮影した。第124図～126図の石器は保坂康夫と小熊詩音が実測した。
9. 本調査に係る調査記録および出土品は北杜市教育委員会学術課（埋蔵文化財センター）が保管している。

凡 例

1. 寺所遺跡の位置は、国土地理院発行2万5千分の1地形図『谷戸』に該当する。本書中の地図は地形図のほか旧大泉村発行『大泉村1/10000地形図』、北杜市地理情報システム収録図を用いた。
2. 報告書中の土壌および土器胎土の色調は、『新版標準土色帖』財団法人日本色彩研究所に拠った。
3. 報告書中の遺構図および遺物実測図の縮尺は、各図版に示す。
4. 遺構図にあるトーンの意味するところは、各図版ごとに記載した。
5. 住居図にある細曲線は硬化面の範囲を示す。
6. 断面図右上の数字は水系レベルの標高を示す。単位はメートルである。
7. 土器実測図のトーンは下に示す種類を表している。



8. 土坑一覧表の断面欄にあるア～カは、下に示す断面形を表している。



9. ここに記載のない凡例は、図中に記載している。

目次

例言

凡例

目次

| | |
|-------------------|-----|
| 第1章 調査に至る経緯と調査の方法 | 1 |
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 発掘調査の方法 | 2 |
| 第2章 遺跡の概要と環境 | 12 |
| 第1節 遺跡の概要 | 12 |
| 第2節 地理的環境 | 12 |
| 第3節 歴史的環境 | 12 |
| 第3章 平安時代の遺構と遺物 | 14 |
| 第1節 竪穴住居 | 14 |
| 第2節 その他の遺構 | 32 |
| 第4章 中近世の遺構 | 40 |
| 第5章 調査の成果と総括 | 207 |

表目次

| | |
|-------------------------|---------|
| 第1表 周辺遺跡地名表 | 6～10 |
| 第2表 土坑ピット観察表 | 164～177 |
| 第3表 土器観察表 | 178～205 |
| 第4表 石器観察表 | 206 |
| 第5表 金属製品一覧表 | 206 |
| 第6表 ハヶ岳南麓の9世紀第2四半期以前の遺跡 | 211 |

図版目次

| | | | |
|------------------|----|------------------------|----|
| 第1図 寺所遺跡の範囲と調査範囲 | 3 | 第10図 2号住居・カマド | 46 |
| 第2図 工事範囲と試掘溝・調査区 | 3 | 第11図 2号住居出土遺物 | 47 |
| 第3図 調査地点位置図 | 4 | 第12図 2号住居出土遺物 | 48 |
| 第4図 寺所遺跡と周辺遺跡 | 5 | 第13図 2号住居出土遺物 | 49 |
| 第5図 寺所遺跡全体図 | 11 | 第14図 2号住居出土遺物 | 50 |
| 第6図 1号住居 | 42 | 第15図 3号・23号住居 | 51 |
| 第7図 1号住居カマド・出土遺物 | 43 | 第16図 3号住居カマド | 52 |
| 第8図 1号住居出土遺物 | 44 | 第17図 23号住居カマド 3号住居出土遺物 | 53 |
| 第9図 2号住居 | 45 | 第18図 3号住居出土遺物 | 54 |

| | | | | | |
|------|----------------------|----|-------|------------------------|-----|
| 第19図 | 3号住居出土遺物 | 55 | 第60図 | 15号住居 | 96 |
| 第20図 | 23号住居出土遺物 | 56 | 第61図 | 15号住居カマド・151号土坑・出土遺物 | 97 |
| 第21図 | 4号・29号住居 | 57 | 第62図 | 15号住居出土遺物 | 98 |
| 第22図 | 4号・29号住居 | 58 | 第63図 | 15号住居出土遺物 | 99 |
| 第23図 | 4号・29号住居カマド | 59 | 第64図 | 15号住居出土遺物 | 100 |
| 第24図 | 4号住居出土遺物 | 60 | 第65図 | 15号住居出土遺物 | 101 |
| 第25図 | 4号住居出土遺物 | 61 | 第66図 | 15号住居出土遺物 | 102 |
| 第26図 | 29号住居出土遺物 | 62 | 第67図 | 16号住居 | 103 |
| 第27図 | 5号住居・カマド | 63 | 第68図 | 16号住居出土遺物 | 104 |
| 第28図 | 5号住居出土遺物 | 64 | 第69図 | 17号住居・カマド | 105 |
| 第29図 | 5号住居出土遺物 | 65 | 第70図 | 17号住居出土遺物 | 106 |
| 第30図 | 6号住居 | 66 | 第71図 | 17号住居出土遺物 | 107 |
| 第31図 | 6号住居 | 67 | 第72図 | 18号住居 | 108 |
| 第32図 | 6号住居カマド・出土遺物 | 68 | 第73図 | 18号住居カマド・土器出土状況 | 109 |
| 第33図 | 6号住居出土遺物 | 69 | 第74図 | 18号住居出土遺物 | 110 |
| 第34図 | 6号住居出土遺物 | 70 | 第75図 | 18号住居出土遺物 | 111 |
| 第35図 | 7号住居 | 71 | 第76図 | 19号住居 | 112 |
| 第36図 | 7号住居 | 72 | 第77図 | 19号住居カマド・出土遺物 | 113 |
| 第37図 | 7号住居カマド | 73 | 第78図 | 19号住居出土遺物 | 114 |
| 第38図 | 7号住居出土遺物 | 74 | 第79図 | 20号住居・カマド | 115 |
| 第39図 | 7号住居出土遺物 | 75 | 第80図 | 20号住居出土遺物 | 116 |
| 第40図 | 8号住居・カマド | 76 | 第81図 | 20号住居出土遺物 | 117 |
| 第41図 | 8号住居出土遺物 | 77 | 第82図 | 20号住居出土遺物 | 118 |
| 第42図 | 9号住居・カマド | 78 | 第83図 | 21号住居 | 119 |
| 第43図 | 9号住居出土遺物 | 79 | 第84図 | 21号住居カマド・出土遺物 | 120 |
| 第44図 | 10号住居 | 80 | 第85図 | 22号住居・カマド・出土遺物 | 121 |
| 第45図 | 10号住居カマド・出土遺物 | 81 | 第86図 | 24号住居・カマド | 122 |
| 第46図 | 10号住居出土遺物 | 82 | 第87図 | 24号住居出土遺物 | 123 |
| 第47図 | 11号住居・出土遺物 | 83 | 第88図 | 24号住居出土遺物 | 124 |
| 第48図 | 12号・25号住居 12号住居出土遺物 | 84 | 第89図 | 27号住居 | 125 |
| 第49図 | 25号住居出土遺物 | 85 | 第90図 | 27号住居カマド・出土遺物 | 126 |
| 第50図 | 13号住居 | 86 | 第91図 | 27号住居出土遺物 | 127 |
| 第51図 | 13号住居カマド | 87 | 第92図 | 28号住居・カマド | 128 |
| 第52図 | 13号住居出土遺物 | 88 | 第93図 | 28号住居出土遺物 | 129 |
| 第53図 | 14号住居 | 89 | 第94図 | 28号住居出土遺物 | 130 |
| 第54図 | 14号住居カマド・113号土坑・出土遺物 | 90 | 第95図 | 1号硬化面・出土遺物 | 131 |
| 第55図 | 14号住居出土遺物 | 91 | 第96図 | 1号掘立柱建物 2号掘立柱建物・柱穴断面図 | 132 |
| 第56図 | 14号住居出土遺物 | 92 | 第97図 | 3号掘立柱建物 4a・4b号掘立柱建物 | 133 |
| 第57図 | 14号住居出土遺物 | 93 | 第98図 | 5号6号7号9号掘立柱建物 7号出土遺物 | 134 |
| 第58図 | 14号住居出土遺物 | 94 | 第99図 | 10号掘立柱建物・出土遺物 11号掘立柱建物 | 135 |
| 第59図 | 14号住居出土遺物 | 95 | 第100図 | 12号13号14号・54号掘立柱建物 | 136 |

| | | | | | | | | | |
|-------|---------------------|---------------------|-----|-------|----------------|-----------------|----------|-----|-----|
| 第101図 | 15号掘立柱建物・柱穴断面図・出土遺物 | … | 137 | 第116図 | 46号掘立柱建物・出土遺物 | 47号掘立柱建物 | … | 152 | |
| 第102図 | 16号掘立柱建物・柱穴断面図・出土遺物 | … | 138 | 第117図 | 49号掘立柱建物・柱穴断面図 | 50号掘立柱建物 | … | 153 | |
| 第103図 | 16号掘立柱建物柱穴断面図 | … | 139 | 第118図 | 51号掘立柱建物 | 52号掘立柱建物 | … | 154 | |
| 第104図 | 16号柱穴断面図 | 17号掘立柱建物・柱穴断面図・出土遺物 | … | 140 | 第119図 | 53号掘立柱建物・出土遺物 | … | 155 | |
| 第105図 | 18号掘立柱建物 | 19号掘立柱建物 | … | 141 | 第120図 | 55号掘立柱建物 | 56号掘立柱建物 | … | 156 |
| 第106図 | 20号・21号掘立柱建物 | 22号掘立柱建物・出土遺物 | … | 142 | 第121図 | 1号溝・出土遺物 | 3号溝 | … | 157 |
| 第107図 | 25号掘立柱建物・柱穴断面図 | 24号掘立柱建物・出土遺物 | … | 143 | 第122図 | 143号土坑 | 153号土坑 | … | 158 |
| 第108図 | 25号掘立柱建物 | 26号掘立柱建物 | … | 144 | 第123図 | 遺構外遺物 | … | 159 | |
| 第109図 | 27号掘立柱建物 | 28号掘立柱建物 | … | 145 | 第124図 | 遺構外遺物 | … | 160 | |
| 第110図 | 29号掘立柱建物 | 30号掘立柱建物 | … | 146 | 第125図 | 遺構外遺物 | … | 161 | |
| 第111図 | 31号・32号掘立柱建物・出土遺物 | 33号掘立柱建物・出土遺物 | … | 147 | 第126図 | 遺構外遺物 | … | 162 | |
| 第112図 | 34号掘立柱建物 | 35号掘立柱建物 | … | 148 | 第127図 | 遺構外遺物 | … | 163 | |
| 第113図 | 36号・42号掘立柱建物 | 38号掘立柱建物 | … | 149 | 第128図 | 1次～3次調査全体図 | … | 209 | |
| 第114図 | 39号・40号掘立柱建物 | 43号掘立柱建物 | … | 150 | 第129図 | 時期毎の住居 | … | 210 | |
| 第115図 | 44号掘立柱建物・柱穴断面図 | 45号掘立柱建物 | … | 151 | 第130図 | 八ヶ岳南麓の平安時代遺跡分布図 | … | 211 | |

| | | |
|-----------|---|---------|
| 写真図版 1～56 | … | 213～268 |
|-----------|---|---------|

抄録

奥付

第1章 調査に至る経緯と調査の方法

第1節 調査に至る経緯

全国的な少子高齢化、過疎化により北杜市では耕作放棄地が年々増加している。一方、平成21年度(2009)の農地法改正により法人が農業分野に参入する機運が高まり、北杜市では農業生産法人を誘致するために農地の集約化を積極的に推進している。平成26年度には八ヶ岳南麓の北杜市大泉町西井出285番地ほか33,000㎡で、法人向けのほ場整備事業が山梨県中北農務事務所により計画された。

計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地「寺所遺跡」(集落跡・平安時代)に該当する(第1図)ため、北杜市教育委員会学術課は、山梨県中北農務事務所、北杜市農政課と協議し、遺跡の時代と範囲、遺構の分布状況を確認するための試掘調査を実施することとした。

試掘調査は、平成26年12月8日から平成27年2月3日にかけて実施し、計画地内に重機を用いて109本の試掘溝、面積4,190㎡を発掘した(第2図)。その結果、平安時代の竪穴住居16軒、掘立柱建物1棟、土坑3基、溝3条を確認した。試掘調査の方法と結果は次節で詳述する。

試掘調査の結果を受けて市学術課は中北農務事務所、市農政課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議した。第2図に示したとおり、平安時代を主体とする遺構は計画地内の尾根地形上に分布している。ほ場整備工事の計画は、この尾根を削平し東西の低い谷地形を埋め立てて平坦に造成することとしており、埋蔵文化財を現状保存しながら施工することは困難であると判断された。そこで着工前に記録保存のための発掘調査を実施することとした。

発掘調査は、平成27年8月19日に着手し平成27年12月25日に終了した。平成27年度は現地における発掘調査と出土品の基礎整理の一部を実施した。調査経費は24,285,350円で山梨県が21,852,000円を負担し、農家負担分に相当する調査経費の10% 2,433,350円を北杜市教育委員会が負担した。教育委員会が負担した経費のうち1/2は国宝重要文化財等保存整備費補助金を充当した。

平成28年度は出土品と調査記録の整理作業を行った。調査経費は8,966,399円で、8,064,000円(90%)を山梨県、902,399円(10%)を北杜市教育委員会が負担した。教育委員会が負担した経費のうち1/2は国宝重要文化財等保存整備費補助金、1/4は山梨県文化財保存事業費補助金を充当した。

平成29年度は発掘調査報告書原稿を作成し、報告書を印刷製本した。調査経費は3,010,000円で2,709,000円を山梨県、301,000円を北杜市教育委員会が負担した。

本件の文化財保護法等の手続きに係る公文書は以下のとおりである。

| | | |
|-------------|-------------|-------------------------------|
| 平成27年2月6日 | 北杜学術第341-1号 | 埋蔵文化財の試掘調査の実施結果について |
| 平成27年7月30日 | 中北農第2893号 | 埋蔵文化財発掘の通知について(文化財保護法第94条第1項) |
| 平成27年7月31日 | 北杜学術第329-1号 | 埋蔵文化財発掘の通知について(進達) |
| 平成27年10月21日 | 教学文第2297号 | 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知) |
| 平成27年10月28日 | 北杜学術第329-3号 | 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(伝達) |
| 平成27年10月14日 | 北杜学術第329-4号 | 埋蔵文化財発掘調査の報告について |
| 平成27年12月28日 | 北杜学術第329-5号 | 埋蔵文化財調査終了報告について |
| 平成27年12月28日 | 北杜学術第329-6号 | 埋蔵物発見届 |
| 平成27年12月28日 | 北杜学術第329-7号 | 埋蔵文化財保管証 |
| 平成27年12月28日 | 北杜学術第329-8号 | 埋蔵文化財保管請証 |
| 平成28年1月15日 | 教学文第3117号 | 埋蔵文化財の認定について(通知) |
| 平成28年1月15日 | 教学文第3117号 | 埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属について(通知) |
| 平成28年1月21日 | 北杜学術第329-9号 | 埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属について(伝達) |

第2節 発掘調査の方法

平成26年度に実施した試掘調査は、ほ場整備の計画地33,000㎡において、0.45㎡バックホーを用いて109本の試掘溝を発掘して埋蔵文化財の有無、分布範囲、遺構の時代を確認した。試掘溝の総面積は4,190㎡で、工事面積の13%程度である(第2図)。

試掘調査の結果、計画地の中央に黄褐色粘質土の地山からなる尾根地形が南北に走り、尾根の東西には浅い谷地形があると確認された。尾根上では平安時代の竪穴住居16軒、掘立柱建物跡1棟、土坑3基、溝3条を検出した。

尾根東西の浅谷では、黒褐色土中に大小の礫が重なり合って堆積し、2mほど掘り下げても黄褐色粘質土の地山は検出されず、遺構も確認できなかった。尾根西側の浅谷内では縄文時代後晩期の土器小破片が若干出土したが、縄文時代の遺構は確認されなかった。以上の調査結果に基づき、記録保存のための発掘調査は中央の尾根地形を中心とした範囲で実施することとした。

調査範囲の表土剥作業は、0.7㎡バックホーを用いて厚さ40～60cmの表土(耕作土)を剥き取り、遺構確認面である黄褐色粘質土の地山を露出させた。表土剥き取り後は人力で遺構を精査し、一部東側の浅谷に調査範囲を拡張し、最終的に10,962㎡の調査区域を定めた。

調査の記録写真は、中判カラーネガフィルム、35mmデジタルカメラを使用して撮影した。遺構等の平面図、断面図等は、オルソ合成した写真をデジタルトレースし、あるいは実測して1/10、1/20で作図した。遺跡の立地環境、遺構の配置を記録するため、無人航空機(ドローン)を用いて空中撮影した。

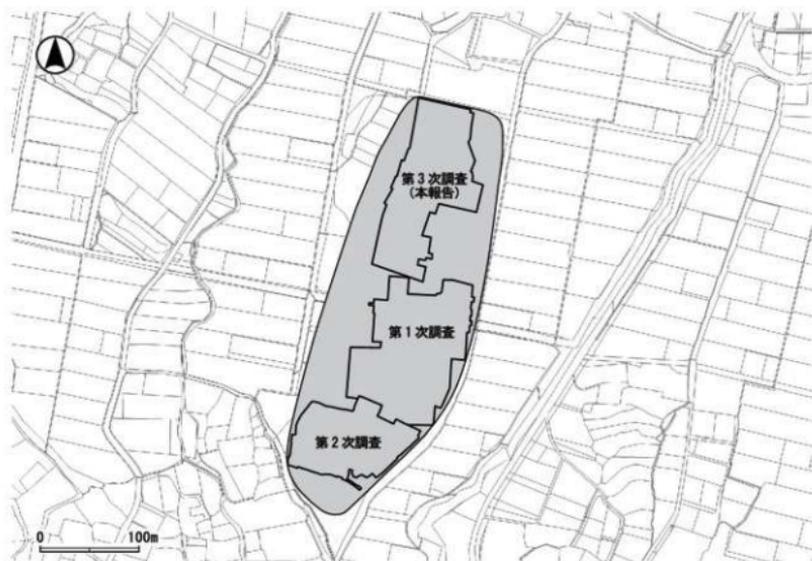
遺構形状と遺物の出土位置は、世界測地系第Ⅱ系による公共座標をもとに光波測量機で測量図化した。一部の遺構はオルソ合成した写真をデジタルトレースして作図した。

出土した土器は全点注記を原則とし、一部微小な土器破片、石器は注記を省略した。注記は寺所遺跡の遺跡番号5-041に遺構番号と遺物番号を書き記した。遺構は以下の略記号を用いた。

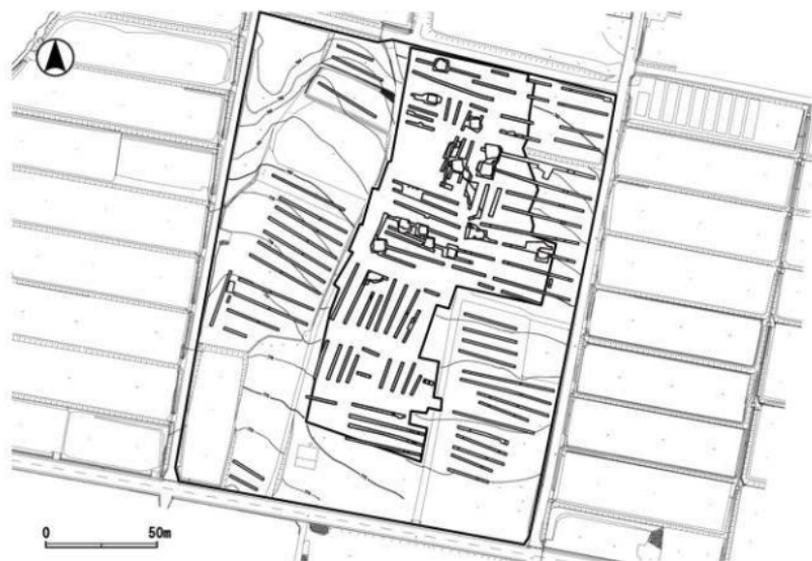
- PH 平安時代の住居跡
- HO 掘立柱建物跡
- DK 土坑(概ね直径60cm以上)
- PT ビット(概ね直径60cm未満の柱穴と思われる小穴)
- MZ 溝跡
- SD 焼土跡
- SX 性格不明の遺構
- TR 試掘溝

出土した土器は接合復元したうえで、遺構の時期、性格を示す資料を抽出して実測図を作図し、観察表を作成した。石器、金属製品も同様である。実測図はデジタルトレースしてDTP編集し、発掘調査報告書の印刷原稿を作成した。出土した鉄製品は公益財団法人山梨文化財研究所に保存処理を委託した。

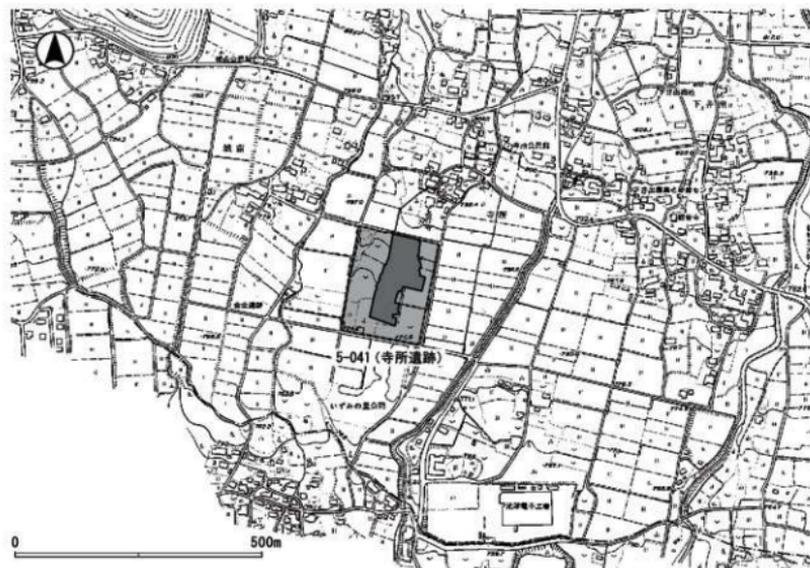
本調査にかかる諸記録、写真、出土品は、すべて北杜市埋蔵文化財センターが保管している。



第1図 寺所遺跡の範囲と調査範囲



第2図 工事範囲と試掘溝・調査区



第 3 図 調査地点位置図



寺所遺跡の現況 北西上空から撮影



第 4 図 寺所遺跡と周辺遺跡

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 町名 | 時代 | 遺構数・出土遺物 | 編纂者 | 発行年 | 報告書名 | 発行機関 |
|-------|-------------------|------------|--------|---|----------------|------|--|-----------------|
| 3-089 | 西ノ原B | 北杜市 高根町 | 縄文前期前期 | 竪穴住居(縄文前期前期Ⅳ、前期Ⅰ、中期Ⅱ、中期Ⅲ、中期Ⅳ、中期Ⅴ、中期Ⅵ、中期Ⅶ、中期Ⅷ、中期Ⅷ、古墳期Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ)。 | 佐野 隆 | 2009 | 『西ノ原B遺跡』 北杜市埋蔵文化財調査報告書 第 29 集 | 北杜市教育委員会 |
| | | | 縄文前期中期 | | | | | |
| | | | 縄文前期後期 | | | | | |
| | | | 古墳前期 | | | | | |
| | | | 平安 | | | | | |
| | | | 古墳前期 | | | | | |
| 3-092 | 御所 | 北杜市 高根町 | 平安 | 竪穴遺構 1 基、土坑 2 基、時期不明の美! 象、縁飾陶器類出土。 | 渡邊尚彦 | 2006 | 『御所遺跡』『北杜市文化財年報 平成 17 年度』 | 北杜市教育委員会 |
| | | | 平安 | 竪穴住居 1 軒、竪立柱建物 1 棟、土坑 2 基。 | | | | |
| 3-140 | 西澤 | 北杜市 高根町 | 縄文中期後葉 | 竪穴住居 1 軒、土坑 5 基(近世 2、時期不明)と溝 1 条。 | 佐野 隆 | 1987 | 『西澤遺跡・当野遺跡』 | 高根町教育委員会 |
| | | | 平安 | 竪穴住居 2 軒、土坑 5 基(近世 2、時期不明)と溝 1 条。 | | | | |
| 3-169 | 日影田 | 北杜市 高根町 | 縄文中期前期 | 竪穴住居(五椀ヶ台 3、管割 1・不明Ⅰ)、縄文中期～中近世までの土坑 113 基、竪穴遺構 4 基(うち五椀ヶ台 1)、ピット群(縄文中期～中近世)。 | 山本茂樹・ 澤井正仁他 | 1995 | 『日影田遺跡(第 1・2 次調査)』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第 100 集 | 山梨県教育委員会 |
| | | | 縄文中期中期 | 竪穴住居(五椀ヶ台 3、管割 1・不明Ⅰ)、縄文中期～中近世までの土坑 113 基、竪穴遺構 4 基(うち五椀ヶ台 1) 平安以降の掘立柱建物 2 棟。 | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居(五椀ヶ台 3、管割 1・不明Ⅰ)、縄文中期～中近世までの土坑 113 基、竪穴遺構 4 基(うち五椀ヶ台 1) 平安以降の掘立柱建物 2 棟。 | | | | |
| | | | 中近世 | 竪穴住居(五椀ヶ台 3、管割 1・不明Ⅰ)、縄文中期～中近世までの土坑 113 基、竪穴遺構 4 基(うち五椀ヶ台 1) 平安以降の掘立柱建物 2 棟、ピット群(縄文中期～中近世)。 | | | | |
| | | | 中近世 | 竪穴住居(五椀ヶ台 3、管割 1・不明Ⅰ)、縄文中期～中近世までの土坑 113 基、竪穴遺構 4 基(うち五椀ヶ台 1) 平安以降の掘立柱建物 2 棟、ピット群(縄文中期～中近世)。 | | | | |
| | | | 中近世 | 竪穴住居(五椀ヶ台 3、管割 1・不明Ⅰ)、縄文中期～中近世までの土坑 113 基、竪穴遺構 4 基(うち五椀ヶ台 1) 平安以降の掘立柱建物 2 棟、ピット群(縄文中期～中近世)。 | | | | |
| 3-191 | 藤林寺 | 北杜市 高根町 | 平安 | 竪穴住居 3 軒、掘立柱建物 1 棟。 | 西宮正樹 | 1997 | 『藤林寺遺跡・ハッパ遺跡・持井北遺跡・ハッパ北遺跡、下黒谷遺跡、水田遺跡・米田北遺跡』 | 高根町教育委員会 |
| | | | 中近世 | 中世の土坑 13 基、配石。 | | | | |
| | | | 縄文中期 | 竪穴住居 1 軒。 | | | | |
| 3-197 | 西原北 | 北杜市 高根町 | 平安 | 竪穴住居 2 軒。 | 西宮正樹 | 1997 | 『藤の神倉遺跡・西原北遺跡・大明神遺跡・源定遺跡、白川町遺跡、源定東遺跡、高内遺跡、高家の前遺跡、一本松遺跡、新宮遺跡』 | 高根町教育委員会 |
| | | | 中近世 | 近世の土坑 1 基。 | | | | |
| 3-198 | 高内 | 北杜市 高根町 | 弥生中期 | 弥生の竪穴住居 4 軒(中期～後期)、時期不明の竪穴遺構 2 基と掘立柱建物。 | 西宮正樹 | 1997 | 『藤の神倉遺跡・西原北遺跡・大明神遺跡・源定遺跡、白川町遺跡、源定東遺跡、高内遺跡、高家の前遺跡、一本松遺跡、新宮遺跡』 | 高根町教育委員会 |
| | | | 弥生後葉 | 弥生の竪穴住居 4 軒(中期～後期)、時期不明の竪穴遺構 2 基と掘立柱建物。 | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居 7 軒、時期不明の竪穴遺構 2 基と掘立柱建物。 | | | | |
| 4-045 | 小和田 | 北杜市 長坂町 | 平安 | 竪穴住居(平安 1・時期不明 2)、時期不明の掘立柱建物 1 棟とピット群。 | 坂本正樹・ 岡本龍之 | 1984 | 『小和田遺跡』(複製) | 北杜市 長坂町教育委員会 |
| | | | 中近世 | 中世の地下式土坑 15 基、竪穴・竪、石樋井戸、竪穴住居 3 軒(平安 1・時期不明 2)、時期不明の掘立柱建物 1 棟とピット群。 | | | | |
| 4-048 | 南新井西 | 北杜市 長坂町 | 平安 | 竪穴住居 6 軒。 | 櫻井真貴 | 1991 | 『南新井西遺跡』 北杜市長坂町埋蔵文化財調査報告書 第 3 集 | 北杜市 長坂町教育委員会 |
| | | | 平安 | 竪穴住居 3 軒、時期不明の掘立柱建物 1 基、時期不明の土坑 40 数基・ピット 51 基。 | | | | |
| | | | 中近世 | 中世の竪穴遺構 3 基、竪石土坑 4 基、地下式土坑 2 基、時期不明の掘立柱建物 1 基、竪石遺構 1 基、時期不明の土坑 40 数基・ピット 51 基。 | | | | |
| | | | 中近世 | 竪穴住居 3 軒。 | | | | |
| | | | 中近世 | 竪穴住居 3 軒。 | | | | |
| 4-049 | 小和田遺跡 (小和田北遺跡) | 北杜市 長坂町 | 縄文中期前期 | 竪穴住居(中期前期 2、平安 19・時期不明 1)、時期不明の土坑、ピット多数。 | 佐野 隆・ 廣津公明 | 2011 | 『小和田遺跡』(複製) | 北杜市 長坂町教育委員会 |
| | | | 平安 | 竪穴住居(中期前期 2、平安 19・時期不明 1)、掘立柱建物 10 棟(平安 3・時期不明)、時期不明の土坑、ピット多数。 | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居(中期前期 2、平安 19・時期不明 1)、掘立柱建物 10 棟(平安 3・時期不明)、方斜石樋 2 基、石樋井戸 1 基、時期不明の土坑、ピット多数。 | | | | |
| | | | 中近世 | 竪穴住居 29 基、掘立柱建物 10 棟(平安 3・時期不明)、方斜石樋 2 基、石樋井戸 1 基、時期不明の土坑、ピット多数。 | | | | |
| | | | 縄文中期前期 | 竪穴住居 2 軒。 | | | | |
| | | | 古墳中期 | 古墳中期～後期の竪穴住居 2 軒(古墳中期～後期)。 | | | | |
| 4-053 | 窪田 | 北杜市 長坂町 | 古墳後葉 | 古墳中期～後期の竪穴住居 2 軒(古墳中期～後期)。 | 村松信幸 | 2006 | 『窪田遺跡』『北杜市文化財年報 平成 17 年度』 | 北杜市教育委員会 |
| | | | 平安 | 竪穴住居 10 軒、竪立柱建物 1 棟、土坑 1 基、ピット 16 基。 | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居 10 軒、竪立柱建物 1 棟、土坑 1 基、ピット 16 基。 | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居 7 軒、竪立柱建物 2 棟。 | | | | |

第 1 表 周辺遺跡地名表

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 町名 | 時代 | 遺構数・出土遺物 | 編著者 | 発行年 | 報告書名 | 発行機関 |
|----------------|--------------|--------|--------|---|-----------------|------|---|----------------------|
| 4-062 4-063 | 柳澤 | 北杜市長坂町 | 縄文中期前期 | 壱穴住居1軒、14基の土坑(中期後葉1・中期後葉～後期初期1基・縄文5)。 | 米田明樹 | 1986 | 『縄文遺跡』山梨県縄文文化財センター調査報告書 第10巻 | 山梨県教育委員会 |
| | | | 縄文中期中葉 | 壱穴住居1軒、14基の土坑(中期後葉1・中期後葉～後期初期1・縄文5)。 | | | | |
| | | | 縄文中期後葉 | 壱穴住居0軒、14基の土坑(中期後葉1・中期後葉～後期初期1・縄文5)。 | | | | |
| | | | 弥生前期 | 壱穴住居1軒、14基の土坑(中期後葉1・中期後葉～後期初期1・縄文5)。 | | | | |
| | | | 古墳前期 | 壱穴住居1軒、14基の土坑(中期後葉1・中期後葉～後期初期1・縄文5)。 | | | | |
| | | | 平安 | 壱穴住居(平安36)平安以降の住居2)、14基の土坑(中期後葉1・中期後葉～後期初期1・縄文5)。平安以降の掘立柱建物6棟と溝状遺構6基。 | | | | |
| | | | 縄文中期中葉 | | | | | |
| | | | 縄文中期後葉 | | | | | |
| | | | 弥生前期 | 壱穴住居(溝内1・菅刈18・縄文2・弥生前期1・古墳前期1・古墳後期7・平安12)。溝内と菅刈を含む縄文中期の土坑15基。 | | | | |
| | | | 古墳前期 | | | | | |
| 古墳後期 | | | | | | | | |
| 平安 | | | | | | | | |
| 4-064 | 小豆敷 | 北杜市長坂町 | 縄文中期前期 | 壱穴住居1軒、土坑30基(縄文～中世)、壱穴状遺構2基(縄文～中世)、溝状遺構4基(縄文～中世)。 | 小宮山隆 | 1997 | 『小豆敷遺跡』小豆敷遺跡(3区東茅渚国指定)北杜市長坂町縄文文化財保護調査報告書 第13巻 | 北杜市長坂町教育委員会 |
| | | | 縄文中期後葉 | 中継跡未定の150基の土坑群、土坑20基(縄文～中世)、壱穴状遺構2基(縄文～中世)、溝状遺構4基(縄文～中世)。 | | | | |
| | | | 平安 | 壱穴住居7軒。 | | | | |
| | | | 中世 | 壱穴住居11軒、土坑30基(縄文～中世)、壱穴状遺構2基(縄文～中世)、溝状遺構4基(縄文～中世)。 | | | | |
| | | | 縄文早期後半 | 縄文と平安の土坑30基(木鳥式1・前期初期以前1を含む)とピット55基。 | | | | |
| | | | 縄文前期初期 | 壱穴住居2軒、壱穴遺構2基、縄文と平安の土坑30基(木鳥式1・前期初期以前1を含む)とピット55基。 | | | | |
| | | | 平安 | 壱穴住居2軒、溝3条、縄文と平安の土坑30基(木鳥式1・前期初期以前1を含む)とピット55基。 | | | | |
| 平安 | 壱穴住居2軒。 | | | | | | | |
| 4-069 | 石原田北 | 北杜市長坂町 | 縄文早期前半 | | 宇野 徳、 船橋節一ほか | 2002 | 『石原田北遺跡』第2次発掘調査(2)北杜市長坂町縄文文化財保護調査報告書 第22巻 | 小豆敷遺跡調査室、北杜市長坂町教育委員会 |
| | | | 縄文前期後葉 | 壱穴住居(溝線1・中期前葉6・中世9・前葉か中葉1・平安19・中世1・平安か中世1・不明2)。縄文～中世の土坑、ピット209基(前期～前期1・後期2・前期後葉～中期前葉11・中期前葉12・溝内1・縄文中期1・中世2・近世1)。 | | | | |
| | | | 縄文中期中葉 | | | | | |
| | | | 中世 | | | | | |
| | | | 平安 | 壱穴住居(平安1・中世3・不明1)、時期不明の掘立柱建物3棟。 | | | | |
| 4-117 | 蹟物A | 北杜市長坂町 | 縄文中期後葉 | 壱穴住居16軒、時期不明の集石遺構・土坑・溝。 | 米木 健 | 1975 | 『蹟物遺跡』『山梨県中央遺跡文化財保護調査報告書』北杜市長坂町長坂・明野・基町地区内 | 山梨県古墳研究会 |
| | | | 古墳前期 | 壱穴住居2軒、時期不明の集石遺構・土坑・溝。 | | | | |
| | | | 弥生後期 | 壱穴住居(弥生末～古墳前期1・古墳前期1・平安2)、時期不明の土坑47基(縄文～中世)とピット3基・溝17条。 | | | | |
| | | | 古墳前期 | 壱穴住居(弥生末～古墳前期1・古墳前期1・平安2)、時期不明の土坑47基(縄文～中世)とピット3基・溝17条。 | | | | |
| | | | 平安 | 壱穴住居(弥生末～古墳前期1・古墳前期1・平安2)、時期不明の土坑47基(縄文～中世)とピット3基・溝17条。 | | | | |
| | | | 中世 | 中世の壱穴遺構1基、時期不明の土坑47基(縄文～中世)とピット3基・溝17条。 | | | | |
| | | | 縄文中期後葉 | 壱穴住居5軒、伊勢1基、土坑(中期後葉11・弥生前期1・時期不明55)、ピット(中期後葉1・不明129)、時期不明の溝7条と壱穴遺構1基。 | | | | |
| | | | 弥生中葉 | 集石遺構1基、土坑(中期後葉11・弥生前期1・時期不明55)、時期不明の溝7条と壱穴遺構1基。 | | | | |
| | | | 弥生後期 | 周溝墓4基、時期不明の溝7条と壱穴遺構1基。 | | | | |
| | | | 平安 | 壱穴住居6軒、時期不明の溝7条と壱穴遺構1基。 | | | | |
| 平安 | 壱穴住居6軒、土坑2基。 | | | | | | | |
| 中世 | 土坑墓2基、溝1条。 | | | | | | | |
| 4-203 | 深草 | 北杜市長坂町 | 平安 | 壱穴住居1軒、時期不明の土坑17基。 | 小畑清佳之、櫻井真貴 | 1987 | 『深草遺跡』第13年度調査(第1次)2・縄文遺跡(1)北杜市長坂町縄文文化財保護調査報告書 第4巻 | 北杜市長坂町教育委員会 |
| | | | 中世 | 中世以降の土坑2基、溝1条。 | | | | |
| | | | | | 櫻井真貴 | | 『深草遺跡』第13年度調査(第2次)北杜市長坂町縄文文化財保護調査報告書 第5巻 | 北杜市長坂町教育委員会 |

第1表 周辺遺跡地名表

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 町名 | 時代 | 遺構数・出土遺物 | 編著者 | 発行年 | 報告書名 | 発行機関 | |
|-------|----------------------------|------------|--------|--|---------------|------|--|-----------------|--|
| 4-210 | 蟻塚 | 北杜市 長坂町 | 古墳前期 | 竪穴住居3軒。 | | 2004 | 『福原遺跡』 北杜市 長坂町埋蔵文化財調査報告書 第29巻 | 北杜市 長坂町教育委員会 | |
| | | | 平安 | 竪穴住居8軒、竪立柱建物1棟、土坑1基、ピット16基、平安以降の溝1条。 | | | | | |
| 5-016 | 東純神石 | 北杜市 大泉町 | 縄文中期後葉 | 竪穴住居(縄文中期後半1・平安0・不明1)、縄文・平安・中世の土坑6基(うち中期後葉1・加賀利1または朝之内1・平安3・中世14)。 | 藤原功一 | 1985 | 『東純神石遺跡』 大泉町埋蔵文化財調査報告書 第3巻 | 大泉町教育委員会 | |
| | | | 縄文前期後葉 | | | | | | |
| | | | 平安 | | | | | | |
| 5-017 | 東原 | 北杜市 大泉町 | 縄文前期後葉 | 縄文時代の黒曜石原石埋納土坑1基。 | 保坂達夫 | 1988 | 『東原遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第153巻 | 山梨県教育委員会 | |
| | | | 縄文中期初期 | | | | | | |
| | | | 縄文中期後葉 | | | | | | |
| | | | 縄文前期後葉 | | | | | | |
| | | | 平安 | | | | | | 竪穴住居12軒、小竪穴遺構1基、竪立柱建物2棟、土坑(縄文1・平安9・平安～中世2)、溝2条、小ピット群2群、特殊遺構1基。 |
| | | | 中世 | | | | | | 土坑(縄文1・平安9・平安～中世2)、溝1条。 |
| 5-038 | 原田 | 北杜市 大泉町 | 縄文前期後葉 | 前期後葉～中期前葉の土坑5基(前期後葉～中期前葉)。 | 八巻与志夫 | 1990 | 『原下・原田遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第58巻 | 山梨県教育委員会 | |
| | | | 縄文中期前葉 | 前期後葉～中期前葉の土坑5基(前期後葉～中期前葉)。 | | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居5軒、竪立柱建物1棟。 | | | | | |
| 5-041 | 寺所 | 北杜市 大泉町 | 平安 | 竪穴住居12軒、土坑7基(中世3・時期不明4)。 | 伊藤公明・ 渡邊泰彦 | 2000 | 『寺所遺跡 第2次発掘調査報告』 大泉町埋蔵文化財調査報告書 第14巻 | 大泉町教育委員会 | |
| | | | 中世 | 近世以降の竪穴遺構1基、土坑7基(中世3・時期不明4)。 | | | | | |
| | | | 縄文前期後葉 | 竪穴住居2軒、縄文前期～弥生生の生活用水に使用された溝き水路。 | | | | | |
| | | | 縄文中期後葉 | 竪穴住居1軒、縄文前期～弥生生の生活用水に使用された溝き水路。 | | | | | |
| | | | 弥生中葉 | 土坑5基、縄文前期～弥生生の生活用水に使用された溝き水路。 | | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居34軒、竪立柱建物3棟、土坑12基、溝4条。 | | | | | |
| 5-042 | 寺所第2 | 北杜市 大泉町 | 中世 | 土坑1基。 | 伊藤公明 | 2005 | 『寺所第2遺跡①(北編)』 北杜市埋蔵文化財調査報告書 第8巻 | 北杜市教育委員会 | |
| | | | 縄文前期後葉 | 竪穴住居1軒。 | | | | | |
| | | | 縄文中期前葉 | 竪穴住居2軒、土坑1基。 | | | | | |
| | | | 縄文中期初期 | 竪穴住居7軒、屋外埋蔵2基、土坑約19基。 | | | | | |
| | | | 縄文前期後葉 | 竪穴住居18軒、土坑6基。 | | | | | |
| | | | 縄文中期前葉 | 竪穴住居37軒、土坑12基、埋蔵土器3基。 | | | | | |
| 5-043 | 天神 | 北杜市 大泉町 | 縄文中期後葉 | 竪穴住居22軒、土坑18基、単独埋蔵2基、配石、伏籠、方形石函状遺構。 | 伊藤公明 | 2008 | 『寺所第2遺跡②(西次・中世前編)』 北杜市埋蔵文化財調査報告書 第25巻 | 北杜市教育委員会 | |
| | | | 平安 | 竪穴住居37軒、竪立柱建物。 | | | | | |
| | | | 中世 | 石樋井戸、鳥居状遺構、小ピット群。 | | | | | |
| | | | 縄文前期後葉 | 竪穴住居49軒、土坑400基(うち中期初期の6基を除く環とんどの土坑が明確で309基以上)。 | | | | | |
| | | | 縄文中期初期 | 竪穴住居9軒、土坑6基(五塚や2、十三番塚遺存3)。 | | | | | |
| | | | 縄文中期初期 | 竪穴住居3軒、土坑(管利)を含む時期不明の16基(A・B区)。 | | | | | |
| 5-045 | 山崎第4 | 北杜市 大泉町 | 縄文中期後葉 | 竪穴住居5軒(A区)、埋蔵4基(A区)、土坑(管利)を含む時期不明の16基(A・B区)。 | 新津 健・ 八巻興夫 | 1984 | 『天神遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第97巻 | 山梨県教育委員会 | |
| | | | 平安 | 竪穴住居9軒。 | | | | | |
| | | | 縄文前期後葉 | 早期末～前期初期1軒、土坑257基(前期初期～中期後葉)。 | | | | | |
| | | | 縄文前期前葉 | 竪穴住居10軒(前期前葉8・前期前葉～後葉2)。 | | | | | |
| | | | 縄文中期前葉 | 竪穴住居4軒(前期中葉1・前期前葉～後葉2・中葉～後葉1)、土坑257基(前期初期～中期後葉)。 | | | | | |
| | | | 縄文中期前葉 | 竪穴住居8軒(前期後葉6・前期前葉～後葉2)、中葉～後葉土坑257基(前期初期～中期後葉)。 | | | | | |
| 5-052 | 城下 | 北杜市 大泉町 | 縄文中期初期 | 竪穴住居3軒、土坑257基(前期初期～中期後葉)。 | 八巻与志夫 | 1990 | 『原下・原田遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第59巻 | 山梨県教育委員会 | |
| | | | 縄文中期後葉 | 竪穴住居15軒(中期後葉14・中期中葉～後葉1)、土坑257基(前期初期～中期後葉)。 | | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居1軒。 | | | | | |
| | | | 縄文前期後葉 | 土坑2基(管利1)。 | | | | | |
| 中世 | 竪穴住居26軒、竪立柱建物10棟、平安以降の溝5条。 | | | | | | | | |
| 中世 | 近世の土坑5基10基。 | | | | | | | | |

第1表 周辺遺跡地名表

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 町名 | 時代 | 遺構数・出土遺物 | 編著者 | 発行年 | 報告書名 | 発行機関 | | | | | | | |
|-------|--|--------|---------|--|------------|--|---|----------|--------|--------|---|------|------|-------------------------------|----------|
| 5-054 | 金生 | 北本市大東町 | 縄文前期前半 | 竪穴住居1軒。 | 八巻有志夫 | 1988 | 『金生遺跡Ⅰ(中野編)』 山梨県縄文文化財センター調査報告書 第39集 | 山梨県教育委員会 | | | | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居6軒。 | | | | | | | | | | | |
| | | | 中世序 | 中世の地下式土坑49基、竪立柱建物10棟、竪穴遺構14基、土坑。 | | | | | | | | | | | |
| | 金生Ⅱ | 北本市大東町 | 縄文前期前半 | 竪穴住居1軒。 | 1989 | 『金生遺跡Ⅱ(縄文時代編)』 山梨県縄文文化財センター調査報告書 第41集 | 山梨県教育委員会 | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期前半 | 墓石1基。 | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期後半 | 竪穴住居2軒。中期後半～前期後半の土坑7基。 | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文後期前半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文後期中半 | 後期～後期の住居41軒(後期前半3・中世4・後葉4・前期後半12・後半4・後期後半～前期前半7・後期前半～後半1・後期～後期3)。中期後半～前期後半の土坑8基。後期～前期前半の石棺16基。後期の配石5基(前半3基・後半2基)。 | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文後期中半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文後期後半 | | | | | | | | | | | | |
| 金生 | 北本市大東町 | 縄文後期前半 | 竪穴住居1軒。 | | | 未報告 | | | | | | | | | |
| 5-063 | 甲ツ原第5地点 | 北本市大東町 | 縄文前期前半 | | 伊藤公明 | 1995 | 『谷戸川流域・甲ツ原遺跡第5地点～遺構編～』 | 大東村教育委員会 | | | | | | | |
| | | | 縄文前期後半 | 中期前半の竪穴住居1軒。前期中葉～中期後半の土坑94基(前期中葉1・前期後半2・中期後半の土坑91)。 | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期前半 | | | | | | | | | | | | |
| | 甲ツ原第6・7地点 | 北本市大東町 | 平安 | 竪穴住居2軒。 | 1994 | 『甲ツ原遺跡第6地点・第7地点』 大東村縄文文化財調査報告書 50集 | 大東村教育委員会 | | | | | | | | |
| | | | 縄文前期後半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期前半 | 縄文の竪穴住居14軒(溝溝1・五塚台1・池沢新道1・森内井戸尻3・管科2・縄文5・不明1)。前期後半～中期前半の土坑96基(溝溝4・池沢新道6・森内井戸尻2・管科4)。 | | | | | | | | | | | |
| 5-063 | 甲ツ原Ⅰ(第5次)Ⅰ | 北本市大東町 | 縄文前期前半 | 竪穴住居1軒。 | 山本花樹・野村幸昭 | 1994 | 『甲ツ原遺跡Ⅰ(第5次)Ⅰ』 山梨県縄文文化財センター調査報告書 第36集 | 山梨県教育委員会 | | | | | | | |
| | | | 縄文前期後半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期前半 | 甲ツ原Ⅰに合計されている | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期後半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文後期前半 | | | | | | | | | | | | |
| | 甲ツ原Ⅱ(第3次・4次調査) | 北本市大東町 | 縄文前期前半 | | 山本花樹・今福利直樹 | 1996 | 『甲ツ原遺跡Ⅱ(第3次・第4次調査)』 山梨県縄文文化財センター調査報告書 第114集 | 山梨県教育委員会 | | | | | | | |
| | | | 縄文前期後半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期前半 | 甲ツ原Ⅰに合計されている | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期後半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文後期前半 | | | | | | | | | | | | |
| 5-063 | 甲ツ原Ⅲ(第1次・2次・3次・6時・7次調査) | 北本市大東町 | 縄文前期前半 | | 山本花樹・川平昌英 | 1996 | 『甲ツ原遺跡Ⅲ(第1次・2次・3次・6・7次調査)』 山梨県縄文文化財センター調査報告書 第145集 | 山梨県教育委員会 | | | | | | | |
| | | | 縄文前期後半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期前半 | 縄文前期前半～平安までの住居113軒(前期前半1・前期前半1・溝溝21・五塚台7・池沢新道9・森内井戸尻31・井戸尻～管科1・管科22・中世6・中期後半～後期前半1・平安4・不明5)。遺跡柱建物6棟(森内井戸尻1・管科1・平安2)。溝溝～管科法での土坑69基(溝溝29・五塚台2・池沢新道3・森内井戸尻21・管科50・中世7)。 | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文中期後半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 縄文後期前半 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 平安 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 5-064 | 木ノ下・大坪 | | | | | 北本市大東町 | 平安 | 竪穴住居6軒。竪立柱建物1棟。時期不明の土坑8基。溝3条(平安1条・時期不明)。 | 佐野勝広 | 1983 | 『木ノ下・大坪遺跡』 | 大東村教育委員会 |
| | | | | | | | | | | 中世序 | 中世の竪立柱建物1棟。時期不明の土坑8基。溝3条(平安1条・時期不明)。 | | | | |
| | | | 5-065 | 豆生田第3 | | | | | 北本市大東町 | 縄文後期前半 | 竪穴住居1軒(敷石住居)。縄文～中近世の土坑16基(竪之内2・後期の石棺蓋1・縄文後期1・縄文1・平安8・中近世2)。 | 藤原功一 | 1986 | 『豆生田第3遺跡』 大東村縄文文化財調査報告書 4集 | 大東村教育委員会 |
| | | | | | | | | | | 縄文後期中半 | 竪穴住居1軒。縄文～中近世の土坑16基(竪之内2・後期の石棺蓋1・縄文後期1・縄文1・平安8・中近世2)。 | | | | |
| 平安 | 竪穴住居6軒。竪立柱建物3棟。縄文～中近世の土坑16基(竪之内2・後期の石棺蓋1・縄文後期1・縄文1・平安8・中近世2)。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 中世序 | 竪立柱建物4棟。縄文～中近世の土坑16基(竪之内2・後期の石棺蓋1・縄文後期1・縄文1・平安8・中近世2)。溝6条(中近世1・近世1)。 | | | | | | | | | | | | | | |

第1表 周辺遺跡地名表

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 町名 | 時代 | 遺構数・出土遺物 | 編纂者 | 発行年 | 報告書名 | 発行機関 |
|-------|--|------------|--------|--|---------------|------|-------------------------------------|----------|
| 5-068 | 谷戸氏館跡 | 北杜市 大泉町 | 縄文中期前期 | 縄文住居2軒。縄文～近世の土坑114基（中期前期1・中期～近世16・近世以降7）。 | 伊藤公明 | 1995 | 『谷戸氏館跡・甲～原遺跡第5地点—遺構編—』 | 大泉町教育委員会 |
| | | | 縄文中期前期 | 竪穴住居2軒。 | | | | |
| | | | 平安 | 竪穴住居1軒。 | | | | |
| | | | 中近世 | 竪立柱建物10棟。水溝状遺構。地下式土坑18基。縄文～近世の土坑114基（中期前期1・中期～近世16・近世以降7）。 | | | | |
| | | | 中近世 | 埋藏跡 | 佐野 隆・ 栗原公明 | 2011 | 『市内埋藏跡詳細分布調査報告書』 北杜市文化財報告 第35集 | 北杜市教育委員会 |
| 5-078 | 中村 | 北杜市 大泉町 | 縄文前期後葉 | 縄文前期後葉～中期前期。旧時代後葉～末葉の遺物 | 伊藤公明 | 1998 | 『中村・中村家2遺跡』 山梨県史料報告 原始・古代1考古（遺跡） | 山梨県 |
| 平安 | 竪穴住居7軒。時期不明土坑40基。平安住居に切られる溝状遺構1基。埋藏跡。銅製騎帯（逆刀）出土。 | | | | | | | |
| 5-079 | 中村第2 | | 中近世 | 中近世の土坑150基。中世の竪立柱建物1棟。渡来銭「決武通宝」約50枚。 | | | | |
| 5-089 | 空路谷戸城跡周辺 | 北杜市 大泉町 | 平安 | 竪穴住居4軒。竪立柱建物2棟。縄文時代を主とする時期不明の土坑33基。時期不明の集石1基・埋跡6基。 | 佐野 隆 | 2009 | 『空路谷戸城跡周辺遺跡』 北杜市文化財報告 第33集 | 北杜市教育委員会 |
| | | | 中近世 | 竪跡。地下式土坑1基。縄文時代を主とする時期不明の土坑33基。時期不明の集石1基・埋跡6基。 | | | | |
| | | | 縄文時代 | 縄文時代を主とする時期不明の土坑33基。時期不明の集石1基・埋跡6基。 | | | | |

第1表 周辺遺跡地名表



調査着手前の遺跡の状況 南西から



第 5 図 寺所遺跡全体図

第2章 遺跡の概要と環境

第1節 遺跡の概要

周知の埋蔵文化財包蔵地「寺所遺跡」は、平安時代を主体とする集落跡である。本遺跡は昭和46年に旧大泉村教育委員会が作成した遺跡一覧表には掲載されていない。また山梨大学考古学研究会が昭和53年に刊行した旧大泉村谷戸地内の『御所遺跡発掘調査報告』にも本遺跡は触れられていない。昭和54年に本遺跡を含む一帯で水田のほ場整備が県営で計画された際、山梨県教育委員会が試掘調査を実施していることから、この試掘調査で本遺跡が確認された可能性があるが、いつ埋蔵文化財包蔵地として認識されたかは不明である。

本遺跡は、山梨県教育委員会が昭和54年に発掘調査し、昭和62年に調査報告書を刊行している。このなかでは「縄文時代前期・中期・平安時代の集落址」と記載され、実際、E区とした調査区で縄文時代中期末葉曾利Ⅱ式土器を伴う23号住居、諸磯b式土器を伴う27号住居、諸磯c式土器を伴う29号住居が調査され、C区北東端で諸磯c式土器を伴う湧水地も確認されている。さらに弥生時代前期の土坑5基も調査された。

このように本遺跡では、縄文時代前期からの弥生時代にかけて断続的で小規模な土地利用の痕跡が確認されていて、古くから人が利用できる環境にあったことがうかがえるが、遺跡の主体は平安時代の遺構群である。昭和54年の山梨県教育委員会による第1次調査では、平安時代の竪穴住居跡31軒、掘立柱建物3基が確認されていた。さらに平成8年度に公共下水道終末処理場建設に伴い旧大泉村教育委員会が実施した第2次調査では、平安時代の竪穴住居13軒に加え、前期前葉から晩期項までの土器破片が出土し、時期不明の土坑7基、近現代の溝状遺構5条(5～9号溝跡)、近世以降の竪穴状遺構1基が確認されている。

本報告書で調査成果を報告する発掘調査は、寺所遺跡の第3次調査にあたる。検出された遺構は、平安時代の竪穴住居27軒、掘立柱建物52棟、平安時代から中近世の土坑166基、ピット620基、中近世の溝6条である。また遺構外で縄文時代前期の諸磯c式土器、中期では五領ヶ台式、藤内式、曾利式土器、後期の称名式、堀之内式、加曾利B式土器が出土した。出土品の総量は、テンバコ32箱分であった。

第2節 地理的環境

寺所遺跡は、北杜市大泉町西井出285番地ほかに所在する(第4図)。北杜市は山梨県の北西部に位置し、八ヶ岳で長野県と県境を接する。八ヶ岳は第四紀に活発に活動した成層火山で、山体崩壊を繰り返して現在の山容が形成されたという。25万年頃に南八ヶ岳の古阿弥陀岳が山体崩壊して形成した釜崎岩屑流は流下距離が50kmにも及び、八ヶ岳南麓の一部と釜崎台地(地元では七里ヶ岩台地ともいう)には「流れ山」と呼ばれる小丘状の地形がいくつも形成されている。

八ヶ岳南麓の地形は、釜崎岩屑流の影響の大きさ、山体崩壊後の河川等による浸食の程度で、鳩川付近を境に東西で違いがみられ、本遺跡が所在する長坂町大八田から大泉町谷戸にかけての標高900m以下の山麓は、史跡谷戸城跡が所在する流山地形などの例外はあるものの、起伏の少ない平坦な南向きの緩斜面がひろがっている。

大八田周辺の緩斜面には油川、甲川、泉川、宮川、鳩川の小河川が流れ、浅い谷地形を形成している。これらの小河川は、それぞれ須玉川、塩川、釜無川と合流して富士川水系の源流域を構成する。本遺跡は泉川左岸、標高780m付近の緩斜面に立地し、遺跡内と周辺には湧水地も存在している。

第3節 歴史的環境

八ヶ岳山麓には後期旧石器時代から中近世までの多数の遺跡が知られるが、ここでは本遺跡の主体となる平安時代の歴史環境について述べる。個々の遺跡の位置と概要は、第4図及び第1表を参照されたい。

本遺跡が所在する北杜市域は、古代の巨麻郡に属し、速見(逸見)郷に比定される。8世紀から9世紀前半にかけては、ロクロ整形甕、須恵器が多く出土し、外来集団の流入居住が認められるといった独自性を保持してきた(須玉町2002)。北杜市内の遺跡でも、塩川と須玉川低地の須玉町腰巻遺跡などでそのような状況が確認できる。

しかし、この独自性は9世紀後半になると、甲斐国府周辺で生産体制が確立した甲斐型土師器の普及とともに、次第に失われていく。須玉町史はこうした状況を「巨摩郡の政治勢力が郡司主体から国司主体へと遷移」したものと総括している。

この動きに連動して八ヶ岳南麓でも9世紀第2四半期から平安時代集落が急増し、100箇所程度の遺跡が確認されている。塩川と須玉川、釜無川低地（現諏訪市から北杜市須玉町、武川町にかけての地域）の遺跡、例えば諏訪市宮ノ前遺跡、須玉町腰巻遺跡などが、古墳時代後期から奈良時代、平安時代と一貫して農地開発され、継続的に土地利用されていたことは対照的である。こうした現象の背景には、承和二年（835）に甲斐国巨摩郡相野空閑地五百町が葛原親王に与えられた親王賜田、8世紀末から9世紀前半にかけての御牧の設置、蝦夷征討による俘囚の移住同化政策などがあったとされ（山梨県2004）、国司が主導して山麓を開発したことがうかがえる。

八ヶ岳南麓の長坂町大八田から本遺跡一帯に広がる緩斜面は、水利の便もよく平安時代遺跡が集中している。文化財保護行政の都合上、複数の遺跡に分割して認識されているが、これらの平安時代遺跡は一体的に経営され、八ヶ岳南麓開発の拠点的地域となっていたと思われる。これまでの発掘調査で9世紀第1四半期の集落遺跡は確認されていない。9世紀後半から10世紀中頃にかけて遺跡数が最大となり、10世紀後半以後、急減する。もっとも新しい段階の遺跡は、12世紀の可能性がある陶磁器が出土した城下遺跡（大泉町谷戸）、12世紀中葉とされる住居が確認された健康村遺跡（長坂町中丸）がある。

甲斐国巨摩郡に置かれた徳坂牧、真衣牧、柏前牧の御牧の駒牽は、文献史料で延喜四年（904）が初見で寛治元年（1087）まで形骸化しつつも確認される。実際に牧馬が朝廷に貢馬されたことが確認されるのは、長保四年（1002）の真衣牧と柏前牧の駒牽が最後であるから、実際の考古資料と大きな齟齬はないようである。

牧との関連では、北杜市高根町下黒沢の湯沢遺跡が昭和58年の調査当時から注目されている。湯沢遺跡は9世紀後半から10世紀前半にかけて経営され、大型堅穴住居、方形の掘り方をもつ大きな柱穴で構成される2間四方総柱の掘立柱建物跡、欄列といった官衙的な様相を帯びた遺構群が検出されている。湯沢遺跡に隣接した須玉町若神子の大小久保遺跡は、瓦、甲斐型模倣杯、須恵器の小規模な生産活動が確認されている。この二遺跡は、八ヶ岳南麓の遺跡群でも特異な遺跡である。

信濃国望月牧に比定されている東御市御牧ヶ原台地では、牧経営に伴う窯業など複合的な土地利用が確認されている。北杜市域では、窯業施設とよめる規模の生産遺跡は未確認であるが、鉄資源開発と鉄生産の痕跡が知られる。

北杜市高根町村山北側の東久保遺跡は、9世紀後半から10世紀前半を中心に堅穴住居30軒、掘立柱建物跡7棟が調査された。特筆されるのは130kgもの鉄滓と羽口、金床石などの鍛冶関連遺物と遺構である。一遺跡でこれだけの鉄滓がまとまって出土する例は、ほかに茅ヶ岳南麓の浅尾原VI遺跡と梅之木遺跡（ともに北杜市明野町浅尾）が知られる程度であり、東久保遺跡は八ヶ岳南麓の鉄生産を担った遺跡と考えられる。浅尾原VI遺跡で行われた鍛冶関連遺物の理化学分析では、東久保遺跡を含め塩川の砂鉄が始発原料であり、浅尾原VI遺跡では鍛錬鍛冶、東久保遺跡では精錬鍛冶が主体であった可能性が指摘されている（北杜市教育委員会2008）。

12世紀から13世紀頃は考古資料、文献史料に恵まれず、八ヶ岳南麓の様相は不明な点が多い。14世紀になると建武四年の足利直義安堵下文字に二階堂政頼が逸見荘上大八田村、下大八田村半分、夏秋村因狩倉の地頭職を安堵されたことが見える。おそらく鎌倉時代から相模、駿河、伊豆などの御家人が広く北杜市域に地頭職を得ていたものと推測される。

大八田（おおぼった）の地名は「墾田」（はりた）から発するといわれ、小淵沢町北野天神社の応永十九年（1412）鐔口銘に「大八幡庄」とあり、八ヶ岳南麓開発を象徴する地名と思える。大八田は、中世には史跡谷戸跡が築かれ、甲斐源氏伝承も残されている。9世紀前半に始まる寺所遺跡の経営は、八ヶ岳南麓開発の初期段階の歴史を示すと考えてよからう。

秋山敬 2003 『甲斐の荘園』甲斐新書刊行会

須玉町 2002 『須玉町史通史編第1巻』

北杜市教育委員会 2008 『浅尾原VI遺跡』

山梨県 2004 『山梨県史通史編1 原始・古代』

第3章 平安時代の遺構と遺物

第1節 竪穴住居

本調査で検出された竪穴住居 28軒の調査所見を報告する。出土遺物の観察所見は、第3～5表に記載した。土坑とピットの属性は、第2表に記載した。遺構の時期は、『宮ノ前遺跡』（蒲崎市教育委員会 1992）、山梨県史資料編2（山梨県 1999）に従った。

北杜市域で一般的に出土するロクロ整形で回転系切り痕を残す土師器坯は、内面を黒色処理するものが多いが、外面まで黒色を呈するものもある。従前、「北巨摩タイプ」、「信州系土師器」などと呼ばれているが、最近の研究成果では東北系土師器の技術移転により製作されたとする見解もある。以下では、宮ノ前遺跡報告書に倣い「黒色土師器」、「黒色坯」、「黒色皿」とよぶこととする。なお甲斐型の内面黒色処理した坯は「黒色坯」に含めない。

本遺跡で出土したロクロ成形土師器甕には、胎土質と器形に相違が認められたことから、将来の生産、流通の検討に備えて、以下の4類に分類した。ただし中間的な胎土質もあり、分類に曖昧さが残った。

- 1類 胎土質が甲斐型坯皿と共通するもの
- 2類 胎土質が黒色坯皿と共通するもの
- 3類 胎土質が甲斐型模倣甕に共通し、乳白色できめ細かく砂っぽいもの
- 4類 粗大で、厚手で鉱物粒子が混じるキメの粗い胎土の甕

1号住居（第6～8図、写真図版1）

位置：調査区北端に位置する。

重複：1号～6号土坑に切られる。これらは近世墓と思われる。

規模：南北4.1m、東西4.5mの方形で、確認面から床面までの深さは20cmと浅い。

埋土：竪穴に堆積した埋土は暗褐色土を主体とし、水平方向の層理が認められた。こうした観察所見から竪穴は自然堆積により埋まったと考えられる。

床面：硬くしまった地山を掘り込んだ竪穴の底面で、黄褐色粘質土の埋め戻し土と思われる7層が認められ、その表面は硬くしまり、特に住居中心部の硬化が著しかった。

周溝：近世土坑墓と重複する箇所以外の住居壁際で検出された。

カマド：東壁のやや南寄りに位置する。根菜耕作のための溝により一部が破壊されている。カマドの袖石等の骨材は原位置をとどめずに抜き取られ、焼土粒子が混じる暗褐色土が堆積していた。袖石を設置した小ピットが検出され、カマド中央の火床は強く被熱し焼土化していた。火床部に角礫が立った状態で出土したが地山に埋設されておらず、支脚石が不明である。カマド南側には21号土坑が検出された。カマドに付属する貯蔵穴などの施設と思われる。

柱穴：検出されなかった。

出土遺物：カマド周辺の埋土中で甲斐型坯、甕の破片が出土した。7図1は南壁沿いの床面で出土した甲斐型坯で、墨書が認められるが判読できない。7図2は床面に散らばって出土した甲斐型坯で、底部は回転系切りのままである。8図1はカマド正面で散らばって出土した甲斐型甕である。8図2は外面カキメ調整、内面は縦方向のナデ調整、器壁が厚手の甲斐型甕破片である。胎土質が典型的な甲斐型甕と異なり、雲母を含まないキメの細かく明赤褐色でロクロ成形甕の胎土に似る。甲斐型甕工人と違う工人が甲斐型甕を模倣して製作したものと思われる。8図4と8図5は南壁沿いからカマドにかけて散らばって出土したロクロ整形土師器甕である。8図8は外面が縦方向のケズリ調整、内面はナデ調整した土師器甕の胴部破片で、武蔵型甕と思われる。8図7は21号土坑で出土したロクロ成形土師器甕破片である。本住居から出土した遺物の重量は示した遺物を含めて、甲斐型坯83g、甲斐型甕512g、甲斐型模倣

甕 91g、黒色杯 13g、ロクロ成形土師器甕 1 類 264g、ロクロ成形土師器甕 2 類 157g、武蔵型甕 163g である。

時期：甲斐型杯の特徴から宮ノ前Ⅶ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）、9 世紀第 3 四半期に位置づけられる。

2 号住居（第 9～14 図、写真図版 1・2）

位置：調査区中央北寄りに位置する。

重複：南東角で 46 号掘立柱建物と重複する。新旧関係は確認できなかった。52 号ピットと 64 号ピットは掘立柱建物跡の柱穴である。

規模：南北 4.5m、東西 4.6m の方形で、堅穴は深さ 10～15 cm ほどが残るのみである。

埋土：堅穴の埋土は堅穴北寄りから中央の上層に黒褐色土が堆積し、下層に暗褐色土が堆積する。地山由来の黄褐色土ブロックがわずかに混在する。カマド周辺の埋土中には大小の礫が出土した。この状況から自然堆積した埋土と判断された。なおセクション図は堅穴が浅かったため作図しなかった。

床面：南東コーナーを除く堅穴の全面で黄褐色土の硬化面を検出した。硬化面を掘り下げると掘り方の凹凸が検出されたことから、硬化面は貼床と判断された。

周溝：南側以外で壁沿いに小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁南寄りで灰白色粘土、焼土、礫を検出した。カマドを構築する袖石は抜き取られていた。カマド跡に広がった灰白色粘土と焼土中から甲斐型杯、甲斐型甕の破片や礫が出土した。カマドは堅穴廃棄時もしくは廃棄後に意図的に破壊されたと判断された。

他の施設：床面を切って掘り込む 27 号、28 号、33 号土坑を検出した。27 号土坑は住居南西角に位置し、この位置に土坑をもつ堅穴住居は一般的にみられるため、本土坑は住居に付属する施設と考えることもできる。28 号土坑と 33 号土坑は位置と深さから本住居を切る後世の土坑と思われる。

貼床を掘り下げると住居の全面から大小の土坑が検出された。これらは大きさ、形状が一定でないことからすべて住居構築時の掘り方と判断された。

出土遺物：カマド周辺と住居埋土から破片が出土した。図示した遺物を含む出土遺物の総量は、甲斐型杯皿 1,067g、甲斐型甕 3,614g、甲斐型模倣甕 129g、甲斐型小型甕 147g、黒色杯 93g、ロクロ甕 1 類 109g、ロクロ甕 2 類 46g、ロクロ甕 3 類 34g、ロクロ甕 4 類 304g、武蔵甕 230g、須恵器杯 437g、須恵器蓋 31g、須恵器壺・甕 123g、焼成粘土塊 14g である。甲斐型杯は口唇部が肥厚せずやや外反し、体部外面下半は手持ちヘラケズリで内面に放射状暗文があるものが多い。底部は回転糸切後にヘラケズリするが糸切痕を残すものも多い。底径/口径比は 1/2 程度である。11 図 1 は体部外面下半と底部外周が回転ヘラケズリ調整され器形もやや違和感がある。同じ時期の甲斐型皿の調整技法に通じる調整であり、甲斐型皿工人が製作した可能性も疑われる。13 図 5 と 13 図 4 は土師器甕の破片で外面はヘラケズリ調整され、内面はナデ調整されている。武蔵型甕破片と思われる。13 図 9 は器壁が厚く粗雑なつくりの土師器甕底部でおそらくロクロ甕と思われる。須恵器杯を 4 点図示した。色調が青灰色で緻密硬質な胎土の 14 図 1、14 図 2 と、乳白色もしくは淡灰色でキメが粗く軟質の 14 図 3 と 14 図 4 がある。14 図 8 は鉄製品である。

時期：出土した甲斐型杯の特徴から宮ノ前Ⅶ期（甲斐型Ⅶ期）、9 世紀第 2 四半期に位置づけられる。

3 号住居（第 15～19 図、写真図版 2・3）

位置：調査区の北東端に位置する。

重複：23 号住居と重複し、本住居が新しい。

規模：南北 3.9m、東西 4m の方形で堅穴の深さは 46 cm である。

埋土：堅穴に堆積した埋土は上層が黒褐色、下層がやや明るい黒褐色から暗褐色土で、両者の中間に地山

由来の黄褐色土粒子が目立つ層が確認された。壁際には黄褐色土が混じる三角地積層が認められた。こうした観察所見から堅穴は自然堆積により埋まったと考えられる。

床 面：硬くしまった地山を掘り込んだ堅穴の底面で、黄褐色粘質土の埋め戻し土層が認められ、その表面は硬くしまり、特に住居中心部の硬化が著しかった。

周 溝：南壁沿い以外で小溝を検出した。

柱 穴：柱穴は検出されなかった。

カ マ ド：東壁中央に位置する。カマド上層は攪乱されているもののカマド自体の保存状態は良好であった。カマド上面に堆積した黒褐色土埋土と礫を取り除くと、カマド左右に直立した袖石が2個ずつ配置され、カマド中央には扁平礫が落ち込んでいた。扁平礫の上面には被熱焼土化した粘質黄褐色土が堆積しており、この黄褐色土と扁平礫がカマド天井を構成していたと推測される。東壁から外側にやや突出する煙道が検出された。

他の施設：住居南東角で46号土坑が検出され、底面から扁平な石が出土した。この位置に作業用、貯蔵用と思われる土坑が設けられる住居がみられ、46号土坑も本住居カマドに付属する施設と思われる。41号、42号、44号土坑は住居掘り方、小さなピットは地山礫の抜き取り痕と思われる。

住居中央やや北寄りの床面上に漆黒の炭化材がまとまって出土した。炭化材を取り除くと床面がややくぼみ、被熱焼土化しているのが確認された。鉄滓などは伴わなかった。

出土遺物：カマド周辺を中心に住居埋土からまばらに土師器破片等が出土した。出土した坏は底径/口径比が1/2より小さく口径が大きい。外部外面はヘラケズリ、内面は放射状暗文を施文する。17図1はカマド北側の床面から6cmほど浮いた位置で出土した甲斐型坏で「田村」の墨書がある。17図2は住居南東角の床面で出土したほぼ完形の甲斐型坏である。底部に「キ」の線刻がある。甲斐型坏は口縁部が薄手のつくりで外反する。18図1と18図2は整形、調整技法は甲斐型坏そのものだが胎土質が典型的な甲斐型坏と異なる。18図7はロクロ甕で外面は濡れた皮などによるナデ調整である。須恵器坏はいずれも破片である。ロクロ調整で底面は回転糸切、器形と胎土質に違いがある。19図1と19図2、19図3は明灰色で軟質、19図4と19図5は高台坏で暗灰色の硬い焼成である。19図6と19図7は須恵器蓋で暗灰色の硬い焼成である。

本住居で出土した遺物は図示したものを含めて甲斐型坏皿293、甲斐型甕1,880、18図1・18図2の甲斐型模倣甕903、甲斐型小形甕10g、黒色坏46g、ロクロ甕1類18g、ロクロ甕2類52g、分類不可の土師器甕7g、須恵器坏343g、須恵器蓋50g、縄文土器破片100gである。

時 期：甲斐型坏の特徴から宮ノ前Ⅷ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）、9世紀第3四半期に位置づけられると思われる。

23号住居（第15・17・20図、写真図版4）

位 置：調査区北東角に位置する。

重 複：3号住居と重複する。本住居が古い。

規 模：東西3.9mの方形で堅穴は深さ30cmほど残る。

埋 土：3号住居と重複し本住居の埋土は南壁沿いの一部が残るのみである。土層断面観察では黒褐色土と暗褐色土がレンズ状に堆積する様子が看取できた。自然堆積により埋没した住居と思われる。

床 面：堅穴掘削時の掘り方に地山の黄褐色粘質土を埋め戻して、平坦に均し床面としている。床面が残る範囲では硬く踏みしめられていた。

周 溝：南壁沿いで小溝を検出した。

柱 穴：検出されなかった。

カ マ ド：東壁南寄りに位置する。礫と焼土を検出したが、袖石等は残されておらず完全に破壊されている。3号住居建築時に破壊されたのか、本住居焼廃時に破壊されたのかを判断する調査所見は得られていないが、

3号住居南東角から離れた袖石まで失われているので、本住居廃絶時に破壊されたと推測される。

他の施設：南壁沿いで106号、107号、108号ピットを検出した。出入りに関わる施設と思われる。68号、69号土坑は竪穴の掘り方である。

出土遺物：須恵器杯がまとまって出土している。20図6、20図7、20図8は灰白色軟質の須恵器杯で火樫が残る。20図9は良質硬質の須恵器杯で器形が前三者と異なる。いずれもカマド周辺で出土している。20図4は薄手でケズリ調整される武蔵型甕と思われる破片である。

出土遺物の総量は、甲斐型坏皿71g、甲斐型甕96g、黒色坏129g、ロクロ成形土師器甕2類37g、武蔵型甕218g、須恵器杯410gである。

時期：20図1の甲斐型坏皿口縁部が欠けて時期決定が難しい。一方、須恵器杯は17号住居の火樫のある須恵器杯に胎土質、器形が類似し、20図3、20図4の武蔵型甕は21号住居の武蔵型甕と胎土質、器形が類似する。以上のことから、本住居は宮ノ前VI期（甲斐型VIII期）、9世紀第2四半期に位置づけられると推測される。

4号住居（第21～25図、写真図版4・5）

位置：調査区中央からやや北東寄りに位置する。

重複：29号住居と重複し本住居が古い。1号溝に切られる。22号掘立柱建物と重複し本住居が新しい。

規模：南北4.4m、東西5mの方形で竪穴は深さ40cmである。

埋土：1号溝と29号住居に切れ、本住居埋土は一部に残るのみで、暗褐色土主体の自然堆積と推測される。

床面：1号溝底面が本住居の床面にまで達していたが、全面に硬くしまった貼床が検出された。

周溝：南壁沿いの一部と南東角以外の壁際に小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁中央のやや南寄りに位置する。カマドは原形をとどめないほどに破壊され、袖石の一部と支脚石が残るのみであった。カマド周辺の埋土には土師器甕破片が散在していた。

他の施設：345号ピットと73号土坑は竪穴掘り方と思われる。

出土遺物：1号溝に切られるためか、遺物は埋土中に散在して出土し、床面での出土は少なかった。24図3は甲斐型坏破片である。24図2は高台付皿であるが体部外面下半は回転ヘラケズリ、内面は全面ミガキ調整で胎土質は甲斐型皿と同質である。25図3は黒色坏であるが胎土質は甲斐型坏に近く色調は明赤褐色である。25図1の黒色高台皿は住居南東角の平たい礫の上で出土した。「國」の墨書が体部と底部にみられる。甲斐型甕はカマド周辺で破片となって出土した。25図6は遠江型土師器甕の底部破片である。甕口縁部はやや肥厚している。25図8は粗い胎土質で焼成が不良の須恵器杯である。25図10は灰釉碗破片、25図11は灰釉壺破片である。

先述したとおり29号住居に気づかないまま4号住居を発掘したため、両者の遺物を混同して取り上げている。幸い、本住居と29号住居は時期差があり、29号住居遺物を分別できた。その結果、4号住居に帰属すると認定した遺物は、甲斐型坏皿244g、甲斐型坏皿の胎土質で黒色器形の高台皿34g、甲斐型甕2,890g、黒色坏皿925g、遠江型土師器甕30g、ロクロ甕1類19g、ロクロ甕2類308g、須恵器杯251g、須恵器壺・甕180g、灰釉碗60g、灰釉壺27g、刀子1点である。

時期：甲斐型甕の特徴から宮ノ前VII期（甲斐型XI期）、9世紀第4四半期から10世紀第1四半期と思われる。

29号住居（第21～23・26図、写真図版5）

位置：調査区中央からやや北東寄りに位置する。

重複：4号住居と重複し、本住居が新しい。4号住居とともに1号溝に切られる。

規模：4号住居と29号住居は幅広い1号溝に切られていたため、調査時に29号住居を認識できず、4号住居を先行して発掘してしまった。それにより本住居の竪穴形状が失われてしまった。4号住居床面で

検出された断片的な周溝から、南北 3.1m、東西 3.2m の小形、方形の平面形と推測される。

埋 土：1号溝に切られるため埋土はわずかに残る程度で、暗褐色土である。

床 面：床面は貼床で、4号住居とおなじ高さで検出された。

周 溝：南壁の一部残るほか、4号住居の床面でも断片的に周溝が検出された。

柱 穴：検出されなかった。

カ マ ド：東壁南寄りに位置する。1号溝に掘り込まれていて、袖石の一部がかわうじて残るのみである。カマド底面は強く被熱焼土化していた。

他の施設：検出されなかった。

出土遺物：カマド周辺の埋土から甲斐型環、甕破片が出土した。26図2はカマド埋土で出土した甲斐型環破片である。底部は回転糸切のままで体部ヘラケズリがない。26図4は黒色高台環破片で、内面には意匠化したミガキがみられる。26図3はカマド埋土で出土した甲斐型甕で、口縁部は肥厚し短く、器壁も厚い。26図6と26図7の灰釉陶器は住居北東角付近の床面で出土した。26図7は1号溝に攪乱され原位置を留めていない可能性がある。

本住居で出土した遺物の総量は、甲斐型環皿 132g、甲斐型甕 1,259g、甲斐型の型的特徴が失われつつあるカキメとケズリ調整の土師器小形甕 114g、黒色環 71g、灰釉碗 257g である。

時 期：甲斐型土師器の特徴から宮ノ前X期（甲斐型XIII期、10世紀第3四半期）に位置づけられる。

5号住居（第27～29図、写真図版6）

位 置：調査区北東角に位置する。

重 複：北東角が19号住居と重複する。本住居が古い。南東角を4号溝に切られる。19号掘立柱建物と重複し掘立柱建物が新しい。

規 模：南北 6.6m、東西 6.7m の方形。調査区中最大規模で、同時期の住居のなかでもっとも大きい。竪穴は北壁沿いで 35 cm の深さである。

埋 土：全体に削平され竪穴が浅いため土層断面図は省略した。暗褐色の埋土で北壁沿いではやや明るい褐色土の三角堆積が観察された。自然堆積により埋没したと推測される。

床 面：硬くしまった黄褐色の地山をそのまま床面としている。

周 溝：一部途切れるもののみほぼ全周で小溝が検出された。さらに断片的な溝と南東角に小さな焼土址を検出したことから建て替えもしくは重複があったと考えられる。

柱 穴：18号、20号、25号、26号ピットの4基が立柱穴である。

カ マ ド：東壁ほぼ中央に位置する。原形をとどめず、焼土、袖石を埋め込んだピットが検出されたのみである。カマド埋土には甲斐型甕破片が散在していた。カマド南側には23号ピットが検出され、本住居に付属する貯蔵穴と思われる。また東壁南寄りに焼土を検出し、建て替えもしくは本住居に切られる古い住居のカマド跡の可能性もある。

他の施設：南壁沿いに22号ピット、34号土坑、35号土坑、36号土坑を検出した。これらは本住居の掘り方と思われるが、34号土坑は出入口施設かも知れない。西壁沿いの493号ピットは掘立柱建物竪穴の可能性もある。

出土遺物：遺物は浅い竪穴の埋土中からまばらに出土している。甲斐型甕は底径/口径比が1/2より底径が小さく、体部外面にヘラケズリ、内面には暗文が施文される。28図1は北壁沿いで出土し「十」墨書が2ヶ所にある。28図2は南東角で出土し墨書が認められる。甲斐型皿の体部は回転ヘラケズリされ内面のみ部に溝巻状暗文が施文される。29図9は詔戸質流紋岩製の砥石である。

出土遺物の総量は、図示した遺物を含めて甲斐型環皿 421g、甲斐型甕 1,964g、甲斐型小形甕 3g、胎土質が異なる甲斐型甕 51g、黒色環 40g、武蔵型甕 10g、ロクロ成形土師器甕 2類 71g、粗大で厚手の土師器甕 157g、須恵器環 25g、須恵器蓋 90g、須恵器壺甕 233g である。突帯付須恵器壺の小破片が出土している。

時期：甲斐型坏の特徴から宮ノ前VII期（甲斐型IX・X期）9世紀第3四半期に位置づけられる。周溝から示唆される小形住居の時期は不明である。

6号住居（第30～34図、写真図版6・7）

位置：調査区中央よりやや北東寄りに位置する。重複する遺構はない。

規模：東西4.9m、南北5.2mの方形で、堅穴は深さ35cmほど残る。

埋土：黒褐色土と暗褐色土がレンズ状に堆積し、埋土中には大小の礫が含まれる。自然堆積により埋没した住居と考えられる。

床面：硬い黄褐色の地山をそのまま床面としている。

周溝：カマド周辺以外の壁沿いで小溝を検出した。

柱穴：46号、47号、49号、98号ピットの4基は浅いピットであるが主柱穴と考えられる。47号ピットから西壁に向けて間仕切り溝が検出された。

カマド：東壁南寄りに位置する。左右の袖石と天井石と思われる扁平で長い礫が検出されたが、カマドを構築したであろう粘土などは検出されず、暗褐色土と砕片化した構築土が混じる埋土が堆積していた。したがってカマドは、左右の袖石列が原位置を留めているほかは破壊されたものと判断された。

付属施設：住居床面で37号、38号、39号土坑を検出したが、これらは住居振り方と思われる。

出土遺物：遺物の多くは住居埋土からまばらに出土した。出土した甲斐型坏、甲斐型皿は体部がへラケズリされ口縁部が玉縁状に肥厚する。32図4は北壁沿いの床面から30cm浮いた位置で出土した。32図5は墨書が認められる。灰釉陶器の出土量も多く、33図9はみこみ部が平滑に摩耗し転用碗と思われる。32図1は甲斐型坏と同じ胎土で製作された高台坏土師器皿である。手づくね成形されたようで付け高台である。外面はナデとミガキ調整され、内面は黒色処理されて入念に磨かれている。器壁は非常に薄い。32図2は小さな鉢のような器形で器壁が非常に薄い。甲斐型坏と同じ胎土で製作されている。32図1と同じく手づくね成形されて内外面ともミガキ調整される。口縁内側には細い沈線がめぐっている。この2点は甲斐型土師器のなかで類例をみない特殊な個体である。34図2は全長22cmほどの安山岩製の砥石である。短辺側の両面が砥石面として使用され特に片面は非常に平滑に摩耗している。

出土遺物の総量は、甲斐型坏皿505g、甲斐型甕1,226g、甲斐型模倣甕95g、甲斐型小型甕13g、黒色坏110g、ロクロ甕2類16g、須恵器坏2g、須恵器壺甕1,042g、灰釉陶器367gで、突帯付須恵器壺の小破片が含まれる。

時期：宮ノ前IX期（甲斐型X期）10世紀第2四半期に位置づけられる。

7号住居（第35～39図、写真図版7～9）

位置：調査区東端に位置する。重複する遺構はない。

規模：東西4.7m、南北4.3mの方形の堅穴であるが、西壁沿いでは壁と周溝の間隔が広い。周溝で囲まれた範囲は東西4.1mで堅穴の深さは35cmほど残る。

埋土：黒褐色土と暗褐色土がレンズ状に堆積する。土層断面観察では住居の重複は確認されなかった。西壁沿いの埋土中に焼土を検出した。

床面：住居中心に黄褐色粘質土の硬化面が広がるが、その周辺は暗褐色で軟弱であった。

周溝：カマド横以外の壁際で小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁南寄りに位置する。カマドに向かって右側の袖石列はよく残り、左側袖石、天井石と思われる扁平礫も一部が残っていた。左右の袖石の周囲には構築材の灰黄褐色粘質土も残っていた。カマド底面は強く被熱焼土化し、直立した支脚石が検出された。カマド内部には天井石の一部、構築材の粘質土

とともに土師器破片が落ち込んでいた。天井と左側袖石列が破壊されてそれらのカマド材がカマド内部に落ち込んだものと思われる。

- 他の施設：**カマド横の58号土坑はカマドに付属する貯蔵穴と思われる。貼床下から土坑状の掘り方が検出された。
- 出土遺物：**遺物はカマド内部とカマド周辺埋土を中心に出土した。甲斐型坏は底径/口径比が1/2より底径が大きく、内面に暗文が施文される。38図5はやや器形が外反し暗文が省略されている。38図4は底部に「井」墨書がみられる。甲斐型甕は大形と小形とがあり、口縁部は外反し薄手である。39図5は巨麻郡型といわれるロクロ整形土師器甕でロクロ調整とタタキ痕が認められる。
- 出土遺物の総量は、甲斐型坏皿534g、甲斐型甕3,786g、甲斐型小形甕43g、黒色坏26g、ロクロ成形土師器甕1類53g、ロクロ成形土師器甕2類5g、ロクロ成形土師器甕3類398g、武藏甕かと思われる土師器甕33g、須恵器坏13g、須恵器碗224g、須恵器壺甕200gである。
- 時期：**宮ノ前VI期（甲斐型VIII）、9世紀第2四半期に位置づけられる。

8号住居（第40・41図、写真図版10）

- 位置：**調査区中央やや東寄りに位置する。重複する遺構はない。
- 規模：**東西4m、南北3.5mの方形で堅穴は深さ15cmほど残る。
- 埋土：**黒褐色土が堆積し、カマド周辺にはカマド構築材の塊が散在していた。堅穴が浅いため十分な観察ができなかったが自然堆積により埋没した住居と思われる。
- 床面：**カマドから住居中央部で硬くしまった黄褐色粘質土の貼床を検出した。
- 周溝：**カマド以外の壁際で小溝を検出した。
- 柱穴：**検出されなかった。
- カマド：**東壁中央やや南寄りに位置する。カマド中央に支脚石が残るのみで袖石、天井石は出土しなかった。カマド構築材と思われる灰白色粘土が広がって検出され、甲斐型甕破片と須恵器坏底部破片が出土した。カマド底面には強く被焼土化し、その両側には袖石を埋め立てた掘り込みが検出された。
- 他の施設：**100号ピットと101号ピットは出入り口施設と思われる。72号ピットはカマドからやや離れているがカマド横に一般的に検出される貯蔵施設と考えられる。73号ピットと102号ピットは床面を切って掘り込まれており本住居より新しい遺構と思われる。貼床下から103号ピットを検出した。66号土坑、67号土坑、105号ピットは掘り方もしくは地山礫の抜き取り痕と思われる。
- 出土遺物：**カマド内から甲斐型甕破片、須恵器坏底部破片が出土したのみで、遺物量は少ない。甲斐型甕の口縁部は長く外反し薄手である。
- 出土遺物の総量は、甲斐型甕774g、須恵器坏58gである。
- 時期：**遺物が少なく特定が難しいが甲斐型甕の特徴から宮ノ前VI期かVII期（甲斐型VIII期かIX・X期）、9世紀第2四半期から9世紀第3四半期と推測され、高台付須恵器坏を積極的に評価すれば9世紀第2四半期に位置づけられる可能性が高いと思われる。

9号住居（第42・43図、写真図版11）

- 位置：**調査区北端に位置する。
- 重複：**30号掘立柱建物と重複する。本住居確認面で30号掘立柱建物の柱穴の3号ピットが検出され、本住居が古い。
- 規模：**南北3.7m、東西推定4.2mの方形で、堅穴は深さ10cmほど残る。
- 埋土：**黒褐色土が堆積するが堅穴が浅く、耕作による攪乱もあったため堆積状況を十分に観察できなかった。
- 床面：**住居中央部で硬くしまった黄褐色粘質土の貼床を検出した。
- 周溝：**削平された北西壁沿いを除き壁際に小溝を検出した。

柱 穴：検出されなかった。

カ マ ド：東壁南寄りに位置する。カマドの上には構築材の灰白色粘土の小塊と焼土が広がり甲斐型甕破片が散在していて、袖石などの構築物は残されていない。カマド底面は強く被熱焼土化し、袖石を埋め立てた掘り込みが検出された。

他の施設：カマド北側の1号ピットはカマドに付随する貯蔵穴と考えられ、炭化材小片と焼土が混じる住居埋土と同質の埋土で埋まっていた。1号ピットの埋土を水洗選別したところ、微小な鉄滓や鍛造剥片と思われる金属質断片1点が回収された。22号、23号、24号土坑は本住居の掘り方である。

出土遺物：カマド内と周辺から破片がまばらに出土したのみである。43図1は土師器皿破片で体部外面はヘラケズリ、内面はミガキ調整がみられる。器壁がやや厚く胎土質はざらつき典型的な甲斐型皿とみるには違和感がある。43図7は灰黄色で焼成が軟質の須恵器杯である。43図9は焼成が硬質だが、径2mmほどの白色鉱物粒子が多く混じる胎土質の高台付須恵器杯である。43図3の甲斐型甕は口縁部が薄手で長く外反する。43図6のロクロ甕は、60m離れた13号住居52図8と接合した。

出土遺物の総量は、甲斐型杯皿177g、甲斐型甕824g、ロクロ成型土師器甕1類9g、ロクロ成型土師器甕2類342g、ロクロ成型土師器甕3類203g、ロクロ成型土師器甕4類60g、黒色杯95g、須恵器杯154g、須恵器壺甕115gが出土した。

時 期：遺物量が少なく特定が難しいが、甲斐型土師器の特徴から宮ノ前Ⅷ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）、9世紀第3四半期に位置づけられる可能性が高い。

10号住居（第44～46図、写真図版11～13）

位 置：調査区中央に位置する。西壁で3号溝に接する。

規 模：2回にわたり建替え拡張した住居と思われる。平面形が一回り大きな住居が新しい。新住居は南北3.9m、東西推定3.3m程度の方形で竪穴の深さ20cmが残る。旧住居は一回り小さく周溝がほぼ全周し、東西3.1m、南北3.0m、竪穴の深さは25cmが残る。中間の住居は、北壁沿いで検出された3本の周溝の中間部分であり、東西2.9m、竪穴は旧住居と同一の深さである。

埋 土：遺物確認は攪乱が多く、建替え状況を正確に把握できなかった。新住居と旧住居との重複関係は、土層断面に新住居の床面がやや高い位置で観察されたことと、遺物の出土状況、接合関係から確認した。土層断面図の層位は、ほとんどが最新段階の住居の埋土で、3層が中間段階の住居床面、6層が最古段階の住居埋土である。

床 面：硬くしまった地山を平坦に掘りあげて床面としている。南壁沿いの一部で住居掘り方を埋め戻した貼床（9層）が確認された。

周 溝：北壁沿いでは3本の小溝が検出され、最新、中間、最古段階の住居に対応する。3段階の住居周溝は部分的に重複する。最新段階の住居は南側に拡張されたが小溝は検出されなかった。

柱 穴：検出されなかった。

カ マ ド：東壁沿いに礎と焼土が検出され、土師器破片がまとまって出土した。カマド底面に生成された焼土は3ヶ所確認され、3段階の住居に対応すると判断された。最新段階の住居カマドに伴う焼土は、床面の高さの差に対応して高い位置で検出された。カマドは原形をとどめず破壊され、わずかに構築材の一部と思われる礎が出土したのみである。袖石を埋め立てた掘り込みがカマド3基分検出された。

他の施設：188号ピットと189号ピットは住居より新しい遺構である。

出土遺物：カマド周辺で土師器破片がまとまって出土した。甲斐型杯は口縁が玉縁状に肥厚し、内面に暗文がみられない。45図3は「信」の墨書がある。甲斐型甕は口縁が肥厚し短い。ロクロ成型土師器甕底部が出土したが外面は風化が著しい。これらはすべて最新段階の住居に伴う。

出土した遺物の総量は、甲斐型杯皿434g、甲斐型甕2,737g、甲斐型小形甕14g、黒色杯126g、ロクロ成

土師器甕 1 類 225g、ロクロ成形土師器甕 2 類 16g、須恵器杯 8g、須恵器壺甕 166g、灰釉陶器 38g である。

時期：最新段階の住居は、宮ノ前IX期（甲斐型X期）10世紀第2四半期に位置づけられる。

11号住居（第47図、写真図版13・14）

位置：調査区中央南東寄りに位置する。

規模：南北3.7m、東西3.5mの方形で竪穴は深さ42cmが残る。

埋土：黒褐色土主体の自然堆積土と思われる。

床面：地山をそのまま床面としている。

周溝：北壁と東壁沿いで小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：北東角で焼土を検出したが床面から30cmほど浮いた位置であった。他にカマドと判断できる遺構は検出されなかった。

他の施設：132号ビット、88号、89号、90号土坑は住居掘り方である。

出土遺物：土師器、須恵器の小破片がまばらに出土したのみである。甲斐型杯は内面に放射状暗文がみられる。

47図2の甲斐型皿は体部外面が回転ヘラケズリされ、みこみには渦巻状暗文がみられる。墨書のある甲斐型杯破片47図4とロクロ成形土師器甕破片47図5があるが釈文は不明。図示できなかったが甲斐型の内面黒色杯破片が出土している。

出土した遺物の総量は、甲斐型杯皿104g、甲斐型甕52g、ロクロ成形土師器甕6g、須恵器杯9gである。

時期：わずかな遺物からの推測であるが、宮ノ前VII期（甲斐型IX・X期）、9世紀第3四半期と思われる。

12号住居（第48図、写真図版14）

位置：調査区中央西寄りに位置する。

重複：25号住居、2号掘立柱建物と重複する。本住居が最も古い。

規模：南北4.4m、東西3.8mの長方形で、竪穴は深さ8cmが残る。

埋土：暗褐色の自然堆積土と思われる。竪穴が浅いため土層断面図は省略した。

床面：地山をそのまま床面としている。住居中央部が特に硬くしまっていた。

周溝：断続的ながらほぼ全周する。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁沿い南寄りで被熱焼土化した箇所を検出したが、25号住居に切られてカマド本体は失われている。

他の施設：本住居内の173号ビットなどは2号掘立柱建物の柱穴で本住居床面を切って掘り込まれていた。

出土遺物：土師器と須恵器の小破片がまばらに出土したのみである。48図1の甲斐型杯は内面に暗文がみられる。

48図3の須恵器杯破片は墨書され、灰黄色で軟質の焼成である。

出土した遺物は、甲斐型杯皿25g、甲斐型甕42g、ロクロ成形土師器甕39g、須恵器杯25gである。

時期：甲斐型杯の特徴から宮ノ前VIII期（甲斐型IX・X期）、9世紀第3四半期に位置づけられると思われる。

25号住居（第48・49図、写真図版14）

位置：調査区中央西寄りに位置する。

重複：12号住居と重複し、本住居が新しい。

規模：南北2.8m、東西3.3mの長方形で竪穴は深さ10cmが残る。

埋土：暗褐色の自然堆積土と思われる。埋土中には礫が混じていた。竪穴が浅いため土層断面図は省略した。

床面：地山をそのまま床面としている。

周溝：東壁から南壁、西壁にかけて小溝を検出した。

柱 穴：検出されなかった。

カマド：カマドらしい焼土などは検出されなかった。

出土遺物：49 図 1 の甲斐型皿は口縁部が玉縁状に肥厚する。49 図 3 は羽釜の鏝破片である。灰釉碗、皿が出土している。49 図 4 は東壁沿いで出土した須恵器破片である。淡灰色の軟質の焼成で、白色の鉱物粒子が目立つ。

出土した遺物の総量は、甲斐型坏皿 168g、甲斐型甕 414g、甲斐型小形甕 12g、羽釜 47g、ロクロ成形土師器甕 2g、黒色坏 19g、須恵器坏 30g、灰釉碗 141g、灰釉皿 21g である。

時期：肥厚した口縁甲斐型皿の特徴から宮ノ前IX期（甲斐型XIII期）、10 世紀第 2 四半期に位置づけられる。

13 号住居（第 50～52 図、写真図版 15～17）

位置：調査区中央に位置する。

規模：南北 3.6m、東西 3.7m の方形で堅穴は深さ 40 cm が残る。

埋土：黒褐色土がレンズ状に堆積し、自然堆積により埋没した住居と思われる。住居北東角の埋土下層と住居の南東外側に焼土を検出した。いずれもカマド構築材の断片と思われ、特に住居外側の焼土は後世の耕作等により散った断片であろう。

床面：黄褐色粘質土の地山を床面とし、全体が硬く踏みしめられていた。

周溝：壁沿いで小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁沿いに設けられる。比較的原形をとどめ、天井石と思われる扁平礫、左右の袖石列、支脚石が残り、構築材と思われる黄褐色粘質土（7 層）が認められた。

他の施設：南壁沿いで出入り口施設と思われる 160 号、161 号、390 号、391 号ピットを検出した。カマド横の 86 号、87 号土坑は貯蔵穴などの施設と思われる。

出土遺物：遺物はカマド周辺の埋土からまばらに出土した。52 図 1 の甲斐型坏は外面へラケズリ、内面に放射状暗文がみられる。「主」墨書がある。52 図 9 は淡灰色で軟質焼成の須恵器坏で体部外面のニヶ所に「前」墨書がある。52 図 8 のロクロ甕は 9 号住居 43 図 6 と接合した。

出土遺物の総量は、甲斐型坏皿 322g、甲斐型甕 1,242g、甲斐型小形甕 74g、ロクロ成形土師器甕 4 類 61g、須恵器坏 145g、須恵器蓋 34g、須恵器壺甕 123g、砥石 507g である。

時期：甲斐型坏の特徴から宮ノ前VII期（甲斐型IX・X期）、9 世紀第 3 四半期に位置づけられる。

14 号住居（第 53～59 図、写真図版 17～19）

位置：調査区中央西寄りに位置する。

重複：49 号掘立柱建物と重複する。本住居との新旧関係は確認できなかった。

規模：南北 5.2m、東西 5m の整った方形で、堅穴は深さ 25 cm が残る。

埋土：黒褐色土が水平に堆積し、カマド周辺の床面と埋土下層で大小の礫が検出された。

床面：黄褐色粘質土の地山をそのまま床面とする。全体に硬く踏みしめられている。

周溝：壁沿いに小溝を検出した。北壁と南壁の一部では小溝が途切れる箇所があった。

柱穴：290 号、291 号、292 号、293 号ピットが主柱穴で、302 号、304 号、305 号、306 号、307 号ピットが出入り口施設であろう。

カマド：東壁沿い南寄りに位置する。床面上に大小の礫と灰黄褐色粘質土が広がっていたが袖石などは検出されず、カマドは原形をとどめないくらいに破壊されている。カマド底面は強く被熱焼土化し、左右の袖石を埋め立てるピットが検出された。

他の施設：カマド横の 113 号土坑は不整形で浅く、土師器破片と礫、カマド構築材の灰褐色粘質土が出土した。

カマドの廃棄行為に伴う遺構と思われる。本住居から羽口、大形砥石が出土しているが、鍛冶作業につながる遺構は検出されなかった。

出土遺物：113号土坑を中心に遺物が出土した。甲斐型坏は体部外面がヘラケズリされ内面に暗文をもつものがないものがある。55図5の坏は住居中央の埋土下層で出土した。外面のニヶ所に「正」の墨書がある。「正」墨書は他の坏、皿にも認められる。56図4の甲斐型坏破片は「前」と刻書される。56図3は「十」字形の線刻がある。56図7の甲斐型坏は胎土質が異質で、砂っぽい明黄褐色を呈する。底径が大きく目な器形も違和感を与える。56図1の坏は口径が大きい。甲斐型皿は外面が回転ヘラケズリされ、内面には渦巻状暗文がみられる。体部下半から上半にかけて屈曲が強いものと弱いものがある。56図7の甲斐型皿はみこみ部に意図的な穿孔がある。外面は回転ヘラケズリ、内面には放射状暗文がみられる。58図1の黒色坏は口縁部が屈曲外反し、一般的な器形と異なる。58図3も黒色坏破片で「工」字状の線刻がみられるが、発掘時のガジリかもしれない。57図11は武蔵甕である。頸部から肩部にかけて明瞭な稜をつくりだし胴部はヘラケズリする。57図7の甲斐型坏は胎土質が異質で器壁が厚い。57図2の甲斐型坏は雲母粒子が混じらないきめ細かな良質の胎土で、ほかの甲斐型坏胎土と異なる。整形も丁寧である。57図8は土師器蓋である。胎土質は甲斐型坏と共通する。58図7は硬質で焼成が良好な須恵器蓋である。58図8は焼成のよい須恵器短頸甕で肩部に自然釉が付着する。59図1は羽口破片である。端部は欠損しているが強く被熱し灰色に変色している。59図2は住居西壁沿いで出土した大形の砥石で花崗岩質アブライトを使用している。

本住居から出土した遺物の総量は、甲斐型坏皿 1,976g、甲斐型甕 948g、甲斐型小形甕 476g、土師器蓋 54g、黒色坏 128g、ロクロ成形土師器蓋 1類 36g、ロクロ成形土師器甕 2類 2g、ロクロ整形土師器蓋 54g、武蔵型甕 76g、須恵器坏 63g、須恵器蓋 65g、須恵器壺蓋 838g、羽口 443g、大形砥石 22,500gである。

時期：甲斐型坏と皿の特徴から宮ノ前Ⅷ期（甲斐型Ⅹ・Ⅹ期）、9世紀第3四半期に位置づけられる。

15号住居（第60～66図、写真図版19～21）

位置：調査区中央南西寄りに位置する。

重複：3号溝跡と16号掘立柱建物と重複する。3号溝が本住居より新しい。16号掘立柱建物の柱穴が本住居の床面を切って掘り込まれていることから、掘立柱建物が新しい。

規模：南北6.5m、東西6.3mの方形で竪穴は深さ35cmが残る。5号住居に並ぶ規模の住居である。

埋土：黒褐色土が水平に堆積し、壁際にはやや明るい埋土が三角堆積する。自然堆積により埋没したと思われる。埋土中には大小の礫が混じっていた。

床面：黄褐色粘質土の地山をそのまま床面とし、掘り方の凹凸を黄褐色土で埋めて平坦な床面を造成した箇所もある。全体に硬く踏みしめられている。住居中央の床面に強く被熱し焼土化していた。

溝：壁沿いで小溝を検出した。また建替え前の旧住居平面形を示すと思われる小溝を検出した。

柱穴：429号、431号、432号、433号ピットの4基が主柱穴で、東西壁沿いで検出した434号ピットと434b号ピットの2基もその位置から上層構造を支える柱穴と推測される。さらに壁沿いの周溝からやや内側にはいった位置に435号、436号、441号、437号、438号、439号、440号、442号、480号ピットが規則的に巡り、これらは補助的な柱穴と考えられる。青木北遺跡（北柱市高根町山北割）4号住居では、壁沿いの床面に小さく扁平な礎石を10ヶ所ほど並べた事例があり、本住居の補助柱の配置に類似している。

カマド：東壁南寄りで焼土、礫を検出した。カマドは左右袖石の一部と支脚石が原位置を留め、袖石に密着して構築材と思われる焼土化した粘質土も検出された。カマド内には土壌化した灰層が堆積し、底面は被熱焼土化していた。カマド自体は住居廃棄時に破壊されたものと推測される。

他の施設：南壁沿いの489号と490号ピットは出入り口施設と思われる。カマド横の151号土坑は住居に付属する貯蔵穴と考えられ、廃棄した土師器坏と甕破片が積み重なるように出土した。162号土坑はカマド横を

浅く平らに掘りくぼめたものでカマドに付随する施設と思われる。148号土坑は床面を切って浅く平らに掘り込まれていた。152号、165号土坑は堅穴の掘り方である。443号ピット、469号ピットは地に似た埋土であり礫の抜き取り痕と思われる。

出土遺物：カマド周辺と埋土から多量の遺物が出土し、特に甲斐型坏は図示できる程度に復元された個体が多い。本住居で出土した甲斐型坏は、底径/口径比が1/2か底径がやや大きく器壁が立ち内面暗文が丁寧で密に施文されるものと、底径が小さくなり器壁が斜めに寝て内面暗文が疎らに施文されるものがある。62図5はカマド横の埋土下層で出土した甲斐型坏で墨書がみられる。62図1は「大伴万呂」「女」の墨書がある。62図3と62図4の甲斐型坏は器形、大きさ、胎土質、整形が類似し、同一工人による製作と推測される。ともに同じ墨書がみられるが釈文不明である。62図6は住居北東角の埋土上層で出土した坏で、器形が本住居のほかの坏よりも新しい様相を示す。61図2はカマド横の151号土坑で出土した坏で体部外面を回転ヘラケズリする。器形は坏としては開き気味で暗文の施文もたどたどしく違和感があり、甲斐型皿の工人が製作した可能性がある。62図6はカマド南側の床面からやや浮いて出土した坏破片で口縁部内面に墨もしくは煤痕が残る。64図14は削り出し高台のつく坏で体部外面は回転ヘラケズリされ内面には放射状暗文がみられる。

甲斐型皿は破片が数点出土したのみで図示できる大きさの破片はなかった。体部外面を回転ヘラケズリされる破片である。64図16は甲斐型坏と同質胎土の蓋で内面に同心円状の暗文がみられる。65図1はカマドと周辺で破片となって出土した甲斐型甕で、口縁は薄く外反する。65図3は甲斐型甕と同質の胎土でつくられた小形甕で外面は縦方向のナデ、内面は横方向にナデ調整される。66図1は黒色坏で線刻が認められる。66図9の須恵器甕もしくは壺の内面にはナデ調整される前のタタキ目が残る。65図5は151号土坑で出土した小形のロクロ成形土師器甕である。

本住居で出土した遺物は、甲斐型坏皿2,581g、甲斐型蓋68g、甲斐型甕1,841g、甲斐型小形甕67g、甲斐型甕胎土と類似する土師器甕34g、黒色坏238g、ロクロ成形土師器甕2類752g、須恵器坏53g、須恵器蓋28g、須恵器壺甕1,134g、灰輪碗3gである。

時期：出土した甲斐型坏の特徴から宮ノ前VI期（甲斐型Ⅱ期）、9世紀第2四半期に位置づけられる。新しい様相の甲斐型坏は埋土上層から破片で出土したものが多く、本住居廃絶後に近隣住居から投棄されたものであろう。

16号住居（第67・68図、写真図版22）

位置：調査区南寄りに位置する。重複する遺構はない。

規模：南北5.3m、東西4.7mの方形と思われる。堅穴はほとんど残らず、遺構確認面で黒褐色埋土がわずかに残り、埋土をはき取るとすぐに周溝が検出された。

床面：堅穴が残っていないためか、攪乱が多く硬くしまった床面は残っていない。

周溝：南西角を除き小溝が検出された。

柱穴：394号ピットと395号ピットは位置、大きさ、深さ、大きな礫が出土したことが共通し、柱穴となる可能性がある。

カマド：東壁南寄りで焼土、カマド構築材と思われる粘質土のまとまりを検出した。甲斐型甕破片がまとまって出土している。袖石などは残されていない。甲斐型甕破片の出土状況から住居廃絶時に相当程度にカマドが破壊されたものと思われる。

出土遺物：遺物は少なく復元図示できるものは限られる。68図1は外面回転ヘラケズリ、内面は渦巻状暗文がみられ、体部の屈曲が大きい、大形で端正なつくりである。甲斐型甕口縁は薄く外反する。68図5は黒色坏破片、68図6はロクロ成形土師器甕の口縁部破片である。68図3は内外面カキメ調整で甲斐型甕に似た調整だが、器壁が厚く胎土質も典型的な甲斐型甕とは異なる。68図4は武蔵型甕脚部破片である。

出土遺物の総量は、甲斐型環皿 151g、甲斐型甕 995g、黒色環 8g、ロクロ成形土師器甕 1 類 4g、武蔵型甕 43g、須恵器環 4g、須恵器壺甕 69g である。

時期：甲斐型皿と甕の特徴から宮ノ前VI期（甲斐型VIII期）、9世紀第2四半期に位置づけられる。

17号住居（第69～71図、写真図版22～24）

位置：調査区北端に位置する。

規模：東西 3.3m の方形で堅穴は深さ 15 cm が残る。南辺は農地境界で削平されている。

埋土：暗褐色土が水平に堆積し、自然堆積により埋没したと思われる。

床面：硬くしまった床面が検出された。黄褐色粘質土の地山を床面としている。

周溝：南辺を除き壁沿いで小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁で礫のまとまりと焼土を検出した。袖石の一部が原位置を留めるほかは破壊されている。

他の施設：25号土坑、26号土坑は浅く不整形な掘り込みで、堅穴掘り方と思われる。

出土遺物：カマド周辺と壁際で完形に近い須恵器環、土師器が出土した。70図6はカマド南側床面で出土した黒色環で底部はヘラケズリされ体部外面に「卅」のような線刻がみられる。器形と量法が70図8などの須恵器環に酷似する。70図2はカマド南側床面で出土した甲斐型環である。70図1はカマド南側で出土した甲斐型環で底面に積文不明の墨書がある。70図5はカマドで出土した扁平な焼成粘土塊で片面に布目があり、片面は平滑になられている。薄手のためカマド構築材ではないと思われる。70図7は西壁沿いの床面からやや浮いた位置で出土した須恵器環である。灰白色軟質で白色鉱物粒子が目立つやや粗い胎土質である。重ね焼きの際の火燐が認められる。70図8はカマド南側床面で出土した須恵器環で70図7と同様の胎土質で火燐が認められる。71図1はカマド南側床面で70図7、70図8より濃い灰色でやや硬質な焼成である。火燐がある点は共通する。71図2は住居北東角の床面で出土した須恵器環で70図7、70図8と同質の胎土、焼成である。やはり火燐がみられる。71図4は住居北東角の床面から 25 cmほど浮いた位置で出土した須恵器環で、70図7、70図8と同質の胎土、焼成で火燐がみられる。71図3はカマド南側床面で出土した須恵器環で「十」字形の線刻がみられる。70図7と同質の胎土、焼成で火燐がみられる。71図5は西壁沿いで床面から 12 cmほど浮いて出土した須恵器環で70図7と同じ胎土、焼成で火燐がみられる。

出土遺物の総量は、甲斐型環皿 150g、甲斐型甕 389g、黒色環 105g、ロクロ成形土師器甕 2 類 47g、須恵器環 720g、灰袖壺 13g、焼成粘土塊 7g である。

時期：甲斐型環は宮ノ前VI期からVII期にかけての特徴を併せもつように思われるが、須恵器環の特徴、須恵器環が多いことから宮ノ前VI期（甲斐型VIII期）、9世紀第2四半期に位置づけられると思われる。

18号住居（第72～75図、写真図版24～26）

位置：調査区北東寄り、2号住居と5号住居に挟まれた位置で検出された。

重複：46号掘立柱建物と重複する。掘立柱建物の柱穴である12号ピットのほか、29号土坑は本住居床面を切って掘り込まれている。

規模：南北 4.1m、東西 4m の方形で堅穴は深さ 36 cm が残る。

埋土：暗褐色土が水平に堆積している。壁際と壁沿い床面で炭化材と炭化した植物束が出土した。これらは建築部材と屋根葺材と思われる。

床面：黄褐色粘質土をそのまま床面としている。全面が硬く踏みしめられていた。

周溝：南壁沿いを除く壁沿いで小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁南寄りに位置する。左右の袖石の一部が残っていたが、天井石、支脚石は検出されなかった。壁から東に延びる煙道が検出された。カマドに堆積した埋土は焼土化した構築材の粒子が混じる暗褐色土であり、カマドは意図的に破壊されたと推測される。

他の施設：30号土坑、31号土坑は出入口施設と思われるが、浅く不整形である。

出土遺物：70図1は埋土から破片になって出土した、外面が粗雑にカキメ調整された球胴に近い形状の土師器甕である。内面は丁寧なナデ調整されている。胴下部は横方向にカキメ調整され、底部はカキメにより削られた後、ナデ調整されている。駿東型甕であろう。75図4は西壁沿いの埋土下層で炭化材、焼土、礫とともに出土した灰軸小形甕である。ほぼ完形だが口縁の一部が欠損している。74図8は住居中央からやや北西寄りの床面で出土した黒色坏でほぼ完形であるが、焼成時に生じたひび割れがある。外面底面に煤が付着し食器以外に使われていたと思われる。74図1、74図2、74図3は甲斐型坏と皿である。口縁はやや肥厚し74図1は放射状暗文、74図3は渦巻状暗文がみられる。74図4の甲斐型甕は口縁部がやや肥厚している。75図6はカマド西側の床面で炭化材、焼土とともに出土した鉄斧である。鉄板を折り曲げてソケット状に加工し、柄木部が残っている。図示していないが突帯のある須恵器壺破片が出土している。75図5は灰褐色流紋岩製の砥石65gで、西面が平滑に摩耗している。

出土した遺物の総量は、甲斐型坏皿199g、甲斐型甕739g、甲斐型模倣甕38g、黒色坏碗434g、ロクロ成形土師器甕2類36g、ロクロ成形土師器甕4類15g、武蔵型甕24g、駿東型甕306g、須恵器坏24g、須恵器壺甕973g、灰軸小形瓶子165gである。

時期：甲斐型土師器の特徴から宮ノ前Ⅷ期（甲斐型Ⅺ期）、9世紀第4四半期から10世紀第1四半期に位置づけられる。

19号住居（第76～78図、写真図版27・28）

位置：調査区北東角に位置する。

重複：5号住居と重複する。本住居が新しい。

規模：東西3.9mの方形で堅穴は深さ30cmが残る。北壁側は後世の擾乱により破壊されている。

埋土：黒褐色土が堆積する。自然堆積により埋没したと思われる。

床面：黄褐色粘質土を床面としている。全面に硬く踏みしめられている。大小の地山礫2個が床面から露出していた。

周溝：北壁とカマド周辺を除く壁沿いで小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁南寄りで礫のまとまりと焼土を検出した。カマド周辺の床面にはカマド構築材と思われる扁平な礫が出土した。カマド埋土には灰が混じていたが、構築材の粘土等は検出されなかった。支脚石は残されていたが、カマドは破壊されたと思われる。

他の施設：17号ビット、32号土坑を床面で確認した。いずれも浅く掘り方もしくは地山礫の抜き取り痕と思われる。

出土遺物：77図2は住居中央からやや南壁に寄った床面から15cmほど浮いた位置で出土した甲斐型坏破片である。77図1の坏とは型式的な隔りが大きく、南に重複する5号住居の遺物が混入するなどした結果と思われる。77図3は墨書のある甲斐型坏破片で調整技法から77図2と同一個体の可能性がある。77図1は住居北西角付近の床面で出土した甲斐型坏である。口縁部が厚く肥厚し底部は回転糸切無調整である。体部外面はロクロナデの凹凸がはっきりと残る。77図4は甲斐型皿で口縁部が肥厚し体部外面のロクロナデ痕が明瞭である。77図5は高台のついた黒色碗である。内面は丁寧に磨かれているが二次的な被熱風化により黒色処理されていたか判断できない。78図1、78図5は黒色坏で78図5には「貝」もしくは「且」の墨書がある。78図3も墨書のある黒色坏破片である。78図4は静止糸切痕のあるロクロ成形土師器甕底部である。78図8は蓋身が高い須恵器蓋である。78図9はカマド埋土で出土した刀子である。

出土遺物の総量は、甲斐型坏皿 262g、甲斐型甕 216g、黒色坏碗 427g、ロクロ成形土師器甕 2 類 56g、須恵器坏 5g、須恵器蓋 24g、須恵器壺甕 262g である。型式上古い土師器などが少なからず混入している。

時 期：甲斐型坏と皿の特徴から宮ノ前IX期（甲斐型XII期）、10 世紀第 2 四半期に位置づけられる。

20 号住居（第 79 ～ 82 図、写真図版 29 ～ 31）

位 置：調査区中央北東寄りに位置する。

重 複：1 号溝と重複する。本住居が古い。1 号溝は本住居の埋土表層を掘り込み、住居は南西角が若干削平されている。

規 模：南北 3.7m、東西 4.3m の方で堅穴は深さ 30 cm が残る。

埋 土：暗褐色土が堆積する。自然堆積により埋没したと思われる。埋土中には大きな礫が投棄されている。

床 面：黄褐色粘質土の地山を床面としている。全体に硬く踏みめられている。

周 溝：壁沿いに小溝を検出した。

柱 穴：検出されなかった。

カ マ ド：東壁南寄りに位置する。住居埋土に投棄された礫を取り除くと左右の柚石の一部、支脚石が残るカマドを確認した。大きな扁平礫 2 枚がカマド底面を塞ぐように重なって出土したが、天井石にしては広く大きい礫である。カマド内と周辺から土師器坏、ロクロ成形土師器甕が出土した。支脚石にはほぼ完形の坏が被せられていた。カマドは住居廃棄とともに破壊されていると判断される。

他の施設：南壁沿いの小溝が途切れる箇所 76 号、77 号ピットを検出した。出入り口施設と思われる。

出土遺物：本住居は黒色坏が多い。80 図 9 はカマド支脚石に被せてあった坏で外面下半が著しく風化剥落し、支脚石の形状に合わせて一部が付欠いたように欠損していることから、カマドが使用されていたときから支脚の一部として機能していた可能性が考えられる。80 図 10 もカマド内で出土した。80 図 11 はカマド南側の住居南東角で、81 図 1 はカマド北側の壁際でそれぞれ出土した。81 図 2 と 81 図 3 は住居北西角の床面で出土し、81 図 4 は南壁沿いの床面から 13 cm 深い位置で出土している。黒色坏はいずれもロクロナデ痕を残し内面は黒色処理、底面は回転糸切痕無調整で共通するが、80 図 10 と 80 図 11、81 図 1、81 図 5 が胎土質、器形、器壁厚、焼成色調が類似し、80 図 9、81 図 2、81 図 3、81 図 4 が同様に胎土質、器形、器壁厚、焼成色調が類似している。これらは口径、器高にも差異があり、80 図 10 の一群は小さめで器壁は薄手、80 図 9 の一群は大き目で器壁が厚手で内面みこみ部がやや盛り上げる特徴が認められる。この差異が生産地、生産集団の違いや器種分化による差異かは分からない。81 図 6 は住居中央の床面で出土した黒色高台皿で、二次的な被熱により外面の色調が赤褐色に変色している。胎土質と器壁厚は 80 図 9 の一群と同じである。甲斐型坏は客体的に破片資料のみである。80 図 1 と 80 図 2 は口縁部がやや外反、肥厚し、80 図 1 の内面には放射状暗文がみられる。80 図 3 は墨書され内面にはかすかな放射状暗文がある。甲斐型甕は 80 図 4 を除き口縁部がやや短めで肥厚気味である。80 図 8 は口径がやや小さな中形甕である。ロクロ成形土師器甕は口径が大きなものと小さなものがある。胎土質は黒色坏に類似する。82 図 6 は須恵器甕破片で内面が平滑に摩耗している。82 図 12 と 82 図 13 は住居北東角付近の床面で二つ並んで出土した鋸と思われる鉄製品である。82 図 11 は住居南東角部で出土した鉄製品で刃部を備えている。穂積具か半引金具であろうか。82 図 7 はアブライト製の砥石で四面が平滑に摩耗している。

本住居で出土した遺物の総量は、甲斐型坏皿 145g、甲斐型甕 2,686g、甲斐型小形甕 4g、黒色坏 1,093g、黒色皿 194g、ロクロ成形土師器甕 2 類 1,184g、須恵器坏 18g、須恵器壺甕 482g、灰釉碗 4g、砥石 86g である。

時 期：甲斐型坏と甕の型式上の特徴から宮ノ前VIII期（甲斐型XI期）、9 世紀第 4 四半期から 10 世紀第 1 四半期に位置づけられると思われる。

21号住居（第83・84図、写真図版31・32）

位置：調査区中央からやや北東寄りに位置する。住居南西角からカマドにかけて中世以降の溝と思われる遺構もしくは擾乱がある。

規模：南北3.6m、東西4mの方形で竪穴は深さ30cmが残る。

埋土：黒褐色土がレンズ状に堆積する。竪穴は自然堆積により埋没したと思われる。埋土下層から床面で大小の礫が10点ほど出土した。

床面：黄褐色粘質土の地山を床面としている。全体に硬く踏みしめられていた。

周溝：壁沿いに小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁南寄りに位置する。カマド周辺の埋土は焼土と黄褐色粘質土の粒子が混じり、カマド構築材が崩れ落ちたものと思われる。しかし掘り進めてみると袖石、天井石、支脚石は残っており、完全に破壊されたカマドであることが判明した。カマド底面は強く被熱焼土化し、左右に袖石を埋め立てた小穴が、カマド中央には支脚石を据えたと思われる小穴が検出された。カマド南側の袖石小穴の横には灰白色粘質土が検出された。構築材の一部が残ったものと思われる。東壁からやや突出して煙道と思われる掘り込みが検出された。

他の施設：南壁沿いで68号ピットを検出した。出入り口施設と思われる。傍で扁平礫が出土したが床面から5cmほど浮いており、出入り口に据えたものではない。55号土坑は床面を掘り込んだ土坑である。54号土坑は焼土粒子が多量に混じる埋土で、カマド廃棄物を埋めた廃棄のための土坑と思われる。62号土坑、63号土坑、64号土坑は竪穴掘り方である。66号ピットと99号ピットは地山礫の抜き取り痕である。

出土遺物：本住居は竪穴の残りが良好にもかかわらず遺物量は少ない。84図1は甲斐型環破片でカマド南側の床面で出土した。胎土は良質で調整も丁寧である。内面には見込み中心から放射状に丁寧に施文された暗文がみられる。84図2は甲斐型甕である。口縁部は薄手で長く外反する。84図4は55号土坑で出土した小形のロクロ成形土師器破片である。84図3は住居埋土全体に散らばって出土した土師器甕である。器壁は薄く外面はロクロナデの後にケズリ調整、内面はナデミガキ調整される。口縁部は丸みをもって外反し、口縁部下のナデ調整部とケズリ調整部の境界が明瞭である。武蔵型甕と思われる。84図5は住居中央の床面から15cm浮いた位置で出土した須恵器環破片である。灰白色軟質の胎土質で内外面とも風化している。84図6は55号土坑で出土した須恵器環破片である。

本住居で出土した遺物の総量は、甲斐型環皿32g、甲斐型甕82g、黒色環4g、ロクロ成形土師器甕2類15g、武蔵型甕445g、須恵器環50gである。

時期：遺物が少なく時期推定が難しいが、84図1の甲斐型環の特徴から宮ノ前VI期（甲斐型Ⅲ期）、9世紀第2四半期と推測される。

22号住居（第85図、写真図版32・33）

位置：調査区中央やや東寄りに位置する。重複する遺構はない。

規模：南北3.4m、東西3.4mの方形で竪穴は深さ30cmが残る。

埋土：黒褐色土がレンズ状に堆積する埋土である。竪穴は自然堆積により埋没したと考えられる。

床面：黄褐色粘質土の地山をそのまま床面としている。住居中央部に特に硬くしまっていた。

周溝：南壁以外の壁沿いで小溝を検出した。局所的に二重に小溝が検出された。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁南寄りに位置する。カマドは住居埋土と同質の黒褐色土が堆積し、左右の袖石が残されていた。支脚石はなかった。カマド構築材はほとんど検出されなかったが、3層とした黄褐色粘質土は構築材が残ったものかもしれない。

他の施設：柱穴等は検出されなかった。

出土遺物：堅穴が良好に保存されていた割に出土遺物は少ない。85 図 2 はカマド南側の住居南東角部の埋土下層で出土した甲斐型碗である。85 図 1 も同様の器種であろう。85 図 3 は西壁沿いの埋土上層で出土した須恵器坏破片である。

出土した遺物の総量は、甲斐型坏皿 289g、甲斐型甕 117g、黒色坏 83g、武蔵型甕 9g、須恵器坏 40g、須恵器壺 18g である。

時期：85 図 2 の型式上の特徴から宮ノ前Ⅸ期（甲斐型Ⅸ期）、10 世紀第 2 四半期に位置づけられる。

24 号住居（第 86 ～ 88 図、写真図版 34・35）

位置：調査区中央から北西寄りに位置する。

重複：38 号掘立柱建物と重複する。建物柱穴が重複する箇所には、住居貼床がなく掘乱もあることから、住居と掘立柱建物との新旧関係は確認できなかった。

規模：本住居は 2 軒の重複である。新しい住居を 24a 号、古い住居を 24b 号住居とする。24a 号住居は南北 4m、東西 4.8m の方形で、堅穴は深さ 15 cm が残る。24b 号住居は南北 3.8m で方形と思われ、堅穴は深さ 15 cm が残る。

埋土：黒褐色埋土が水平に堆積し、自然堆積した埋土で埋没した住居と思われる。埋土中から鉄滓と羽口破片が出土したことから、埋土下層と床面直上の埋土の一部を水洗選別したところ、微小な鉄滓、鍛造剥片と粒状滓が回収された。

床面：黄褐色粘質土の地山を平らに均して床面とする。24b 号住居は掘り方を埋め戻して床面としている。

周溝：両住居とも壁沿いで小溝を検出した。

柱穴：住居北西角と南西角で検出した 137 号ビットと 220 号ビット、222 号ビット、77 号土坑は、埋土質、大きさ、深さが類似し、住居堅穴との重複も確認できなかったため、本住居の柱穴の可能性がある。

カマド：24a 号住居のカマドは東壁南寄りで検出した。カマド周辺に扁平礫多数が出土したが、カマドは原形をとどめず、構築材と思われる灰白色粘質土の断片と袖石の一部、焼土、袖石を据えた小穴を検出した。24b 号住居のカマドは検出されなかった。

他の施設：南壁沿いの 216 号ビットは出入り口施設と考えられる。74 号土坑は浅いながらもカマドに付属する施設と考えられる。82 号土坑と 590 号ビットは重複する掘立柱建物の柱穴と思われる。75 号土坑は住居中心部に位置し 87 図 9 の坏と 88 図 9 の羽口破片を伴う。隣接する不整形な 76 号土坑は底面が被熱焼土化し、青黒く変色する部分もあった。221 号ビットは浅く広い掘り方のなかに小さく深いビットが掘られていて、一般的な柱穴とは異なる。これらの土坑、ビットは鍛冶作業に係る遺構である可能性が高い。その他の土坑とビットは掘り方もしくは地山礫の抜き取り痕と思われる。

出土遺物：87 図 3 は墨書のある甲斐型坏破片、87 図 1 は「若」墨書がある甲斐型坏で底径 / 口径は 1/2 である。外面ヘラケズリ調整、内面に放射状暗文がみられる。87 図 6 は外面を回転ヘラケズリした甲斐型皿小片で墨書がみられる。87 図 5 は外面を回転ヘラケズリする甲斐型皿破片で「大」墨書がある。内面は放射状暗文を施文する。87 図 2 は 87 図 1 に器形が類似する甲斐型坏である。87 図 9 は 75 号土坑に伏せて埋められていた黒色坏で口縁部の一部を欠損している。外面下端は乱雑にヘラケズリ調整される。増幅に使用したような痕跡は認められない。87 図 10 の黒色坏は外面下端をヘラケズリされる。二次被熱により外面は赤変し内面の黒色処理が一部変色している。87 図 7 は甲斐型の蓋つまみ部破片で、88 図 8 は須恵器蓋破片である。87 図 8 はカマドで出土した甲斐型甕破片で口縁部は薄く長く外反する。88 図 3 の土師器甕は口縁部直下でロクロナデ無調整、頸部以下はカキメ調整の後、縦方向にナデ調整される。内面は横方向のナデ調整である。88 図 4 は武蔵型甕と思われる土師器甕である。88 図 9 は羽口破片で 75 号土坑で出土した。本住居では金属製品と鉄滓が多く出土した。88 図 16 は刀装具（鞘尻）

でカマド埋土で出土した。88 図 17 は 75 号土坑横の床面で出土した刀子である。88 図 14 は釘と思われる木部が付着している。鍛冶関連微小遺物の回収を目的に行った埋土の水洗選別で、ウメ核のような炭化種実片 1 点が回収された。

本住居で出土した遺物の総量は、甲斐型坏皿 577g、甲斐型蓋 11g、甲斐型甕 1,792g、黒色坏 424g、ロクロ成形土師器甕 2 類 77g、武蔵型甕 113g、須恵器坏 22g、須恵器蓋 29g、須恵器壺 79g、羽口 71g、鋳滓 1,443g、鍛造剥片と粒状滓 35.3g である。

時期：24a 号住居は甲斐型坏、皿の特徴から宮ノ前Ⅵ期(甲斐型Ⅸ・Ⅹ期)、9 世紀第 3 四半期に位置づけられる。
24b 号住居は出土遺物がなく不明である。

26 号住居：欠番

27 号住居 (第 89～91 図、写真図版 35～37)

位置：調査区西端に位置する。重複する遺構はない。

規模：南北 3.4m、東西 3.5m の方形で、堅穴は深さ 26 cm が残る。

埋土：黒褐色土が堆積していた。分層できなかったため土層断面図は省略した。

床面：堅穴掘り方を、黒褐色土と黄褐色粘質土が混じる土で埋め戻して、平らに均し床面としている。住居中央部が特に硬くしまっていた。

周溝：壁沿いに小溝を検出した。

柱穴：検出されなかった。

カマド：東壁中央に位置する。被熱した扁平礫、袖石の一部、焼土、袖石を据えた小穴、構築材と思われる地山由来の黄褐色粘質土を検出したが、カマドは袖石の一部が原位置を留めるほか破壊されていた。

他の施設：227 号、228 号ピットは床面を掘り込んでいて本住居より新しい遺構と思われる。その他の土坑とピットは堅穴の掘り方である。

出土遺物：カマド周辺と西壁沿いで遺物が出土している。90 図 1 はカマド内で出土した甲斐型坏で口縁は薄いままやや外反し、外面下半と底部はヘラケズリ、内面には雑な放射状暗文がみられる。90 図 3 は西壁沿いの床面で出土した甲斐型坏で 90 図 1 より胎土質、調整ともに良質である。90 図 2 はカマド内の 90 図 1 の横で出土した甲斐型坏破片である。外面の風化が進んでいる。90 図 4 は 90 図 3 の横で出土した甲斐型坏破片である。90 図 5 はカマド北側床面で出土した甲斐型皿で体部下半と底部は回転ヘラケズリ、内面には放射状暗文がみられる。胎土、調整ともに良質である。90 図 6 は床面と掘り方から出土した甲斐型鉢破片で体部下半は回転ヘラケズリ調整、底部は回転ヘラケズリにより糸切痕を消し、低い高台を削り出している。内面はロクロナデの後、雑に横ミガキ調整される。91 図 1、91 図 2 はカマドで出土した甲斐型甕破片で、ともに口縁は薄く外反する。91 図 3 はカマドで出土した甲斐型小形甕である。

本住居で出土した遺物の総量は、甲斐型坏皿 808g、甲斐型鉢 311g、甲斐型甕 931g、甲斐型小形甕 24g、黒色坏 9g、ロクロ成形土師器甕 2 類 20g である。

時期：甲斐型土師器の特徴から宮ノ前Ⅵ期(甲斐型Ⅸ・Ⅹ期)、9 世紀第 3 四半期に位置づけられる。

28 号住居 (第 92～94 図、写真図版 37・38)

位置：調査区中央南東寄りに位置する。重複する遺構はない。

規模：南北 4.3m、東西 4.4m の方形で、堅穴は深さ 37 cm が残る。

埋土：黒褐色土が水平に堆積する。自然堆積により埋没した遺構と思われるが、埋土中には投棄されたとと思われる大小の礫が出土した。

床 面：黄褐色粘質土の地山をそのまま床面としている。

周 溝：検出されなかった。

柱 穴：検出されなかった。

カ マ ド：東壁の南寄りに位置する。

他の施設：72号土坑は床面を切って掘り込んでいて、黒褐色埋土には焼土粒子が混じっていた。カマド廃棄時に掘られた廃棄土坑の可能性はあるが、深さは20cmと浅い。

出土遺物：カマド周辺と南壁沿いでまばらに破片が出土した。93図1と93図2は埋土中で出土した甲斐型環破片で、93図1は口縁部が肥厚し体部下半はヘラケズリ、内面には暗文がみられない。器高は低い。93図2も93図1に特徴が共通するが口縁部の肥厚は小さく器高が高い。93図5と93図4はカマドと周辺で出土した甲斐型環破片である。体部下半はヘラケズリ、内面には放射状暗文がみられる。93図4は暗文が施文される箇所間に無文部が残される。93図7は住居南東角付近の床面からやや浮いた位置で出土した甲斐型皿で、口縁部が肥厚し体部下半と底部はヘラケズリである。「大」墨書がみられる。93図3は掘り方で出土した甲斐型の内面黒色環破片である。94図2は黒色皿破片でおそらく高台付皿であろう。93図9と94図1はカマド出土の甲斐型環破片で、94図1は口縁部がやや厚く、93図9は口縁部が肥厚する。93図8は甲斐型甕の底部破片であるが、底部の木葉痕と別に体部下端にハギの葉の圧痕が残る。94図5はにがい黄褐色で軟質の須恵器環破片、94図3と94図4は白色鉱物粒子が混じる灰色の胎土でやや軟質の須恵器環底部である。94図3のみこみ部は平滑に摩耗している。94図6の須恵器蓋破片はきめ細かい灰色の胎土で硬質の焼成である。

本住居で出土した遺物の総量は、甲斐型環皿385g、甲斐型甕1,632g、黒色環87g、黒色皿26g、ロクロ成形土師器甕2類19g、武蔵型甕11g、須恵器環105g、須恵器蓋19g、須恵器甕51g、灰釉碗35gである。

時 期：口縁部が厚く肥厚する甲斐型環と皿の特徴から宮ノ前IX期（甲斐型X期）、10世紀第2四半期に位置づけられる。

第2節 その他の遺構

1号硬化面（第95図）

調査区南西角、15号住居と16号掘立柱建物の北側で、やや浅い落ち込みを検出した。発掘すると硬い黄褐色粘質土の地山と複数基の焼土を検出した。1号硬化面と遺構名を付したが、住居貼床のような硬化面が確認されたわけではなく、硬い地山層が露出しただけのことである。同じ硬い地山層は他の地点でも検出されている。隣接する15号住居埋土上面にも焼土が検出され、本遺構内の焼土の一部と考えられる。このように限られた範囲で複数の焼土が検出されたことから鍛冶工房跡などの可能性を考えたが、それを裏付ける遺構、遺物、調査所見は得られなかった。

95図1は硬化面範囲で出土した甲斐型環破片で内外面とも風化している。体部下半と底部はヘラケズリ、内面には放射状暗文が施文される。器形からみて宮ノ前VIII期（甲斐型IX・X期）、9世紀第3四半期に位置づけられると思われ、この環が本遺構の時期を示すとすると15号住居より新しい時期で、16号掘立柱建物との関係が問題とされるが、新旧関係を考える調査所見は得られなかった。

掘立柱建物

調査区内で52棟の掘立柱建物を検出した。これらのほとんどは出土遺物、形態から平安時代に位置づけられると推測される。八ヶ岳南麓の平安時代遺跡にあって、本遺跡の掘立柱建物の多さと大型建物の存在は特筆すべきで、本遺跡固有の性格がうかがえる。

1号掘立柱建物（第96図、写真図版38）

調査区中央から西寄り、12号住居の西側に位置する。桁行2間、梁間2間の縦柱建物で桁行柱間は梁間の二倍程度である。172号ピットから平安時代の土師器甕と思われる小破片が出土していることから、平安時代の建物跡と推測される。

2号掘立柱建物（第96図、写真図版39）

調査区中央西寄りに位置し、12号住居・25号住居と重複する。本建物跡が新しい。桁行3間、梁間2間の側柱建物で、207号ピットで直径20cmの柱痕が検出された。出土遺物は178号ピットで縄文時代土器の小破片がある。12号住居と重複するが建物軸方向が合致することから平安時代の遺構と推測される。

3号掘立柱建物（第97図、写真図版39）

調査区中央に位置する。4号掘立柱建物と重複するが新田は不明である。南北2間、東西2間の側柱建物で、北辺の2ヶ所で複数ピットが検出されている。4号掘立柱建物と一体の建物の可能性も考えられるが、軸方向がややずれるため別棟の建物と考えた。170号ピットで甲斐型甕の小破片が出土している。このことから平安時代の遺構と推測される。

4号掘立柱建物（第97図、写真図版39）

調査区中央に位置し、3号掘立柱建物と重複する。ほぼ同規模の建物2棟が重複しており、それぞれ4a号、4b号掘立柱建物とした。ともに南北1間、東西2間の側柱建物である。出土遺物がなく時期は不明だが、3号掘立柱建物などと柱間寸法が類似するため、平安時代の遺構と推測される。

5号掘立柱建物（第98図、写真図版40）

調査区中央からやや東寄りに位置する。1間四方の建物で南北方向の柱間がやや長い。出土遺物がなく時期は不明だが、周囲の平安時代竪穴住居と軸方向が合致することから、平安時代の遺構と推測される。

6号掘立柱建物（第98図、写真図版40）

調査区中央から西寄りに位置する。5号掘立柱建物と同じ規模、構造の建物で軸方向も一致する。出土遺物がなく時期は不明だが、平安時代の遺構と推測される。

7号掘立柱建物（第98図、写真図版40）

調査区中央から南寄りに位置する。3号溝と重複し本建物古い。10号掘立柱建物と隣接するが、新旧関係は不明である。南北2間、東西2間の側柱建物で、南北方向の柱間がやや広い。191号ピットで縄文土器の小破片、204号ピットで須恵器蓋破片と甲斐型環破片、205号ピットで甲斐型環破片が出土した。甲斐型環は内面に放射状暗文がみられることから宮ノ前Ⅷ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）、9世紀第3四半期かそれ以前に位置づけられる。後述する10号掘立柱建物も9世紀第3四半期に位置づけられ、整然と本建物に並んでいることから、本建物も同時期に位置づけられると推測される。

8号掘立柱建物 欠番

9号掘立柱建物（第98図、写真図版41）

調査区中央から南寄り、16号竪穴住居の北に位置する。桁行3間、梁間2間の側柱建物で梁間が桁行よりやや広い。239号ピットで縄文土器小片が出土したのみで、遺構の時期は不明である。建物の軸方向が周辺の平安時代竪穴住居に合致することから平安時代の遺構と推測される。

10号掘立柱建物（第99図、写真図版40）

調査区中央南寄り、7号掘立柱建物の西側に隣接する。桁行2間、梁間2間の側柱建物で、桁行、梁間の柱間寸法がほぼ等しい。南西角には237号ビットと283号ビットの2基が検出された。南辺の199号ビット、200号ビット、東辺の236号ビットが本建物に属するか分からないが柱穴列上に並んでいる。出土遺物は196号ビットで甲斐型皿破片、233号ビットでやぐ硬質に焼成された素焼きの土鍋のような土師器破片、285号ビットで灰軸意破片が出土した。甲斐型皿は体部下半が回転ヘラケズリされ内面に放射状暗文がみられる。放射状暗文を施した甲斐型皿は、24号住居と27号住居で出土し、ともに宮ノ前Ⅶ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）、9世紀第3四半期に位置づけられている。本建物の北西に隣接する14号住居と本建物は軸方向が一致している。このような状況から本建物も同様の時期であると推測される。

11号掘立柱建物（第99図、写真図版41）

調査区中央から北西寄り、24号住居の北東側に位置する。桁行3間、梁間2間の側柱建物である。出土遺物がなく時期は不明であるが、時期が推定できる10号掘立柱建物と規模、構造が類似し、4号住居などと軸方向が一致することから平安時代の遺構と推測される。

12号掘立柱建物（第100図、写真図版41）

調査区西端、14号住居西側に隣接する。南北2間、東西2間の側柱建物で、北辺中央の柱穴がやぐ亀甲型に突出する。北辺と南辺にビットが検出され建替えもしくは重複が疑われる。361号ビットで甲斐型丸小破片が出土したことから平安時代の遺構と推測される。

13号掘立柱建物（第100図、写真図版42）

調査区の北端、9号住居南側に位置する。南北2間、東西1間で、東西柱間が南北の2倍の側柱建物である。南辺には95号ビットと404号ビットが検出され、修築、建替えが考えられる。423号ビットで甲斐型丸小破片が出土したことから平安時代の遺構と推測される。隣接する29号掘立柱建物、30号掘立柱建物と規模、構造、軸方向が類似する。

14号掘立柱建物（第100図、写真図版42・44）

調査区東端、7号住居と8号住居の中間に位置する。周囲には小規模な掘立柱建物が多数重複している。本建物は1間四方で、同一地点に同一規模で重複する54号掘立柱建物とは建替え関係にあると想定される。出土遺物がなく時期は不明である。

15号掘立柱建物（第101図、写真図版42）

調査区北東角に位置する。桁行2間、梁間2間の総柱建物である。個々の柱穴の掘り方は大きく、桁行柱間が梁間よりやや広い。ほぼすべての柱穴で直径20cm程度の柱痕が確認された。460b号ビットは地山際にあたり、ビットを明確に確認できなかった。417号ビットで甲斐型皿破片、460号ビットで縄文土器破片と黒色坏破片、460b号ビットで甲斐型皿破片、461号ビットで黒色坏破片、463号ビットで甲斐型皿破片と甲斐型皿破片がそれぞれ出土している。甲斐型皿は口縁部が厚く内面に放射状暗文がみられることから、宮ノ前Ⅶ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）、9世紀第3四半期かそれ以前に位置づけられる。これらの出土品から、本建物は9世紀第3四半期の遺構と推測される。

16号掘立柱建物（第102図、写真図版43）

調査区西端に位置する。15号住居と重複し、本建物が新しい。桁行3間、梁間3間の総柱建物で、桁行柱間が梁間よりやや広い。柱穴の掘り方は大きく隅丸方形で、中心に直径20～30cmの柱痕が検出された。柱を固定する埋め戻しは、版築状に丹念に突き固められている。466号ビットと164号土坑は不整形で浅く、柱列が乱れるが、この

地点の地山には礫が多く含まれているためと考えられる。150号土坑で甲斐型環か皿の小片、黒色環破片、157号土坑で縄文土器破片と素焼き土器小片、158号土坑で甲斐型環破片、159号土坑で甲斐型環破片が出土している。甲斐型環は口縁部が肥厚せず、内面に放射状暗文を施文するものとし、ないものがある。甲斐型環の型式的な特徴から推測すると宮ノ前Ⅶ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）から宮ノ前Ⅷ期（甲斐型Ⅺ期）、9世紀第3四半期から10世紀第1四半期に位置づけられる。本建物が15号住居より新しいとした調査所見に整合し、かつ9世紀第3四半期に位置づけた14号住居、7号掘立柱建物、10号掘立柱建物に近く軸方向が一致することから本建物は9世紀第3四半期に位置づけられると推測される。

17号掘立柱建物（第104図、写真図版44）

調査区南寄り、15号住居の南東に位置する。桁行3間、梁間1間の側柱建物で、梁間は桁行柱間の倍の広さである。東端の474号ピットと475号ピットは、位置と柱間が整合しないが、梁間寸法がほぼ等しいことから、本建物に付属する柱であると考えた。471号ピットで直径20cmほどの柱痕が検出された。472号ピットで甲斐型環破片が出土した。甲斐型環は口縁部が肥厚せずやや外反し、内面に放射状暗文がみられる。104図1は黒色環底部破片である。精製されたきめ細かな胎土で外面には明瞭な墨痕が認められる。底部は切り離し後に磨かれ、一般的な糸切痕とは異なる。以上の出土品から、宮ノ前Ⅶ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）、9世紀第3四半期に位置づけられると思われる。このことから本建物も同じ時期の遺構と推測される。

18号掘立柱建物（第105図、写真図版44）

調査区東端、7号住居の北西側に位置する。南北1間、東西1間の小規模な建物である。出土遺物がなく時期は不明である。規模、構造は副庭する14号、54号掘立柱建物に類似する。

19号掘立柱建物（第105図、写真図版44）

調査区北東寄り、5号住居と重複し本建物が新しい。梁間2間、桁行3間の側柱建物で、梁間が桁行柱間よりやや広い。出土遺物がなく時期は5号住居より新しいとしか分からないが、規模、構造、軸方向から平安時代の遺構と推測される。

20号掘立柱建物（第106図、写真図版45）

調査区中央から北寄り、4号住居北西側に位置する。南北2間、東西1間の側柱建物で、出土遺物がなく時期は不明である。

21号掘立柱建物（第106図、写真図版45）

調査区中央から北寄り、4号住居北側に位置する。南北2間、東西2間の総柱建物で44号ピットで甲斐型環と思われる小破片が、303号ピットで甲斐型環胴部破片が出土した。

22号掘立柱建物（第106図、写真図版45）

調査区中央から北寄りに位置する。4号住居と重複する。4号住居カマド横で検出された504号ピットは、確認面に4号住居の床面が貼られカマド焼土がのっていたことから、本建物が古いと判断された。桁行2間、梁間1間の側柱建物と思われるが、南辺の中央の柱穴は確認できなかった。21号ピットで甲斐型皿破片、甲斐型環破片、黒色環破片、武蔵型環と思われる破片、須恵器蓋破片、須恵器壺破片、灰輪陶器口縁部破片、縄文土器破片が出土した。甲斐型皿は外面下半が回転ベラケズリされる。以上の遺物から4号住居に先行する宮ノ前Ⅶ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）9世紀第3四半期以前の遺構と推測される。

23号掘立柱建物（第107図、写真図版46）

調査区中央から北寄り、4号住居北西側に位置する。南北1間、東西2間の側柱建物で、南辺には柱穴列が2列検出され建替えか修築が想定される。354号ビットで直径15cmの柱痕が検出された。379号ビットで須恵器壺甕破片、376号ビットで甲斐型甕の小破片、593号ビットで甲斐型坏の小破片が出土した。

24号掘立柱建物（第107図、写真図版46）

調査区中央から北東寄り、18号住居西側に位置する。同一地点で検出された47号掘立柱建物と重複し、5号溝に切られる。24号掘立柱建物は、桁行3間、梁間2間の側柱建物と思われ、桁行柱間がやや広い。321号ビットで須恵器坏破片、369号ビットで甲斐型坏破片が出土した。甲斐型坏は口縁部がやや肥厚、外反し、内面に暗文がみられない。宮ノ前Ⅷ期（甲斐型Ⅺ期）、9世紀第4四半期から10世紀第1四半期に位置づけられると思われ、24号掘立柱建物の時期を示唆する。

25号掘立柱建物（第108図、写真図版46）

調査区北寄りの掘立柱建物が集まる地点の北端に位置する。桁行3間、梁間1間の側柱建物で、出土遺物は無い。規模、構造、軸方向から平安時代の遺構と推測される。

なお本建物周辺では建物としての構成が把握できなかった柱穴とみられるビットで遺物が出土したものがある。37号ビットで須恵器坏破片、39号ビット、78号ビットと88号ビットで甲斐型甕破片、338号ビットで須恵器壺口縁部破片が出土した。

26号掘立柱建物（第108図、写真図版47）

調査区北寄りの掘立柱建物が集まる地点の北端に位置し、25号掘立柱建物と長軸方向が直交して重複する。新旧関係は不明である。桁行2間、梁間2間の側柱建物と思われ、25号掘立柱建物と比較すると梁間寸法が半間分、桁行は1間分広い。375号ビットでクロ成形土師器甕破片が出土した。このことから本建物は平安時代の遺構と推測される。

27号掘立柱建物（第109図、写真図版47）

調査区北西寄り、9号住居と24号住居の中間地点に位置する。桁行4間、梁間2間の建物で、ほかの建物と構造が異なる。北辺は下屋もしくは庇だろうか。出土遺物がなく時期は不明である。

28号掘立柱建物（第109図、写真図版47）

調査区中央北寄り、4号住居西側に位置する。桁行3間、梁間1間の側柱建物である。232号ビットと112号ビットを除外した構成も考えられるが、梁間寸法が等しいことから、図示した構造を想定した。出土遺物がなく時期は不明である。

29号掘立柱建物（第110図、写真図版48）

調査区北西寄り、9号住居南側に位置し、13号掘立柱建物西側に隣接する。桁行2間、梁間1間の側柱建物である。梁間寸法は桁行柱間の1.5倍である。456号ビットで甲斐型甕破片が出土したことから平安時代の遺構と推測される。

30号掘立柱建物（第110図、写真図版48）

調査区北西寄りに位置し、9号住居に重複する。南北2間、東西1間の側柱建物で南に隣接する13号掘立柱建物と規模、構造が合致する。出土遺物がないが13号掘立柱建物と同様に平安時代の遺構と推測される。

31号掘立柱建物（第111図、写真図版48）

調査区北寄りの掘立柱建物が集中する地点の北端に位置し、25号掘立柱建物などと重複する。南北2間、東西1間の側柱建物で、13号掘立柱建物、30号掘立柱建物と規模、構造が同一である。29号ピットで甲斐型壺底部破片とロクロ成形土師器甕口縁部破片が、83号ピットで縄文時代後期土器の底部破片がそれぞれ出土した。甲斐型壺は胎土質と器形から宮ノ前VI期からVII期頃に位置づけられると推測される。

32号掘立柱建物（第111図、写真図版49）

調査区北寄りの掘立柱建物が集中する地点に位置する。26号、31号、33号掘立柱建物などと重複する。南北1間、東西1間の側柱建物である。出土遺物がなく時期は不明であるが、南北柱間は26号掘立柱建物の東西柱間と同じであり、平安時代の遺構と推測される。

33号掘立柱建物（第111図、写真図版49）

調査区北寄りの掘立柱建物が集中する地点に位置する。31号、32号掘立柱建物などと重複する。南北は西辺が2間、東辺が3間、東西は2間の側柱建物である。498号ピットは25号掘立柱建物柱穴と重複する。92号ピットで甲斐型壺口縁部破片が出土した。壺は口縁部が肥厚せず外反するが、住居出土例を参照すると宮ノ前VII期（甲斐型IX・X期）、9世紀第3四半期に相当すると思われる。一方、33号ピットでは「福口」の墨書がある甲斐型血底部破片が出土した。底部から体部下半にかけて手持ちヘラケズリされ、底径が小さい。これは宮ノ前IX期（甲斐型XII期）、10世紀第2四半期に比定できるとと思われる。これらから本建物は10世紀第2四半期に位置づけられよう。

34号掘立柱建物（第112図、写真図版49）

調査区中央北寄り、21号住居北側に位置する。周辺の掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明である。1間四方の建物で出土遺物がなく時期は不明である。

35号掘立柱建物（第112図、写真図版50）

調査区中央からやや北寄り、4号住居西側に位置し、6号溝に切られる。桁行2間、梁間1間の細長い側柱建物で、出土遺物がなく類似する構造の建物が調査区内にないため時期は不明である。

36号掘立柱建物（第113図、写真図版50）

調査区中央からやや北東寄り、4号住居と21号住居の間に位置する。130号ピットが42号掘立柱建物柱穴と共有している。構造、規模が類似することから、36号掘立柱建物と42号掘立柱建物は、建替えしたものと推測される。130号ピットで武蔵型甕小片があるほかは出土遺物がなく時期は不明である。

37号掘立柱建物 欠番

38号掘立柱建物（第113図、写真図版50）

調査区中央西端、24号住居に重複する。新旧関係は不明である。桁行2間、梁間1間の細長い側柱建物である。219号ピットで甲斐型環の小片が出土した。環は口縁が肥厚せず内面に放射状暗文がみられ、宮ノ前VII期（甲斐型IX・X期）、9世紀第3四半期かそれ以前に比定されると思われる。24号住居と同時期であり、24号住居からの混入も考えられる。

39号掘立柱建物（第114図、写真図版51）

調査区中央北寄り、21号住居北側に位置する。周辺の掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明である。桁行3間、梁間1間の側柱建物で、123号ピットと571号ピット、573号ピットが、それぞれ39号掘立柱建物、53号掘立柱

建物、43号掘立柱建物の柱穴と重複する。123号ピットからロクロ成形土師器甕の底部破片、571号ピットから縄文土器破片が出土した。本建物の時期は不明である。

40号掘立柱建物（第114図、写真図版51）

調査区中央北寄り、21号住居北側に位置する。周辺の掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明である。南北1間、東西1間の建物で、565号ピットが53号掘立柱建物の柱穴124号ピットと重複するが、新旧関係は分からなかった。110号ピットと130号ピットで同一個体のロクロ成形土師器甕小片が出土したほか、126号ピットで縄文土器破片が出土した。本建物は平安時代に位置づけられる可能性がある。

41号掘立柱建物 欠番

42号掘立柱建物（第113図、写真図版51）

36号掘立柱建物と同一地点に位置する。130号ピットを36号掘立柱建物と共有すること、構造、規模が類似することから両建物は建替えしたものと推測される。130号ピットで武蔵型甕小片があるほかは出土遺物がなく時期は不明である。

43号掘立柱建物（第114図、写真図版52）

調査区中央北寄り、21号住居北側に位置する。周辺の掘立柱建物と重複するが、新旧関係は不明である。桁行2間、梁間1間の側柱建物である。出土遺物がなく時期は不明である。

44号掘立柱建物（第115図、写真図版52）

調査区南西端、15号住居の南西側に位置する。1間四方の建物で、465号ピットで直径10cmの柱痕が検出された。出土遺物がなく時期不明である。5号掘立柱建物、6号掘立柱建物と規模、構造が類似する。

45号掘立柱建物（第115図、写真図版52）

調査区南西端、15号住居の南西側に位置する。44号掘立柱建物と重複する。南北1間、東西2間で、やや不整形である。出土遺物がなく時期不明である。

46号掘立柱建物（第116図）

調査区中央から北東側、18号住居と重複する。柱穴は18号住居床面を切って掘り込まれている。桁行2間、梁間2間の側柱建物で、桁行柱間は梁間の1.5倍から2.5倍の広さである。52号ピットで内面に放射状暗文がある甲斐型坏破片と甲斐型甕破片、64号ピットで甲斐型甕破片、323号ピットで黒色皿破片が出土した。116図1は須恵器坏破片である。2号住居と18号住居の遺物として取り上げた破片どうしが接合し、本建物に属する遺物と判断した。これらの遺物から本建物は、18号住居より新しい宮ノ前Ⅱ期（甲斐型Ⅱ期）以降の平安時代の遺構と推測される。

47号掘立柱建物（第116図、写真図版53）

調査区中央から北東寄り、18号住居西側に位置する。24号掘立柱建物と重複し、かつ5号溝に切られる。47号掘立柱建物は桁行2間、梁間1間の側柱建物で、北辺が開く平面形となる。507号ピットは2棟の柱穴が重複しているが新旧関係は把握できなかった。47号掘立柱建物は、遺物が出土せず時期は不明である。周辺の24号掘立柱建物、46号掘立柱建物は平安時代の遺構と推測されるため、本建物も同時期と思われる。ただし18号住居と47号掘立柱建物は、同時併存が難しいほど近接しているから時期差が想定される。

48号掘立柱建物 欠番

49号掘立柱建物（第117図、写真図版53）

調査区中央から南西寄り、14号住居と重複する。桁行2間、梁間1間の側柱建物である。柱穴に気づかぬまま14号住居を先行して発掘したため、本建物との新旧関係が把握できなかった。出土遺物がなく時期不明である。

50号掘立柱建物（第117図、写真図版53）

調査区中央北側、4号住居の北に位置する。桁行2間、梁間1間の側柱建物で、西辺が大形状に広い。45号ピットが22号掘立柱建物の柱穴と重複し、300号ピットが20号掘立柱建物の柱穴とそれぞれ重複する。出土遺物がなく時期は不明である。

51号掘立柱建物（第118図、写真図版54）

調査区中央北側、4号住居南側に重複する。南北2間、東西1間の側柱建物である。北東角の柱穴は1号溝に切られて失われている。569号ピットで黒色坏小片、甲斐型甕口縁部破片が出土した。甲斐型甕は、まだ肥厚していないが外反する口縁がやや短めで、宮ノ前Ⅷ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）、9世紀第3四半期に比定できると思われる。

52号掘立柱建物（第118図、写真図版54）

調査区東端、7号住居の北西側に位置する。南北2間、東西2間の側柱建物である。250号ピットと252号ピットは柱間が不規則だが、柱列が通ることから本建物に含めた。出土遺物がなく時期は不明である。

53号掘立柱建物（第119図、写真図版54）

調査区中央から北寄り、4号住居南側に位置する。桁行3間、梁間2間の建物で、桁行の柱穴列はやや不規則である。周辺の掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明である。123号ピットでロクロ成形土師器甕底部破片と甲斐型甕胴部破片が、124号ピットで甲斐型甕口縁部破片が、125号ピットで甲斐型坏口縁部破片、甲斐型甕口縁部破片と底部破片、黒色坏破片、灰釉陶器破片が出土した。123号ピットは39号掘立柱建物と重複するため、どちらの建物に属するか不明である。125号ピット出土の甲斐型坏はごく小破片であるが、口縁部が肥厚せず内面に放射状暗文がみられる。甲斐型甕の口縁は肥厚せず薄い。これらの出土遺物の特徴から、本建物は宮ノ前Ⅷ期（甲斐型Ⅸ・Ⅹ期）9世紀第3四半期以前に位置づけられると思われる。

54号掘立柱建物（第100図、写真図版44）

調査区東端、7号住居と8号住居の間に位置する。1間四方の建物で、14号掘立柱建物と同一地点にあり、相似形であることから建替え関係にあると思われる。出土遺物がなく時期不明である。

55号掘立柱建物（第120図、写真図版44）

調査区東端、7号住居と8号住居の間に位置する。1間四方の小規模な建物で、出土遺物がなく時期は不明であるが、56号掘立柱建物と相似形であることから平安時代の遺構と推測される。

56号掘立柱建物（第120図、写真図版44）

調査区東端、7号住居と8号住居の間に位置する。55号掘立柱建物を一回り大きくした建物で、311号ピットで甲斐型甕胴部の小破片が出土した。

第4章 中近世の遺構

溝 跡

1号溝跡（第121図）

調査区を北から南へ貫くように検出された。調査区内で確認した遺構の規模は、全長117.6m、最も広い地点で6.6m幅である。深さは保存状態のよい地点で70cmで、4号住居、20号住居と重複する地点では徐々に浅くなっていた。溝跡は地点により幅広の1本溝となったり、幅の狭い2本の溝に分岐している。溝の断面形状は不規則であり、自然流路かと思われたが、各所で不自然に割れた大小の礫が出土し、また水成堆積層も確認されていない。

溝内から縄文時代の土器、平安時代の土師器、須恵器、中近世の素焼き甕か壺の底部破片などが出土している。なかでも121図1は摩耗のない大きな破片のかわりけで、溝の時期を示唆するものと思われる。

2号溝跡

調査区南端で検出された溝で、調査区を東西方向へ延びている。1号溝を切り、調査区東端で近代以降の土管を埋設した溝へ接続した。

3号溝跡、5号溝跡、6号溝跡（第121図）

調査区の北東、2号住居付近から南西の15号住居付近にかけて断続的に検出された溝で、別々に遺構名を付したが、蛇行して連続する1条の溝跡と推測される。溝の埋土は底面付近に水成堆積を示す粗粒砂が確認されている。15号住居を切っていることから平安時代以降の溝跡であることは確実であるが、自然流路なのか人工的に掘削された遺構なのか判断できなかった。人工物とした場合、その掘削時期を推測する調査所見は得られなかった。

4号溝跡

調査区の東端を南北に貫く溝で、近世以降の水田に伴う暗渠排水跡と思われる。

近世墓

調査区北西角を中心に長方形、円形の土坑がまとまって検出された。これらは調査地点が水田化される以前の近世墓と思われる。土坑埋土からは縄文土器、平安時代の土師器、須恵器破片、近世陶磁器破片などが出土しているが、副葬品と認められる遺物は出土しなかった。

北杜市では地域の歴史にとって特に重要なものを除き、近世以降は保護対象とすべき埋蔵文化財として扱わないため、これら近世墓は発掘し、写真記録の撮影にとどめた。

調査地点の北東に日蓮宗末仏山上行寺があり、永禄元年（1558）浅川藤左衛門開基の伝承がある。調査地点が水田化される以前は、上行寺の寺域が広がっていたものと推測される。

時期不明の遺構

143号土坑（第122図）

1号溝を切る土坑で、黒褐色埋土中に焼土塊が検出された。縄文土器、平安時代の土師器破片が出土したが時期は不明である。

153号土坑（第122図）

1号溝と2号溝が交差する地点の北西側に位置する。浅い土坑で底面に被熱した扁平な安山岩が敷かれていた。土坑底面と壁面には被熱痕が認められなかった。出土遺物がなく時期は不明である。

遺構外遺物（第123～127図）

調査区から縄文時代、弥生時代、平安時代の土器、土師器、石器が出土した。

123図1、123図2は諸磯c式土器、123図3と123図4、123図5は五領ヶ台式土器である。123図6は中期中葉の藤内式土器、123図7は曾利式土器破片である。123図8は称名寺式土器で、同一個体の2破片を図示した。123図9から123図13は堀之内式、124図1から124図3は加曾利B式土器である。縄文時代の石器は、石鏃、磨製石斧、打製石斧、粗製大型石匙、石皿、磨石類が出土した。

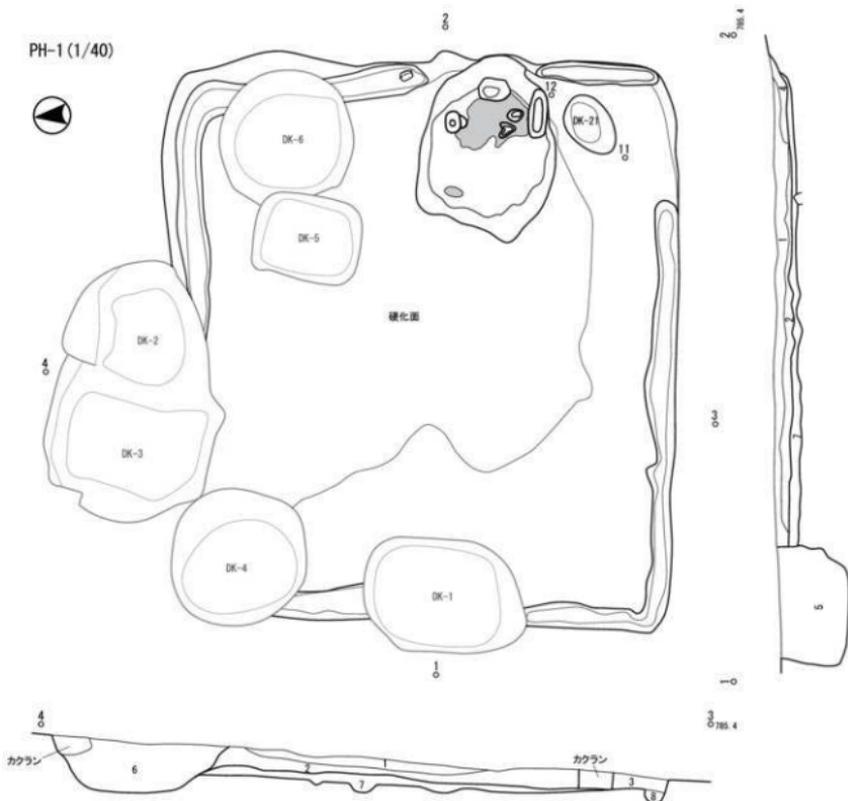
本遺跡の周辺には、金生遺跡をはじめとして、遺構外出土土器と同時期の遺跡がある。本遺跡もそれぞれの時期に、土器破片と石器を残す程度の土地利用があったと考えられる。

124図4は晩期末葉の浮線文土器、127図1は弥生時代前期の条痕文土器である。平安時代の土師器破片は多く出土し、器形が復元できる破片、墨書が認められる破片を図示した。

発掘調査作業風景 北東から



PH-1 (1/40)



1層 試掘跡の70%

2層 10FQ-2(3層)に10F5-6(黄緑)がOK, 10F5-6(黄緑)φ0.5~1cmロームブロックがOK, φ1~1.5cm小石がOK, φ0.3cm硬化材が7%混じる, シルト粘土。

3層 10FQ-2(3層)にφ0.5~0.3cm小石がOK, 10F5-6(黄緑)φ1~1.5cmロームブロックがOK混じる, シルト粘土。

4層 10F6-4(4層)に黄土50%40%以上(赤褐)がOK, 10F5-6(黄緑)φ1.5cmロームブロックが7%混じる, シルト粘土。

5層 DK-1(10FQ-2(3層)に10F5-6(黄緑)φ0.5~3cmロームブロックがOK混じる, シルト粘土。尚や不明な層の戻した土と思われ)

6層 DK-2(10FQ-2(3層)に(上から2/3辺りまで)10F5-6(黄緑)φ1~1.5cmロームブロックがOK混じる, シルト粘土(上の方はやわらかく下の方は固くします)。

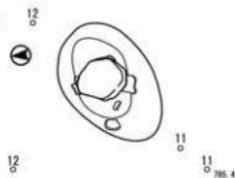
7層 (表)10F5-6(黄緑), 粘質土。

8層 10FQ-2(3層), シルト粘土, ややしまる。

地山 (表)10F6-5(明黄緑)に10F6-9(明黄緑)がOK, 10FQ-2(3層)がOK混じる, シルト粘土。固くします。

地山 10F6-9(明黄緑)に10F6-9(明黄緑)が40%混じる, シルト粘土。固くします。

DK-21 (1/20)

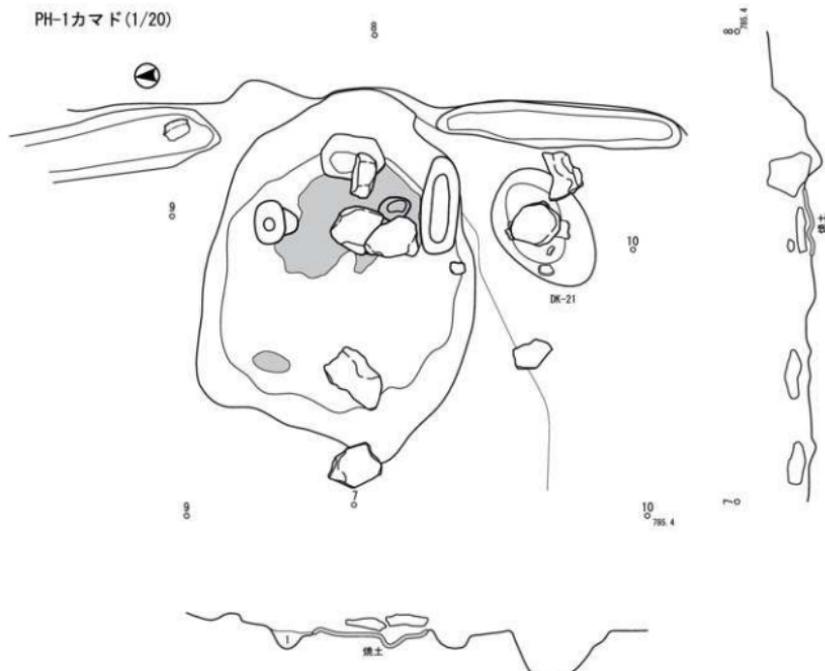


1層 10FQ-2(3層)に10F5-4(こぶし黄緑)がOK, 50%40%赤褐)φ1cm黄土ブロックが7%, 炭化物粒子が7%以下混じる, シルト粘土, ややしまる。

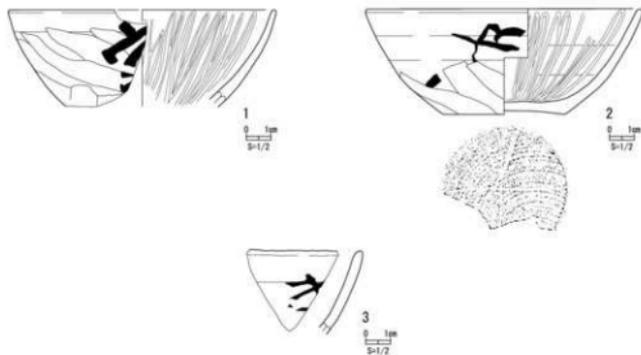
地山 10F6-9(明黄緑), シルト粘土。固くします。

第 6 図 1号住居

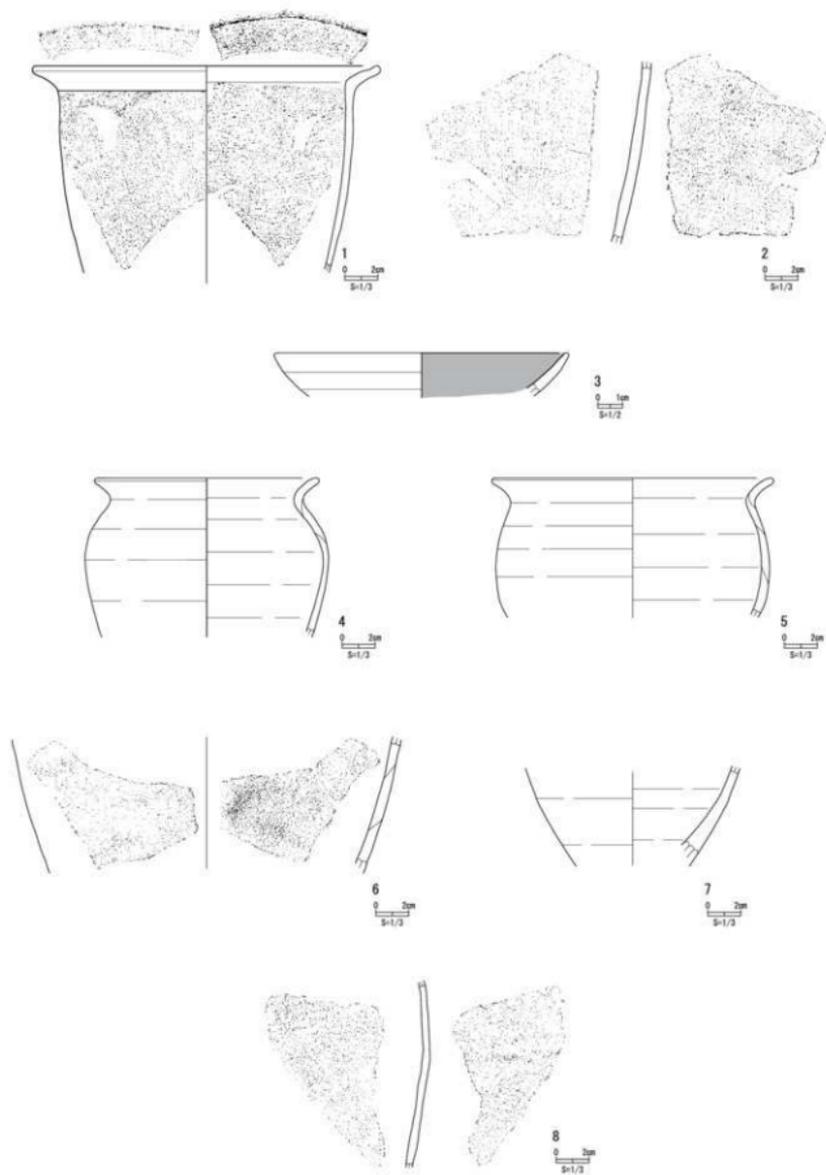
PH-1カマド(1/20)



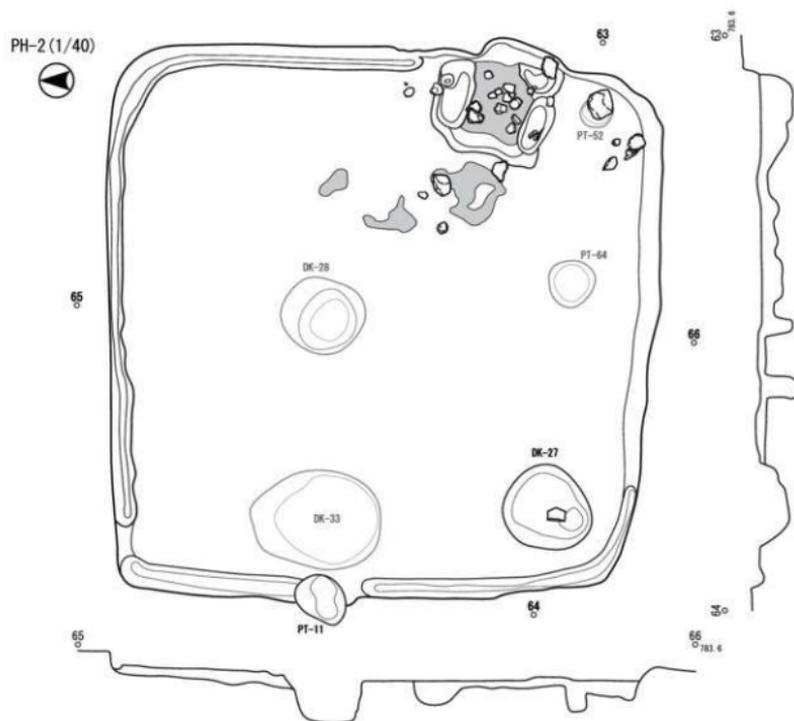
1層 (カマド袖石ピットの埋土)100%?黒褐色に焼土粒子が%以下混じる。シルト粘土、ややしまる。
 焼土 5%以下明赤褐色に5%以下混じる。
 灰 無/白灰。



第 7 図 1号住居カマド・出土遺物



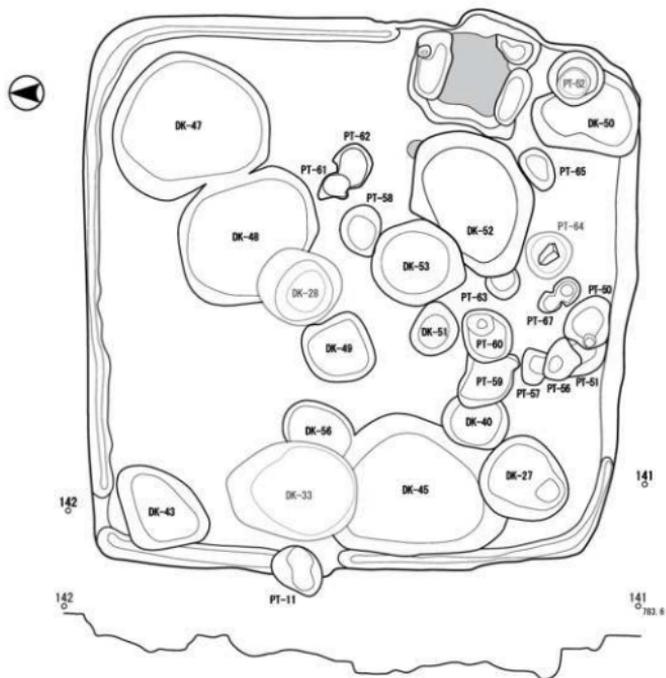
第 8 图 1号住居出土遗物



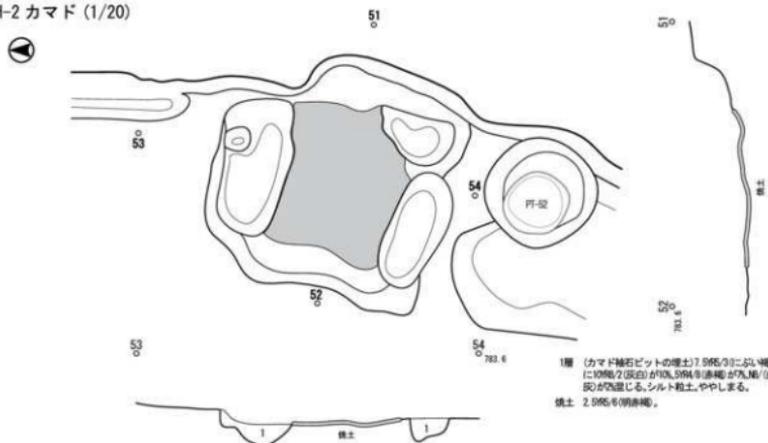
第 9 図 2号住居



2号住居床面の遺構検出状況

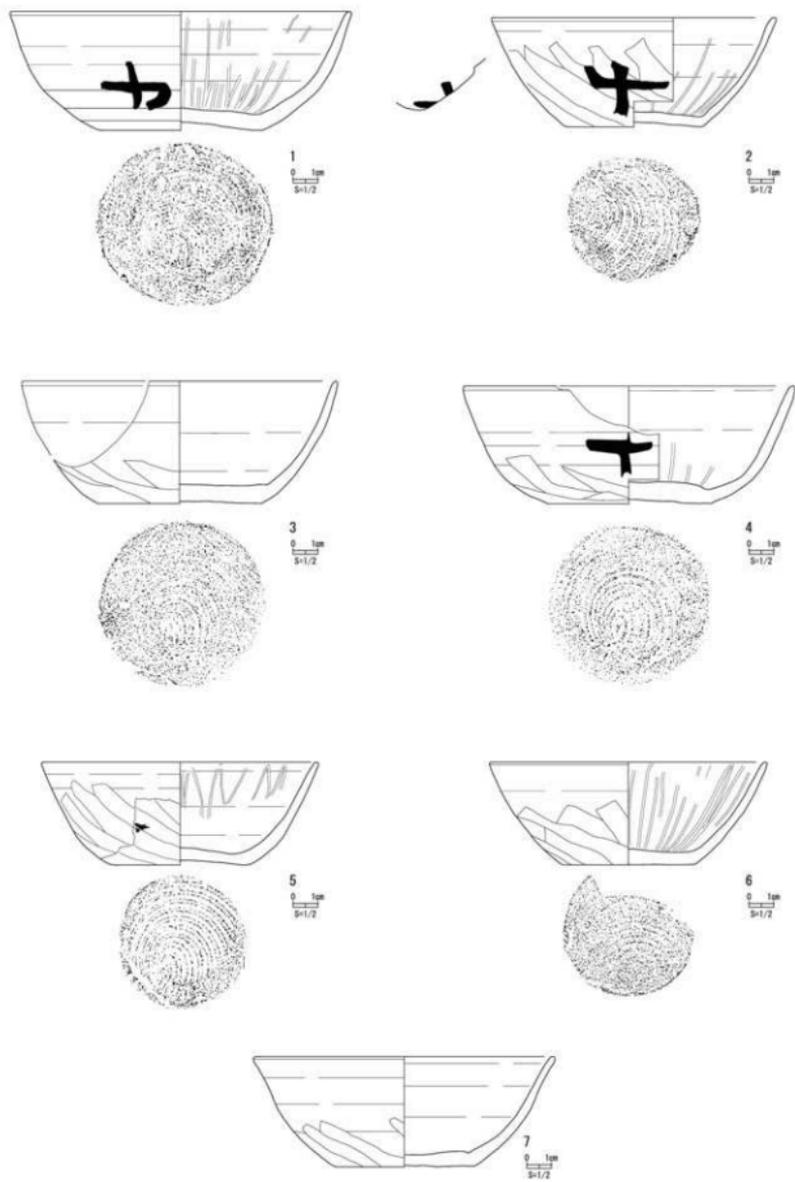


PH-2 カマド (1/20)



1層 (カマド・礫石ピットの埋土) 2.595.0にぶらね
に切欠(灰白)が丸く、94年(赤堀)が丸く、(白
灰)が丸く、シルト粘土、ややしまる。
埋土 2.595.0(赤堀)。

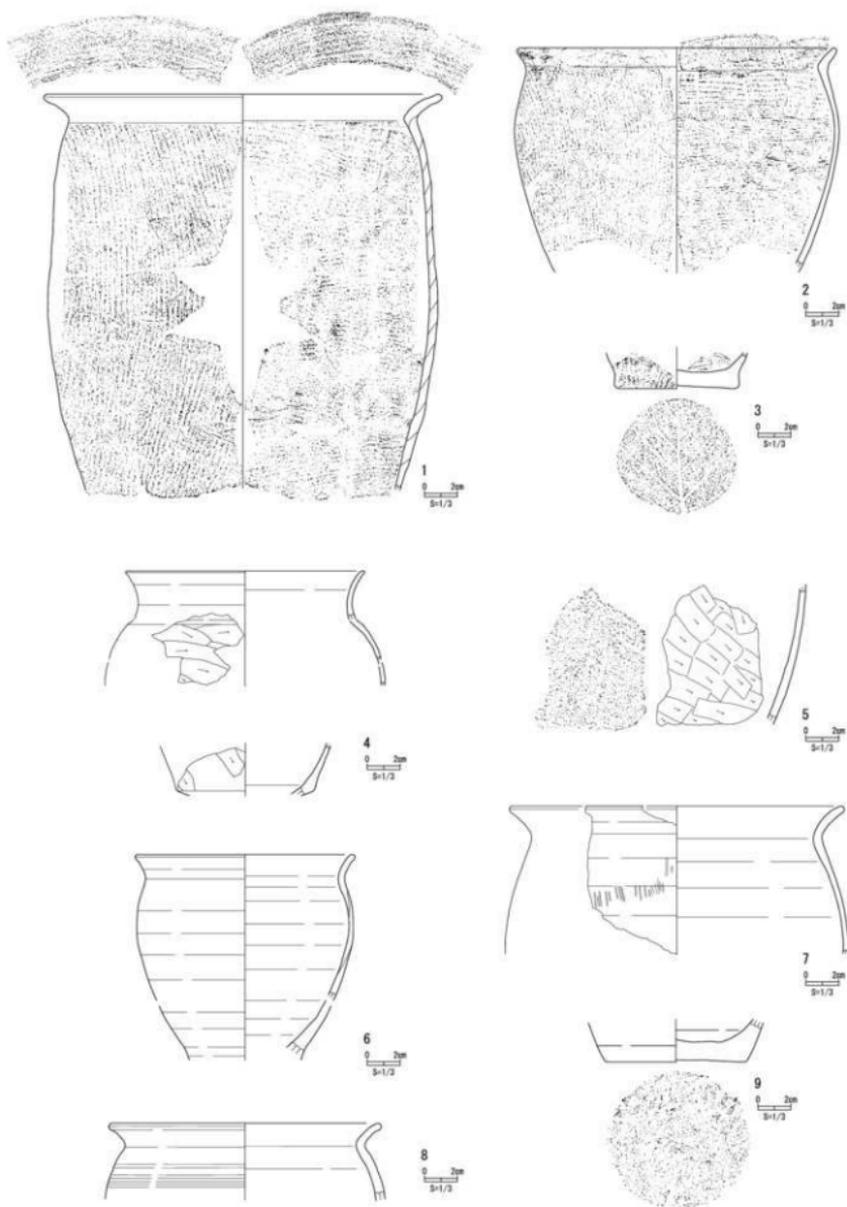
第 10 図 2号住居・カマド



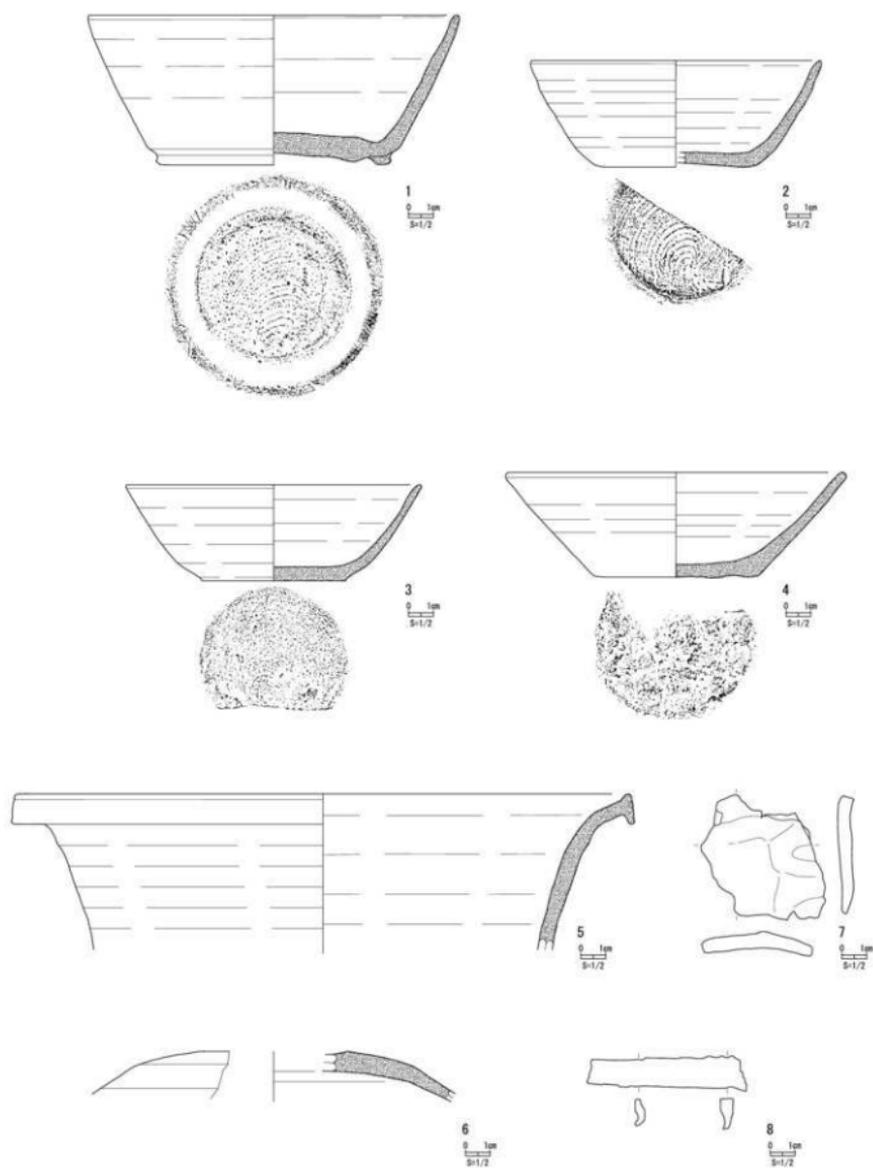
第 11 图 2号住居出土遺物



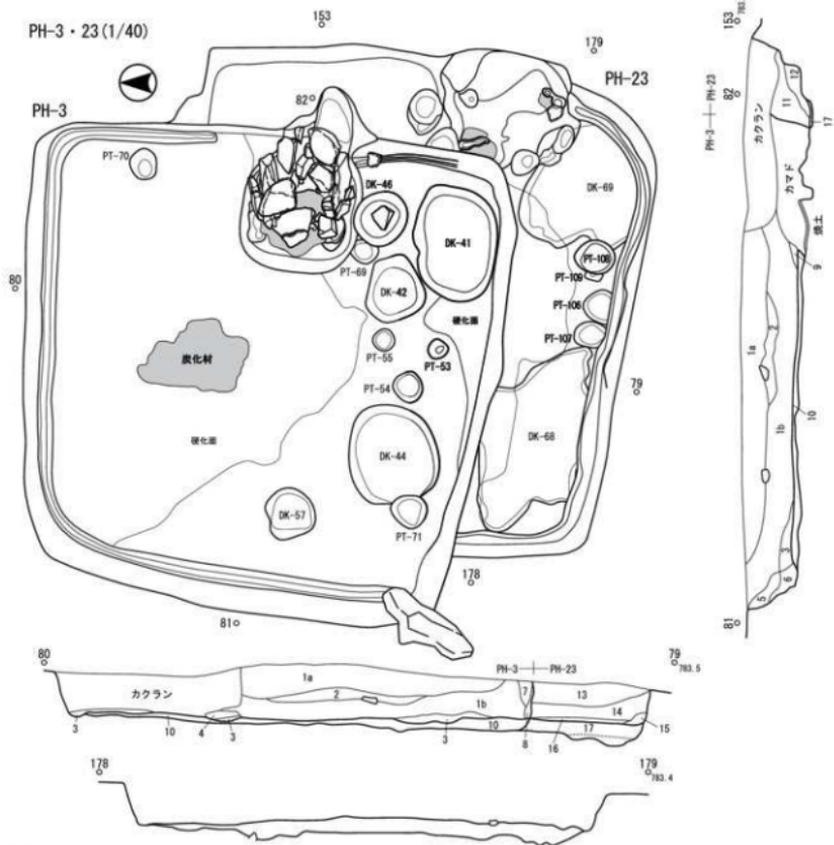
第 12 图 2 号住居出土遗物



第 13 图 2号住居出土遺物



第 14 图 2 号住居出土遺物

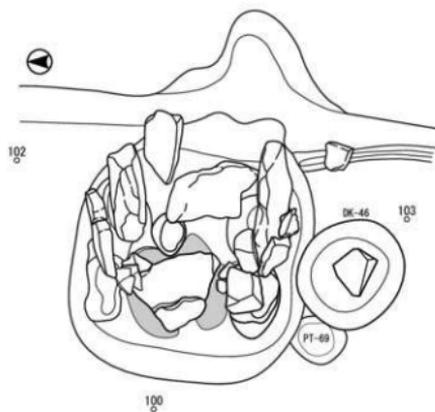


- PH-3
- 1a層 1層より高い1092/2(基礎)に1092/2(基礎)がOK、1094/2(こぶい)資材がOK、1096/4(こぶい)資材 φ0 1~0.3mm粒子がOK、後土粒子がOK以下通じる、シルト粒土、ややしめる。
 - 2層 1092/2(基礎)に1092/2(基礎)がOK、1096/4(こぶい)資材がOK、1096/4(こぶい)資材 φ0 1~0.3mm粒子がOK、後土粒子がOK以下通じる、シルト粒土、ややしめる。
 - 3層 1094/2(こぶい)資材に1092/2(基礎)・1092/2(基礎)がOK、1096/4(こぶい)資材がOK通じる、シルト粒土、しめる。
 - 4層 1092/2(基礎)に炭化物粒子がOK通じる、シルト粒土、ややしめる。
 - 5層 1094/2(こぶい)資材に1096/4(こぶい)資材がOK、1092/2(基礎)がOK通じる、シルト粒土、ややしめる。
 - 6層 1092/2(基礎)に1094/2(こぶい)資材がOK、1096/4(こぶい)資材がOK、1096/4(こぶい)資材 φ0 3mm粒子がOK通じる、シルト粒土、しめる。
 - 7層 1092/2(基礎)に1092/2(基礎)・1094/2(こぶい)資材がOK、炭化物粒子がOK以下通じる、シルト粒土、しめる。
 - 8層 1092/2(基礎)に1092/2(基礎)がOK、後土粒子がOK通じる、シルト粒土、しめる。
 - 9層 1092/2(基礎)に1092/2(基礎)がOK、後土粒子がOK通じる、シルト粒土、ややしめる。
 - 10層 ①炭 1096/4(こぶい)資材に1096/6(明骨)がOK通じる、粘質土、固くしめる。
②炭 1096/6(明骨)に1096/4(こぶい)資材・1092/2(基礎)がOK通じる、粘質土、固くしめる。
地山 1096/6(明骨)・粘質土、固くしめる。
- PH-23
- 11層 1092/2(基礎)に1096/6(骨) φ0 1~0.5mm粒子がOK通じる、シルト粒土、しめる。
 - 12層 1092/2(基礎)に1096/6(骨) φ0 1~0.5mm粒子がOK通じる、シルト粒土、しめる。
 - 13層 1092/2(基礎)に1096/6(骨) φ0 1~0.5mm粒子がOK、1092/2(基礎)がOK、1096/6(骨) φ0 3mmローブロックがOK通じる、シルト粒土、しめる。
 - 14層 1092/2(基礎)に1096/6(骨) φ0 1~0.5mm粒子がOK、1096/6(骨) φ0 3mm粒子がOK通じる、シルト粒土、しめる。
 - 15層 1092/2(基礎)に1096/6(骨) φ0 1~0.3mm粒子がOK通じる、シルト粒土、しめる。
 - 16層 1092/2(基礎)に1096/6(骨) φ0 1~0.5mm粒子がOK、炭化物粒子がOK通じる、シルト粒土、しめる。
 - 17層 ①炭 1096/4(こぶい)資材に1096/6(明骨)がOK通じる、粘質土、固くしめる。
②炭 1096/6(明骨)に1096/4(こぶい)資材・1092/2(基礎)がOK通じる、粘質土、固くしめる。
地山 1096/6(明骨)・粘質土、固くしめる。

第 15 図 3 号・23 号住居

PH-3 (カマド (1/20))

101



101
0
783.5



102

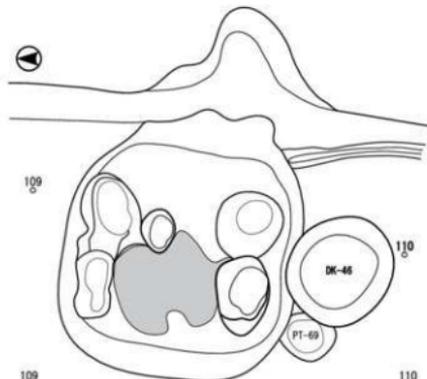
100

103
0
783.5



- 1層 1092/2(黒燐)に1092/1(黒燐)が丸、1095/6(黄燐)が丸置じる、シルト粒土、しまる。
- 2層 1092/2(黒燐)に1095/4にぶい(黄燐)が丸、焼土粒子が丸置じる、シルト粒土、しまる。
- 3層 1095/4にぶい(黄燐)に1093/4(黒燐)・焼土粒子が丸、1095/6(明赤燐)が丸置じる、シルト粒土、しまる。
- 4層 1092/2(黒燐)に1095/6(黄燐)φQ.5mm以下ロームブロックが丸、焼土粒子が丸置じる、シルト粒土、しまる。
- 5層 1093/3(黒燐)に1094/3にぶい(黄燐)が丸置じる、シルト粒土、しまる。
- 6層 1093/4(黒燐)に1095/6(黄燐)が丸置じる、シルト粒土、固くしまる。
- 7層 (カマド鉢石ビットの埋土)1092/2(黒燐)に1093/3(黒燐)・1095/6(黄燐)粒子が丸、焼土粒子が丸置じる、シルト粒土、しまりなし。

埋土 595/6(明赤燐)。



109

110
0
783.5

109

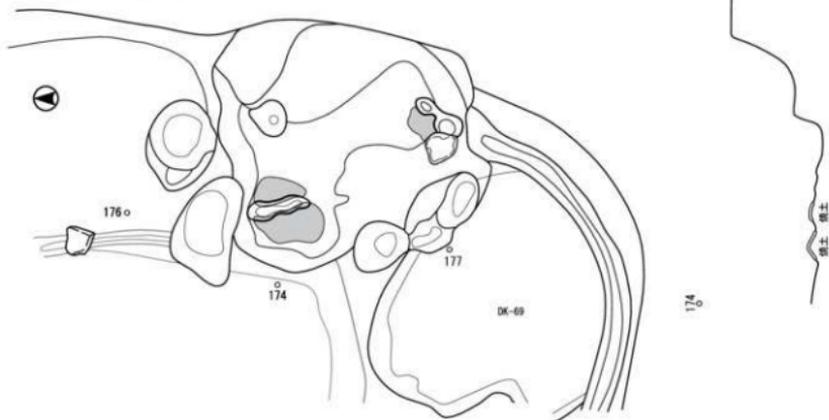


第 16 図 3号住居カマド

PH-23 (カマド (1/20))

175

175



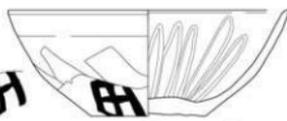
176

177

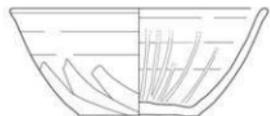
- 1層 (カマド軸石ビットの埋土) 10%以下(黒曜)に10%以下(明黄緑) 粘土粒子が9%、炭化物粒子が7%混入する。シルト粒土、ややしまる。
- 2層 (カマド軸石ビットの埋土) 10%以下(黒曜)に10%以下(明黄緑) 粘土粒子が9%、炭土粒子が7%混入する。シルト粒土、ややしまる。
- 粘土 5%以下(明黄緑)。



PH-3



1
0 1cm
5=1/2



4
0 1cm
5=1/2



2
0 1cm
5=1/2

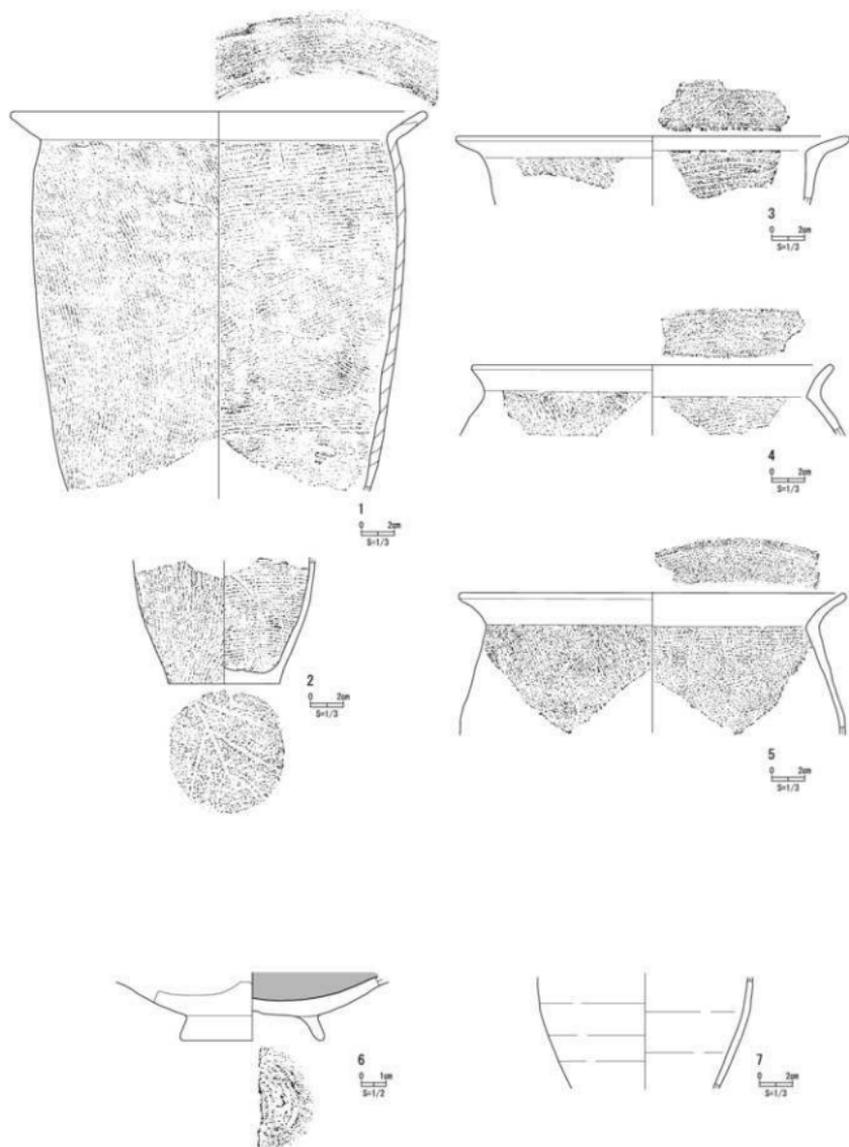


3
0 1cm
5=1/2

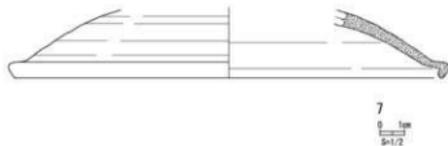
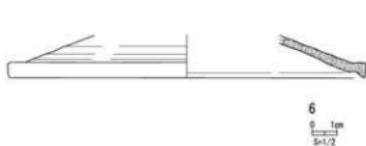
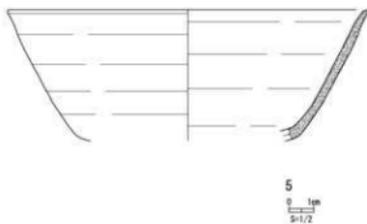
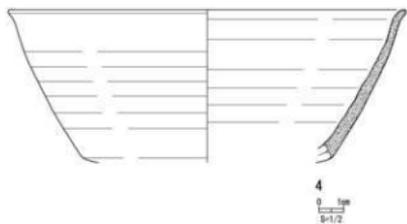
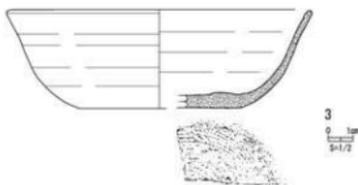
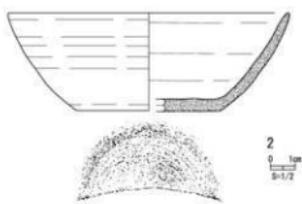
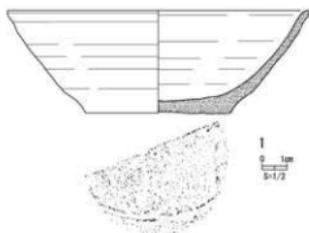


5
0 1cm
5=1/2

第 17 図 23 号住居カマド 3 号住居出土遺物

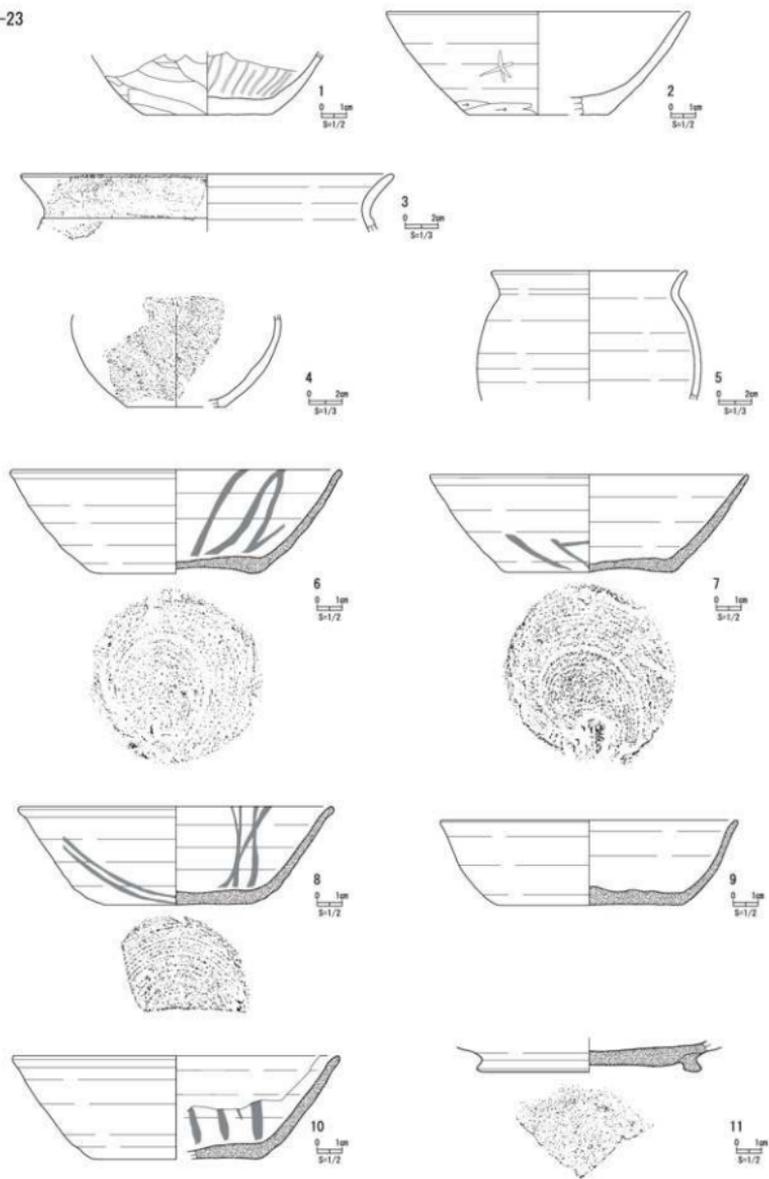


第 18 图 3 号住居出土遗物

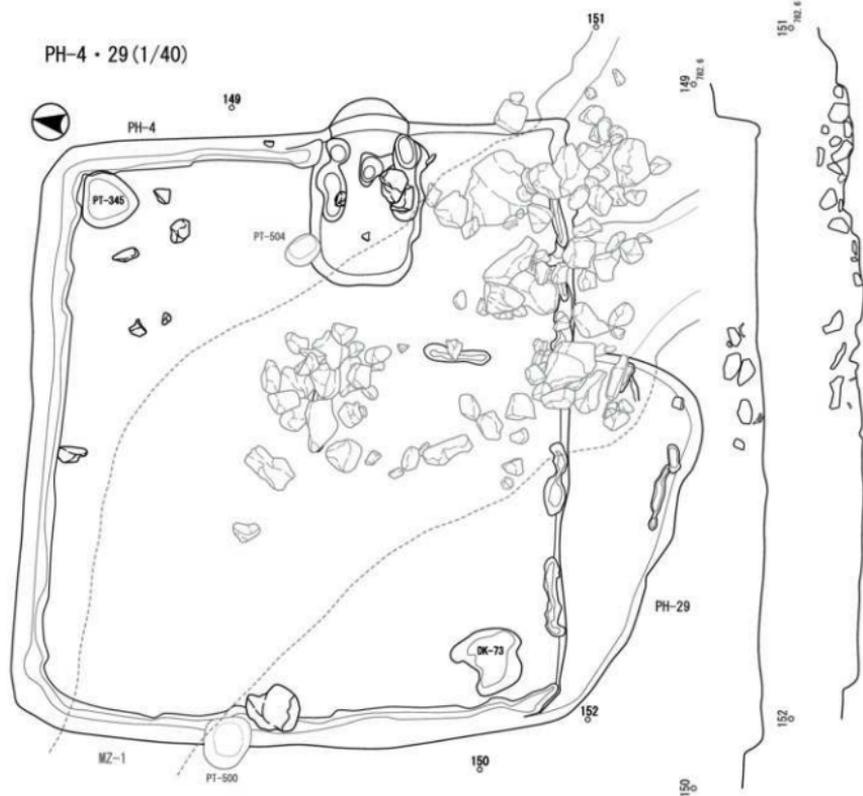


第 19 图 3号住居出土遗物

PH-23



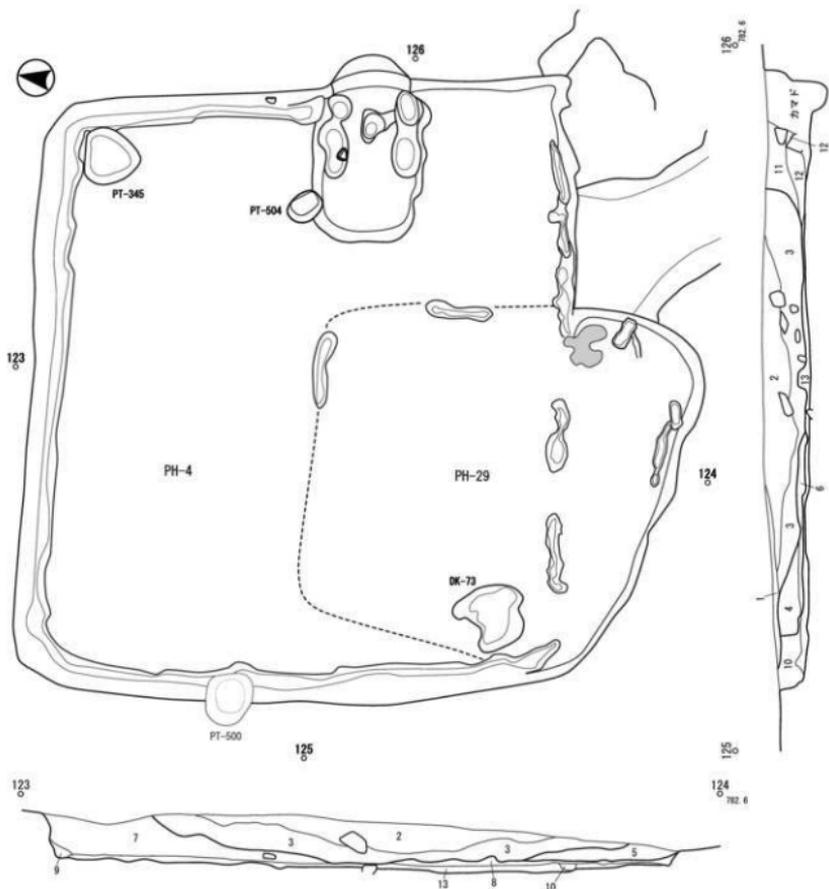
第 20 图 23 号住居出土遺物



第 21 図 4 号・29 号住居



4号住居内の1号溝の出土状況



1階 概観

2階 1号室、10R2の基礎に10R4の基礎・10R2の基礎が9A、10R5.4にない資材φ0.2~0.5m粒子が充填される。シルト粒土。しめる。

3階 1号室、10R2の基礎に10R2の基礎がOK、10R4.2(2号室)がOK、10R5.4にない資材φ0.2~0.5m粒子が充填される。10R6.4にない資材φ0.8~1mロームブロックが充填される。シルト粒土。しめる。

4階 10R2の基礎に10R4.2(2号室)がOK、10R5.4にない資材・10R2の基礎がOK、10R6.4にない資材φ0.1~0.3m粒子が充填される。シルト粒土。しめる。

5階 10R4.2にない資材に10R2の基礎がOK、10R4.2(2号室)・10R5.4にない資材が9A、10R6.4にない資材φ0.2~0.5m粒子が充填される。シルト粒土。しめる。

6階 10R2の基礎に10R4.2にない資材がOK、10R5.4にない資材が9A、10R6.4にない資材φ0.5~0.8mロームブロックが充填される。シルト粒土。しめる。

7階 10R2の基礎に10R4.2にない資材がOK、10R4.2(2号室)・10R5.4にない資材が9A、10R6.4にない資材φ0.2~0.5m粒子がOK、後土粒子が7%以下下置される。シルト粒土。しめる。

8階 10R6.4にない資材に10R4.2にない資材がOK、10R2の基礎がOK、10R6.4にない資材φ0.5~1mロームブロックが充填される。シルト粒土。しめる。

9階 10R2の基礎に10R4.2にない資材がOK、10R6.4にない資材φ0.2~0.5m粒子が充填される。シルト粒土。ややしめる。

10階 10R4.2にない資材に10R5.4にない資材がOK、10R2の基礎・10R5.4にない資材が9A、10R6.4にない資材φ0.2~0.5m粒子がOK、後土粒子が7%以下下置される。シルト粒土。しめる。

11階 10R4.2にない資材に10R5.4にない資材がOK、10R2の基礎・10R5.4にない資材φ1~2mロームブロック・φ0.8m以下ロームブロックを含む粒子がOK、後土粒子が7%以下下置される。シルト粒土。しめる。

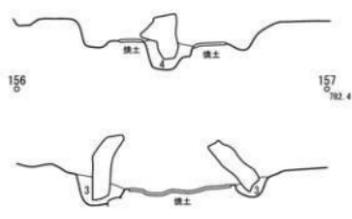
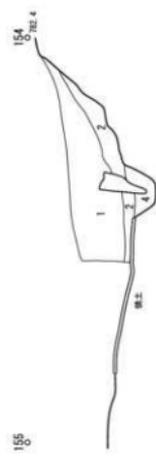
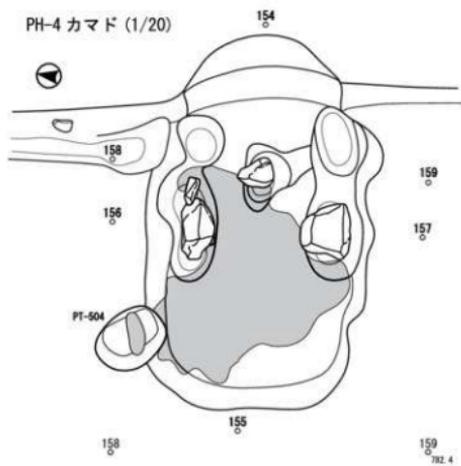
12階 10R4.2にない資材に10R6.4にない資材がOK、10R6.4にない資材φ1~2mロームブロック・φ0.8m以下ロームブロックを含む粒子がOK、後土粒子が7%以下下置される。シルト粒土。しめる。

13階 基礎 10R6.4にない資材に10R5.4にない資材がOKになる。粘質土。固くしめる。

地山 (壁) 10R5.4にない資材に10R6.4にない資材・10R2の基礎がOKになる。粘質土。しめる。

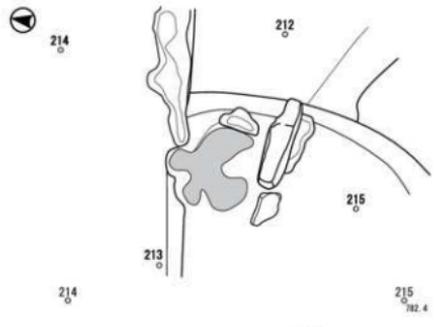
地山 10R6.4にない資材。粘質土。固くしめる。

第 22 図 4号・29号住居



- 1層 10R2.3(黒曜)に10R5.4(こい)黄燐)がR5, 10R5.9(黄燐)の1cm以下ロームブロックの2×4cmロームブロック2個含むものがR9, 焼土粒子がR9, 炭化物粒子がR9混じる。シルト粒土。しまる。
 - 2層 10R2.3(黒曜)に10R3.3(黒曜)がR9, 焼土10R5.9(黄燐)がR9, 焼土粒子がR9, 炭化物粒子がR9以下混じる。シルト粒土。しまる。
 - 3層 (カマド袖石ピットの埋土)10R2.3(黒曜)に焼土粒子がR9, 10R5.4(こい)黄燐)がR9混じる。シルト粒土。ややしまる。
 - 4層 (支脚石ピットの埋土)10R2.3(黒曜)に焼土粒子がR9, 10R5.4(こい)黄燐)がR9混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 積土 5R6.9(産)に2.5R5.9(明赤燐)がR9混じる。

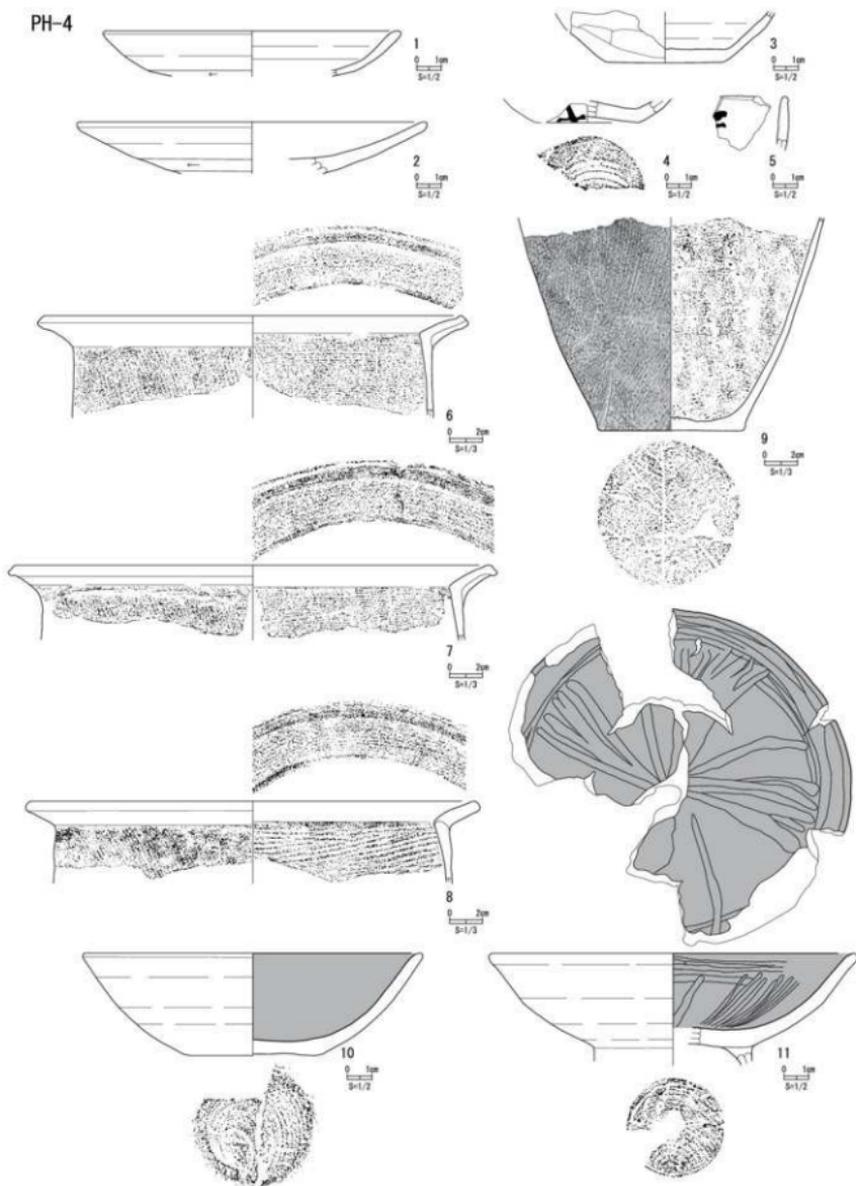
PH-29 カマド (1/20)



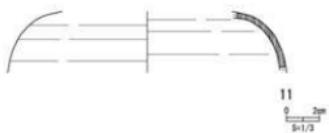
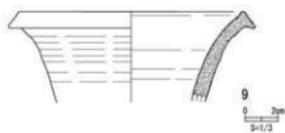
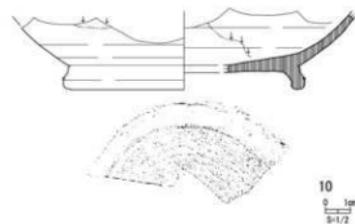
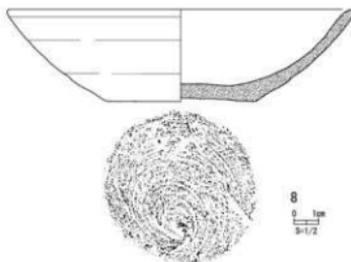
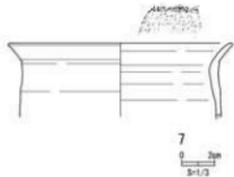
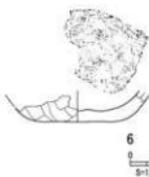
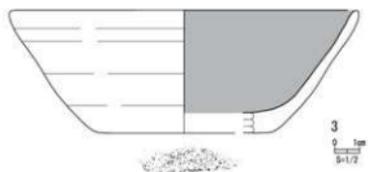
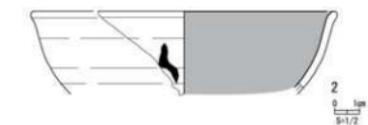
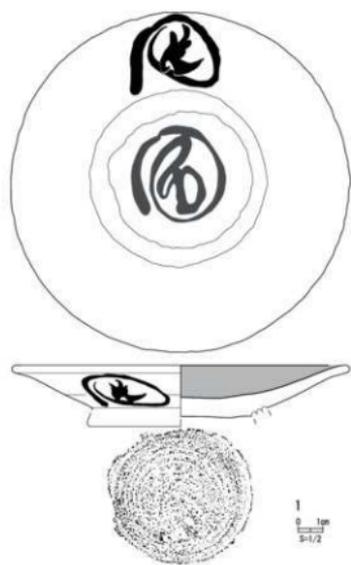
- 1層 10R5.4(こい)黄燐)に10R6.4(こい)黄燐)がR9混じる。シルト粒土に粘質土を含む。ややしまる。
 - 2層 (カマド袖石ピットの埋土)10R2.4(黒曜)に10R2.3(黒曜)がR9, 10R4.4(黒曜)・焼土粒子がR9混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 積土 2.5R5.9(明赤燐)。

第 23 図 4 号・29 号住居カマド

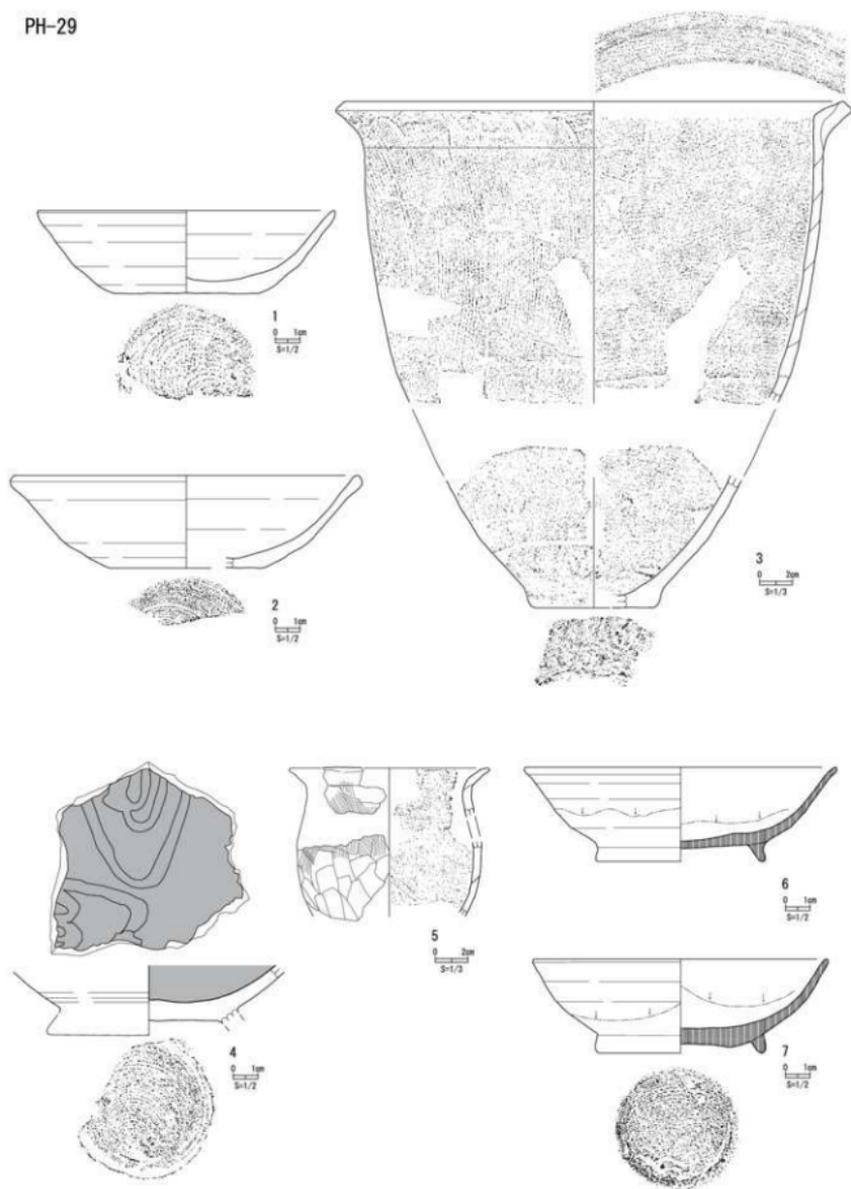
PH-4



第 24 图 4 号住居出土遺物

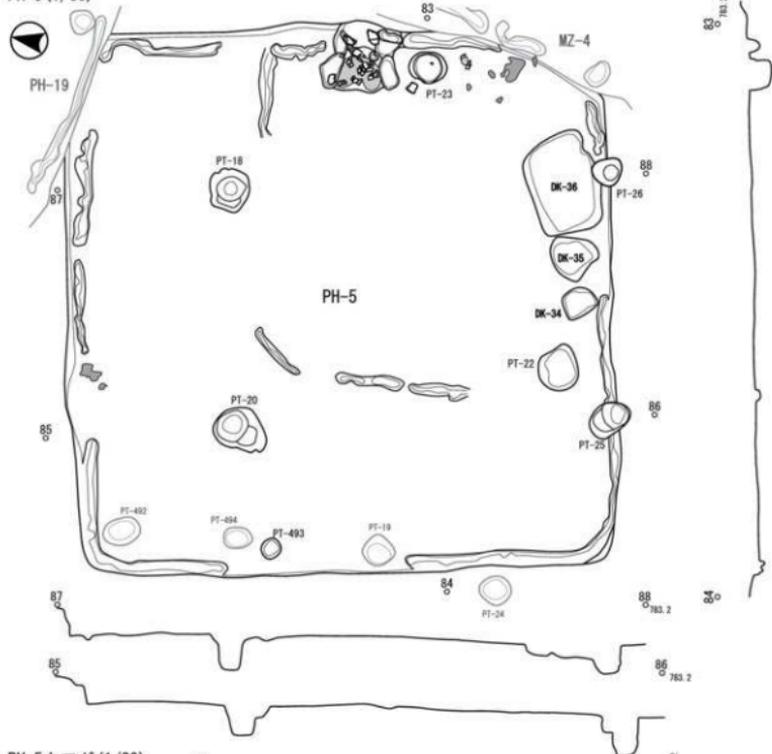


第 25 图 4 号住居出土遺物

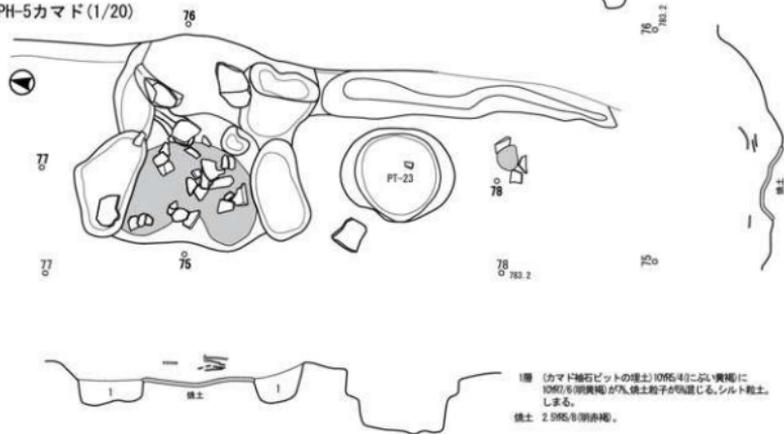


第 26 图 29 号住居出土遺物

PH-5 (1/60)

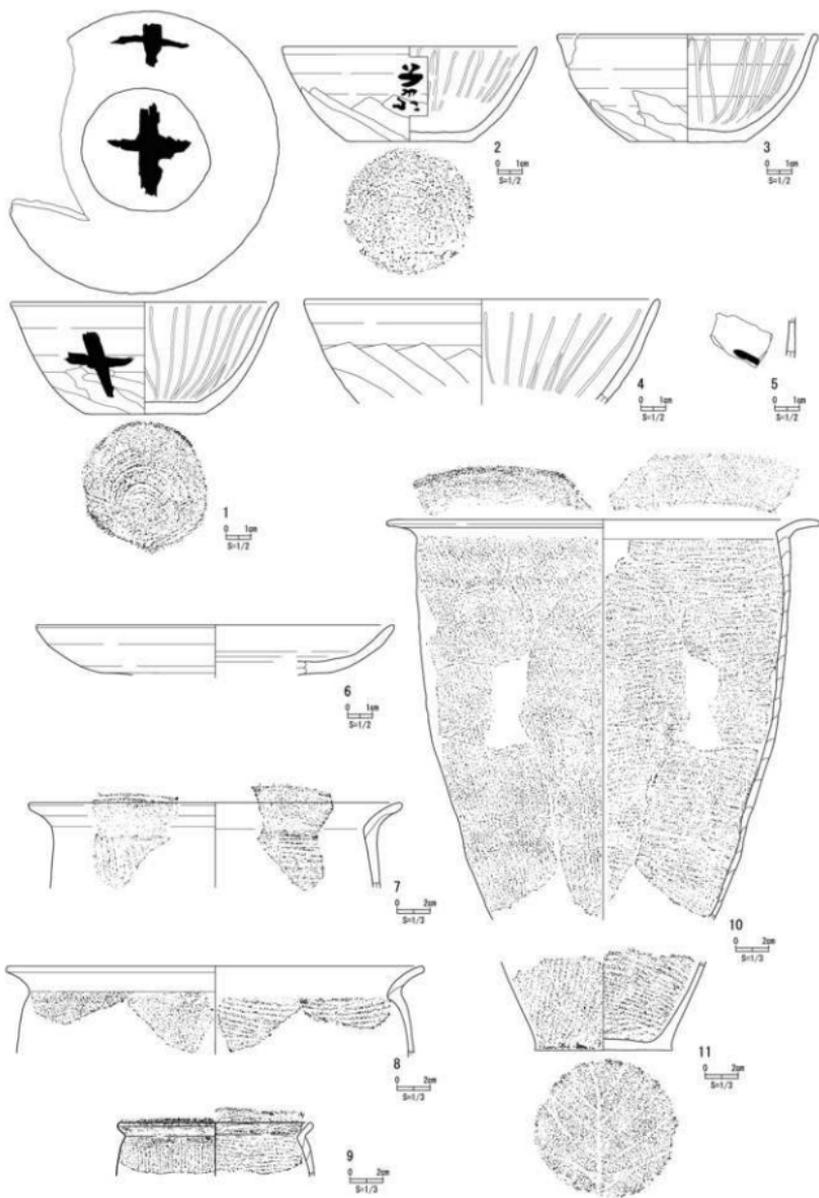


PH-5カマド (1/20)

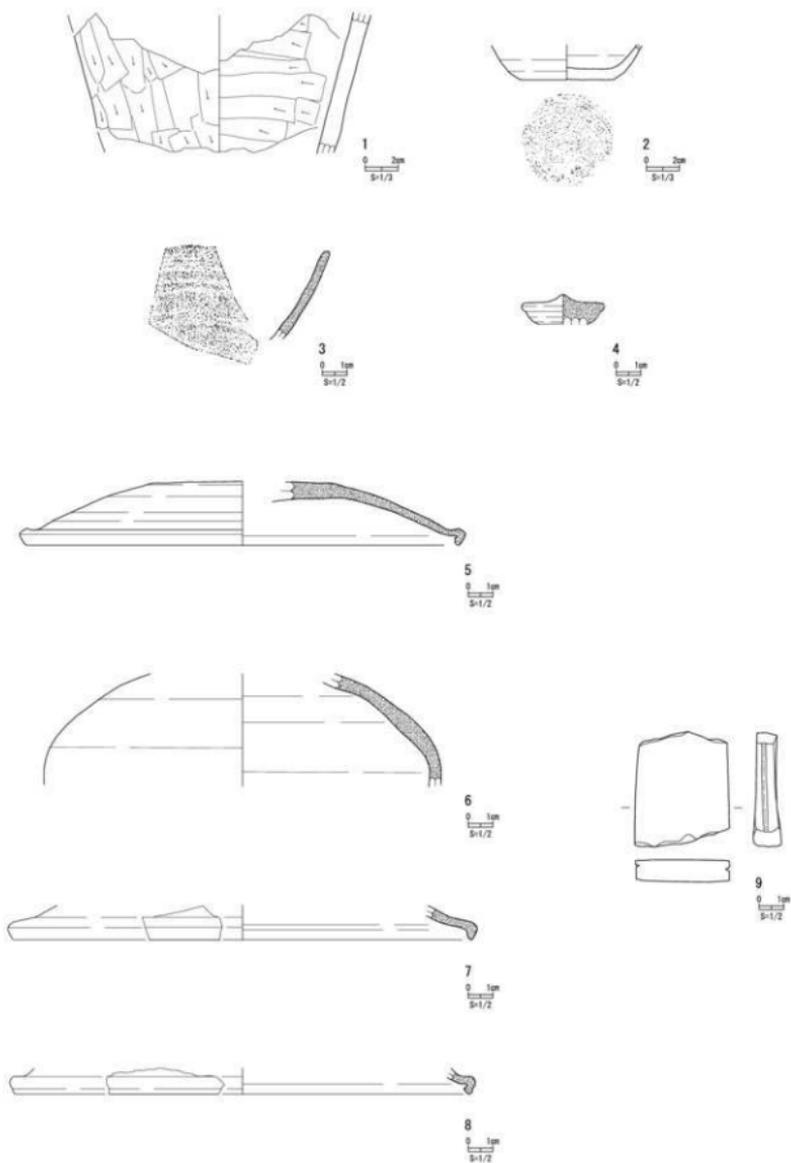


1層 (カマド袖石ピットの埋土)10R5.4にぶい黄褐色に
 10R6.0を別黄褐色が丸、黄土粒子が散在する。シルト粒土。
 埋土 2.5R5.9別赤褐色。

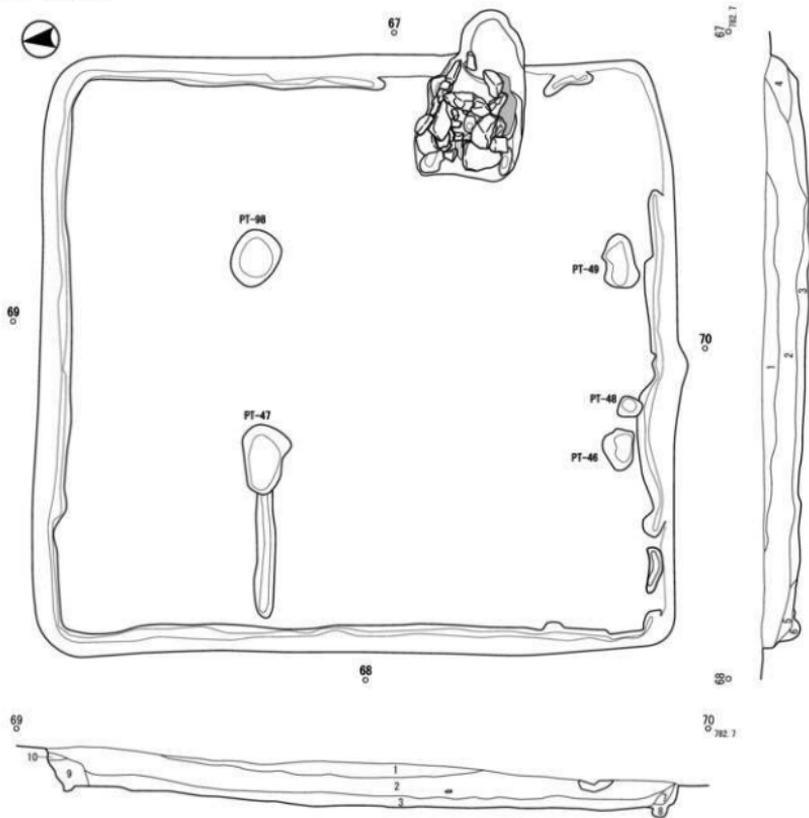
第 27 図 5号住居・カマド



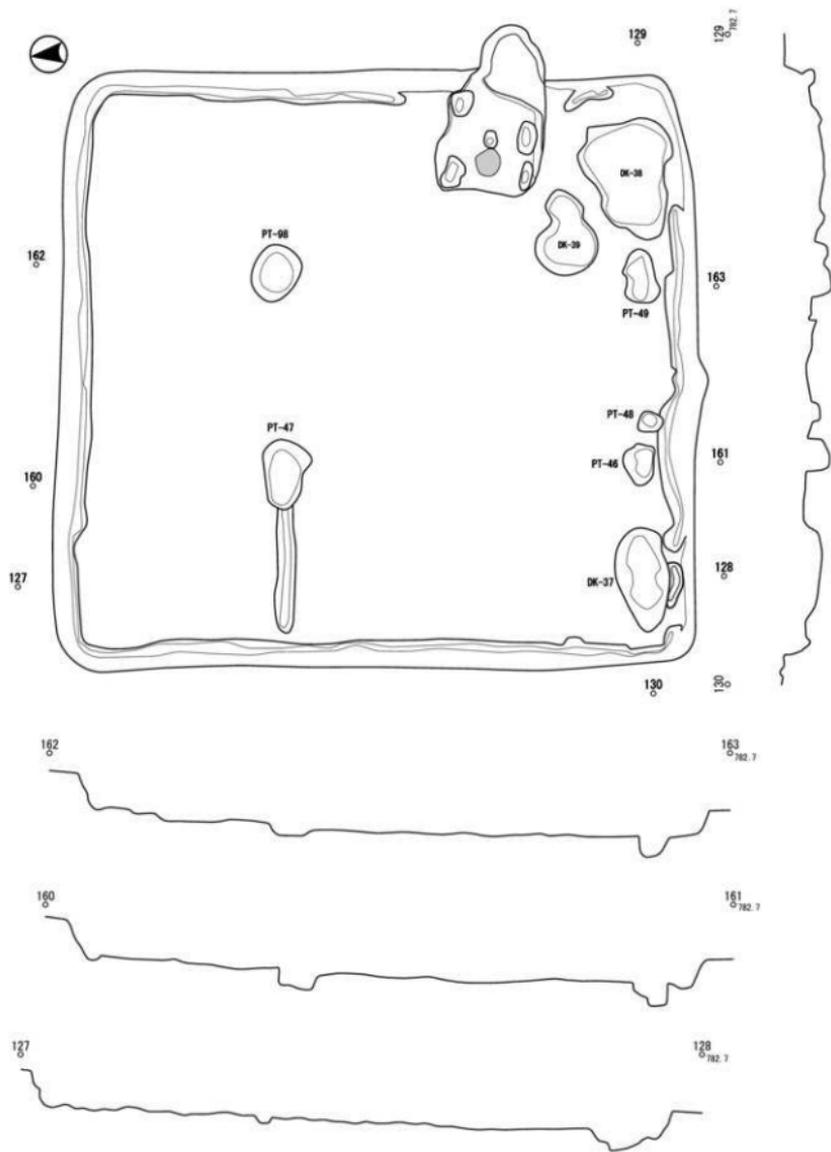
第 28 图 5 号住居出土遺物



第 29 图 5号住居出土遺物

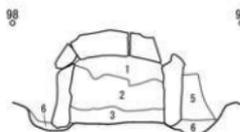
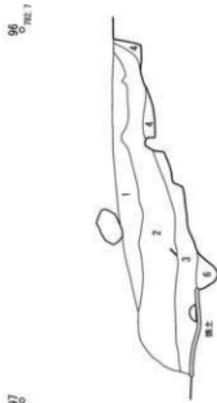
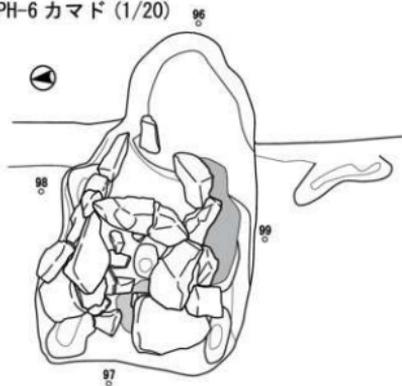


- 1層 10R23基礎に10R24階層がDL, 10R64に5.1m(裏側)φ0.1m粒子がDL, 焼土粒子が1%以下混じる。シルト粘土, 固くします。
 - 2層 10R24階層に10R44階層がDL, 10R23基礎・10R64に5.1m(裏側)φ0.1~0.3m粒子がDL, 10R64に5.1m(裏側)φ0.5~0.8m粒子がDL, 焼土粒子が1%以下混じる。シルト粘土, します。
 - 3層 10R44階層に10R44階層がDL, 10R64に5.1m(裏側)φ0.1~0.5m粒子・10R64に5.1m(裏側)φ2~3mロームブロックがDL, 炭化無粒子・焼土粒子が1%以下混じる。シルト粘土, します。
 - 4層 10R44階層に10R24階層がDL, 10R64に5.1m(裏側)φ0.2~0.5m粒子がDL, 10R64に5.1m(裏側)φ1mロームブロック・焼土粒子が1%混じる。シルト粘土, します。
 - 5層 10R24階層に10R23基礎がDL, 10R64に5.1m(裏側)φ0.2~0.3m粒子がDL混じる。シルト粘土, ややします。
 - 6層 10R24階層に10R23基礎がDL, 10R64に5.1m(裏側)φ0.3m粒子がDL混じる。シルト粘土, ややします。
 - 7層 10R44階層に10R24階層がDL, 10R64に5.1m(裏側)φ0.3m粒子がDL混じる。シルト粘土, します。
 - 8層 10R44階層に10R62に5.1m(裏側)がDL, 10R64に5.1m(裏側)・10R64に5.1m(裏側)φ0.2~0.5m粒子がDL混じる。シルト粘土, ややします。
 - 9層 10R24階層に10R44階層がDL, 10R64に5.1m(裏側)φ1mロームブロックがDL, 10R64に5.1m(裏側)がDL, 炭化無粒子が1%以下混じる。シルト粘土, します。
 - 10層 10R24階層に10R64明裏側・10R44階層・10R64に5.1m(裏側)φ1~3mロームブロックがDL混じる。シルト粘土, 固くします。
- 地山 (注) 10R64に5.1m(裏側) 粘質土, 非常に固くします。
- 地山 (注) 10R64明裏側に10R64に5.1m(裏側)がDL, 10R24階層がDL混じる。粘質土にシルト粘土が混じる。固くします。

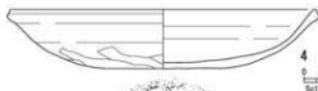
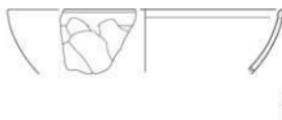
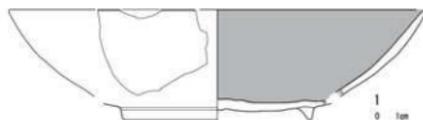


第 31 图 6 号住居

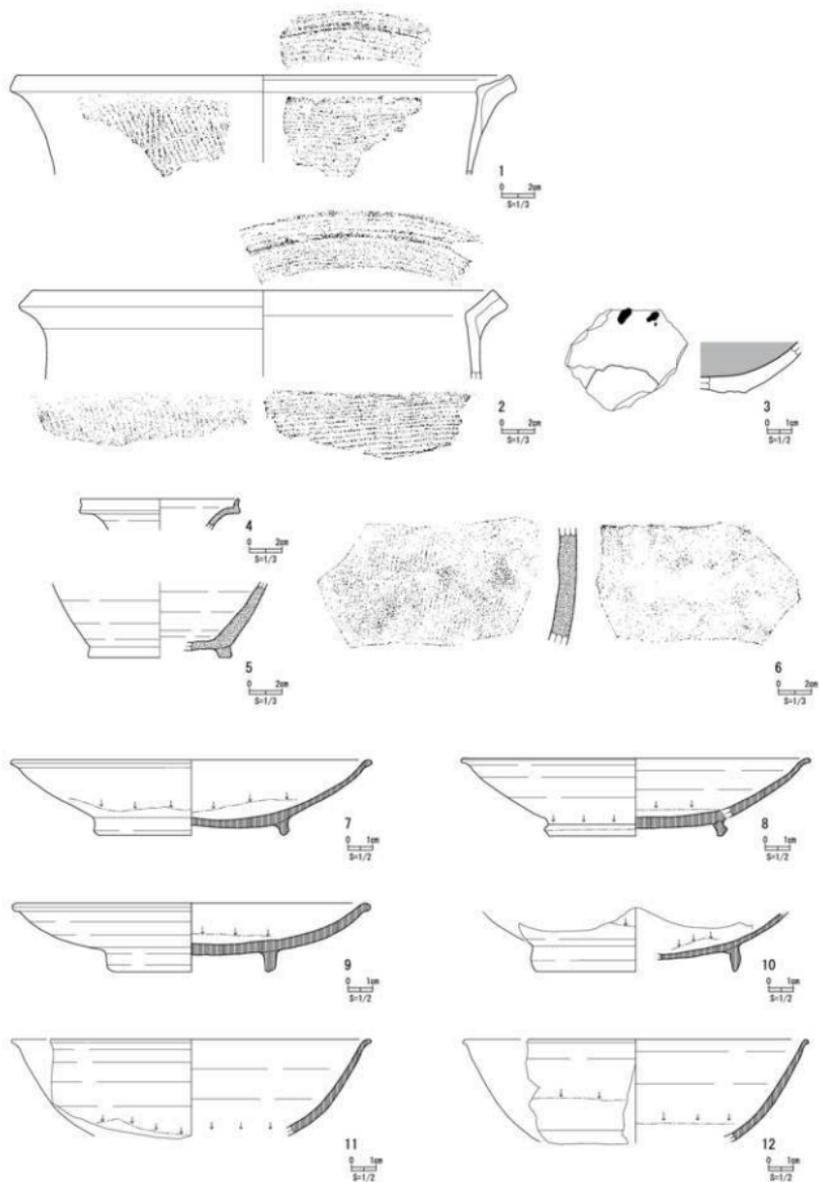
PH-6 カマド (1/20)



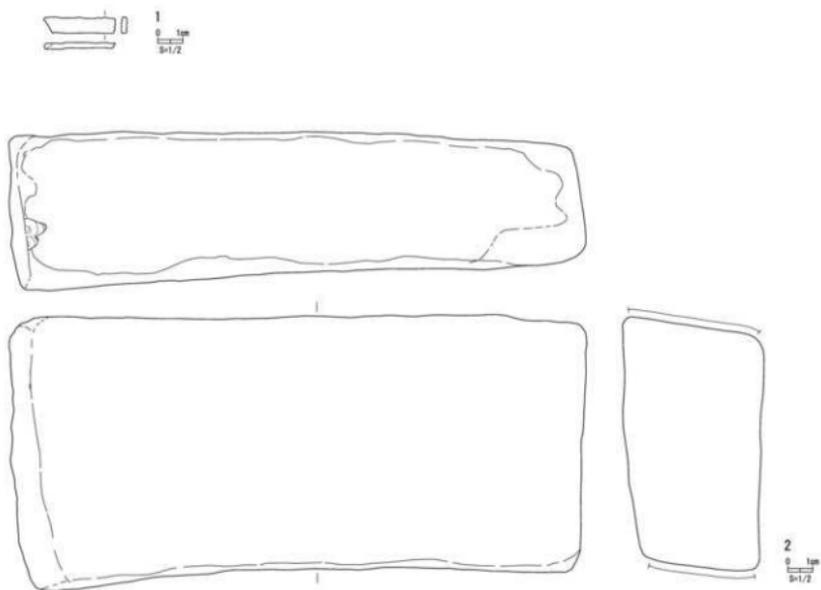
- 1層 10R3.4(赤褐色)に10R3.1(黒褐色)がOK、10R6.6(明黄褐色)φ0.2~1mmロームブロックが7%、S95.6(明赤褐色)φ0.2~0.5mm粒土ブロックが7%混入する。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 10R4.2(こぶし黄褐色)に10R3.4(赤褐色)が48%、10R6.6(明黄褐色)φ0.2~1.5mmロームブロックが10%、S95.6(明赤褐色)φ0.2~1.5mm粒土ブロックが7%混入する。シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 10R3.2(赤褐色)に10R6.6(明黄褐色)φ0.2~1mmロームブロックが2%、S95.6(明赤褐色)φ0.2~0.5mm粒土ブロックが7%混入する。シルト粒土、ややしまる。
 - 4層 10R6.4(こぶし黄褐色)に10R4.2(こぶし黄褐色)が5%混入する。シルト粒土、しまる。
 - 5層 (構築材)10R5.6(黄褐色)に10R4.2(こぶし黄褐色)が2%、10R6.6(明黄褐色)φ0.2~1.5mmロームブロックが7%混入する。シルト粒土、しまる。
 - 6層 (カマド焼石ピットの埋土)10R3.4(赤褐色)に10R4.2(こぶし黄褐色)が2%、10R6.6(明黄褐色)φ0.2mm以下粒子が7%混入する。シルト粒土、ややしまる。
- 焼土 S95.6(明赤褐色)にS95.6(明赤褐色)が7%混入する。



第 32 図 6号住居カマド・出土遺物



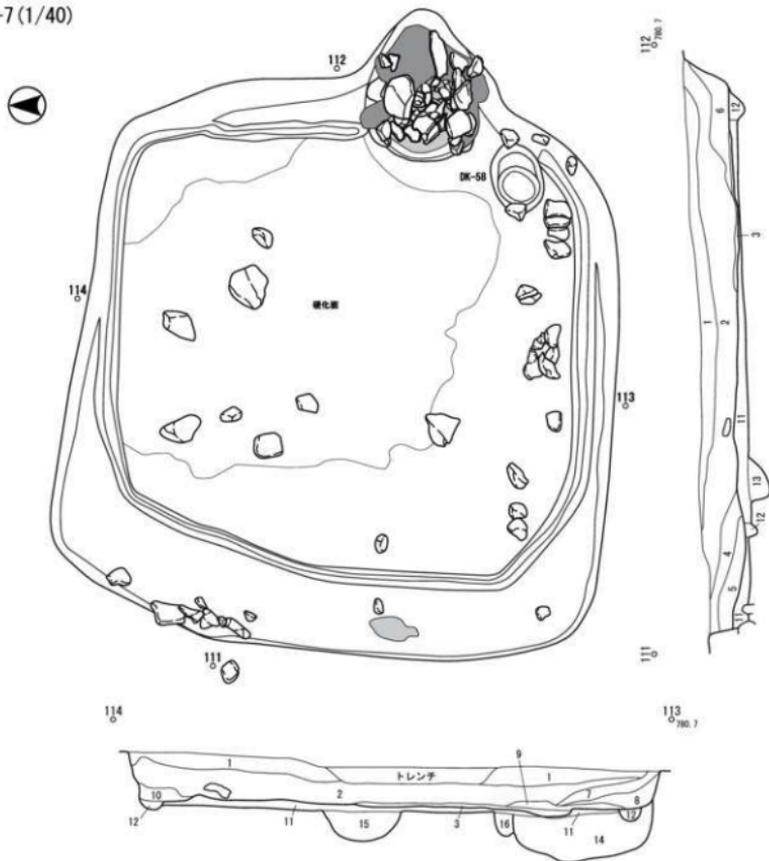
第 33 图 6号住居出土遺物



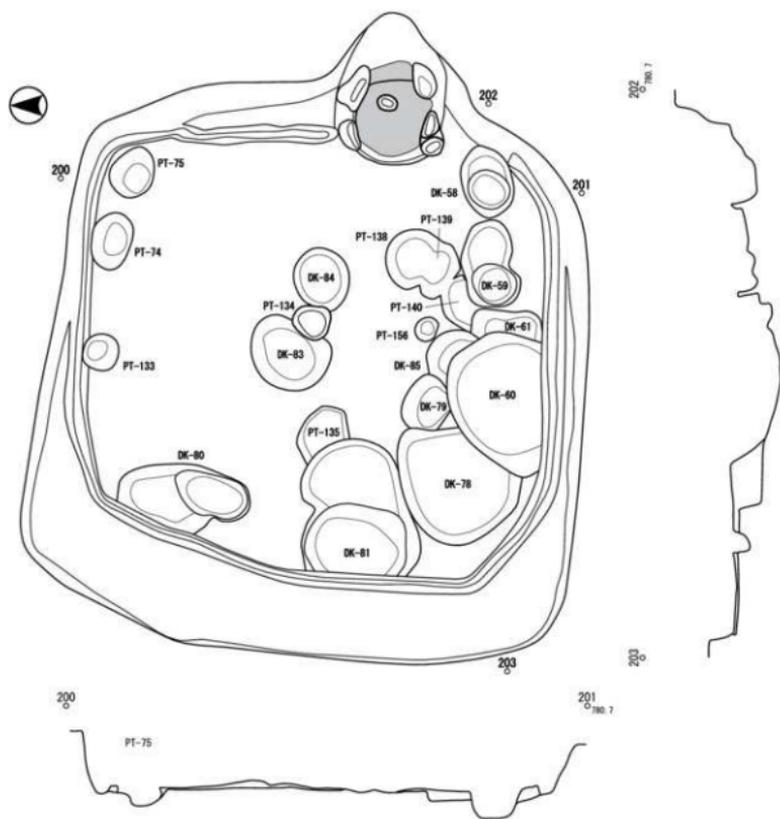
第 34 図 6号住居出土遺物



6号住居 北西から撮影

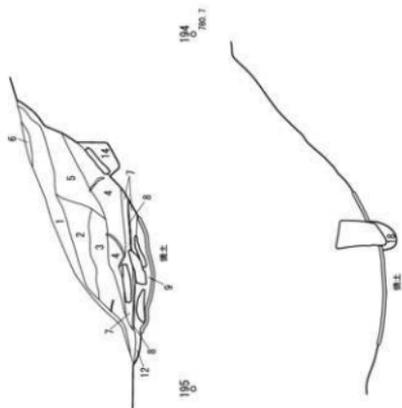
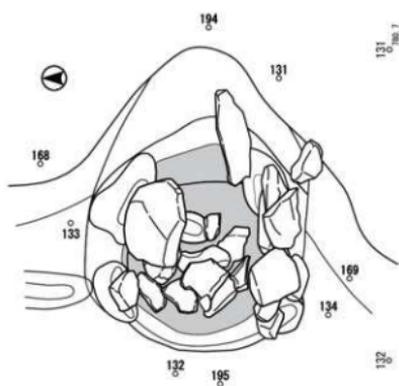


- 188 10R2/2(黒層)に10R4/3にふい(黄層)が7%、10R5/6(黄層)粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる、シルト粘土。しまる。
- 288 10R2/2(黒層)に10R3/3(黒層)が9%、10R5/6(黄層)粒子が7%、炭化物粒子が7%、焼土粒子が7%以下混じる、シルト粘土。しまる。
- 388 10R2/2(黒層)に10R5/6(黄層)が9%、R2、R1(灰土)が9%、焼土粒子が9%混じる、シルト粘土。固くしまる。
- 488 10R2/2(黒層)に10R4/3にふい(黄層)が7%、10R5/6(黄層)粒子が9%、焼土粒子が7%混じる、シルト粘土。ややしまる。
- 588 10R3/3(黒層)に10R2/2(黒層)が9%、10R4/3にふい(黄層)が7%混じる、シルト粘土。しまる。
- 688 10R3/3(黒層)に10R3/4(黒層)が9%、10R5/6(黄層)粒子が9%、R2、R1(灰土)が9%、焼土粒子が7%以下混じる、シルト粘土。しまる。
- 788 10R2/2(黒層)に10R3/1(黒層)が9%、10R5/4にふい(黄層)粒子が9%混じる、シルト粘土。ややしまる。
- 888 10R2/2(黒層)に10R3/3(黒層)が9%、10R5/4にふい(黄層)が7%、炭化物粒子-焼土粒子が7%以下混じる、シルト粘土。ややしまる。
- 988 10R3/2(黒層)に10R3/3(黒層)が9%、10R5/6(黄層)粒子-炭化物粒子が9%、焼土粒子が9%混じる、シルト粘土。しまる。
- 1088 10R3/3(黒層)に10R4/3にふい(黄層)が7%、10R2/3(黒層)が7%混じる、シルト粘土。ややしまる。
- 1188 R2R3 10R5/6(黄層)シルト粘土。固くしまる。
- 1288 10R2/2(黒層)、シルト粘土。ややしまる。
- 1388 DK-40 10R3/3(黒層)に10R5/6(黄層)が9%混じる、シルト粘土。しまる。
- 1488 DK-40 10R3/2(黒層)に10R3/4(黒層)が9%、10R5/6(黄層)が混じる、シルト粘土。しまる。
- 1588 DK-40 10R3/3(黒層)に10R4/3にふい(黄層)が9%、焼土粒子が9%、炭化物粒子が9%混じる、シルト粘土。しまる。
- 1688 DK-40 10R3/2(黒層)に10R5/6(黄層)が9%混じる、シルト粘土。しまる。
- 地山 10R5/6(黄層)に10R2/3(黒層)が9%混じる、シルト粘土。しまる。
- 地山 10R5/6(黄層)、シルト粘土。ややしまる。

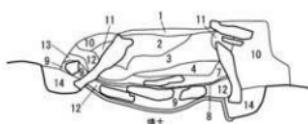


第 36 图 7号住居

PH-7カマド(1/20)



133
134
No. 7



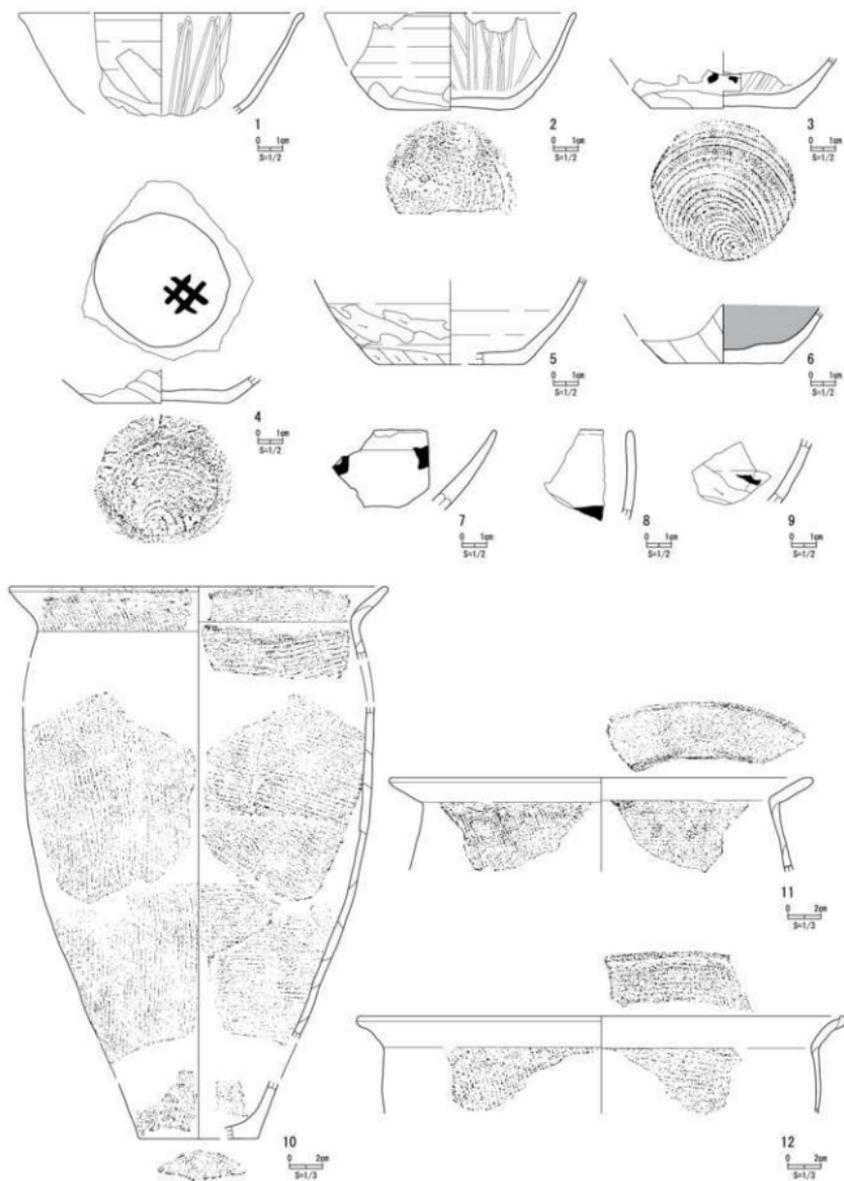
168
169
No. 7



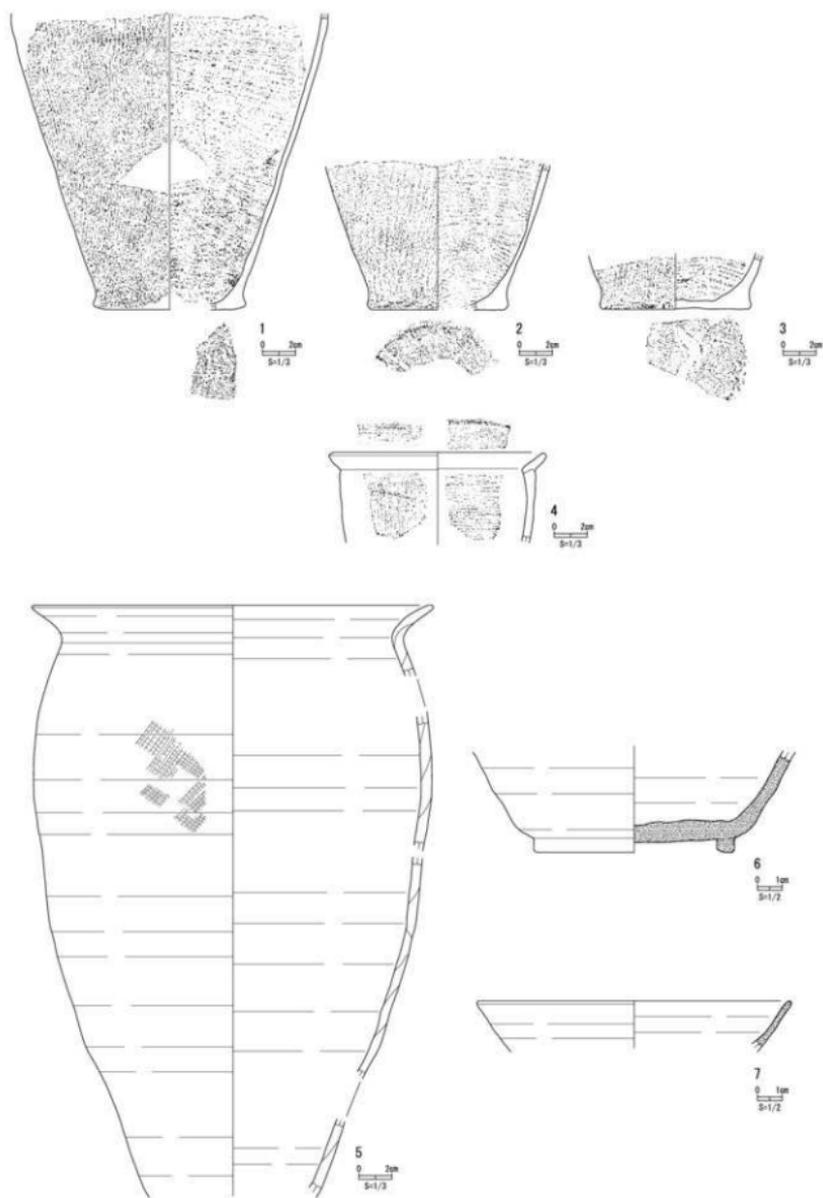
- 1層 10RS2(2層)に灰(10RS2(灰黄層)に10R7/1(灰白)が7%、5RS(8明赤層)φ0.1~0.5mm焼土粒子が2%、φ0.1~0.5mm炭化物粒子が7%混じる。シルト粒土。しまる。
- 2層 灰(10RS2(灰黄層)に10R7/1(灰白)が10%混じる)に10RS2(灰黄層)が10%、5RS(8明赤層)φ0.1~0.5mm焼土粒子が2%、φ0.1~0.5mm炭化物粒子が7%混じる。シルト粒土。しまる。
- 3層 10RS2(2層)に10RS2(灰黄層)が10%、灰(10RS2(灰黄層)に10R7/1(灰白)が7%混じる)が10%、φ0.1~0.5mm炭化物粒子が2%、φ0.2mm以下焼土粒子が7%混じる。シルト粒土。しまる。
- 4層 10RS2(灰黄層)に灰(10R7/1(灰白)が7%、5RS(8明赤層)φ0.2~0.5mm焼土粒子が2%、φ0.2~0.5mm炭化物粒子が7%混じる。シルト粒土。しまる。
- 5層 10RS2(2)に5RS(8明赤層)φ1mm焼土ブロックを含む焼土粒子が灰、10R7/1(灰白)が7%混じる。シルト粒土。しまる。
- 6層 灰(10RS1(6層)に10R7/1(灰白)が10%混じる)に10RS2(2層)が15%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 7層 焼土(5RS(8層)に10RS2(灰黄層)が10%、灰(10R7/1(灰白)が7%混じる)。
- 8層 灰の層
- 9層 5RS(4)に5RS(8層)にφ0.2mm以下焼土粒子が10%、φ0.2~0.5mm炭化物粒子が7%混じる。シルト粒土。しまりなし。
- 10層 5RS(4層)10RS2(灰黄層)に2(5RS1(灰白)が10%、10RS2(灰黄層)が7%、5RS(6明赤層)φ1.5mm以下焼土ブロックを含む焼土粒子が7%混じる。シルト粒土。固くしまる。
- 11層 焼土(5RS(8明赤層)に5RS(6層)が10%、炭化物粒子が7%混じる。
- 12層 10RS2/1(2層)に10RS2(灰黄層)が10%、φ0.2~0.5mm焼土粒子が5%、10RS1/1(灰白)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 13層 焼土(5RS(8明赤層)に10RS2(灰黄層)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 14層 カマド軸ピットの焼土)10RS4(2層)に10RS4(2)に5RS(4)に5RS(4)が7%混じる。シルト粒土。しまる。

火床部 焼土(5RS(8明赤層)に5RS(8明赤層)が10%混じる。

第 37 図 7号住居カマド

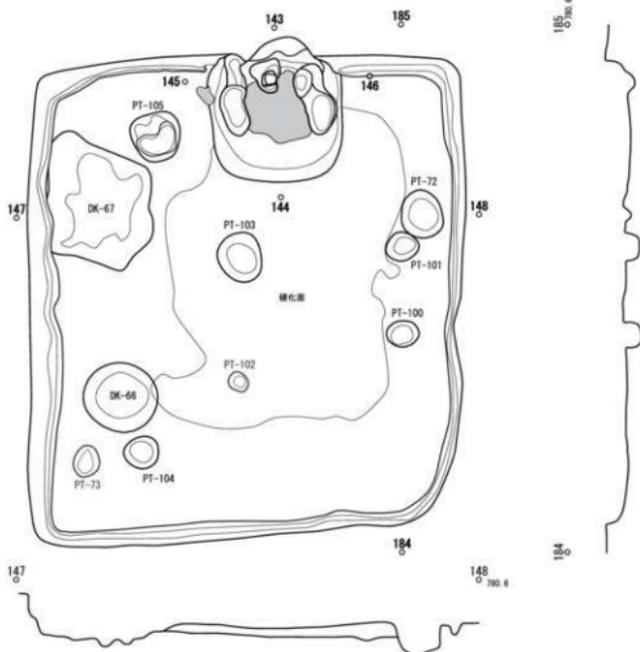


第 38 图 7 号住居出土遺物

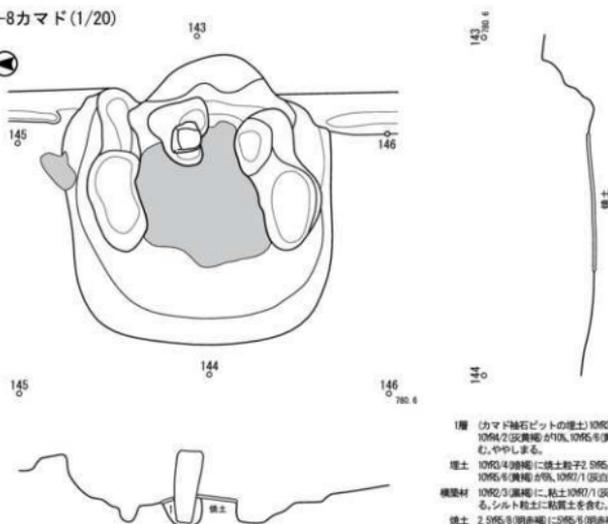


第 39 図 7号住居出土遺物

PH-8 (1/40)

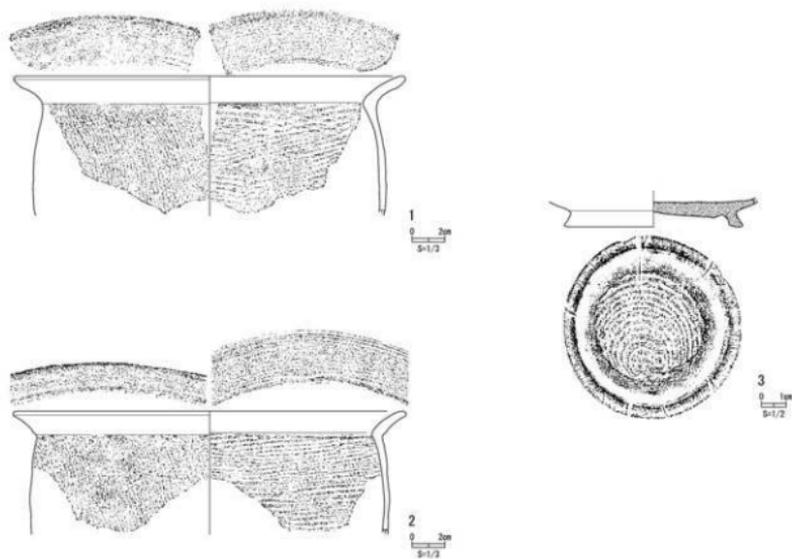


PH-8カマド (1/20)

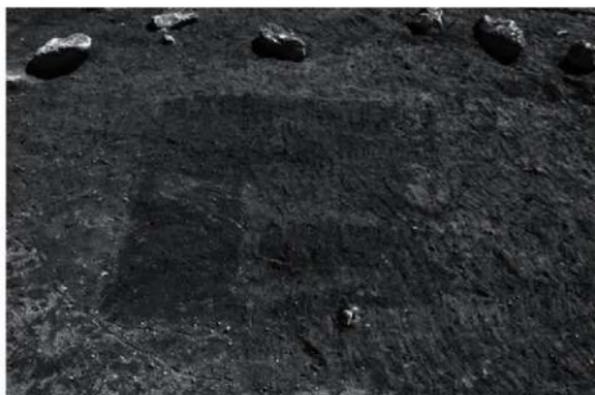


1層 (カマド袖石ピットの埋土) 10R/4 (黄褐) に焼土 2.5R/6 (明赤褐) がOK、
 10R/4 (黄褐) が10R、10R/6 (黄褐) が確認される。シルト粘土に細砂を含む、ややしめる。
 埋土 10R/4 (黄褐) に焼土粒子 2.5R/6 (明赤褐) がOK、10R/3 (黄褐) が10R、
 10R/6 (黄褐) がOK、10R/7 (灰白) が確認される。シルト粘土、ややしめる。
 横溝材 10R/3 (黄褐) に、粘土 10R/7 (灰白) がOK、10R/4 (灰白) がOK、確認される。シルト粘土に粘質土を含む、しめる。
 焼土 2.5R/6 (明赤褐) に 2.5R/6 (明赤褐) がOK、2.5R/6 (明赤褐) が確認される。

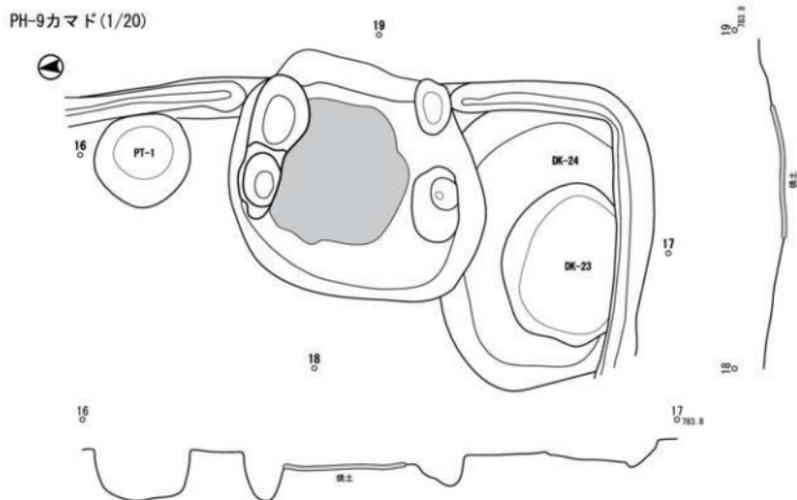
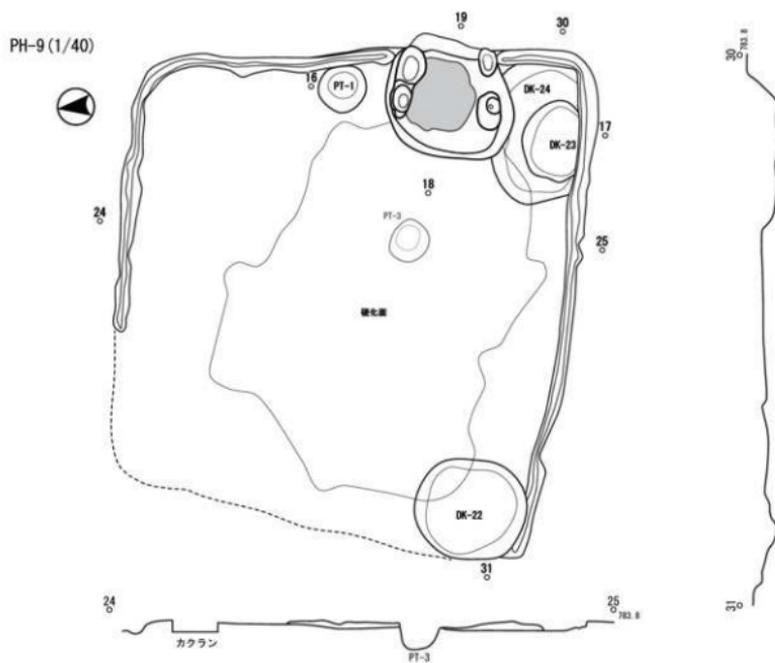
第 40 図 8号住居・カマド



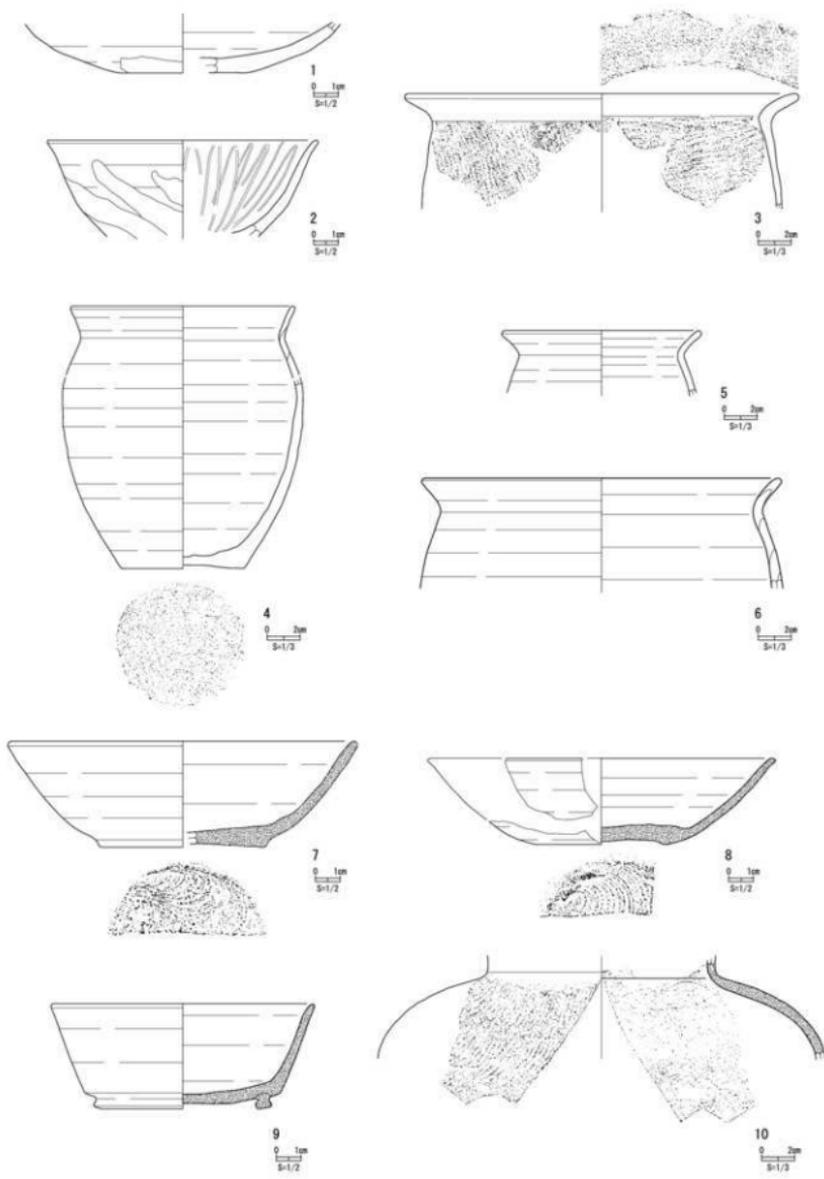
第 41 図 8号住居出土遺物



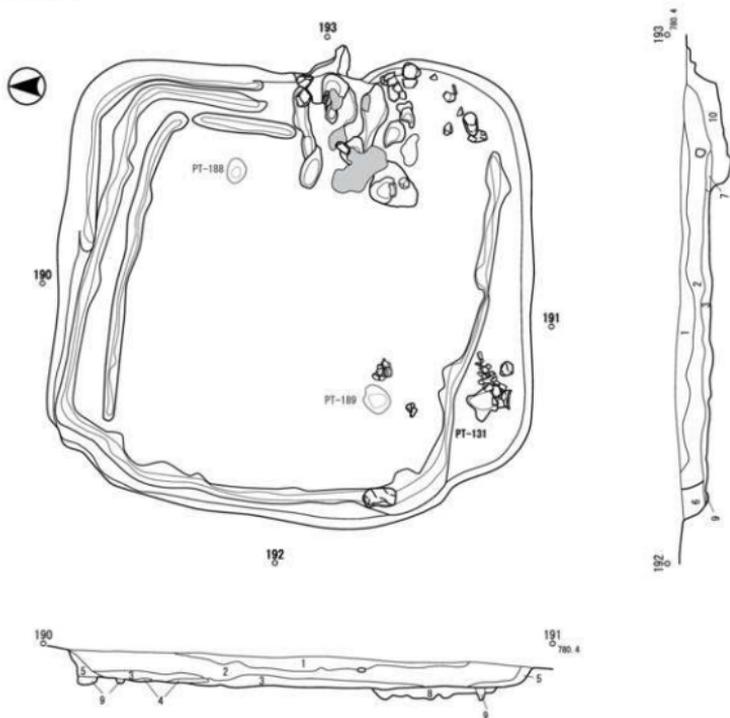
8号住居検出状況 西から



第 42 図 9号住居・カマド



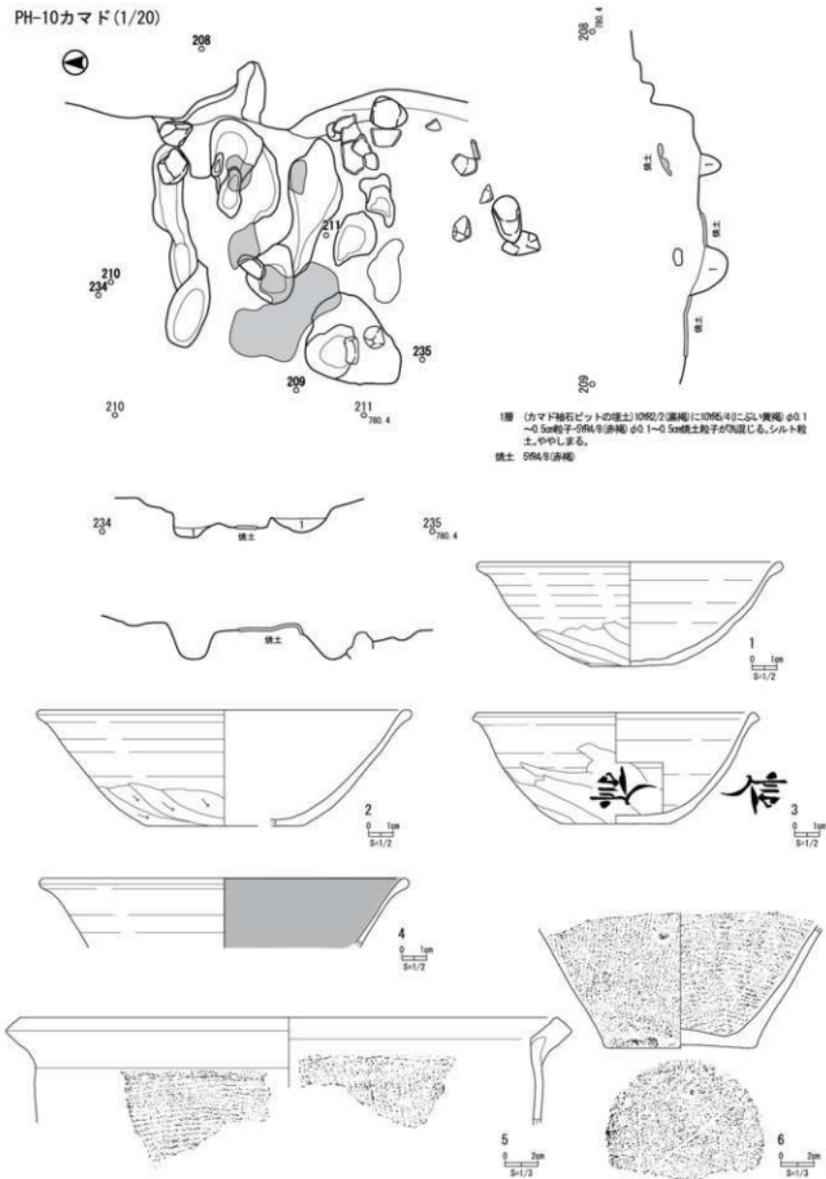
第 43 图 9号住居出土遺物



- 1層 1092/3(基礎)に1093/3(階層)が90%、1094/3(二重)が10%、1096/4(二重)が10%、1096/4(二重)が10%、 $\phi 0.1-0.2\text{m}$ 粒子が7%混じる。シルト粘土。しまる。
 - 2層 1093/3(階層)に1092/3(基礎)・1094/3(二重)が10%、1096/4(二重)が10%、 $\phi 0.2-0.5\text{mm}$ 粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。しまる。
 - 3層 1096/4(二重)が10%、 $\phi 0.1-0.2\text{mm}$ 粒子が7%、 $\phi 0.2-0.5\text{mm}$ 粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。しまる。
 - 4層 1096/4(二重)が10%、 $\phi 0.1-0.2\text{mm}$ 粒子が7%、 $\phi 0.2-0.5\text{mm}$ 粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。しまる。
 - 5層 1093/3(階層)の1096/4(二重)が10%、1096/4(二重)が10%、 $\phi 0.1-0.2\text{mm}$ 粒子が7%、 $\phi 0.2-0.5\text{mm}$ 粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。しまる。
 - 6層 1094/3(二重)が10%、1096/4(二重)が10%、 $\phi 0.1-0.2\text{mm}$ 粒子が7%、 $\phi 0.2-0.5\text{mm}$ 粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。しまる。
 - 7層 1092/1(壁)に1094/3(二重)が10%、1096/4(二重)が10%、 $\phi 0.1-0.2\text{mm}$ 粒子が7%、 $\phi 0.2-0.5\text{mm}$ 粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。しまる。
 - 8層 1096/4(二重)が10%、 $\phi 0.1-0.2\text{mm}$ 粒子が7%、 $\phi 0.2-0.5\text{mm}$ 粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。しまる。
 - 9層 1092/2(基礎)。シルト粘土。ややしまる。
 - 10層 (カマド)1093/3(階層)に1094/3(二重)が90%、 $\phi 2-3\text{mm}$ の焼土粒10%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 地山 (壁) 1096/4(二重)に1095/3(二重)が10%、 $\phi 0.1-0.2\text{mm}$ 粒子が7%、 $\phi 0.2-0.5\text{mm}$ 粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。しまる。
- 地山 1092/3(基礎)に1096/4(二重)が10%、 $\phi 0.1-0.2\text{mm}$ 粒子が7%、 $\phi 0.2-0.5\text{mm}$ 粒子が9%、焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。しまる。

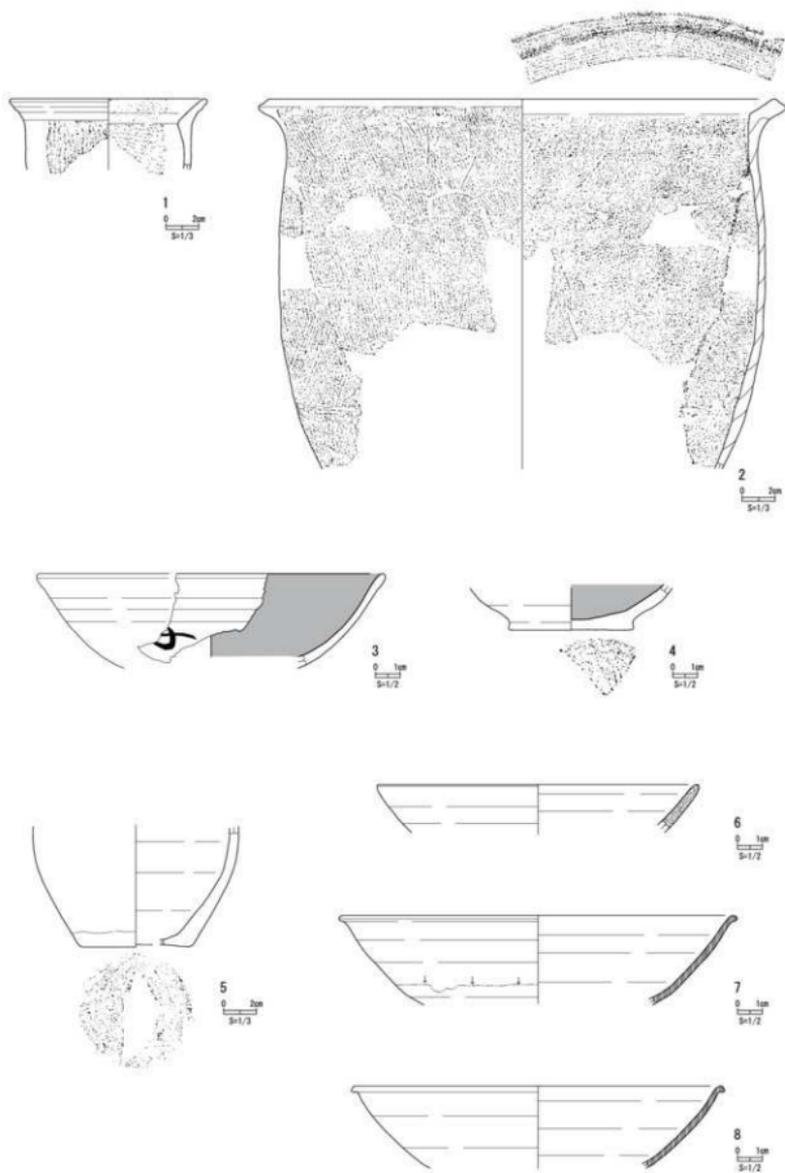
第 44 図 10号住居

PH-10カマド(1/20)



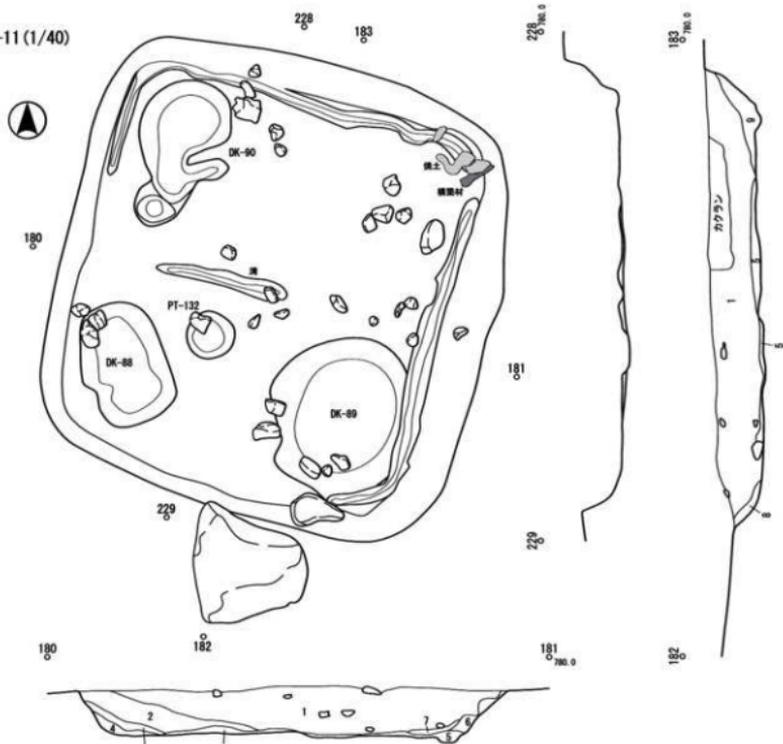
1層 (カマド袖石ピットの埋土) 10R2.2(黒褐色)に10R6.4(0.25mm)黄褐色)φ0.1
 ~0.5mm粒子の94%赤褐色)φ0.1~0.5mm焼土粒子が散在する。シルト粒
 土、ややしまる。
 焼土 5R6.4(赤褐色)

第 45 図 10号住居カマド・出土遺物

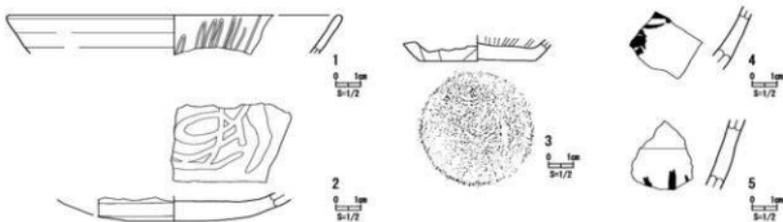


第 46 图 10 号住居出土遺物

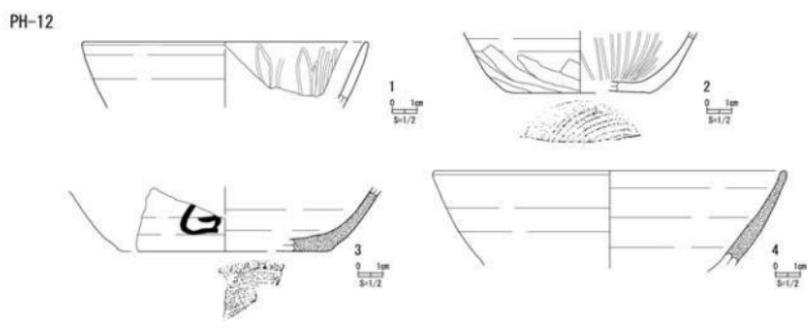
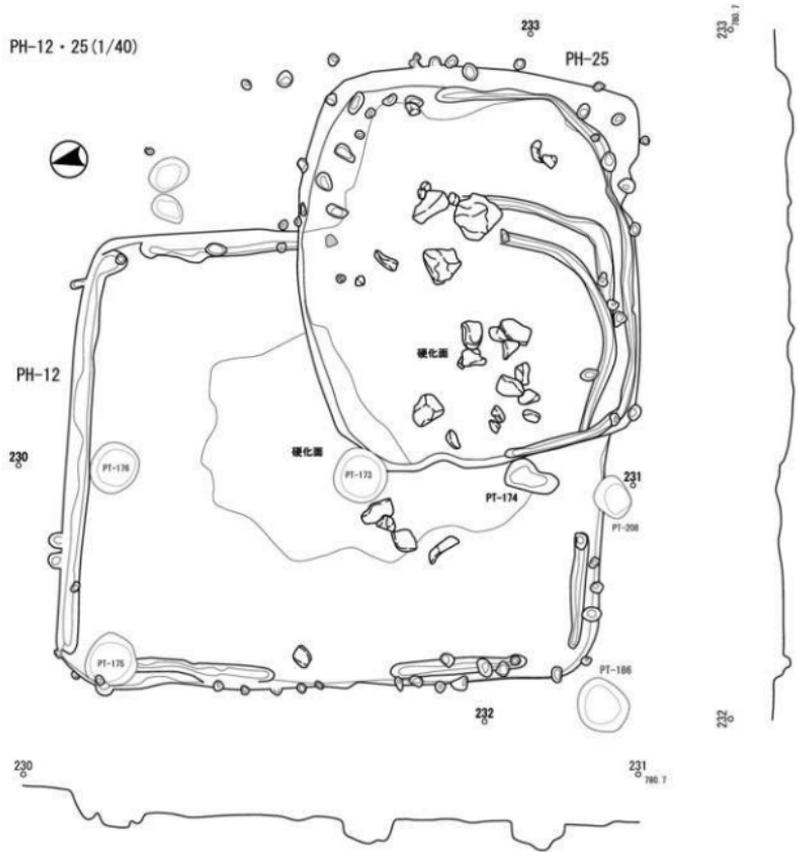
PH-11 (1/40)



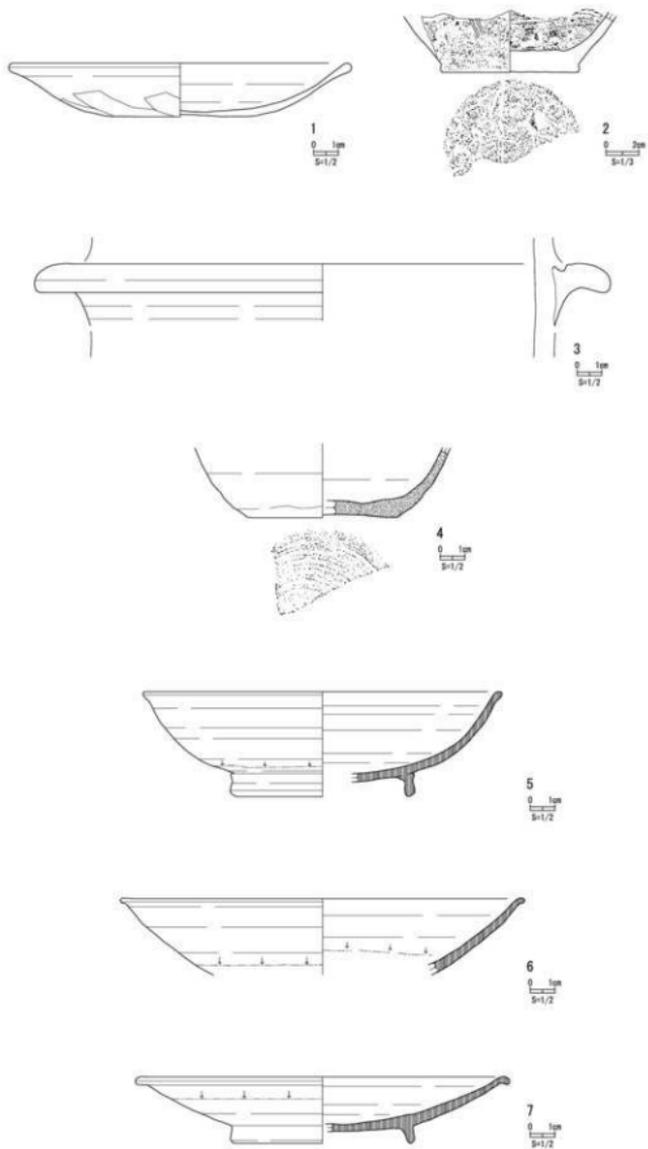
- 1 堀 1095/2(美堀)に1095/5(美堀)の0.1~0.3m粒子が既、炭化物粒子・995/5(明漆堀)焼土粒子が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 2 堀 1095/2(美堀)に1094/4(堀)・1095/5(美堀)の0.1~0.3m粒子が既、995/5(明漆堀)焼土粒子が既、炭化物粒子が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 3 堀 1095/2(美堀)に1095/5(美堀)の0.1~0.3m粒子が既、995/5(明漆堀)焼土粒子が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 4 堀 1095/2(美堀)に1095/5(美堀)の0.1~0.3m粒子が既、995/5(明漆堀)焼土粒子が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 5 堀 1095/2(美堀)に1095/5(美堀)が既、1095/5(美堀)の0.1~0.3m粒子が既、995/5(明漆堀)焼土粒子が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 6 堀 1095/2(美堀)に1095/5(美堀)の0.1~0.3m粒子が既、995/5(明漆堀)焼土粒子が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 7 堀 1095/2(美堀)に1095/5(美堀)の0.1~0.3m粒子が既、995/5(明漆堀)焼土粒子が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 8 堀 1095/2(美堀)に1095/5(美堀)が既、1095/5(美堀)の0.1~0.3m粒子が既、995/5(明漆堀)焼土粒子が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 9 堀 1095/2(美堀)に1095/5(美堀)の0.1~0.3m粒子が既、995/5(明漆堀)焼土粒子が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 地山 (堀) 1095/5(美堀)に1096/5(明漆堀)が混入する。シルト粘土。しかもる。
- 地山 1096/5(明漆堀)に1097/5(明漆堀)が混入する。シルト粘土。しかもる。



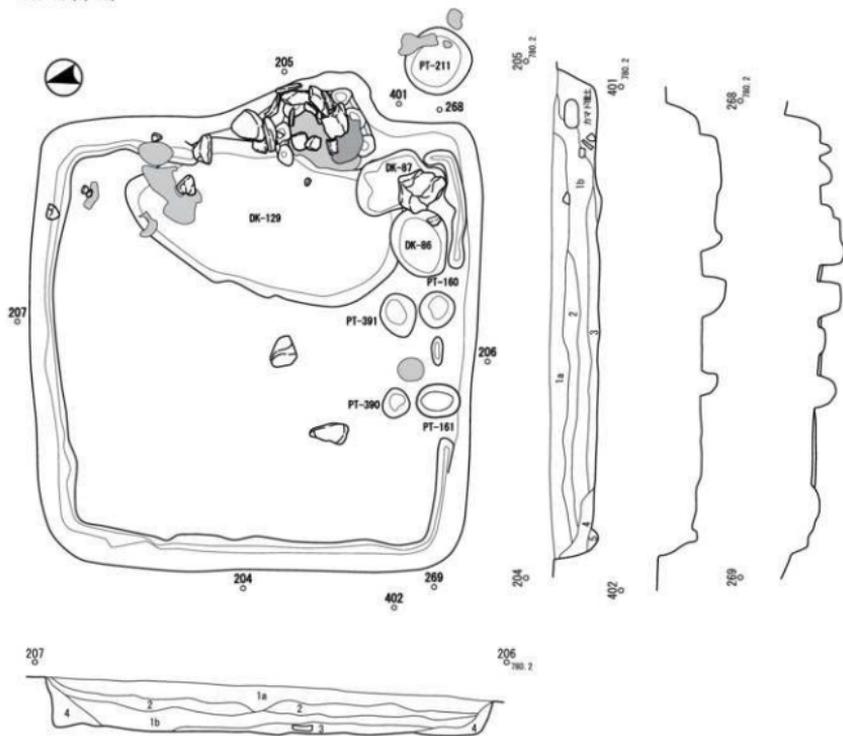
第 47 図 11号住居・出土遺物



第 48 图 12 号・25 号住居 12 号住居出土遺物



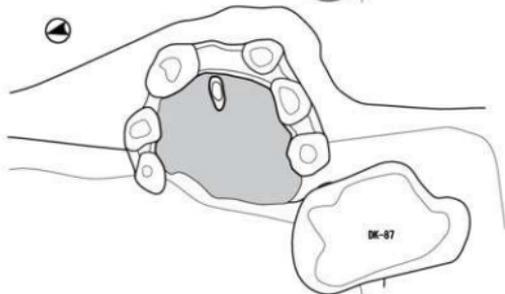
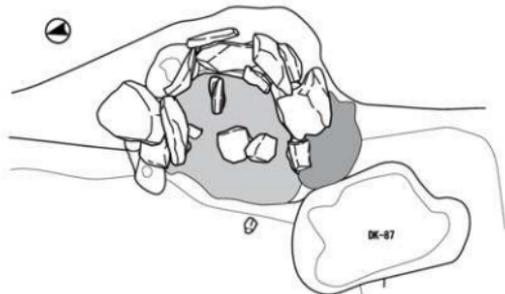
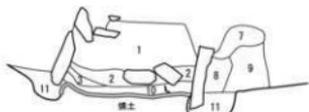
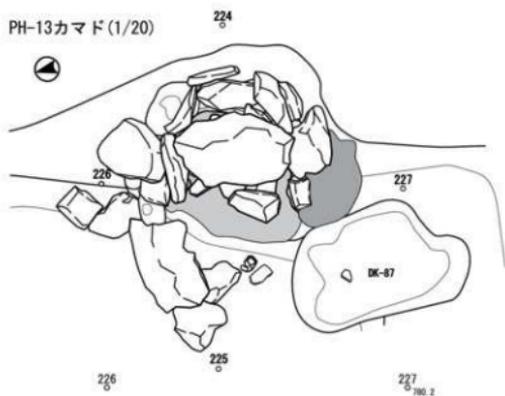
第 49 图 25 号住居出土遗物



- 1a+層 1092/2(黒層)に1093/2(黒層)が79%、1095/4(2)に25%、黄層-1095/6(黄層)粒子が7%、炭化物粒子が9%、焼土粒子が9%混じる、シルト粒土、しまる。
 2層 1092/2(黒層)に1094/4(黒)が19%、粒子1095/6(黄層)が7%、炭化物粒子-焼土粒子が9%混じる、シルト粒土、しまる。
 3層 1092/2(黒層)に1094/4(2)に25%、黄層-1095/6(黄層)が34%、下ロームブロックが7%、炭化物粒子が9%、焼土粒子が9%混じる、シルト粒土、しまる。
 4層 1092/1(黒層)に1093/2(黒層)が79%、1094/4(黒)が7%、1095/6(黄層)粒子が9%、炭化物粒子が9%、焼土粒子が9%混じる、シルト粒土、しまる。
 5層 (黄層)1092/2(黒層)に1093/4(黒層)が19%、1095/6(黄層)粒子が9%混じる、シルト粒土、しまる。
 地山 (黄)1093/4(黒層)に1092/2(黒層)が9%混じる、シルト粒土、しまる。
 地山 (黄)1093/4(黒層)に1095/6(黄層)が9%混じる、シルト粒土、しまる。

第 50 図 13号住居

PH-13カマド (1/20)



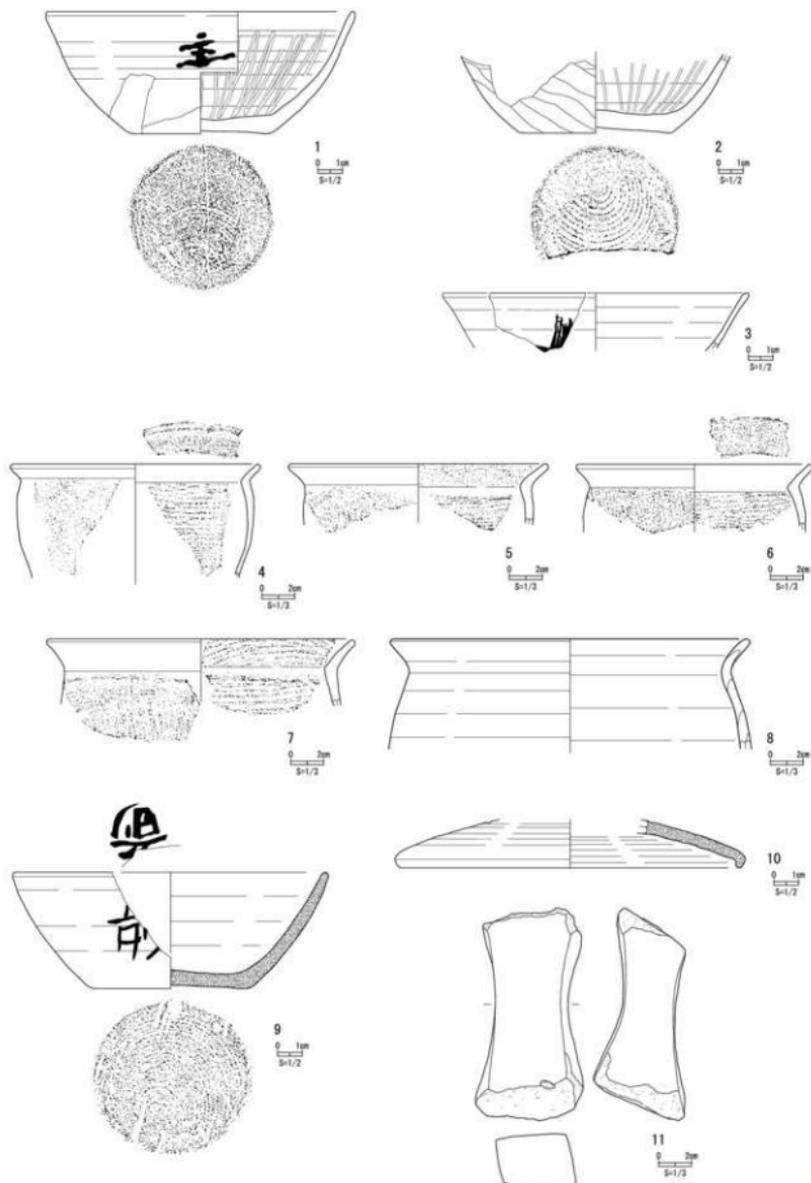
224
100.2



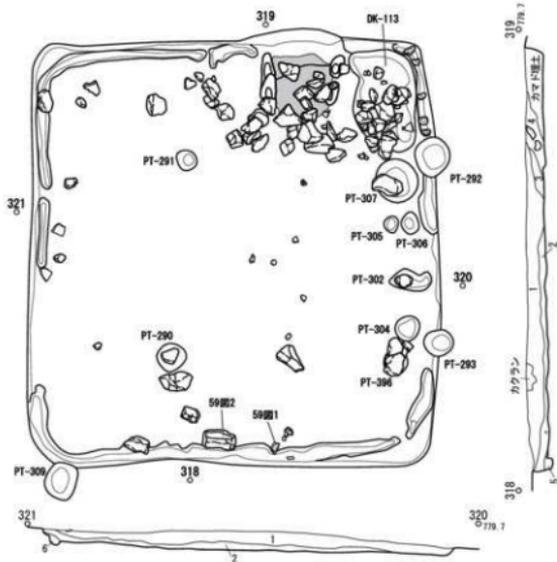
225
100.2

- 1層 1092/3(黒焼)に1092/3(黒焼)が95, 1096/4(こぶ)黄焼が0. 1m粒子が95, 粘質土1096/2(灰黄焼)が95, 焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土、ややしまる。
 - 2層 1092/3(黒焼)に1092/3(黒焼)-2. 595/8(明赤焼)が1m焼土ブロックが95, 1096/4(こぶ)黄焼が0. 2m粒子が7%以下混じる。シルト粘土、ややしまる。
 - 3層 1092/3(黒焼)に1092/3(黒焼)が95, 1096/4(こぶ)黄焼が95混じる。シルト粘土、しまる。
 - 4層 1096/4(こぶ)黄焼にロームブロック、粘質土、しまる。
 - 5層 1092/3(黒焼)に1096/4(こぶ)黄焼が95, 1096/4(こぶ)黄焼が1mロームブロック、φ0. 1m焼土粒子が7%混じる。シルト粘土、ややしまる。
 - 6層 1092/3(黒焼)に1092/3(黒焼)が95, φ0. 1-0. 2m焼土粒子-2. 595/8(明赤焼)が1m焼土ブロックが95混じる。シルト粘土、ややしまる。
 - 7層 1096/4(こぶ)黄焼に1092/3(黒焼)が95, 1096/4(こぶ)黄焼が95混じる。粘質土、しまる。
 - 8層 1092/3(黒焼)に焼土粒子が95, 1096/4(こぶ)黄焼が95混じる。シルト粘土、しまる。
 - 9層 1092/3(黒焼)に1092/3(黒焼)が95, 1096/4(こぶ)黄焼が1m以下ロームブロックが95, 焼土粒子が7%以下混じる。粘質土、ややしまる。
 - 10層 595/8(明赤焼)に2. 595/8(明赤焼)が95混じる。ややしまる。(10層よりややらかり)
 - 11層 1092/3(黒焼)に1096/4(こぶ)黄焼が95, 焼土粒子が7%以下混じる。シルト粘土、ややしまる。
 - 12層 1092/3(黒焼)に1096/4(こぶ)黄焼が95混じる。シルト粘土、ややしまる。
- 焼土 2. 595/8(明赤焼)に595/8(明赤焼)が95混じる。

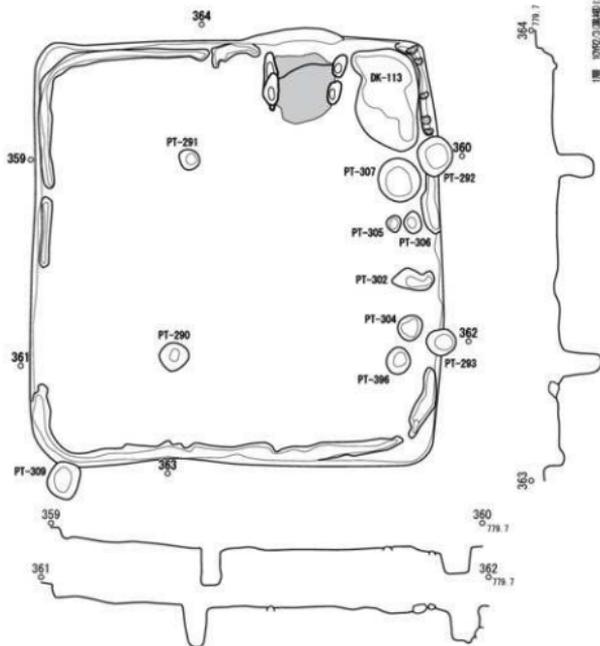
第 51 図 13号住居カマド



第 52 图 13号住居出土遺物

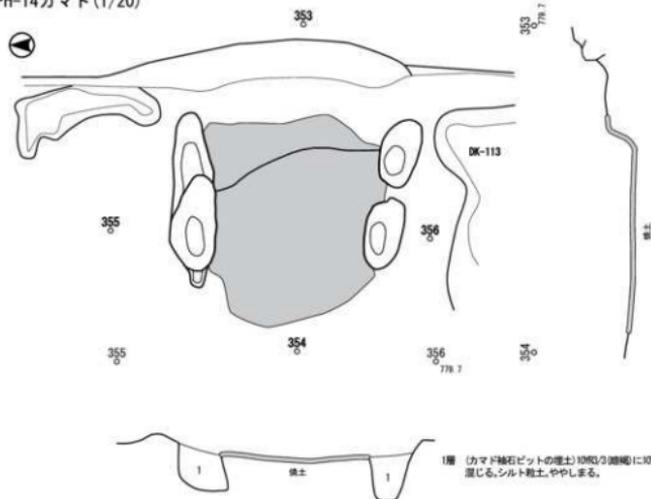


- 1階 1095.03測程に1095.03測程が70%、1095.41測程が20%の雑草が生育している。シルト地土、やせ地。
- 2階 1095.03測程に1095.41測程が70%、1095.41測程が30%の雑草が生育している。シルト地土、やせ地。
- 3階 1095.03測程に1095.41測程が70%、1095.41測程が30%の雑草が生育している。シルト地土、やせ地。
- 4階 1095.03測程に1095.41測程が70%、1095.41測程が30%の雑草が生育している。シルト地土、やせ地。
- 5階 1095.03測程に1095.41測程が70%、1095.41測程が30%の雑草が生育している。シルト地土、やせ地。
- 6階 1095.03測程に1095.41測程が70%、1095.41測程が30%の雑草が生育している。シルト地土、やせ地。
- 7階 1095.41測程に1095.03測程が30%の雑草が生育している。シルト地土、やせ地。



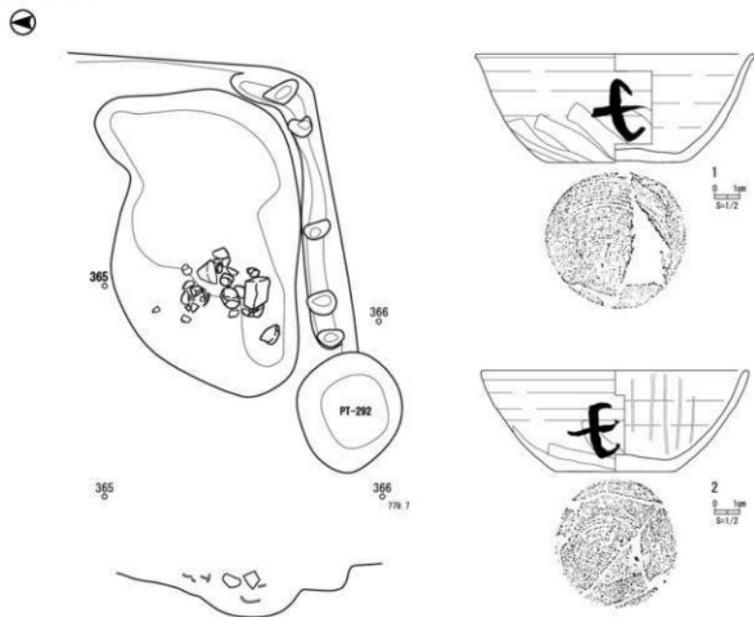
第 53 図 14号住居

PH-14カマド(1/20)

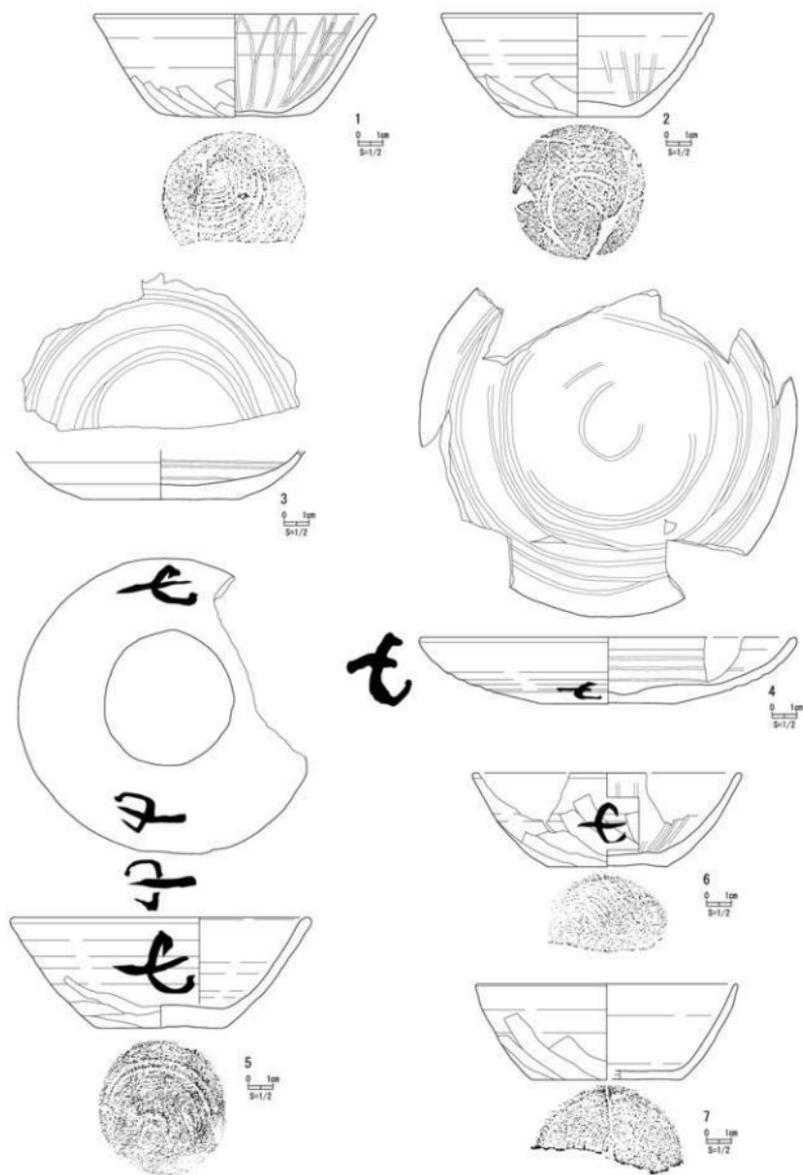


1層 (カマド焼石ピットの埋土) 100%の濃縮に10%の濃縮が90、10%の4層が90
度出る。シルト粘土、ややしまる。

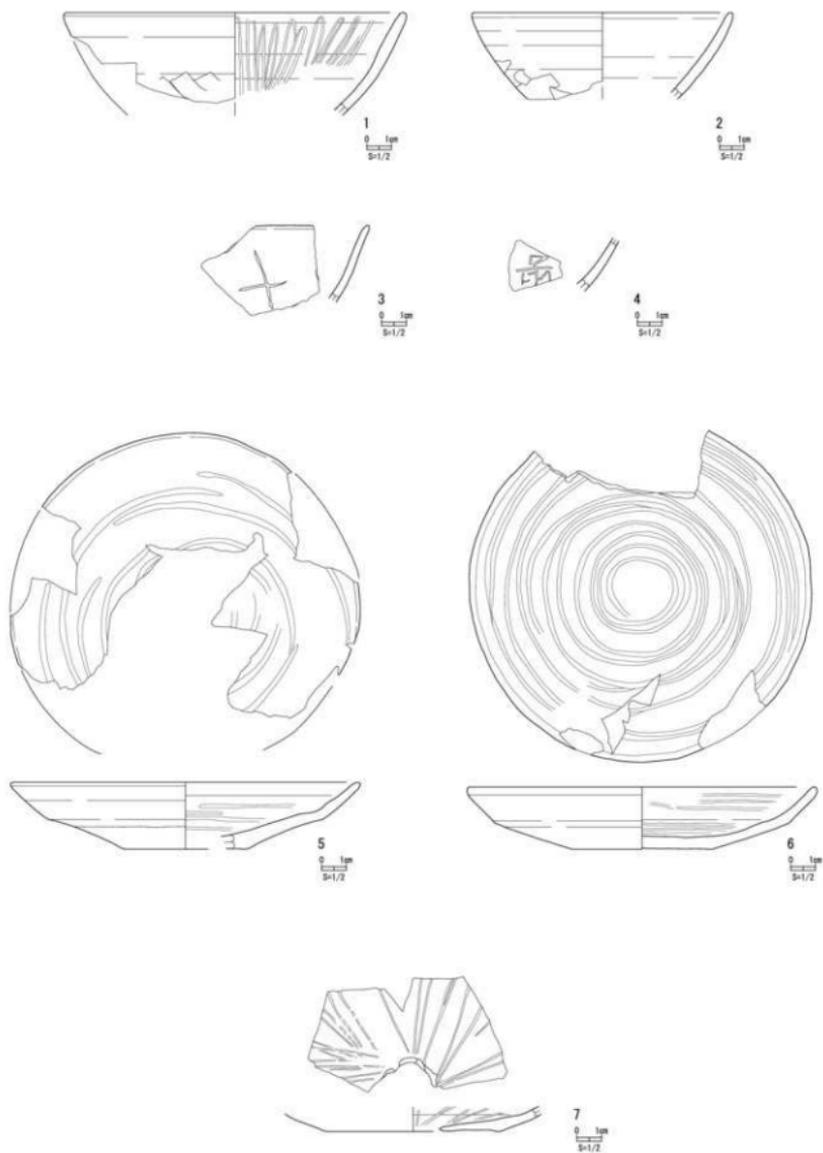
DK-113(1/20)



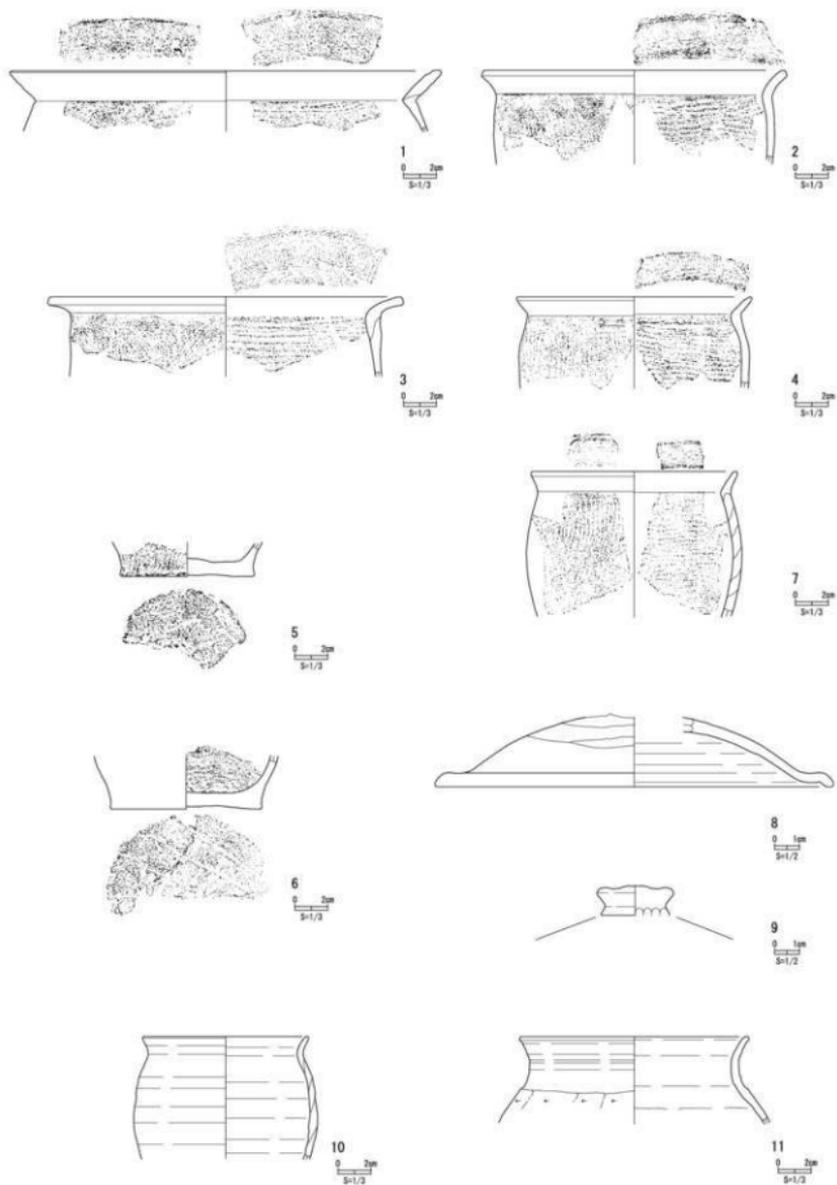
第 54 図 14 号住居カマド・113 号土坑・出土遺物



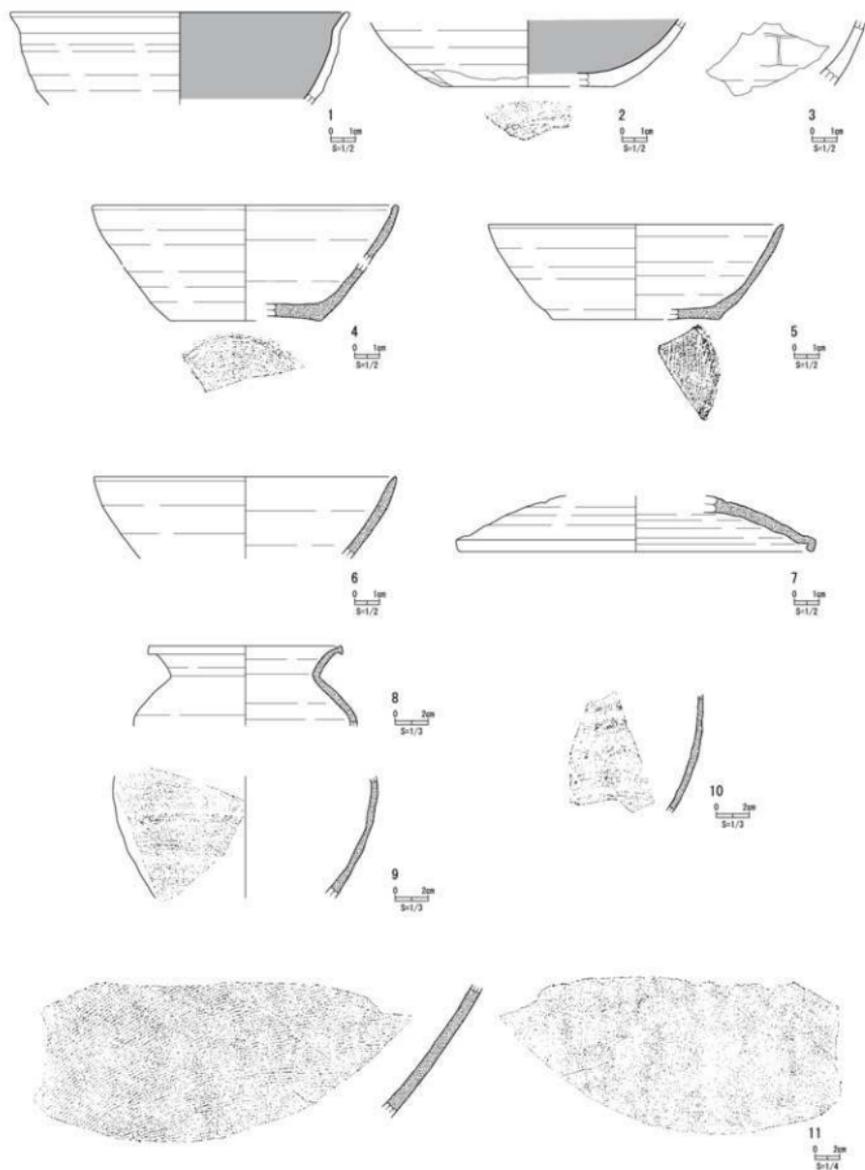
第 55 图 14 号住居出土遗物



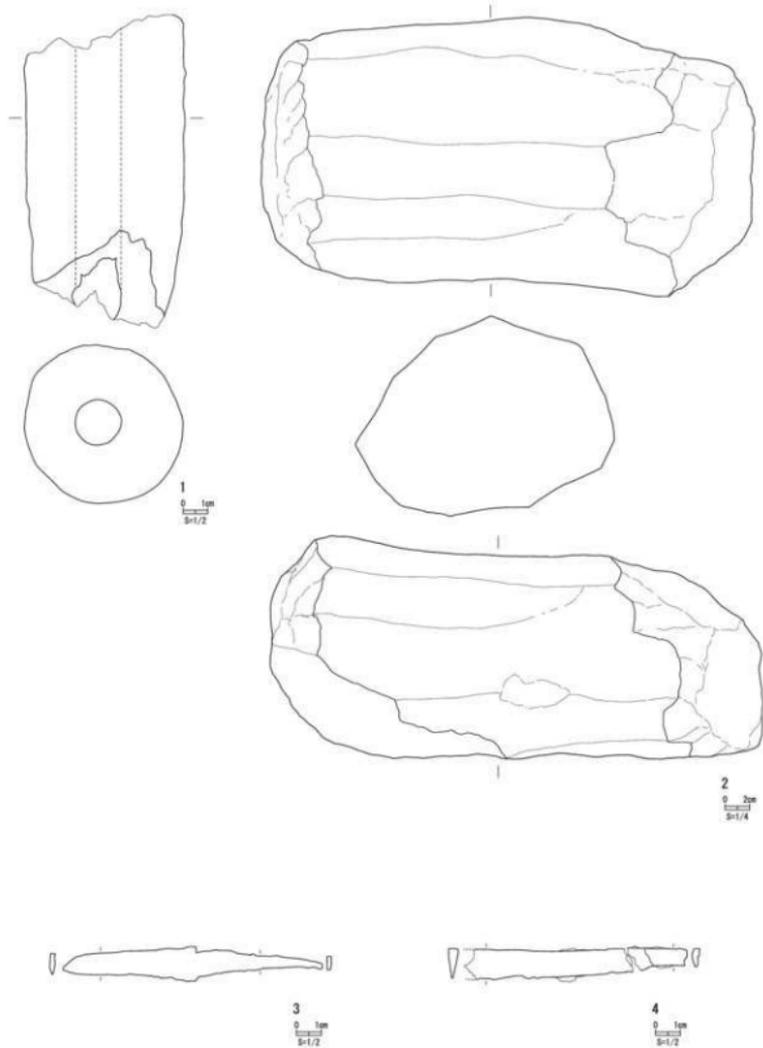
第 56 图 14 号住居出土遺物



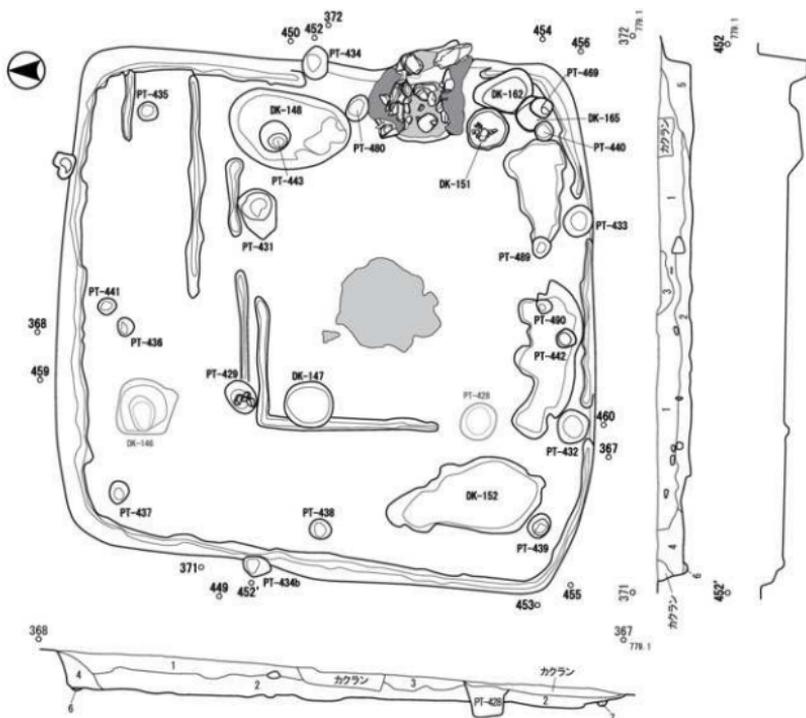
第 57 图 14 号住居出土遗物



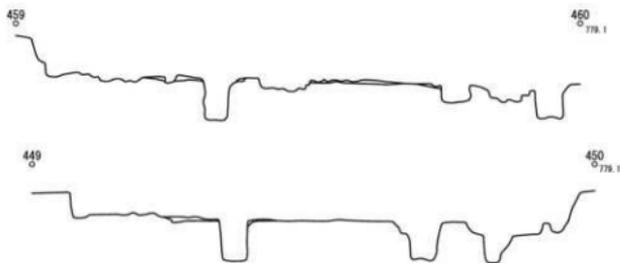
第 58 图 14号住居出土遺物



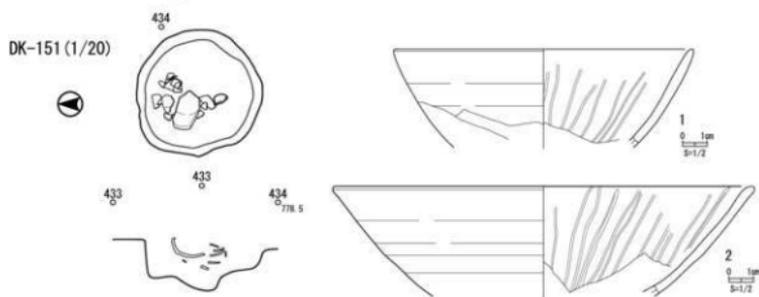
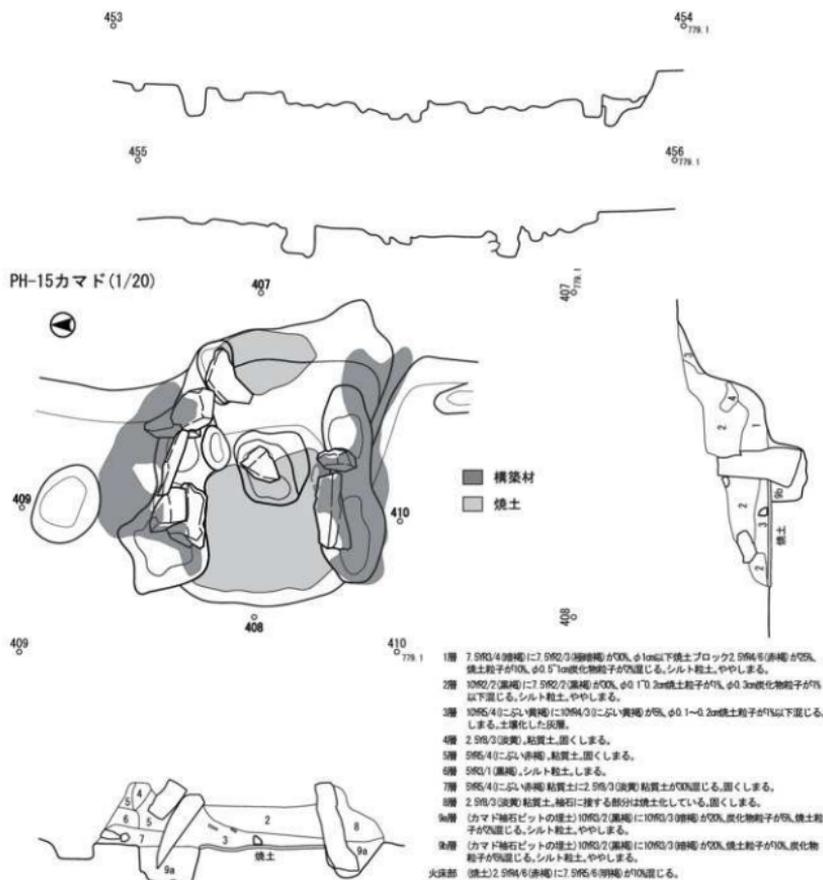
第 59 图 14 号住居出土遺物



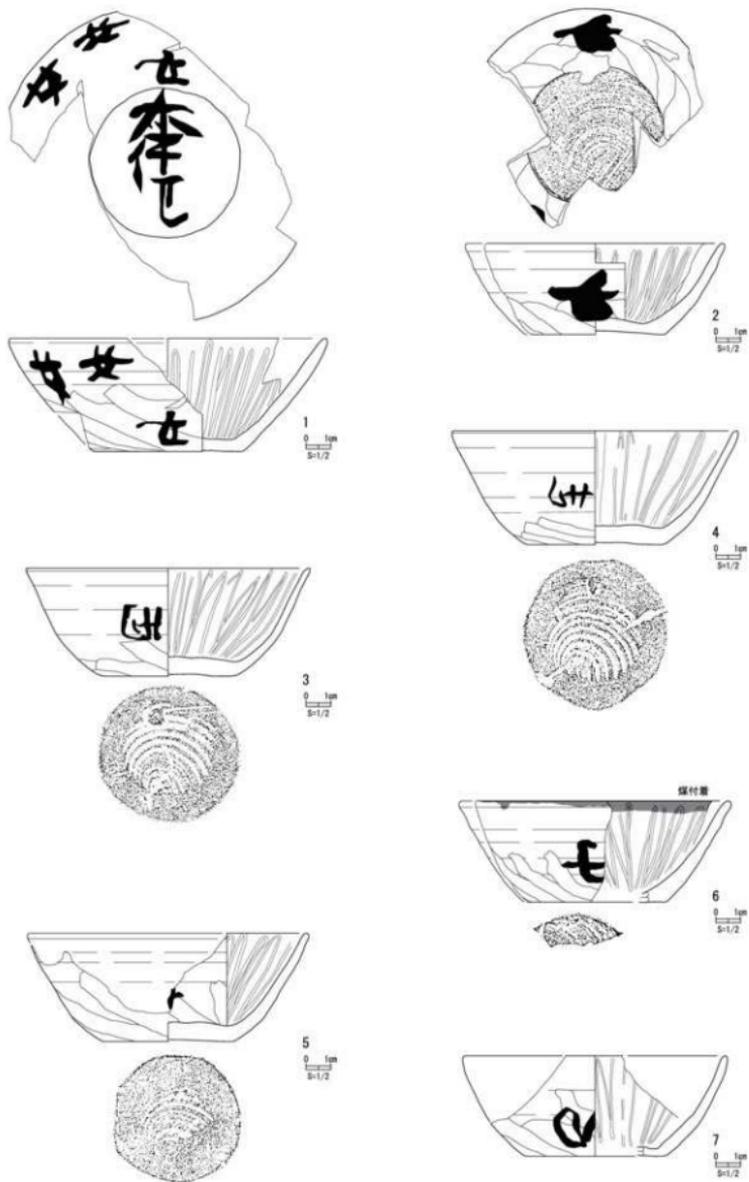
- 1層 10R3/1(基礎)に10R3/2(基礎)が10%, 10R6/4(3階)が0.3-0.5m粒子が2%混じる, シルト粘土, しまる。
 - 2層 10R3/2(基礎)に10R3/3(2階)が30%混じる, シルト粘土, ややしまる。
 - 3層 3階-3階土 (基礎) 10R3/1(基礎)に10R2/1(土)が20%, 10R6/4(3階)が0.3m粒子が1%, 焼土粒子が1%以下混じる, シルト粘土, ややしまる。
 - 4層 10R3/2(基礎)に10R3/3(2階)が10%, 10R6/4(3階)が0.3m粒子が2%混じる, シルト粘土, しまる。
 - 5層 10R3/2(基礎)に10R3/3(2階)が20%, 10R6/4(3階)が1-0.2m粒子が5%, 10R6/4(3階)が1-2mブロック・焼土粒子が1%以下混じる, シルト粘土, ややしまる。
 - 6層 3階土 10R3/1(基礎)に10R3/2(基礎)が20%, 10R6/4(3階)が0.1m粒子・焼土粒子が1%以下混じる, シルト粘土, ややしまる。
 - 7層 3階土 10R6/4(3階)に10R6/4(3階)が2%混じる, シルト粘土, ややしまる。
- 地山 10R6/4(3階)に2%黄砂・粘質土混くしまる。



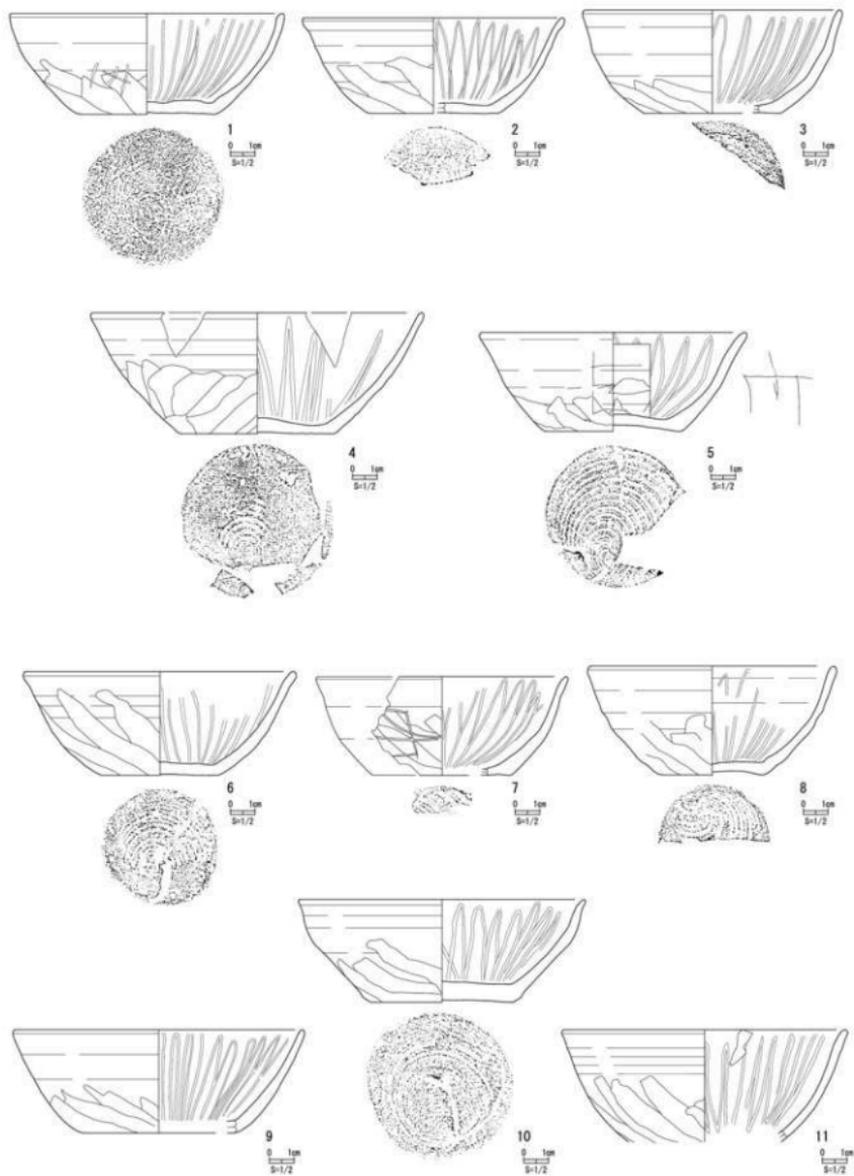
第 60 図 15号住居



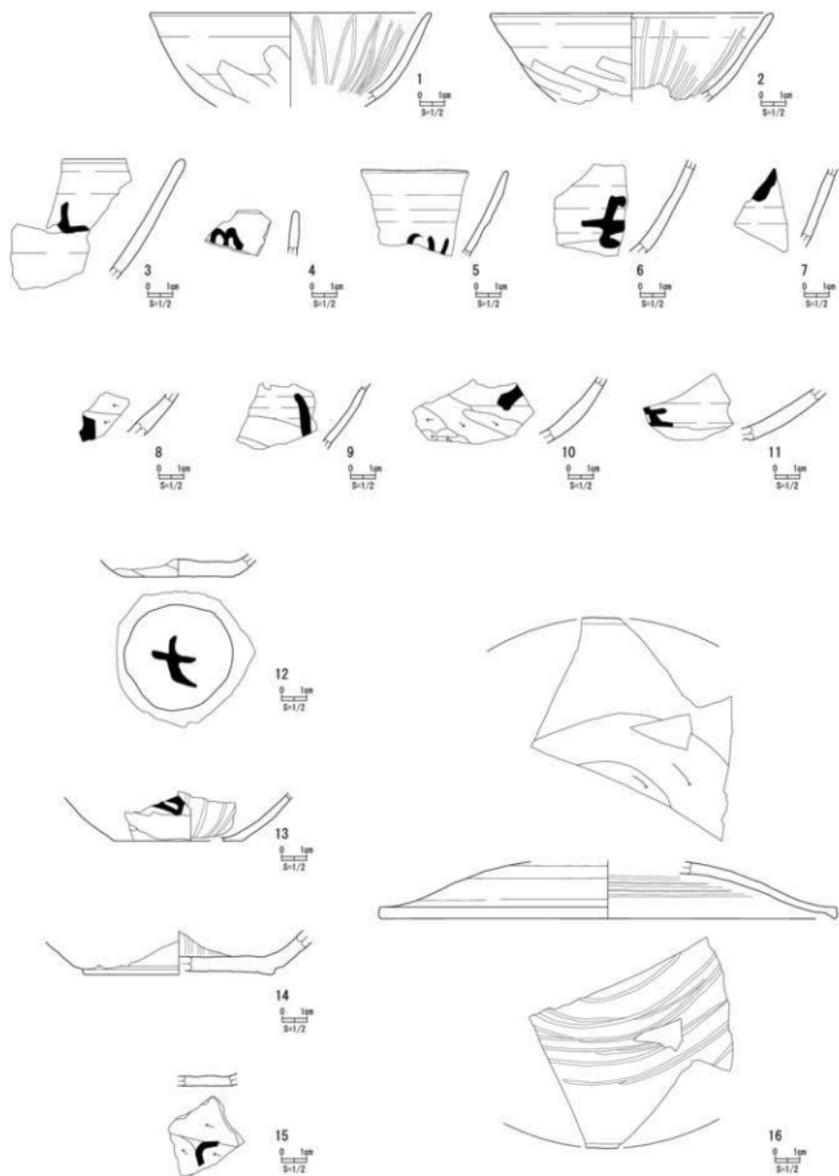
第 61 図 15号住居カマド・151号土坑・出土遺物



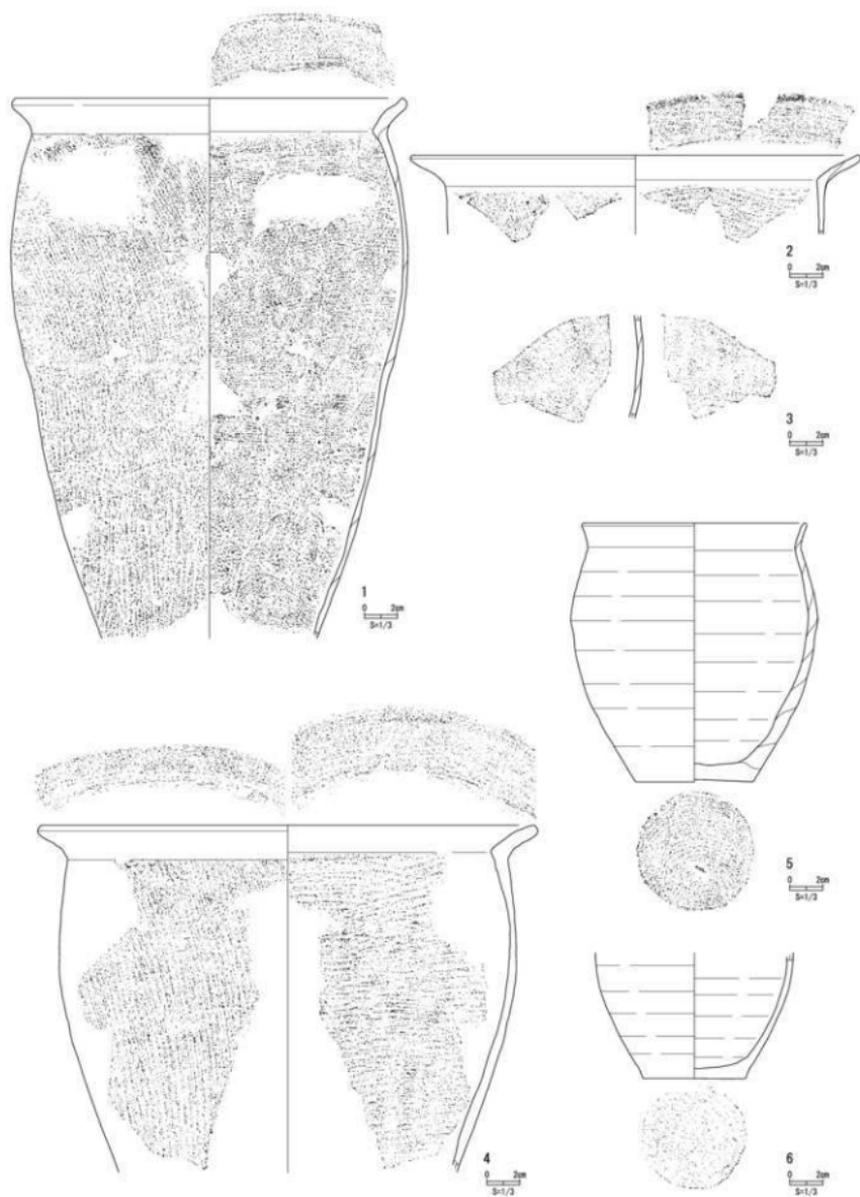
第 62 図 15 号住居出土遺物



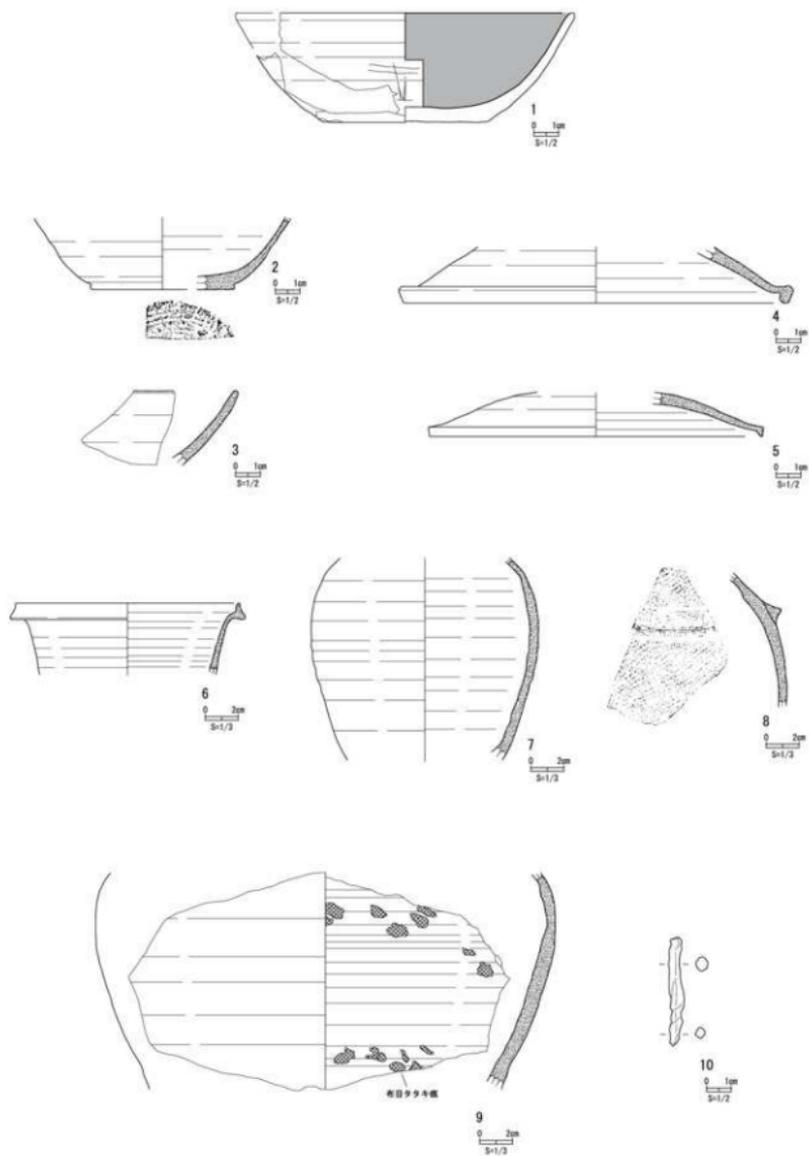
第 63 图 15 号住居出土遗物



第 64 图 15 号住居出土遺物

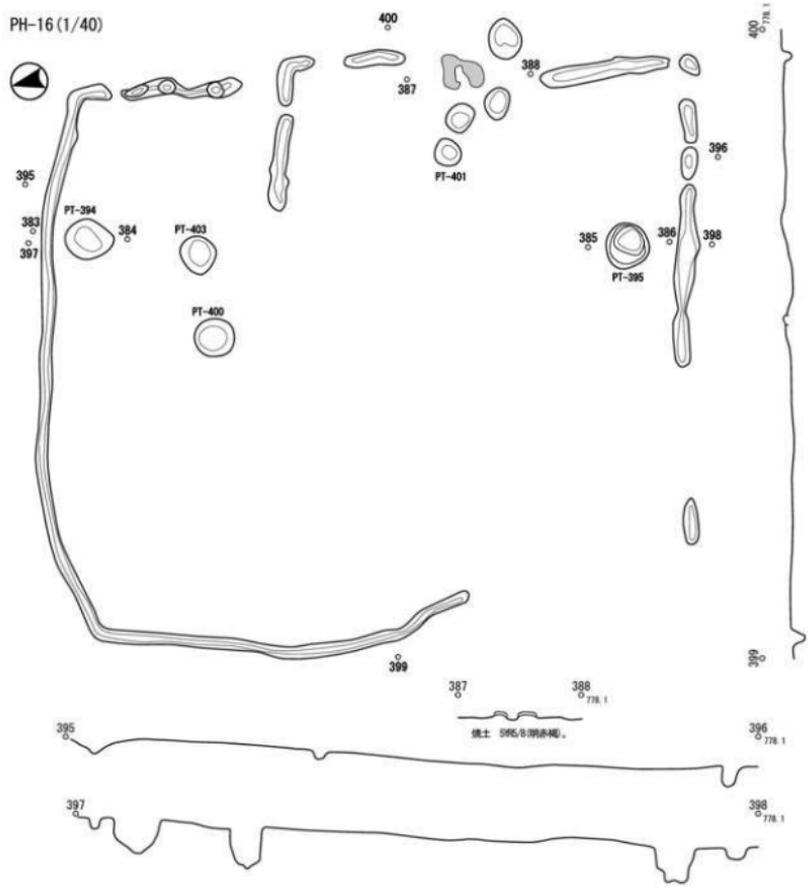


第 65 图 15 号住居出土遗物

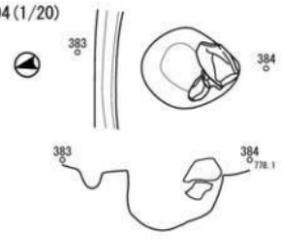


第 66 図 15号住居出土遺物

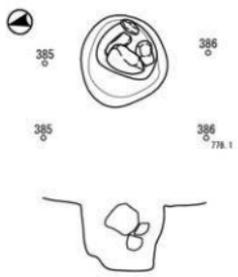
PH-16 (1/40)



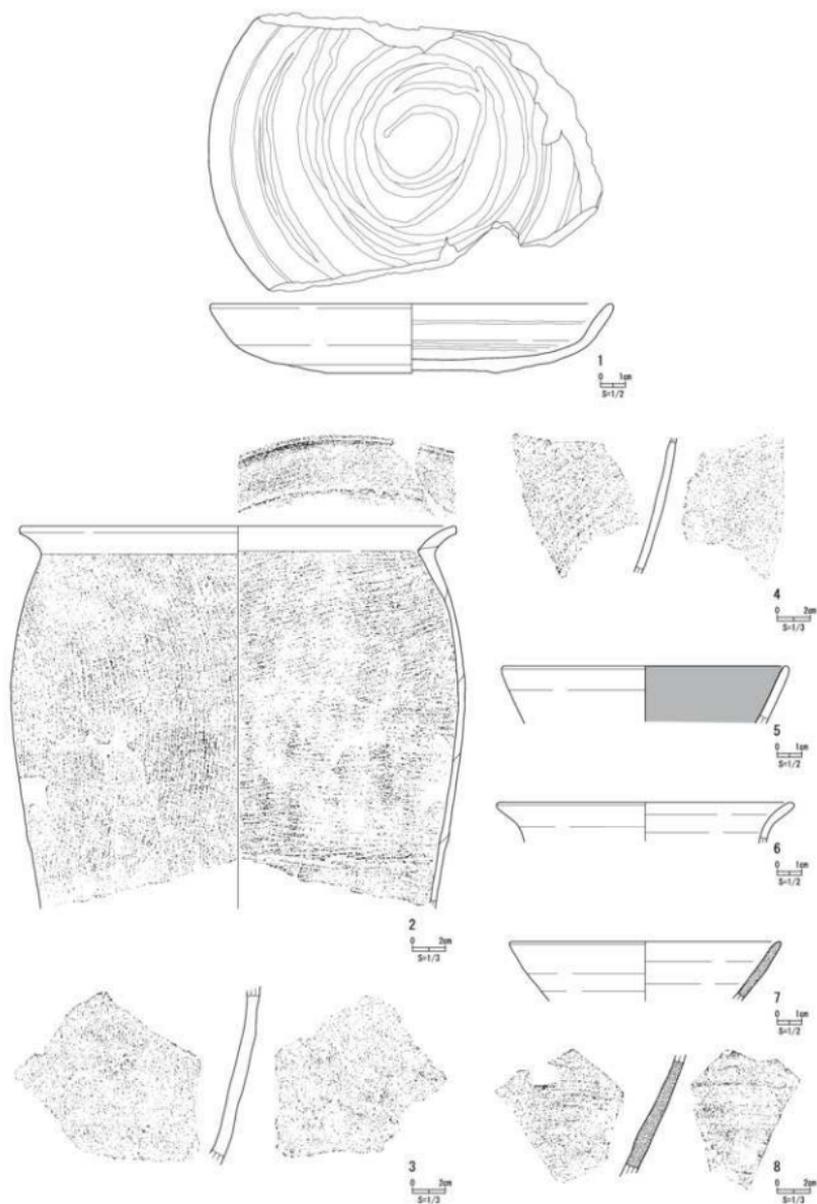
PT-394 (1/20)



PT-395 (1/20)

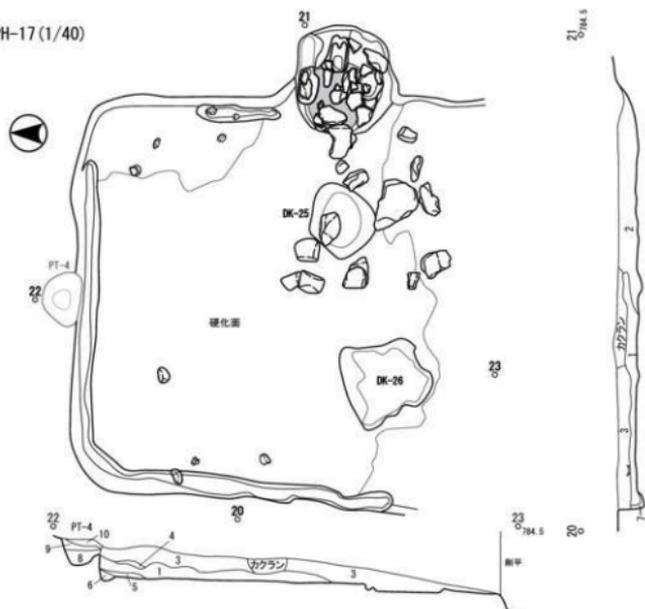


第 67 图 16 号住居



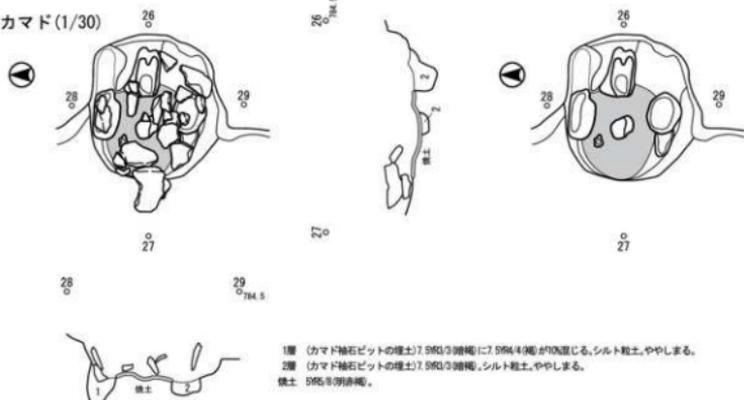
第 68 图 16 号住居出土遺物

PH-17 (1/40)



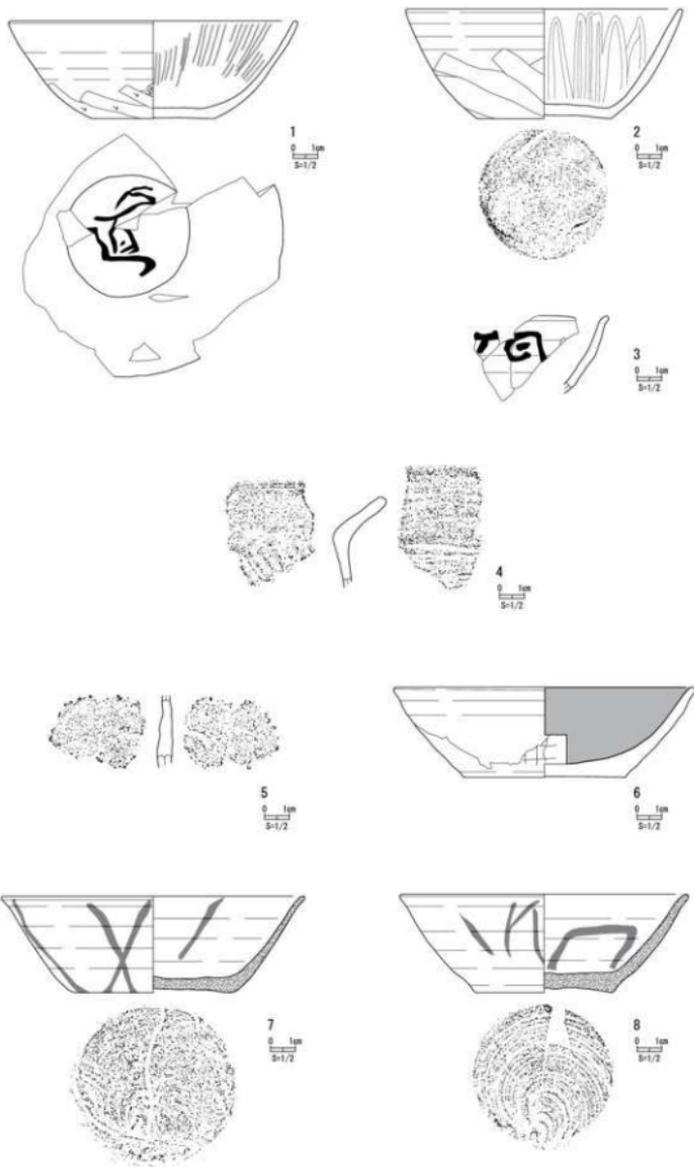
- 1層 10RQ3(3階)に10R4(2)に5L(黄組)が70L, 10R5(6(黄組)が0.5-lanルームブロックが70L, 10R5(6(黄組)粒子が70Lに散在する。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 10RQ4(4階)に10R4(2)に5L(黄組)が70L, 10R5(6(黄組)が0.5-lanルームブロックが70L, 10R5(6(黄組)粒子が70Lに散在する。シルト粒土、しまる。
 - 3層 10RQ3(3階)に10RQ2(2階)が70L, 10R5(6(黄組)がlanルームブロックが70Lに散在する。シルト粒土、ややしまる。
 - 4層 10RQ3(3階)に10RQ2(2階)が70L, 10R5(6(黄組)粒子が70Lに散在する。シルト粒土、しまる。
 - 5層 10RQ1(1階)に10RQ3(3階)が70L, 10R5(6(黄組)がlanルームブロックが70Lに散在する。シルト粒土、しまる。
 - 6層 10R5(6(黄組), シルト粒土、しまる。
 - 7層 10R5(6(黄組)に10R5(6(黄組)粒子が70Lに散在する。シルト粒土、ややしまる。
 - 8層 PT-4(10RQ3(3階)に10R4(2)に5L(黄組)が70L, 10R5(6(黄組)が0.5-lanルームブロックが70Lに散在する。シルト粒土、ややしまる。
 - 9層 PT-4(10R5(6(2)に5L(黄組)に10RQ2(2階)が70Lに散在する。シルト粒土、ややしまる。
 - 10層 PT-4(10RQ3(3階)に10R5(6(2)に5L(黄組)が70Lに散在する。シルト粒土、しまる。
- 地山 (節) 10R5(6(黄組)に(節)面から10mくらいまで) 10R5(6(黄組)が70L, 10RQ4(4階)が70Lに散在する。シルト粒土、しまる。
 地山 (実) 10R5(6(黄組), シルト粒土、しまる。

PH-17カマド (1/30)

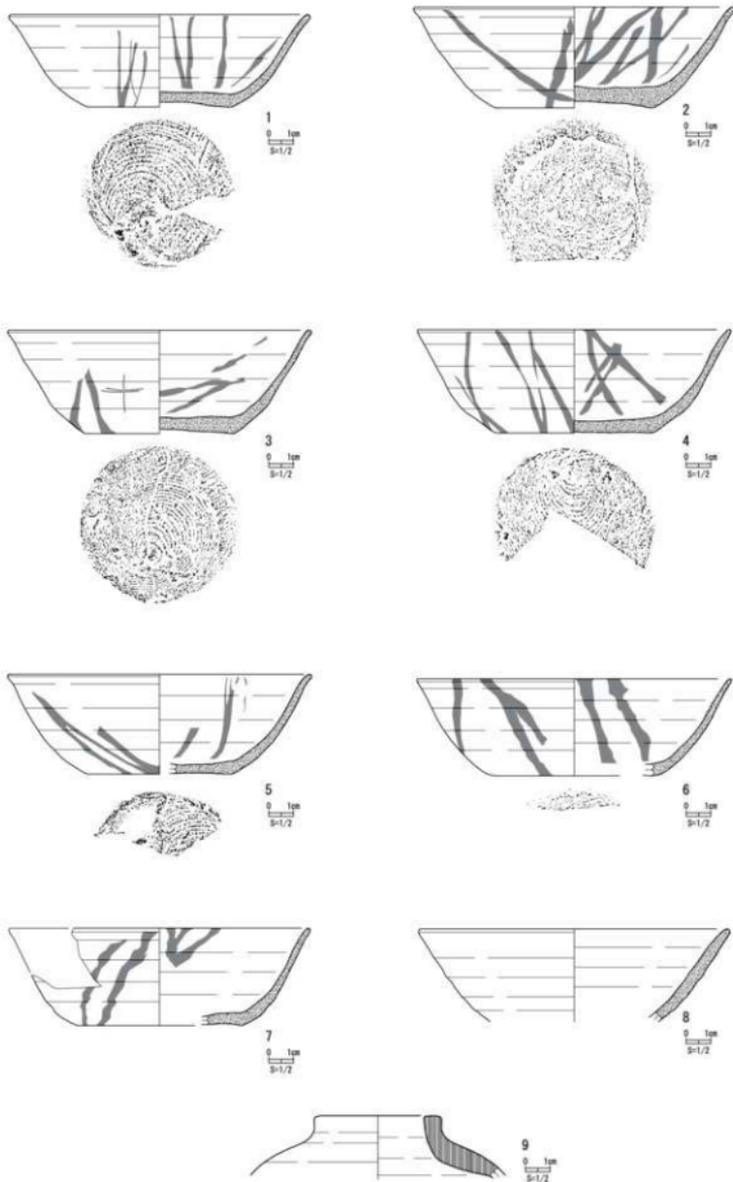


- 1層 (カマド袖石ビットの埋土) 7.5RQ3(3階)に7.5RQ4(4階)が70Lに散在する。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 (カマド袖石ビットの埋土) 7.5RQ3(3階), シルト粒土、ややしまる。
- 地山 5R5(6(黄組), シルト粒土、しまる。

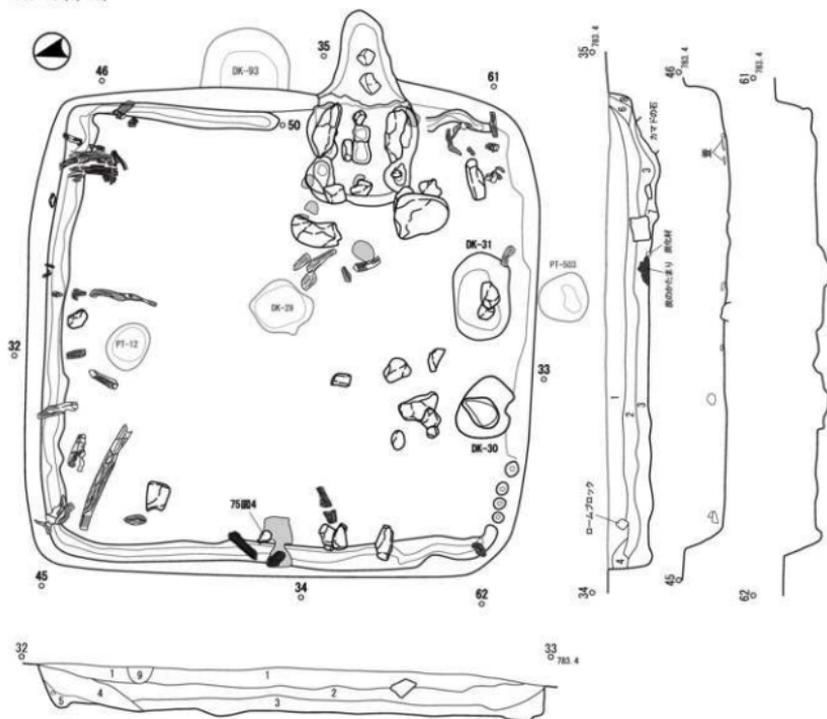
第 69 図 17号住居・カマド



第 70 图 17号住居出土遺物



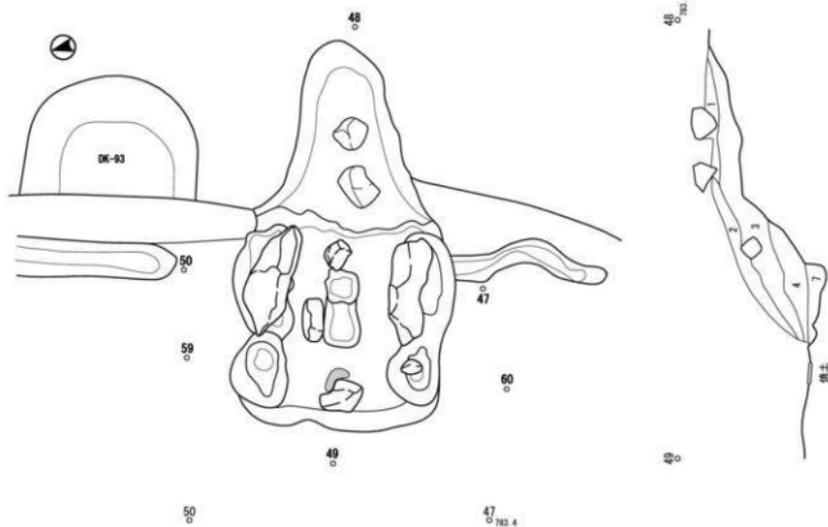
第 71 图 17 号住居出土遗物



- 1層 10R2の遺構に10R2の遺構が7R, 10R4/3に5L(黄層)が7R, 10R6/4に5L(黄層)が0.5m粒子-炭化物粒子が混入する。シルト粘土。しまる。
- 2層 10R2の遺構に10R2の遺構が7R, 10R6/4に5L(黄層)が0.5m粒子-炭化物粒子が7R, 10R6/4に5L(黄層)が0.5m粒子が混入する。シルト粘土。ややしまる。
- 3層 10R2の遺構に10R4/3に5L(黄層)が7R, 炭化材が7R, 10R6/4に5L(黄層)が0.2~1m粒子が7R, 炭土粒子が7R混入する。シルト粘土。ややしまる。
- 4層 10R4/3に5L(黄層)に10R2の遺構が7R, 0に5L(黄層)が0.1~0.5m粒子10R6/4が7R, 10R6/4に5L(黄層)が2~3mロームブロックが7R, 炭土粒子が7R以下混入する。シルト粘土。しまる。
- 5層 10R2の遺構に炭化材が7R, 10R6/4に5L(黄層)が0.5m粒子が混入する。シルト粘土。ややしまる。
- 6層 10R4/3に5L(黄層)に10R2の遺構が7R, 10R6/4に5L(黄層)が0.2m粒子-炭土粒子が混入する。シルト粘土。ややしまる。
- 7層 10R2の遺構に10R2の遺構が7R, 10R6/4に5L(黄層)が0.2m粒子が混入する。シルト粘土。ややしまる。
- 8層 10R6/4に5L(黄層)。シルト粘土。ややしまる。
- 9層 カクランの10R6/4に5L(黄層)に10R2の遺構が混入する。シルト粘土。しまる。
- 地山 ① 10R6/4に5L(黄層)。粘質土。固くしまる。
- 地山 ② 10R6/4に5L(黄層)。粘質土。固くしまる。

第 72 図 18号住居

PH-18カマド(1/20)

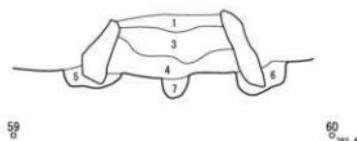


50

47

783.4

783.4



59

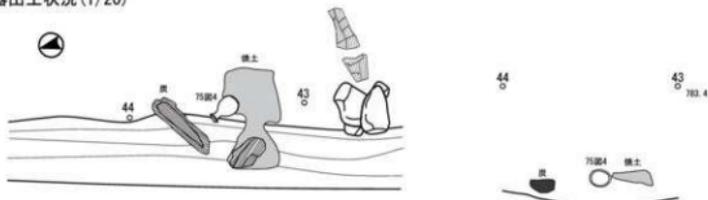
60

783.4



- 1層 (カクランホウ) 10R2.3(黒褐)に10R3.3(黒褐)が70%混じる。シルト粒土。しまる。
 - 2層 10R3.4(黒褐)に10R4.3(こぶい)・黄褐)が90%。焼土粒子が3%混じる。シルト粒土。しまる。
 - 3層 10R3.4(黒褐)に10R4.3(こぶい)・黄褐)が90%。焼土粒子が10%。10R6.4(こぶい)・黄褐)φ0.5~0.8mm粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。
 - 4層 10R3.3(黒褐)に10R4.3(こぶい)・黄褐)が90%。炭化物粒子・焼土粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
 - 5層 (カマド軸石ビットの埋土) 10R4.3(こぶい)・黄褐)に10R2.3(黒褐)が90%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 - 6層 (カマド軸石ビットの埋土) 10R3.3(黒褐)に10R2.3(黒褐)・10R4.3(こぶい)・黄褐)が70%混じる。シルト粒土。ややしまる。
 - 7層 (カマド軸石ビットの埋土) 10R2.3(黒褐)に10R3.3(黒褐)が90%。炭化物粒子・焼土粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
- 焼土: 5層(6層)。

土器出土状況(1/20)



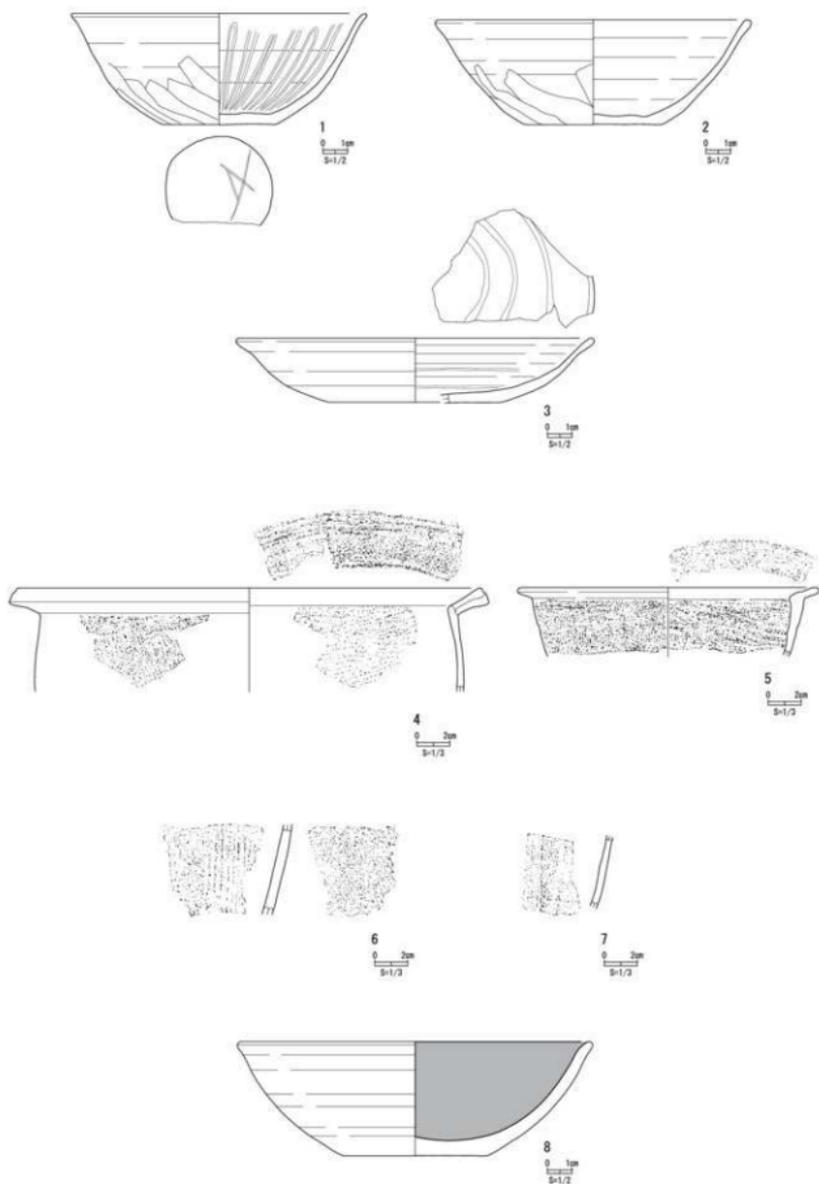
44

43

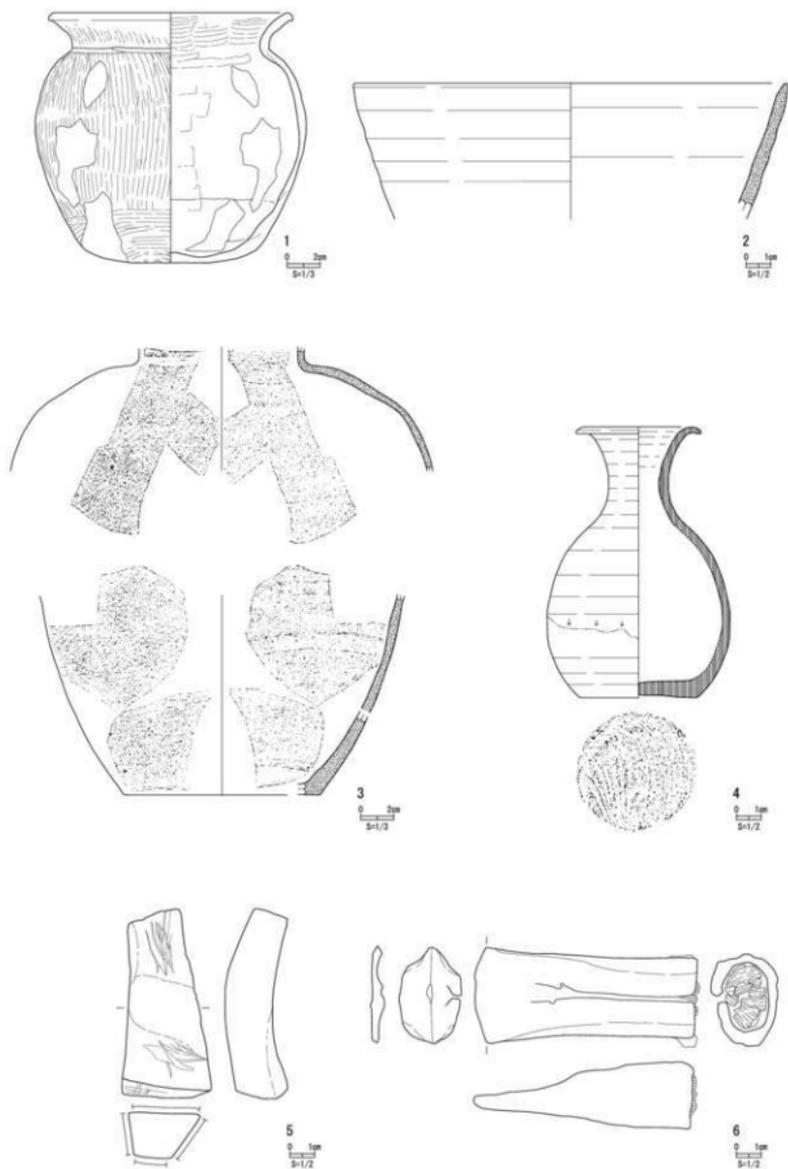
783.4

783.4

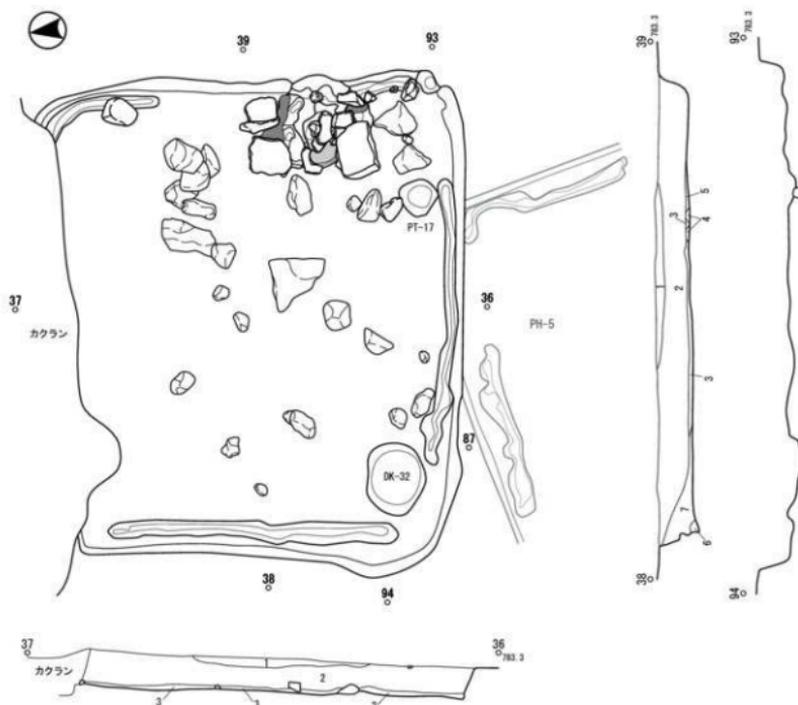
第 73 図 18号住居カマド・土器出土状況



第 74 图 18 号住居出土遗物



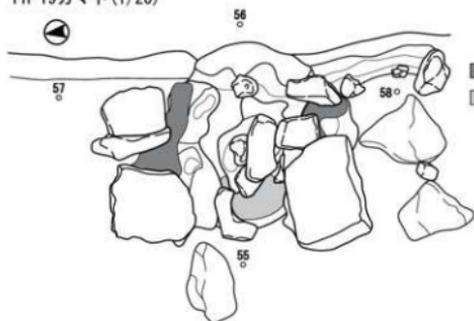
第 75 图 18 号住居出土遗物



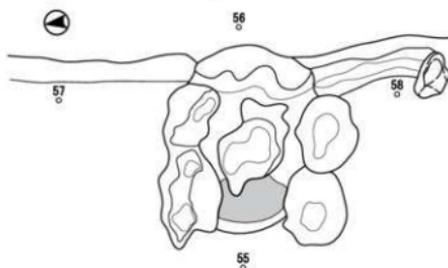
- 1層 10RQ2(3階)に10R6(2)にふい黄楊が00%, φ0.2~0.5cm粒子10R6(6)明黄楊が7%混じる。シルト粘土、ややしまる。
- 2層 10RQ2(2階)に10RQ2(3階)が10%, φ3mm以下ロームブロックを含む10R6(6)明黄楊粒子が7%, 陸土粒子φ0.2~0.3mm炭化物粒子φ0.3~1mmが7%混じる。シルト粘土、ややしまる。
- 3層 10RQ2(1階)に10RQ2(3階)が00%, φ1cm以下ロームブロックを含む10R6(6)明黄楊粒子が6%混じる。シルト粘土、しまる。
- 4層 (Rの層) 10R6(1階)に10R6(2)灰黄楊シルト粘土が15%混じる。
- 5層 10R4(2)灰黄楊に10RQ2(3階)が10%混じる。シルト粘土、しまる。
- 6層 10R6(4)にふい黄楊にφ1cm以下ロームブロックを含む10R6(6)明黄楊粒子が7%混じる。シルト粘土、ややしまる。
- 7層 10RQ2(3階)に10RQ2(2階)が00%, φ1cm以下ロームブロックを含む10R6(6)明黄楊粒子が7%混じる。シルト粘土、ややしまる。
- 地山 (壁) 10R6(6)黄楊に10R6(6)明黄楊が4%混じる。シルト粘土、しまる。
- 地山 (R) 10R6(6)明黄楊。シルト粘土、堅くしまる。

第 76 図 19号住居

PH-19カマド(1/20)



■ 構築材
■ 焼土



1層 10R5.2(裏縮)に10R4.2(表縮)が9R、10R6.6(別黄縮)が0.2-1.5m²ブロックが9R、10R5.6(明赤縮)が0.5-2m²焼土ブロックが充填する。シルト粒土、ややしる。

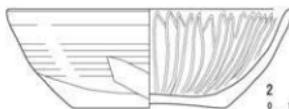
2層 10R6.1(縮0)に10R7.1(表0)が9R、10R5.2(表黄縮)シルト粒土が9R、10R6.6(別黄縮)が0.5-1m²ブロックが充填する。

3層 10R5.2(裏縮)に10R5.1(表縮)が9R、10R6.6(別黄縮)が0.2-1m²ブロックが充填する。シルト粒土、ややしる。

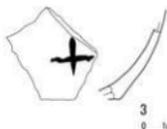
焼土 10R6.6(別)に10R5.6(明赤縮)が充填する。



1
0 1cm
5=1/2



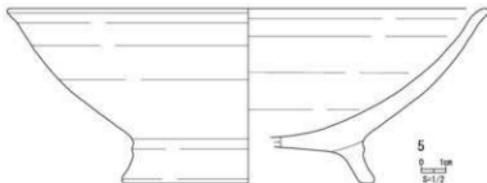
2
0 1cm
5=1/2



3
0 1cm
5=1/2

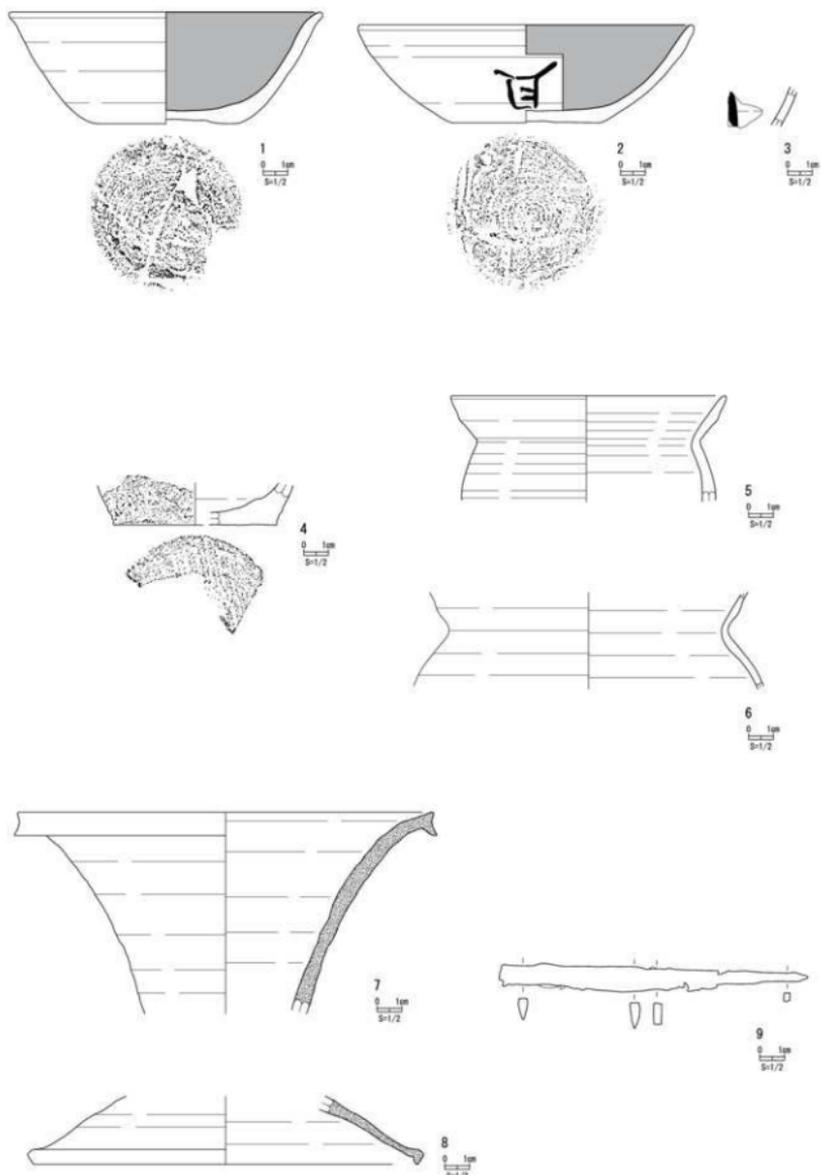


4
0 1cm
5=1/2



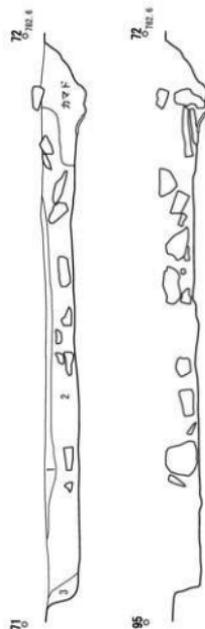
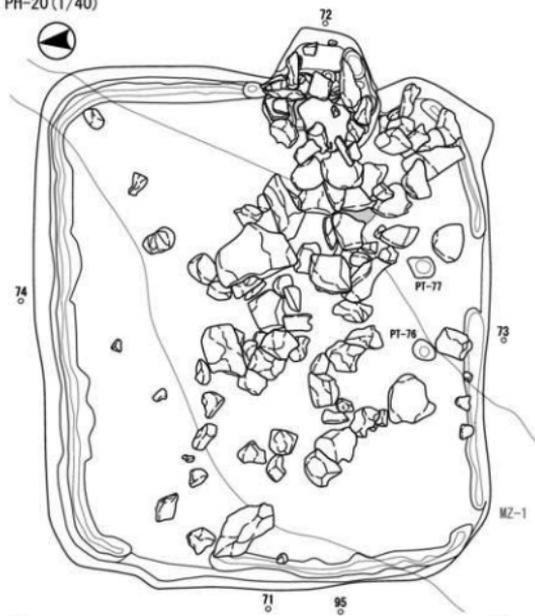
5
0 1cm
5=1/2

第 77 図 19号住居カマド・出土遺物



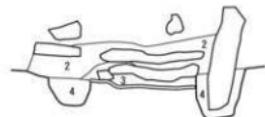
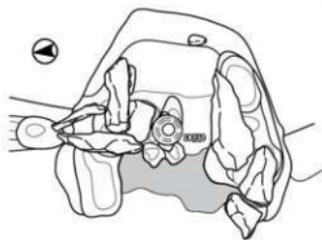
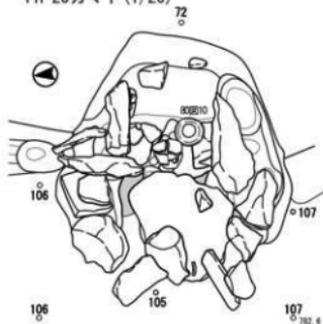
第 78 图 19 号住居出土遗物

PH-20 (1/40)



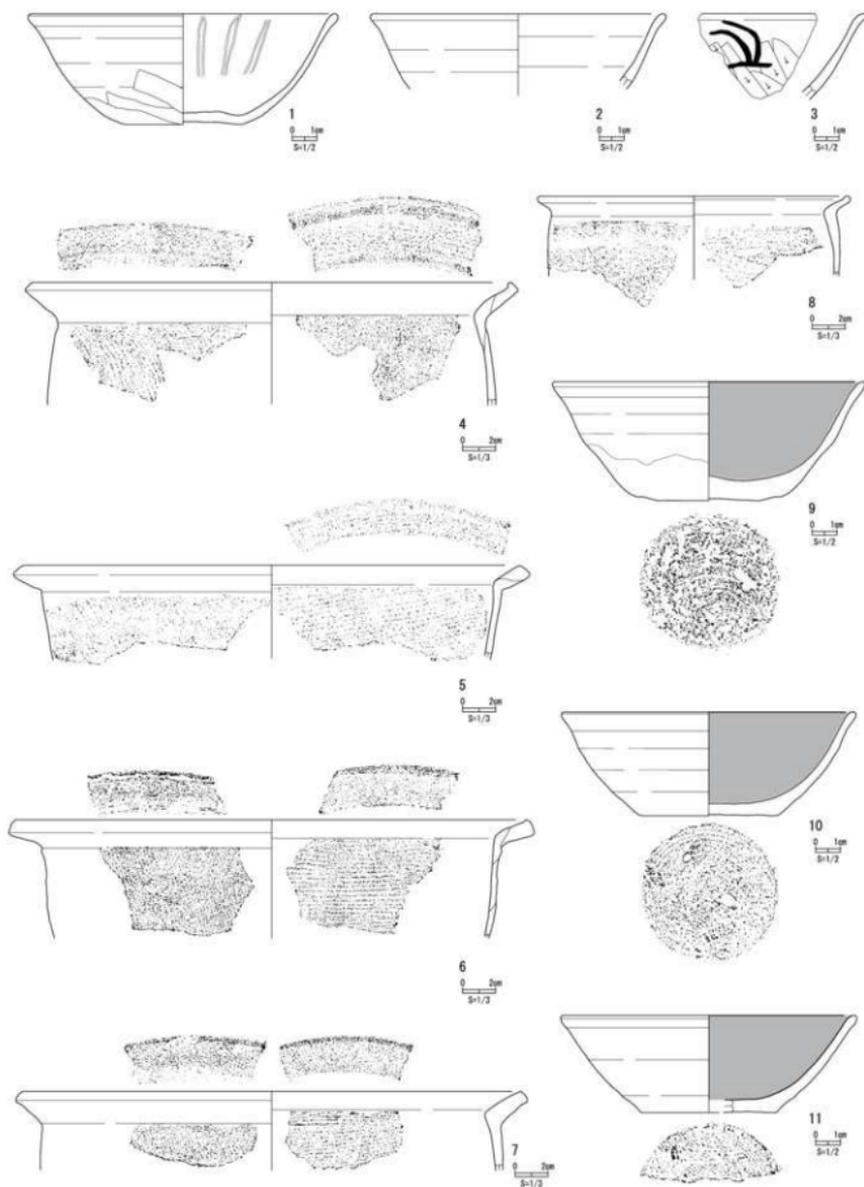
- 1層 1号溝埋土
 - 2層 10R2/3(黒縄)シルト粘土に10R5/6(黄縄)φ0.1m~2.5m粘質土粒子が多数混じる、ややしまる。
 - 3層 10R2/2(黒縄)に10R2/1(黒)・10R5/6(黄縄)φ0.1~0.5m粒子が多数混じる、シルト粘土、ややしまる。
 - 4層 10R3/3(黒縄)に10R5/6(黄縄)が多数混じる、シルト粘土、ややしまる。
- 地山 (壁・底)10R5/6(黄縄)に10R3/3(黒縄)が多数混じる、シルト粘土、固くしまる。

PH-20カマド (1/20)

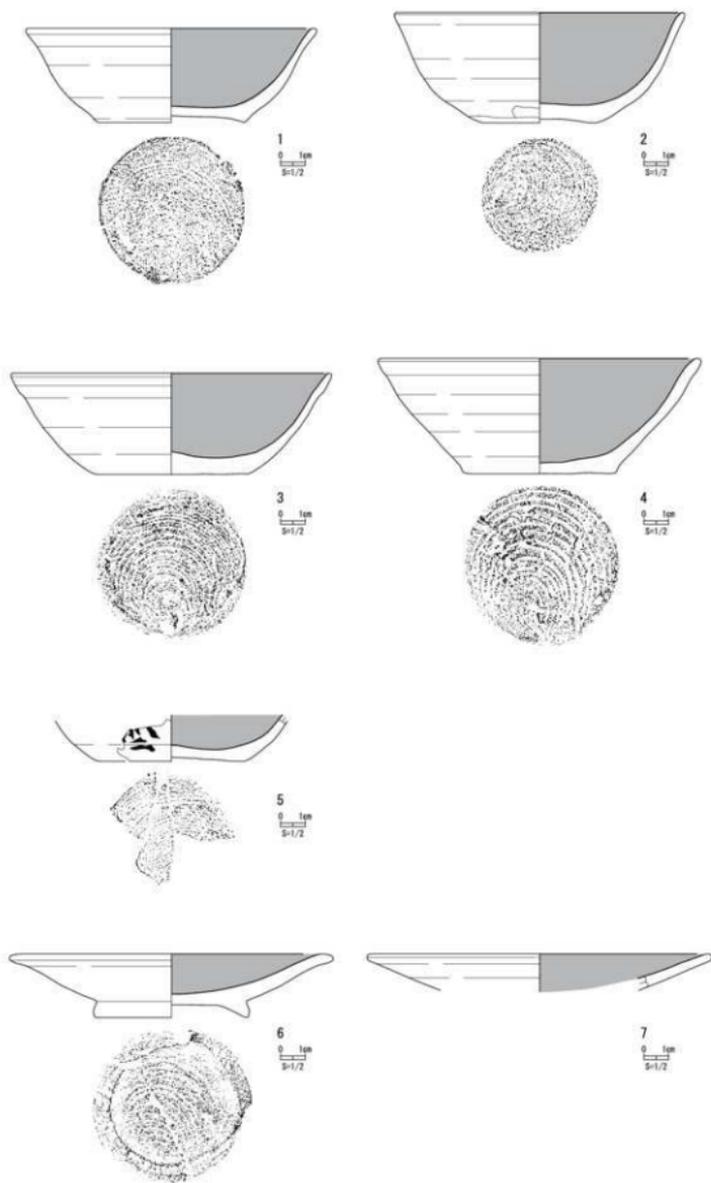


- 1層 10R2/3(黒縄)シルト粘土に10R5/6(黄縄)φ0.1~1m粘質土粒子が多数混じる、しまる。
 - 2層 10R2/3(黒縄)に10R5/4(白)・5(黄)が10R、10R5/6(黄縄)φ0.1~0.3m粒子が9%、粘土粒子が6%、炭化物粒子が7%混じる、シルト粘土、しまる。
 - 3層 10R3/3(黒縄)シルト粘土に粘土が9%混じる、ややしまる。
 - 4層 (カマド軸石ピットの埋土)10R2/3(黒縄)に10R3/4(黒縄)が20%、10R5/6(黄縄)φ0.1~0.5m粒子が7%、粘土粒子が7%混じる、シルト粘土、ややしまる。
- 地山 5R5/6(赤漆縄)。

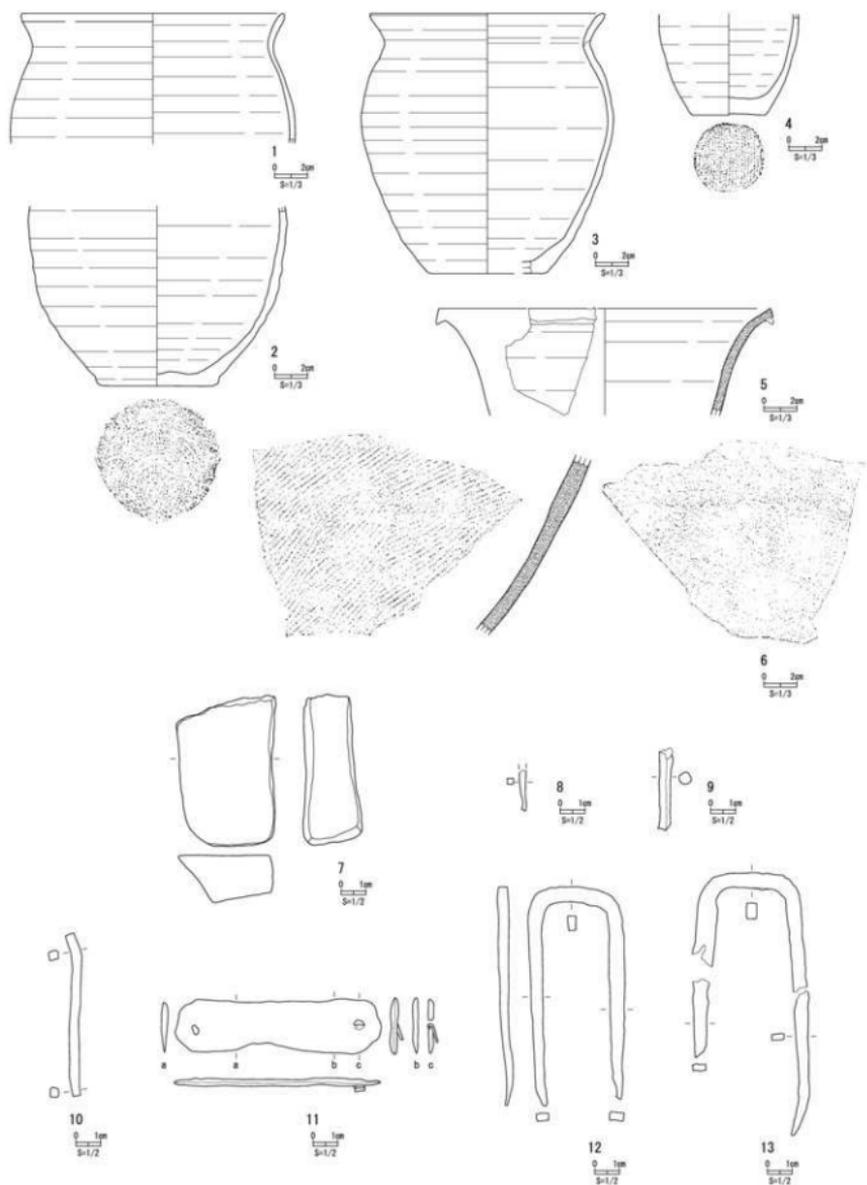
第 79 図 20号住居・カマド



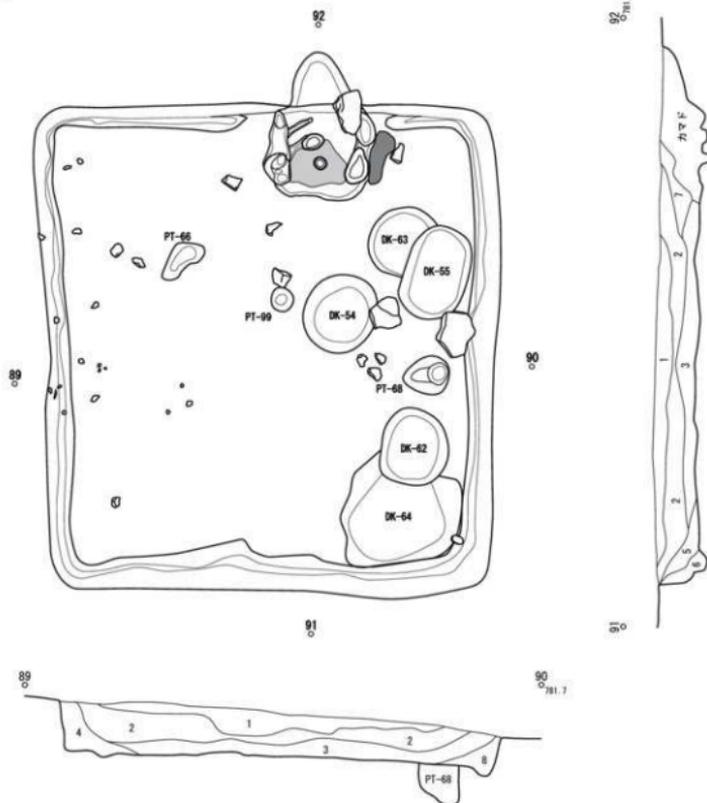
第 80 图 20 号住居出土遗物



第 81 图 20 号住居出土遗物



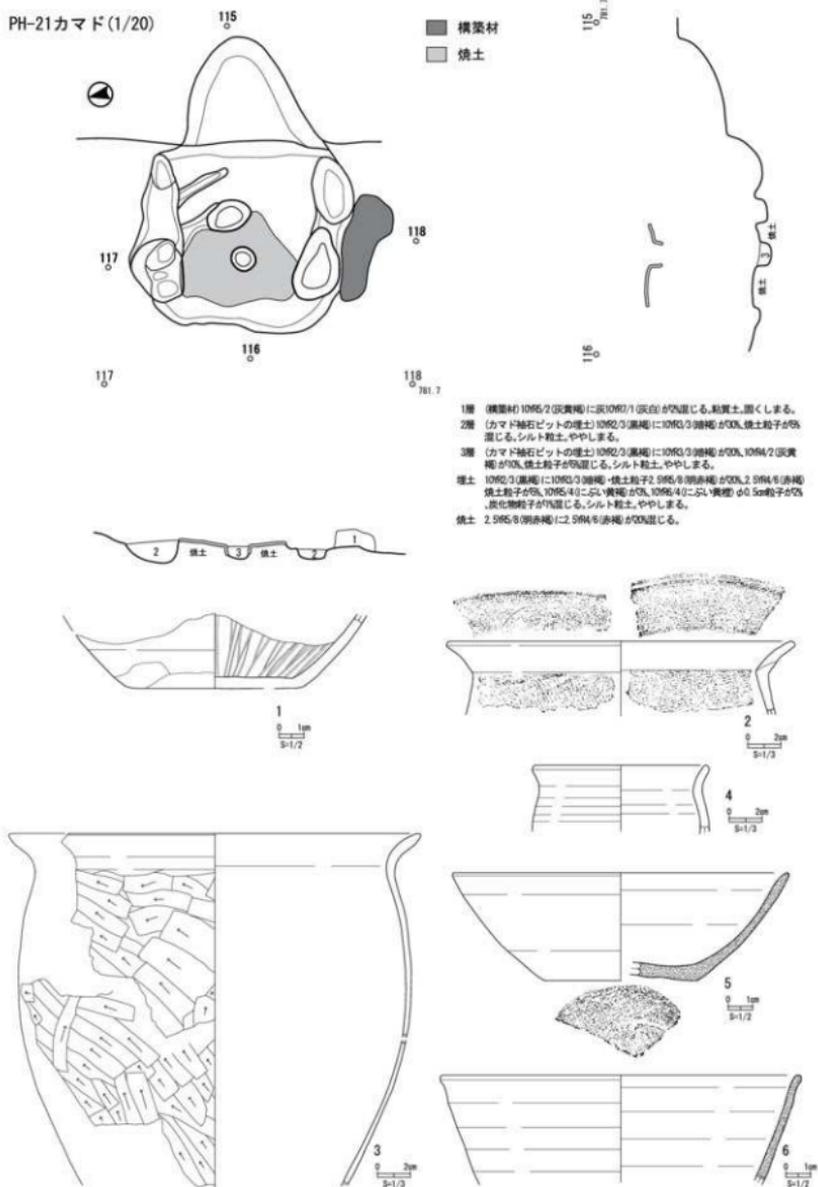
第 82 图 20 号住居出土遺物



- 1層 10R2(2)黒埴に10R2(2)黒埴・10R6(3)こぶし(黄埴)が90L, 10R6(4)こぶし(黄埴)が0.1m粒子が90L, 炭化物粒子・焼土粒子が7%以下混じる, シルト粘土, しまる。
 - 2層 10R2(2)黒埴に10R4(3)こぶし(黄埴)が90L, 10R5(3)こぶし(黄埴)が90L, 10R6(4)こぶし(黄埴)が0.1~0.5m粒子が90L, 焼土粒子が1%混じる, シルト粘土, しまる。
 - 3層 10R2(2)黒埴に10R2(2)黒埴が90L, 10R5(3)こぶし(黄埴)が90L, 10R6(4)こぶし(黄埴)が0.2~0.5m粒子が1%混じる, シルト粘土, ややしまる。
 - 4層 10R2(2)黒埴に10R2(2)黒埴が90L, 10R6(4)こぶし(黄埴)が0.1~0.5m粒子・焼土粒子が1%以下混じる, シルト粘土, しまる。
 - 5層 10R2(2)黒埴に10R2(2)黒埴・10R6(3)こぶし(黄埴)が90L, 10R6(4)こぶし(黄埴)が0.1~1m粒子が1%混じる, シルト粘土, ややしまる。
 - 6層 10R6(4)こぶし(黄埴)に10R2(2)黒埴が10%混じる, シルト粘土, ややしまる。
 - 7層 10R2(2)黒埴に10R4(3)こぶし(黄埴)・10R6(4)こぶし(黄埴)が90L, 10R6(4)こぶし(黄埴)が90L, 焼土粒子が15%混じる, シルト粘土, ややしまる。
 - 8層 10R2(2)黒埴 シルト粘土に10R4(3)こぶし(黄埴)粘質土粒子が90%混じる, ややしまる。
- 地山 (堅) 10R6(4)こぶし(黄埴)に10R6(5)明黄埴・10R2(2)黒埴が90%混じる, 粘質土, しまる。
 地山 10R6(4)こぶし(黄埴), 粘質土, 非常に固くしまる。

第 83 図 21号住居

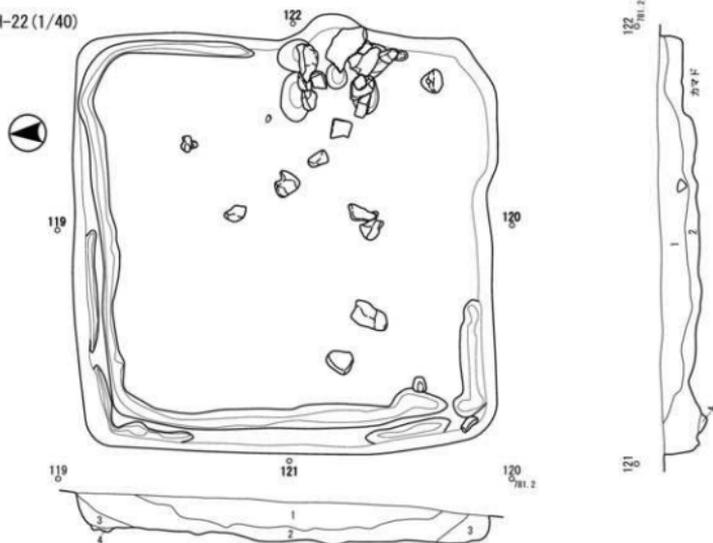
PH-21カマド(1/20)



- 1層 構築材10R5-2(灰質層)に灰10R7-1(灰白)が混在し、粘質土、固くしまる。
 - 2層 (カマド軸石ピットの埋土)10R2-3(黄層)に10R3-3(赤層)がOK、焼土粒子が%混在し、シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 (カマド軸石ピットの埋土)10R2-3(黄層)に10R3-3(赤層)がOK、10R4-2(灰質層)がOK、焼土粒子が%混在し、シルト粒土、ややしまる。
- 焼土 10R2-3(黄層)に10R5-3(赤層)・焼土粒子2.5R5-8(赤層)がOK、2.5R6-8(赤層)焼土粒子がOK、10R5-4に2.5R-黄層がOK、10R6-4に2.5R-黄層がOK、焼土粒子が%混在し、シルト粒土、ややしまる。
- 焼土 2.5R5-8(赤層)に2.5R6-8(赤層)がOK混在する。

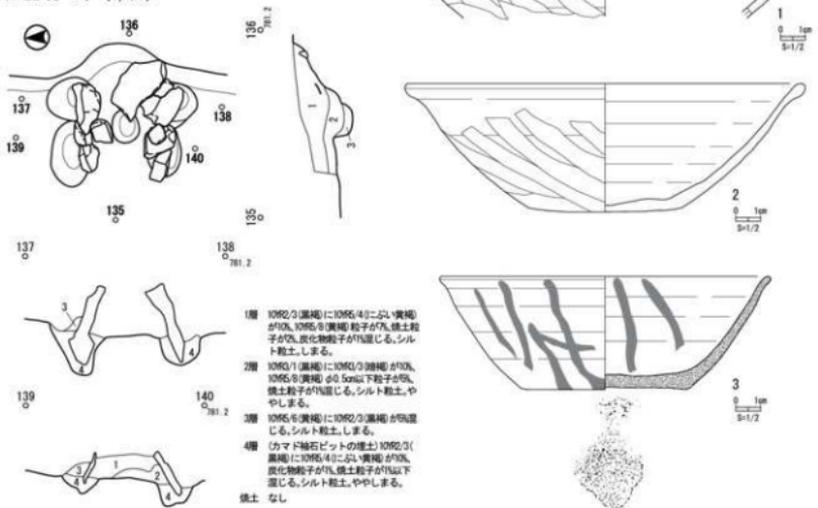
第 84 図 21号住居カマド・出土遺物

PH-22 (1/40)



- 1層 1092/2(溝堀)に1093/2(溝堀)が90%、1094/2(灰黄層)が90%、1095/4(こぶい黄層)が90%、1096/4(こぶい黄層)が90%、 $\phi 2 \sim 0.5\text{mm}$ 粒子が90%、 $\phi 0.2\text{mm}$ 粘土粒子が1%以下混入する。シルト粘土。しまる。
- 2層 1093/2(溝堀)に1093/2(溝堀)・1094/2(灰黄層)が90%、1096/4(こぶい黄層)が100%、 $\phi 1 \sim 0.5\text{mm}$ 粒子が90%、1096/4(こぶい黄層)が100%、 $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ロームブロックが20%混入する。シルト粘土。ややしまる。
- 3層 1093/2(溝堀)に1094/2(灰黄層)が90%、1095/4(こぶい黄層)が90%混入する。シルト粘土。しまる。
- 4層 1092/2(溝堀)に1093/2(溝堀)が90%混入する。シルト粘土。ややしまる。
- 地山 1096/4(こぶい黄層)に1095/4(こぶい黄層)が90%混入する。粘質土。固くしまる。

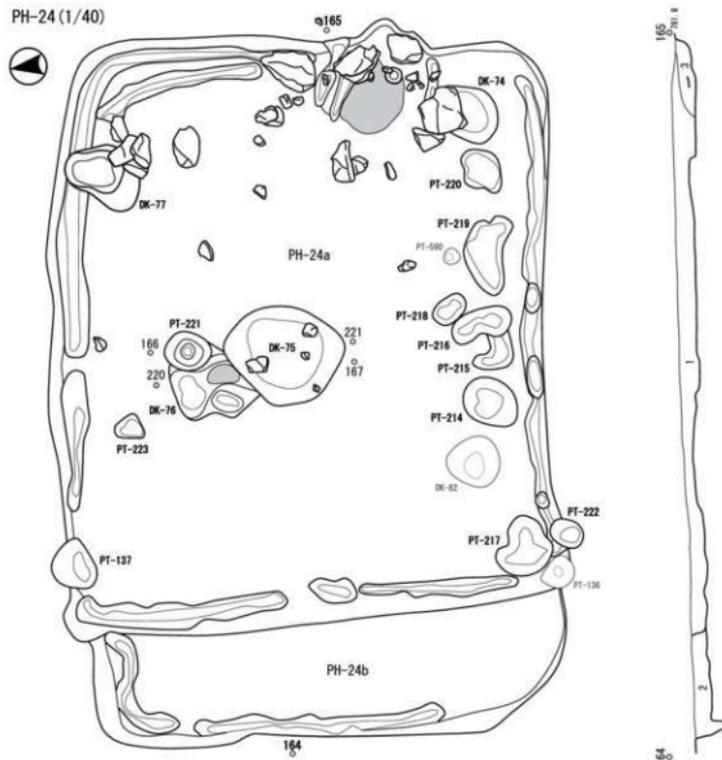
PH-22 カマド (1/30)



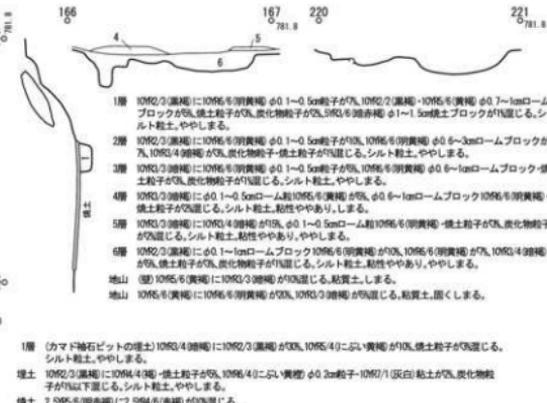
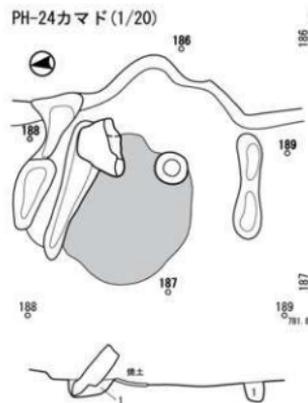
- 1層 1092/2(溝堀)に1095/4(こぶい黄層)が90%、1095/9(黄層)粒子が90%、焼土粒子が90%、炭化物粒子が1%混入する。シルト粘土。しまる。
- 2層 1092/2(溝堀)に1093/2(溝堀)が90%、1095/9(黄層)が90%、 $\phi 0.5\text{mm}$ 下粒子が90%、焼土粒子が1%混入する。シルト粘土。ややしまる。
- 3層 1095/9(黄層)に1092/2(溝堀)が90%混入する。シルト粘土。しまる。
- 4層 カマド地坑ピットの底土1092/2(溝堀)に1095/4(こぶい黄層)が90%、炭化物粒子が90%、焼土粒子が1%以下混入する。シルト粘土。ややしまる。
- 焼土 なし。

第 85 図 22号住居・カマド・出土遺物

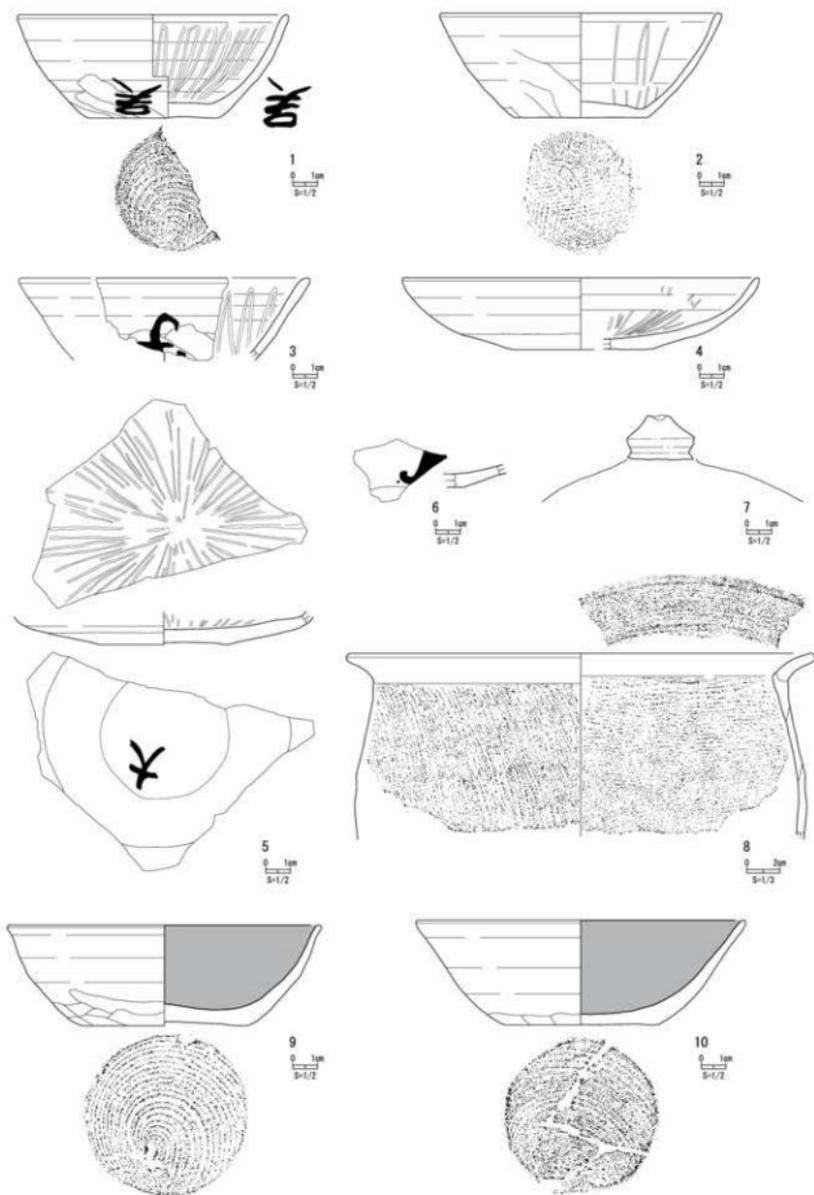
PH-24 (1/40)



PH-24カマド (1/20)



第 86 図 24号住居・カマド

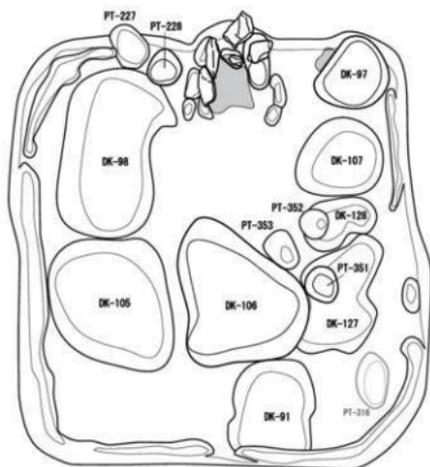
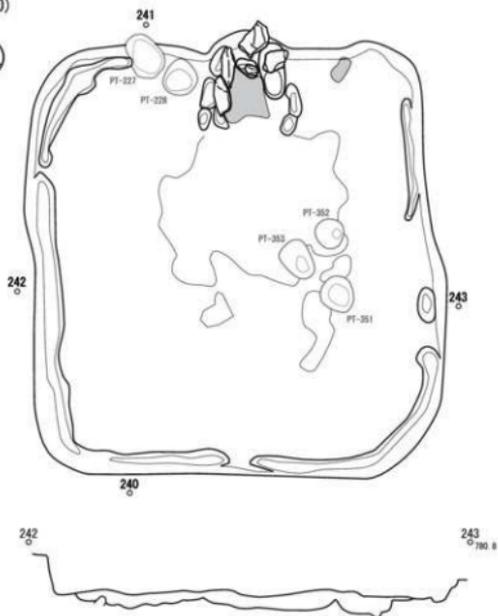


第 87 图 24 号住居出土遗物



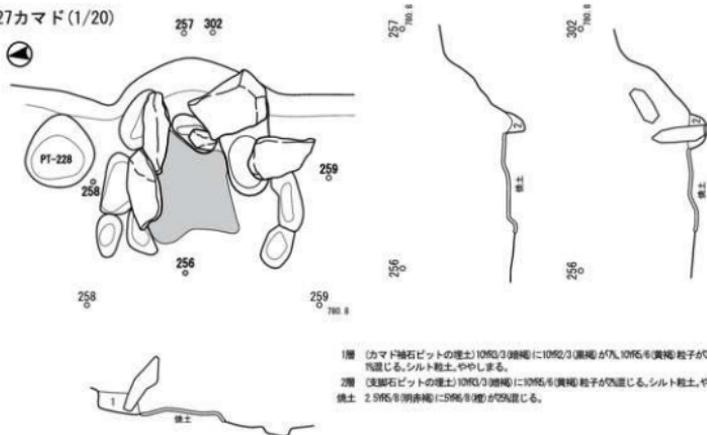
第 88 图 24 号住居出土遗物

PH-27 (1/40)

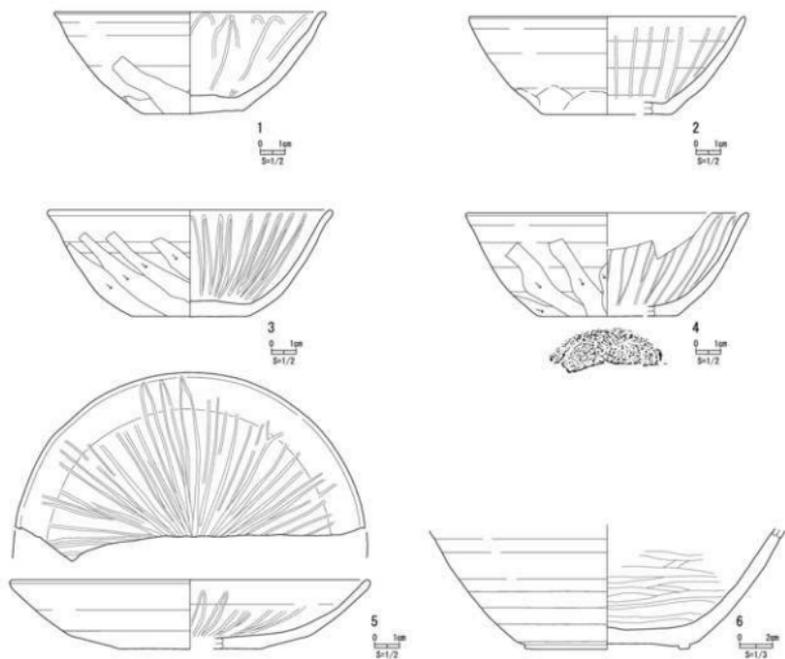


第 89 图 27 号住居

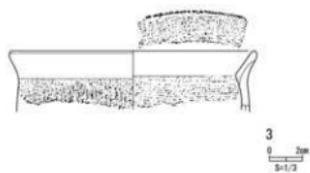
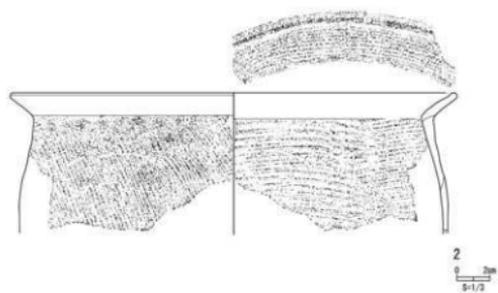
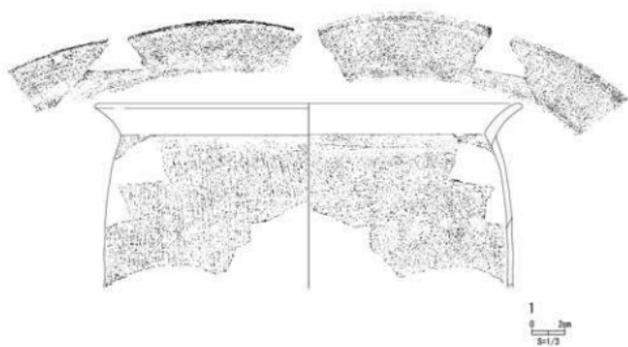
PH-27カマド(1/20)



- 1層 (カマド袖石ピットの埋土) 10R3の黒褐色に10R2の黒褐色が丸、10R5の黄褐色粒子が散在、焼土粒子が少量散在、シルト粘土、ややしめる。
 2層 (支脚石ピットの埋土) 10R3の黒褐色に10R5の黄褐色粒子が少量散在、シルト粘土、ややしめる。
 焼土 2.5R5の明赤褐色に5R6の黒褐色が少量散在。

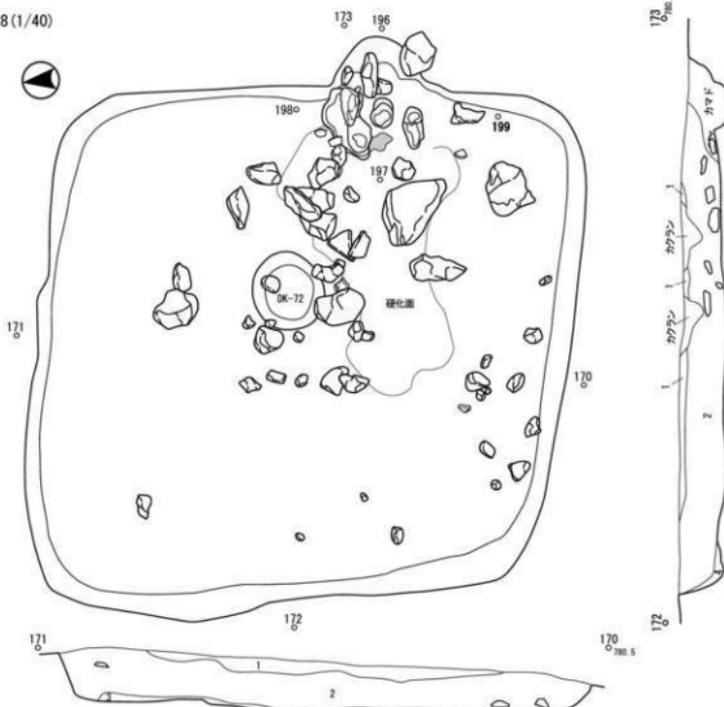


第 90 図 27号住居カマド・出土遺物



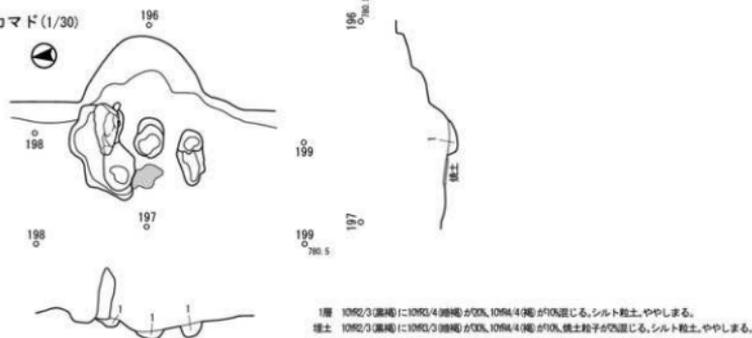
第 91 图 27 号住居出土遗物

PH-28 (1/40)



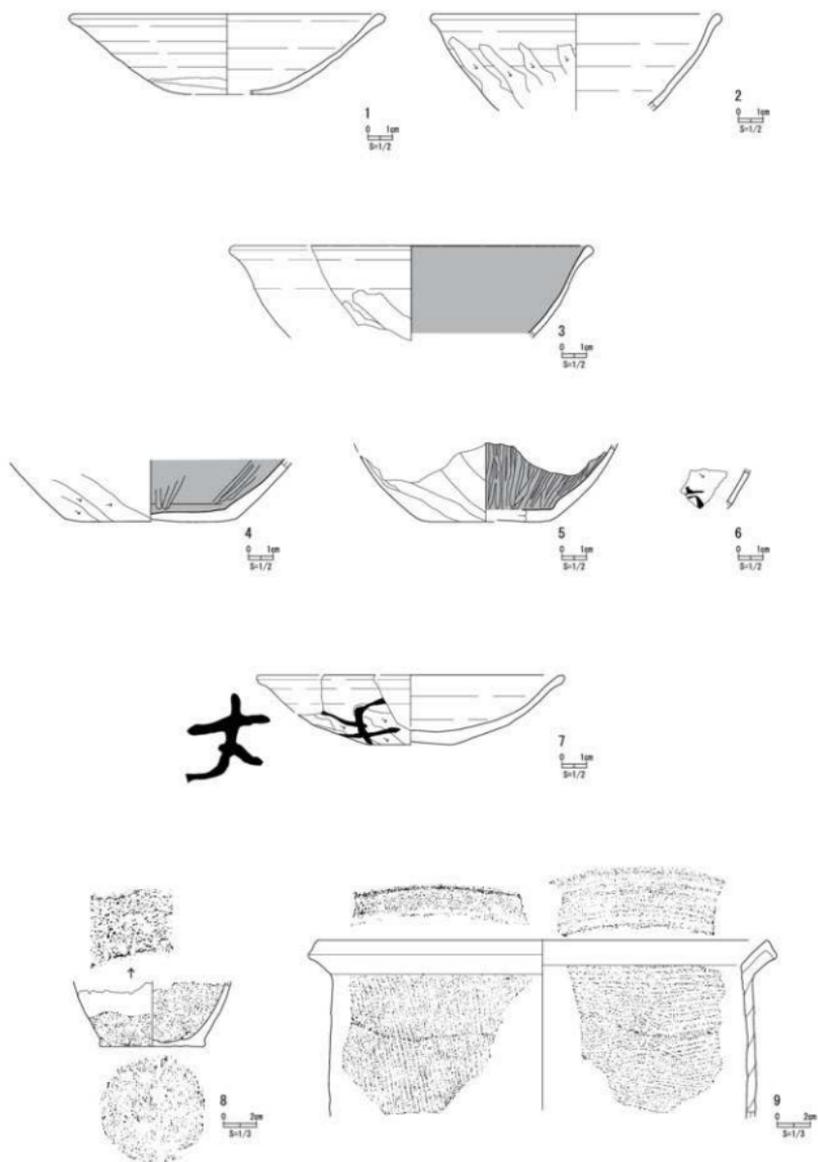
- 1層 1092/1(基)に1092/2(溝堀)が95, 1093/3(溝堀)が95, 焼土粒子が95, 1096/6(明黄縄) φ0.1-0.3mmが95に混じる。シルト粘土、ややしまる。
 - 2層 1092/2(溝堀)に1092/1(基)が95, 1093/3(溝堀)・1096/6(明黄縄) φ0.1-0.3mm粒子が95, 焼土粒子が95に混じる。シルト粘土、ややしまる。
 - 3層 1094/6(堀)に1092/2(溝堀)が95, 1096/6(明黄縄) φ0.1-0.3mm粒子・焼土粒子が95に混じる。シルト粘土、しまる。
 - 4層 1092/2(溝堀)に1094/6(堀)が95に混じる。シルト粘土、ややしまる。
- 地山 (基) 1094/6(堀)に1093/3(溝堀)が95に混じる。シルト粘土、しまる。
 地山 (基) 1094/3(2)に5.1黄縄に1092/6(明黄縄)が95, 1093/6(黄縄)が95に混じる。粘質土、固くしまる。

PH-28カマド (1/30)

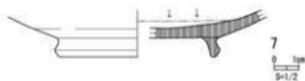
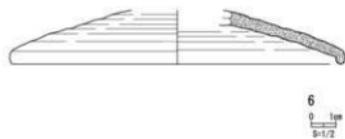
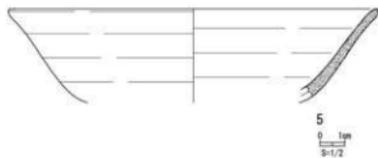
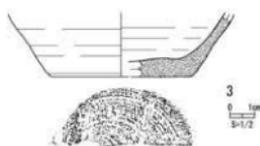
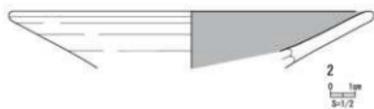
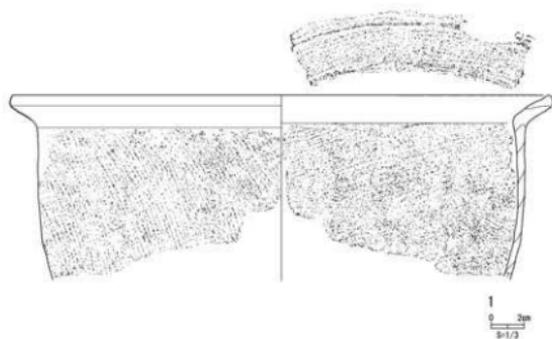


- 1層 1092/3(溝堀)に1093/4(溝堀)が95, 1094/4(堀)が95に混じる。シルト粘土、ややしまる。
- 2層 1092/3(溝堀)に1093/3(溝堀)が95, 1094/4(堀)が95, 焼土粒子が95に混じる。シルト粘土、ややしまる。

第 92 図 28号住居・カマド

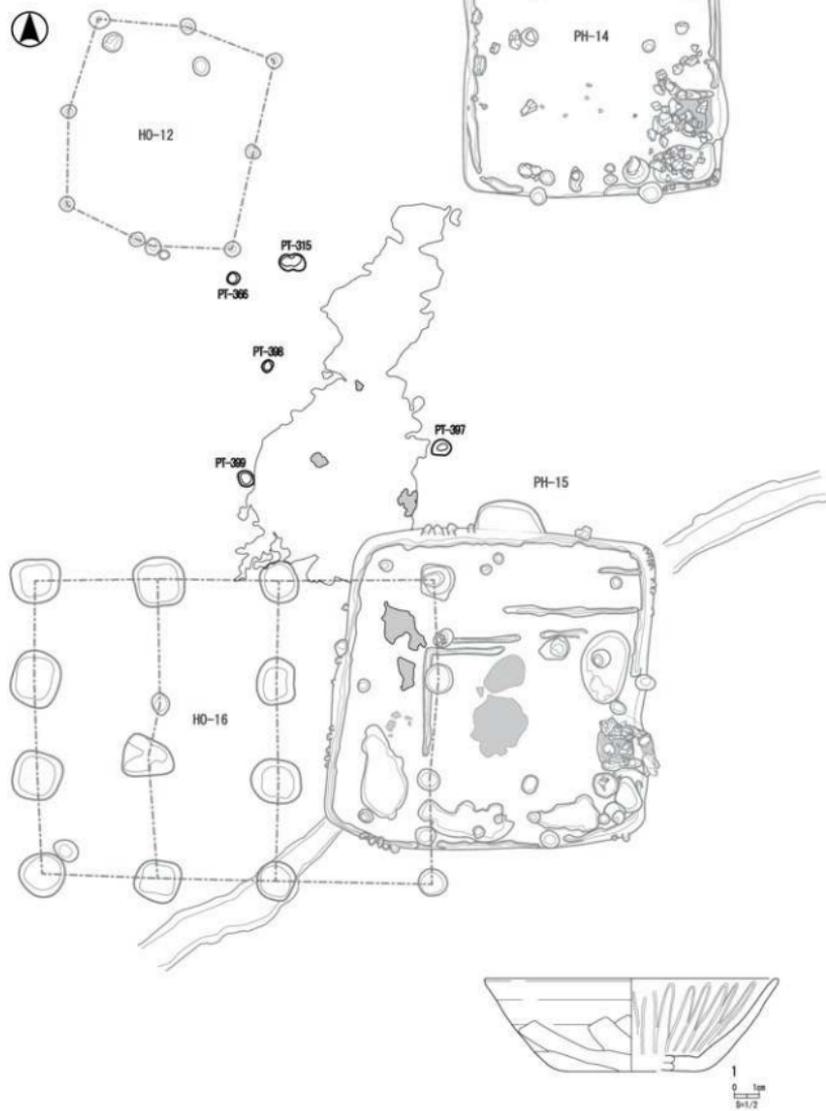


第 93 图 28 号住居出土遗物

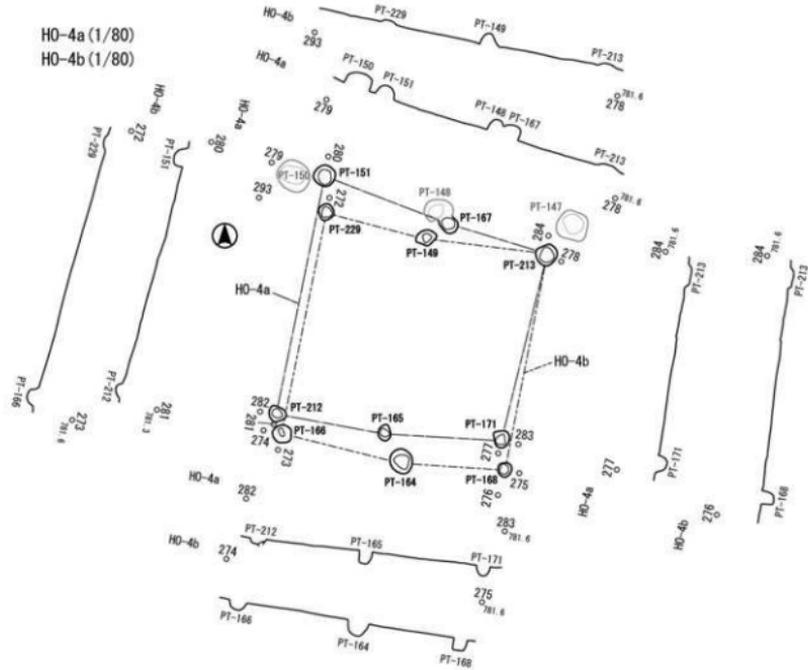
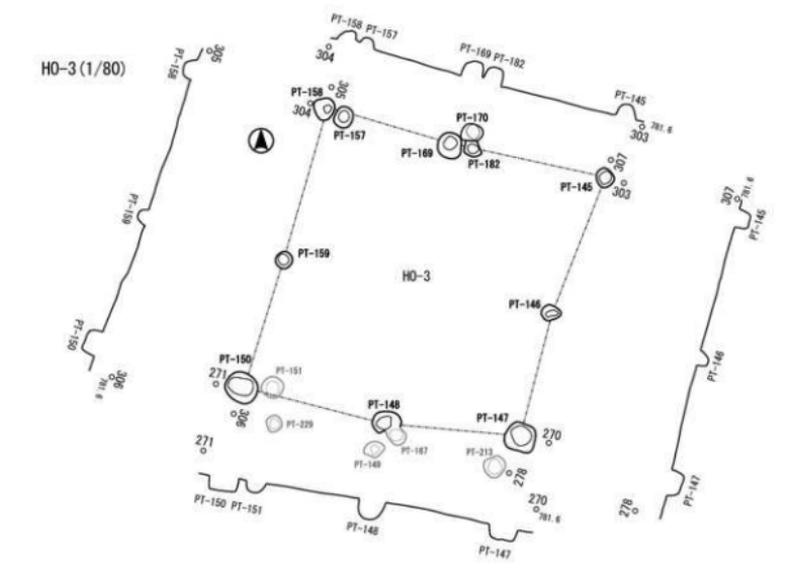


第 94 图 28 号住居出土遗物

KM-1 (1/100)

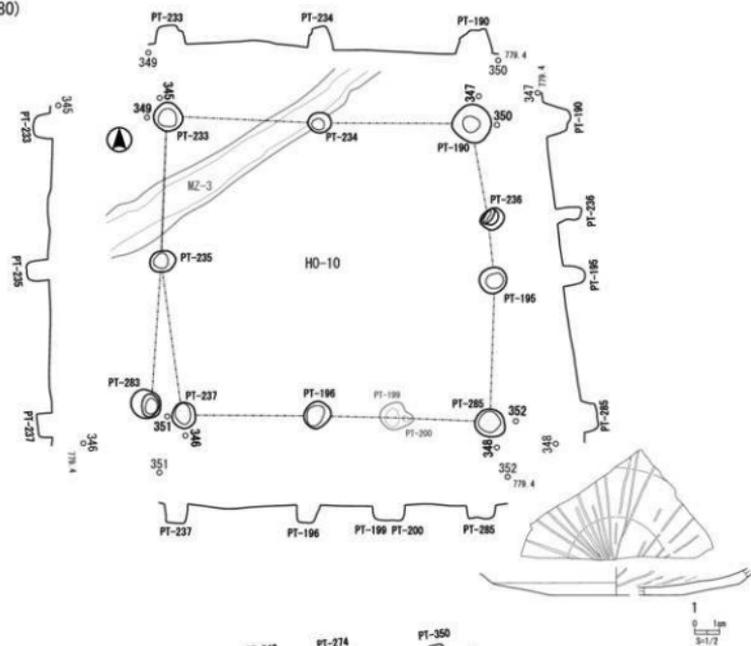


第 95 图 1号硬化面・出土遺物

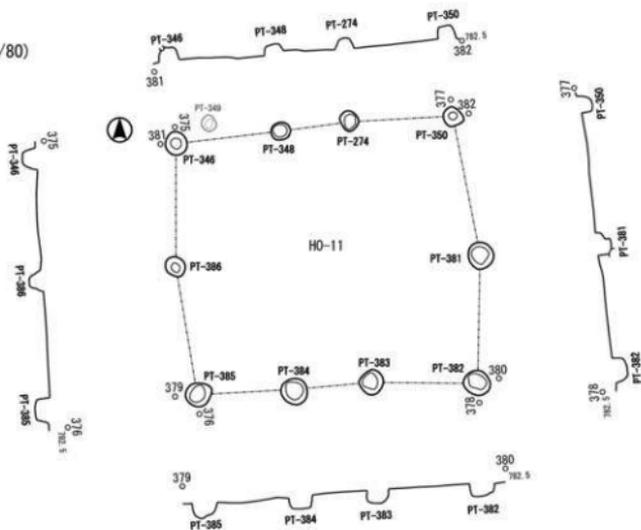


第 97 图 3号掘立柱建物 4a·4b号掘立柱建物

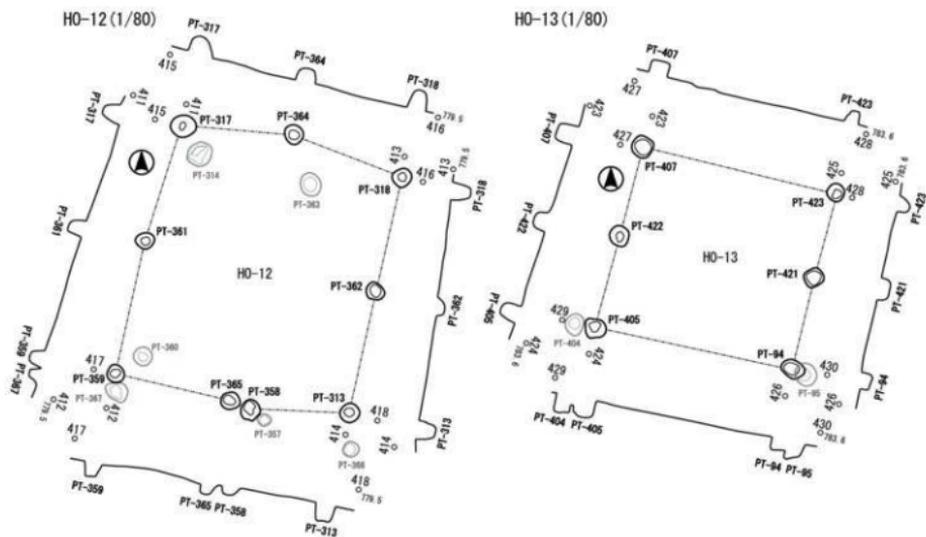
HO-10 (1/80)



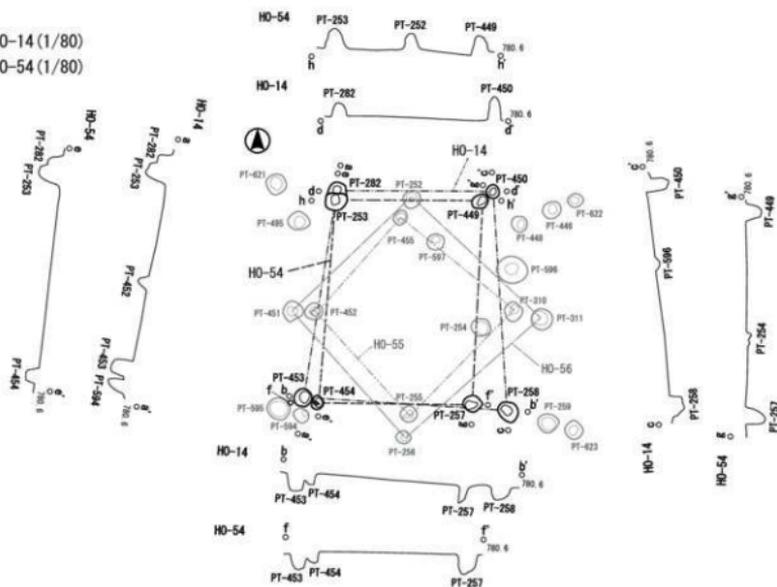
HO-11 (1/80)



第 99 图 10号掘立柱建物・出土遺物 11号掘立柱建物

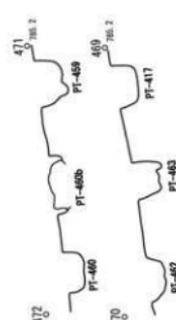
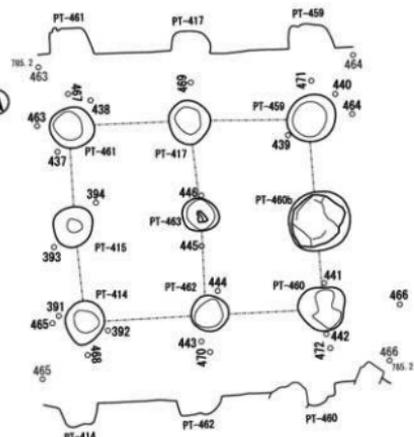


HO-14 (1/80)
HO-54 (1/80)



第 100 图 12号掘立柱建物 13号掘立柱建物 14号・54号掘立柱建物

HO-15 (1/80)



PT-414 (1/40)

391 392
785.2



- 1層 柱底 1094.2(遺構)に1095.6(黄楊)が90、1096.6(黄楊)が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1094.4(9)に1095.6(黄楊)が00L、1096.6(黄楊)が90混じる。シルト粒土、しまる。
 - 3層 1096.4(9)に1096.6(黄楊)が90L、1096.6(黄楊)が90混じる。シルト粒土、しまる。
- 地山 1096.6(黄楊)に1092.7(黄楊)が10cm下ロームブロックが90混じる。シルト粒土、しまる。

PT-415 (1/40)

393 394
785.2



- 1層 柱底 1092.2(遺構)に1092.2(遺構)が00L、1095.6(黄楊)が10cm下ロームブロックが90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1092.2(遺構)に1094.4(9)が90L、1095.6(黄楊)が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 1092.2(遺構)に1094.4(9)が90L、1095.6(黄楊)が10cm下ロームブロックが90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 4層 1095.6(黄楊)に1094.4(9)が90L、1096.6(黄楊)が10cm下ロームブロックが90混じる。シルト粒土、しまる。
- 地山 1095.6(黄楊)に1096.6(黄楊)が1~2cmロームブロックが90混じる。シルト粒土、しまる。

PT-459 (1/40)

439 440
785.2



- 1層 柱底 1092.2(遺構)に1093.2(遺構)が00L、1095.6(黄楊)が90L、1096.4(4)に5cmロームブロックが90以下混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1093.2(遺構)に1095.6(黄楊)が00L、1092.2(遺構)が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 1093.2(遺構)に1095.6(黄楊)が00混じる。シルト粒土、ややしまる。
- 地山 1096.4(4)に5cm黄楊、粘質土、固くしまる。

PT-460 (1/40)

441 442
785.2



- 1層 1092.2(遺構)に1094.2(2)に5cm黄楊が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1094.2(2)に1093.2(遺構)が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 1094.2(2)に1095.4(2)に5cm黄楊が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 4層 柱底 1092.2(遺構)に1094.2(2)に5cm黄楊が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
- 地山 1096.4(4)に5cm黄楊、粘質土、固くしまる。

PT-461 (1/40)

437 438
785.2



- 1層 1092.1(遺)に1092.2(遺構)が90L、1094.2(2)に5cm黄楊が90、7.5(9)4(9)が90以下混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1092.2(遺構)に1093.2(遺構)が00L、1094.2(2)に5cm黄楊が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 柱底 1092.1(遺)に1092.2(遺構)が90L、1094.2(2)に5cm黄楊が90混じる。シルト粒土、しまる。
- 地山 1094.2(2)に5cm黄楊に1094.2(2)に5cm黄楊が90混じる。粘質土、しまる。

PT-462 (1/40)

443 444
785.2



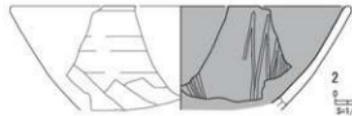
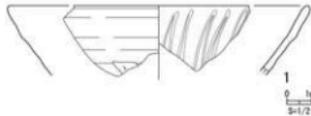
- 1層 1094.2(2)に5cm黄楊に1093.1(遺構)が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 柱底 1092.1(遺)に1093.1(遺構)が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
- 地山 1094.2(2)に5cm黄楊に1094.2(2)に5cm黄楊が90混じる。粘質土、しまる。

PT-463 (1/40)

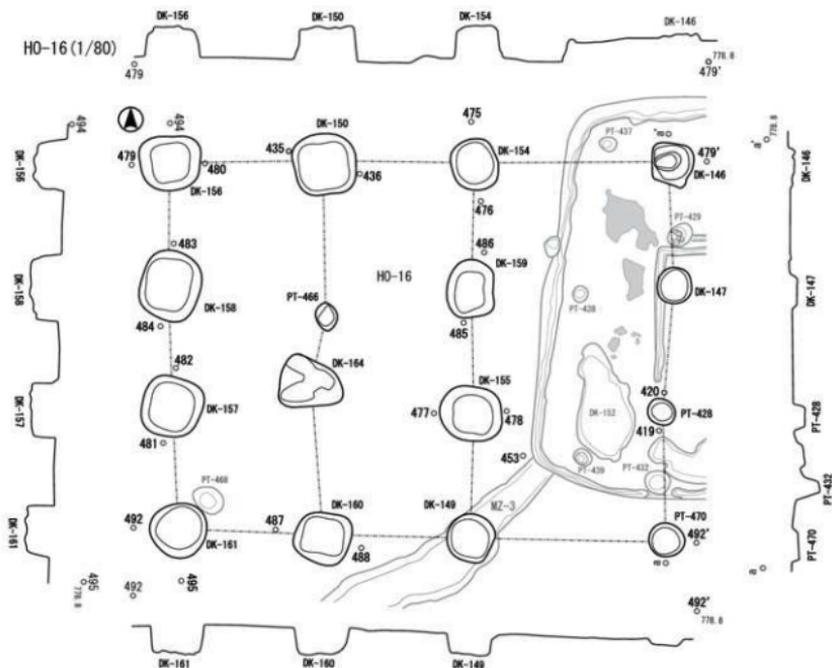
445 446
785.2



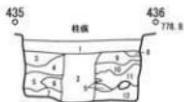
- 1層 1092.2(遺構)に1092.1(遺)が90L、1093.2(遺構)が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1092.2(遺構)に1092.1(遺)が90L、1093.2(遺構)が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 1092.2(遺構)に1092.2(遺構)が90L、1093.2(遺構)が90、5cm粒子が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
 - 4層 1092.2(遺構)に1092.1(遺)が90混じる。シルト粒土、ややしまる。
- 地山 1094.2(2)に5cm黄楊に1094.2(2)に5cm黄楊が90混じる。粘質土、しまる。



第 101 図 15号掘立柱建物・柱穴断面図・出土遺物

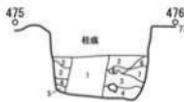


DK-150 (1/40)



- 1層 1092.0(遺構)に1094.6(遺構)がOK, 1094.6(遺構)がφ2.3m以下粒子が充填する。シルト粘土。しまる。
 - 2層 (柱穴) 1092.2(遺構)に1095.4にふい責機が充填する。シルト粘土。ややしまる。
 - 3層 1092.2(遺構)に1094.4(遺構)がOK, 1092.2(遺構)がφ2.3m以下粒子が充填する。シルト粘土。ややしまる。
 - 4層 1092.3(遺構)に1094.4(遺構)がOK, 1092.2(遺構)がOK, 1092.3(遺構)がφ1.3mロームブロックが充填する。シルト粘土。ややしまる。
 - 5層 1092.3(遺構)にφ0.2m以下粒子1094.6(遺構)が充填する。シルト粘土。ややしまる。
 - 6層 1092.3(遺構)に1094.4(遺構)がOK, 1092.3(遺構)がOK, 1092.3(遺構)がφ1.3m以下ロームブロックが充填する。シルト粘土。ややしまる。
 - 7層 ロームブロック1092.3(明黄燻)シルト粘土。固くしまる。
 - 8層 1094.4(層)に1092.2(遺構)がOK, 1095.5(遺構)がφ0.2m以下粒子が充填する。シルト粘土。しまる。
 - 9層 1094.4(層)に1092.3(明黄燻)がφ2mロームブロックがOK, 1095.5(遺構)がOK, 1092.3(明黄燻)が1m以下ロームブロックが充填する。シルト粘土。しまる。
 - 10層 1092.3(遺構)に1094.4(層)がOK, 1092.3(明黄燻)がφ1.2mロームブロックが充填する。シルト粘土。しまる。
 - 11層 1094.4(層)に1092.3(明黄燻)がφ2mロームブロックがOK, 1095.5(明黄燻)がφ3mロームブロックがOK, 1092.3(明黄燻)がφ1.2mロームブロックがOK, 1092.2(遺構)が充填する。シルト粘土。ややしまる。
 - 12層 1094.4(層)に1092.3(明黄燻)がφ4mロームブロックがOK, 1092.3(明黄燻)がφ1.2mロームブロックがOK, 1092.2(遺構)が充填する。シルト粘土。しまりなし。
- 地山 1092.3(明黄燻)ロームブロックに1094.6(層)がOK, 固くしまる。粘質土。固くしまる。

DK-154 (1/40)



- 1層 (柱穴) 1092.3(遺構)に1092.2(遺構)がOK, 1092.3(明黄燻)がφ2mロームブロック(菓子含む)がOK, 1095.5(明黄燻)が充填する。シルト粘土。しまる。
 - 2層 1092.3(遺構)に1092.3(遺構)がOK, 1096.4(にふい責機)がOK, 1095.5(明黄燻)がφ0.2m以下粒子がOK, 1095.5(明黄燻)が充填する。シルト粘土。固くしまる。
 - 3層 1096.4(にふい責機)に1095.2(灰黄燻)がOK, 1095.5(遺構)がOK, 1092.3(明黄燻)が充填する。シルト粘土。しまる。
 - 4層 1092.3(明黄燻)に1095.5(遺構)がOK, 1092.3(遺構)が充填する。シルト粘土。しまる。
 - 5層 1092.3(遺構)に1095.5(遺構)がOK, 1092.3(明黄燻)が充填する。シルト粘土。しまる。
 - 6層 1094.2(灰黄燻)に1095.1(層)がOK, 1092.3(明黄燻)がφ2.3m以下ロームブロック(菓子含む)がOK, 1095.5(明黄燻)が充填する。シルト粘土。しまる。
 - 7層 1095.2(灰黄燻)に1095.5(遺構)がOK, 1092.3(明黄燻)がφ1.3m以下ロームブロック(菓子含む)が充填する。シルト粘土。しまる。
- 地山 1092.3(明黄燻)に1095.5(明黄燻)がOK, 1095.5(明黄燻)が充填する。シルト粘土。固くしまる。

第 102 図 16号掘立柱建物・柱穴断面図・出土遺物

DK-155 (1/40)



- 1層 (柱底) 10R2.4層に10R4.3に含み質層・10R2.3層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 1.5mロームブロック・10R6.4に含み質層 ϕ 0.2m粒子が9L,炭化物粒子が7%以下混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 2層 10R5.4に含み質層に10R6.4に含み質層が20L, 10R2.4層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5m粒子が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 3層 10R2.4層に10R2.3層・10R6.4に含み質層 ϕ 1mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 4層 10R2.4層に10R5.4に含み質層が20L, 10R6.4に含み質層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5~1mロームブロックが70L, 2.5R6.6明赤層が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 5層 10R2.4層に10R2.3層・2.5R6.6明赤層 ϕ 1mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 6層 10R2.4層に10R6.4に含み質層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.2~0.5m粒子が70L, 2.5R6.6明赤層が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 7層 10R2.3層に10R6.6質層が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 地山 10R6.4に含み質層に10R6.6質層が7%混じる。粘質土にシルト粘土を含む。固くしめる。

DK-156 (1/40)



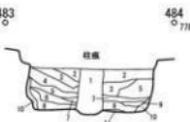
- 1層 (柱底) 10R2.2層に10R4.2含み質層が20L, 10R7.6明赤層 ϕ 2~2.5mロームブロックが70L, 10R7.6明赤層 ϕ 0.2m以下粒子が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 2層 10R4.2含み質層に10R6.4に含み質層が70L, 10R2.2層が70L, 10R7.6明赤層 ϕ 0.2~0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 3層 10R5.2含み質層に10R7.6明赤層 ϕ 2~2.5mロームブロックが70L, 10R4.2含み質層が7%混じる。シルト粘土, 固くしめる。
- 4層 10R6.4に含み質層に10R7.6明赤層 ϕ 0.2~1.5mロームブロックが70L, 10R5.2含み質層が7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 5層 10R5.2含み質層に10R4.2含み質層が70L, 10R7.6明赤層 ϕ 0.2~1.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 6層 10R5.2含み質層に10R6.6明赤層が70L, 10R7.6明赤層 ϕ 2~1mロームブロックが70L, 10R4.2含み質層が7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 7層 10R4.2含み質層に10R2.2層が70L, 10R7.6明赤層 ϕ 0.2~0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 8層 10R7.3に含み質層に10R7.6明赤層が20L, 10R2.2層が70L, 10R7.3に含み質層 ϕ 0.5~2mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 9層 10R5.2に含み質層に10R7.6明赤層・10R2.2層が70L, 10R7.4に含み質層 ϕ 0.5~1mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 10層 10R5.2含み質層に10R7.6明赤層 ϕ 0.5~2.5mロームブロックが70%混じる。シルト粘土, しめる。
- 11層 10R2.1層に10R4.2含み質層が7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 12層 10R5.2に含み質層に10R4.2含み質層が7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 13層 10R7.4に含み質層に10R4.2含み質層が70L, 10R7.6明赤層 ϕ 0.2m以下粒子が7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 14層 ブロック状になった岩化した岩盤(10R6.4に含み質層)に10R7.3に含み質層が20L, 10R7.6明赤層が7%混じる。地山の風化岩盤を掘って埋め戻したためブロック状に出てきた。
- 15層 10R4.2含み質層に10R6.3に含み質層が70L, 10R7.6明赤層 ϕ 0.2~1mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 16層 10R5.2に含み質層に10R7.6明赤層が70L, 10R7.6明赤層 ϕ 0.2~1mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 地山 (壁面) 10R7.6明赤層に10R6.6明赤層が20L, 10R7.6明赤層が7%混じる。風化した岩盤, しめる。
- 地山 (底面) 10R7.6明赤層に10R7.3に含み質層が20L, 10R6.6明赤層が7%混じる。風化した岩盤。

DK-157 (1/40)



- 1層 (柱底) 10R2.4層に10R2.3層が20L, 10R5.4に含み質層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.2m粒子が9L,炭化物粒子が7%以下混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 2層 10R2.4層に10R6.4に含み質層 ϕ 0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 3層 10R2.4層に10R5.4に含み質層が20L, 10R2.3層に10R6.4に含み質層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 4層 10R5.4に含み質層に10R6.4に含み質層・10R4.4層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.2m粒子が70L, 10R2.3層が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 5層 10R2.4層に10R5.4に含み質層・10R4.4層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 6層 10R6.4に含み質層に10R6.4に含み質層が70%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 7層 10R2.3層に10R5.4に含み質層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 1mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 8層 10R6.4に含み質層に10R6.4に含み質層が20L, 10R4.4層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 9層 10R2.4層に10R2.3層が20L, 10R4.4層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 10層 10R6.4に含み質層に10R4.4層が70L, 10R6.4層が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 地山 10R2.4層に10R2.3層が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 地山 10R6.4に含み質層に10R6.4に含み質層が7%混じる。粘質土, ややしめる。

DK-158 (1/40)



- 1層 (柱底) 10R2.4層に10R2.3層が20L, 10R5.6明赤層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.2m粒子が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 1mロームブロック・10R7.2に含み質層 ϕ 0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 2層 10R4.4層に10R2.4層が20L, 10R5.6明赤層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 3層 10R2.4層に10R6.4層が20L, 10R6.4に含み質層 ϕ 1mロームブロックが70L, 10R2.3層が7%混じる。シルト粘土, しめる。
- 4層 10R5.6明赤層に10R4.4層が20L, 10R6.4に含み質層が70L, 10R2.4層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 5層 10R2.4層に10R6.4層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5~1mロームブロックが70L, 10R2.3層が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 6層 10R4.2含み質層に10R5.6明赤層が70L, 10R2.4層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 1mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 7層 10R2.4層に10R6.6明赤層が20L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5mロームブロックが70L, 10R2.3層が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 8層 10R4.4層に10R2.4層が20L, 10R2.3層が70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 0.5~2mロームブロックが70L, 10R6.4に含み質層 ϕ 1×2mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 9層 10R2.4層に10R4.4層が70L, ϕ 0.5mロームブロック10R6.4に含み質層が7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 10層 10R4.2に含み質層, シルト粘土, ややしめる。
- 地山 10R4.4層に10R5.6明赤層・10R6.4に含み質層 ϕ 1×1.5mロームブロックが7%混じる。シルト粘土, ややしめる。
- 地山 10R6.4に含み質層に10R6.6明赤層が7%混じる。風化した岩盤, 固くしめる。

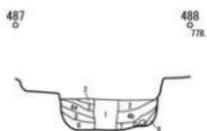
第 103 図 16号掘立柱建物柱穴断面図

DK-159 (1/40)



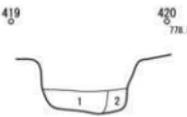
- 1層 03面 1092/2(遺構)に1095/2(灰黄層)φ10m以下ロームブロックが9A,1094/4(堀)が9B,1096/6(明黄層)粒子が9C,炭化物粒子が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1093/4(遺構)に1094/4(堀)が9D,1092/6(明黄層)φ3m以下ロームブロックが9E,1096/6(明黄層)粒子が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 1092/3(遺構)に1095/2(遺構)が9D,596/8(堀)φ3m以下ロームブロックが9E,1095/4(2)に5A(黄層)が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 4層 1095/4(遺構)に1093/4(遺構)が9D,1096/2(灰黄層)φ5m以下ロームブロックが9E,596/8(堀)φ1m以下ロームブロック1096/6(明黄層)粒子が9E,1092/2(遺構)が9D着く。シルト粒土、しまる。
 - 5層 1095/6(黄層)に1096/2(灰黄層)φ5m以下ロームブロックが9E,1093/4(遺構)が9D着く。シルト粒土、しまる。
 - 6層 1094/3(2)に5A(黄層)に1092/2(遺構)-1096/2(灰黄層)φ4m以下ロームブロックが9E,1095/6(黄層)が9D着く。シルト粒土、しまる。
 - 7層 1092/2(遺構)に1093/2(遺構)が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 8層 1092/3(2)に5A(黄層)に596/8(堀)φ2m以下ロームブロックが9D着く。シルト粒土、しまる。
 - 9層 1092/4(遺構)に1095/6(黄層)が9D,1096/6(明黄層)φ3m以下ロームブロックが9E,1092/2(遺構)が9E,炭化物粒子が9D以下着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 10層 1094/4(堀)に1096/2(灰黄層)φ1m以下ロームブロックが9E,596/8(堀)が9E以下着く。シルト粒土、しまる。
 - 11層 1092/3(遺構)に1095/6(黄層)が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 12層 1092/3(遺構)に1095/6(黄層)が9D着く。シルト粒土、しまる。
- 地山 1095/6(黄層)に1096/2(灰黄層)が9D,1093/4(遺構)が9D着く。粘質土、固くしまる。

DK-160 (1/40)



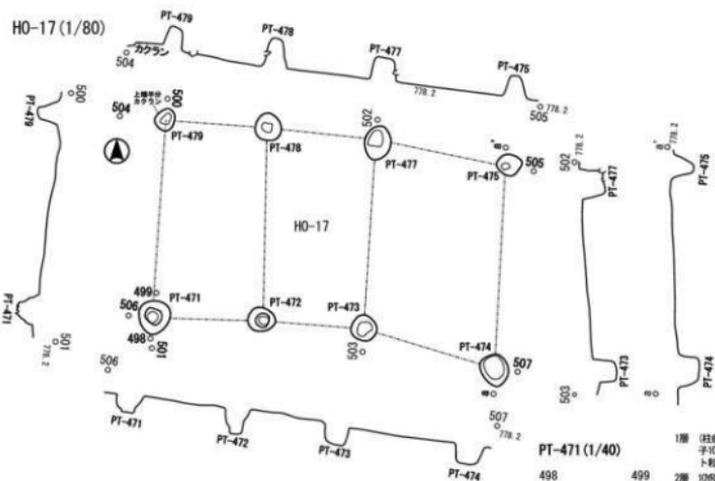
- 1層 03面 1093/4(遺構)に1094/4(堀)が9D,1096/4(2)に5A(黄層)φ0.2~0.5m粒子が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1092/4(遺構)に1094/4(堀)が9D,1095/4(2)に5A(黄層)-1096/4(2)に5A(黄層)φ0.5m粒子が9D着く。シルト粒土、しまる。
 - 3層 1094/4(堀)に1093/4(遺構)が9D,1095/4(2)に5A(黄層)が9E,1096/4(2)に5A(黄層)φ0.2m粒子が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 4層 1092/4(遺構)に1095/6(黄層)が9D,1096/4(2)に5A(黄層)φ0.5~1mロームブロックが9E,1092/3(遺構)が9D着く。シルト粒土、しまる。
 - 5層 1094/4(遺構)に1095/6(黄層)が9D,1096/4(2)に5A(黄層)φ0.5~1mロームブロックが9E,1092/3(遺構)が9D着く。シルト粒土、しまる。
 - 6層 1094/4(遺構)に1093/4(遺構)が9D,1096/4(2)に5A(黄層)が9E,1096/4(2)に5A(黄層)φ0.5~1mロームブロックが9D着く。シルト粒土、しまる。
 - 7層 1092/4(遺構)に1092/3(遺構)-1096/4(2)に5A(黄層)φ0.3~1mロームブロックが9E,1096/4(2)に5A(黄層)φ0.5~1mロームブロックが9D着く。シルト粒土、しまる。
 - 8層 1092/3(遺構)に1093/4(遺構)が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
- 地山 1096/4(2)に5A(黄層)-炭化した岩盤、固くしまる。

PT-428 (1/40)



- 1層 1092/3(遺構)に1093/4(遺構)が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1092/4(遺構)に1094/4(堀)が9D,594/8(遺構)が9E,1096/3(2)に5A(黄層)が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
- 地山 1096/3(2)に5A(黄層)-粘質土、非常に固くしまる。

H0-17 (1/80)



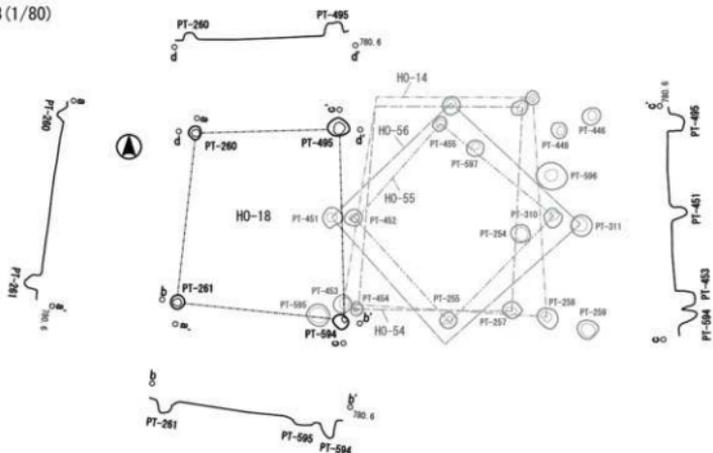
PT-471 (1/40)



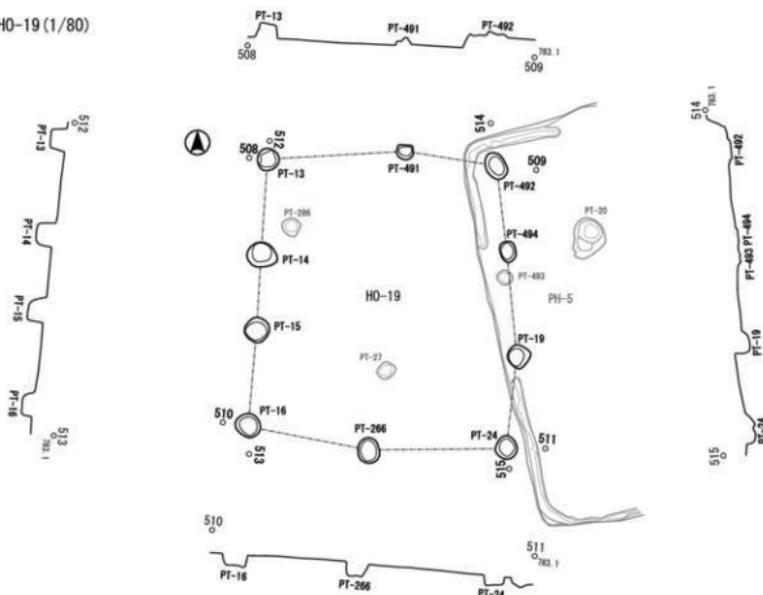
- 1層 03面 1092/2(遺構)にφ0.1m粒子1095/6(黄層)が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 2層 1092/2(遺構)に1095/6(黄層)φ0.1m粒子-炭化物粒子が9D着く。シルト粒土、ややしまる。
 - 3層 1095/6(黄層)に1092/3(遺構)が9D着く。粘質土、ややしまる。
- 地山 1095/6(黄層)に1092/3(遺構)が9D着く。粘質土、固くしまる。

第 104 図 16号掘立柱建物柱穴断面図 17号掘立柱建物・柱穴断面図・出土遺物

HO-18 (1/80)

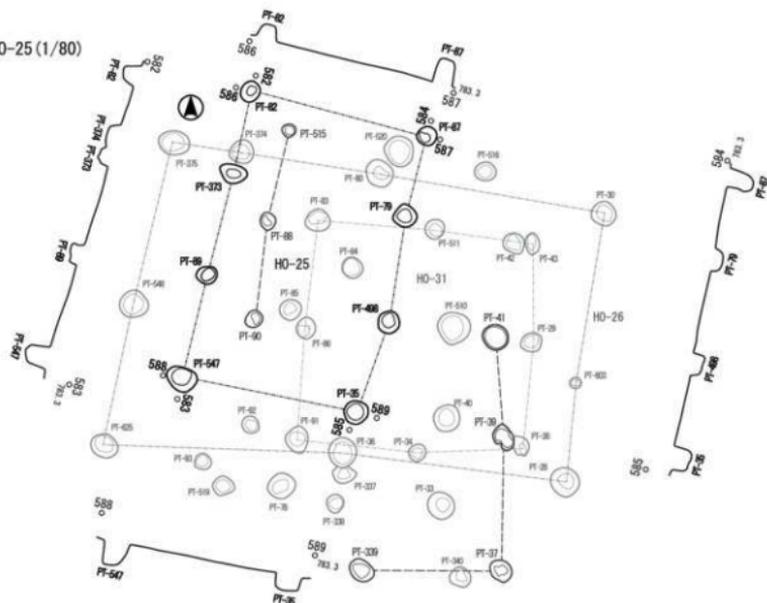


HO-19 (1/80)

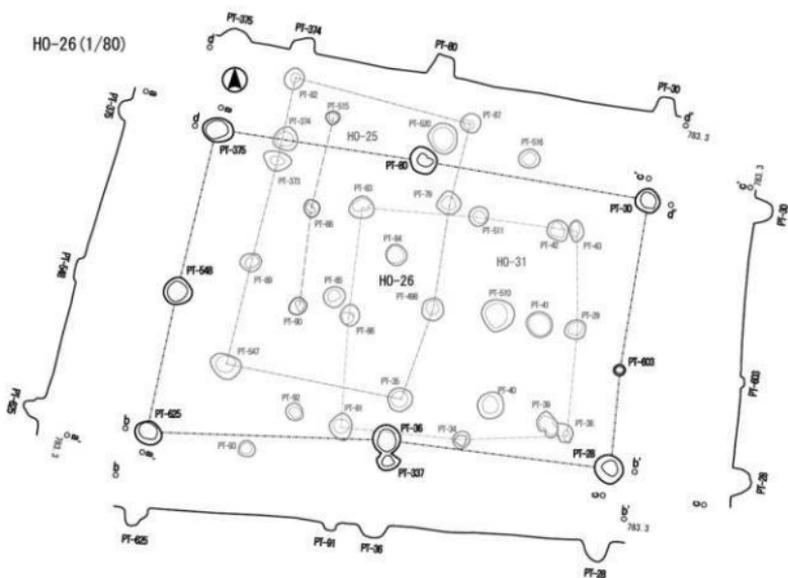


第 105 图 18号掘立柱建物 19号掘立柱建物

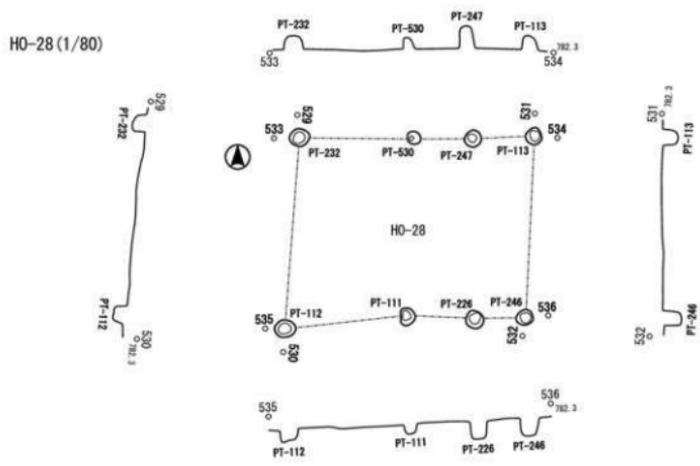
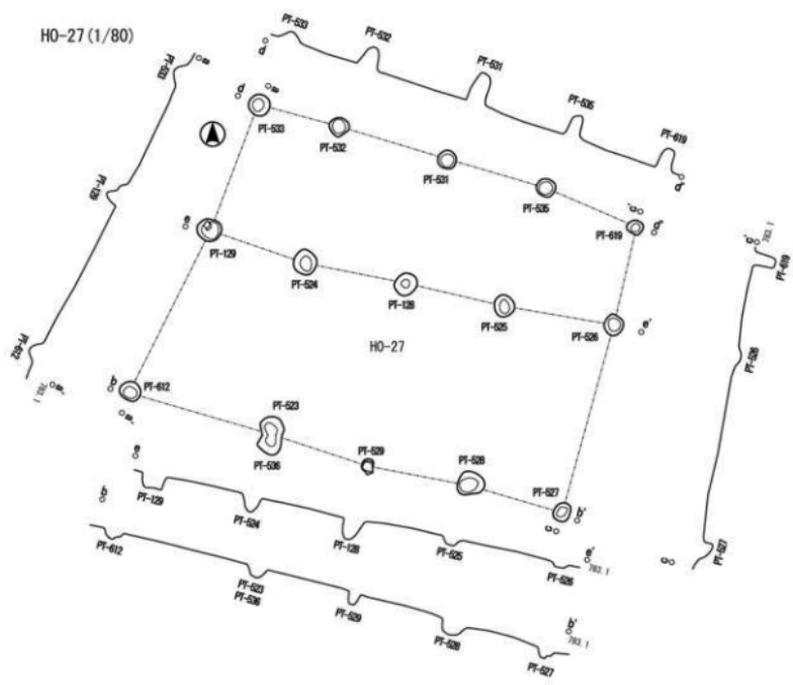
HO-25 (1/80)



HO-26 (1/80)

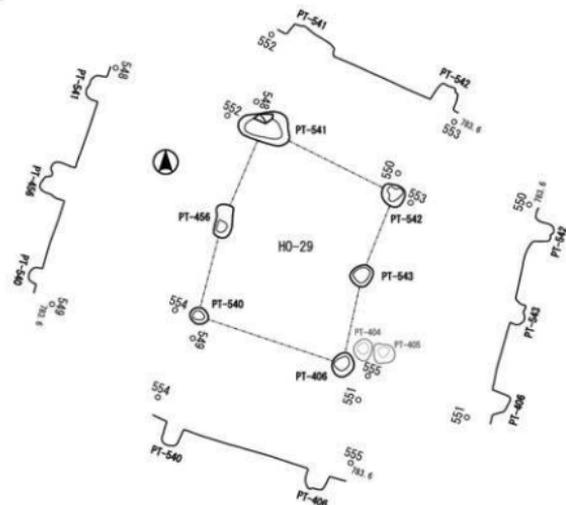


第 108 图 25号掘立柱建物 26号掘立柱建物

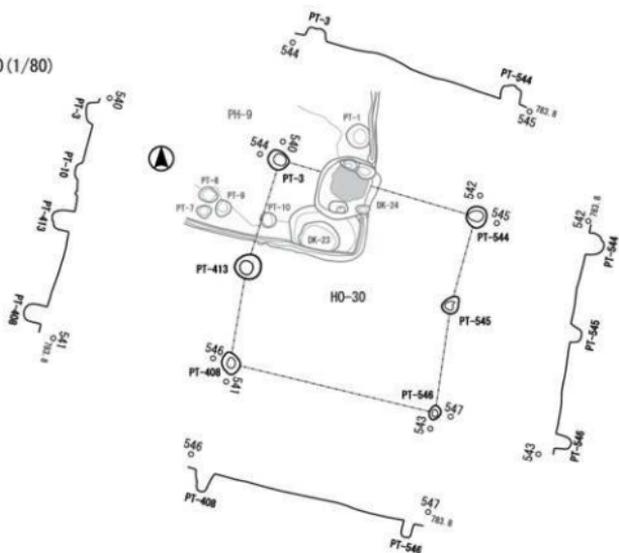


第 109 图 27号掘立柱建物 28号掘立柱建物

HO-29 (1/80)

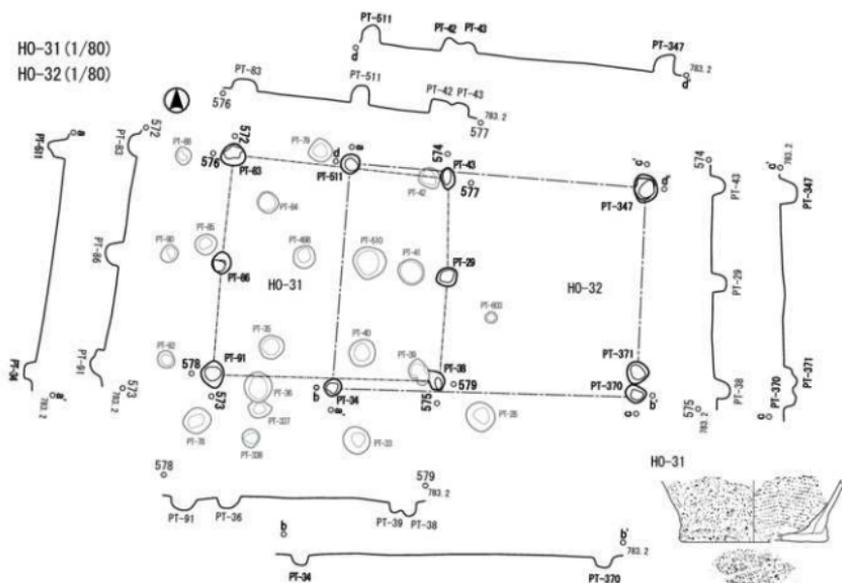


HO-30 (1/80)

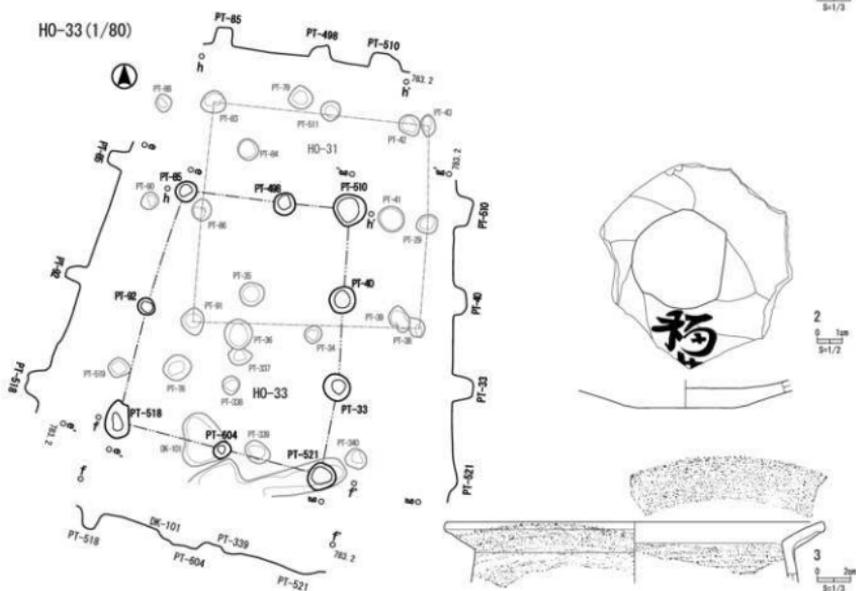


第 110 图 29 号掘立柱建物 30 号掘立柱建物

HO-31 (1/80)
HO-32 (1/80)

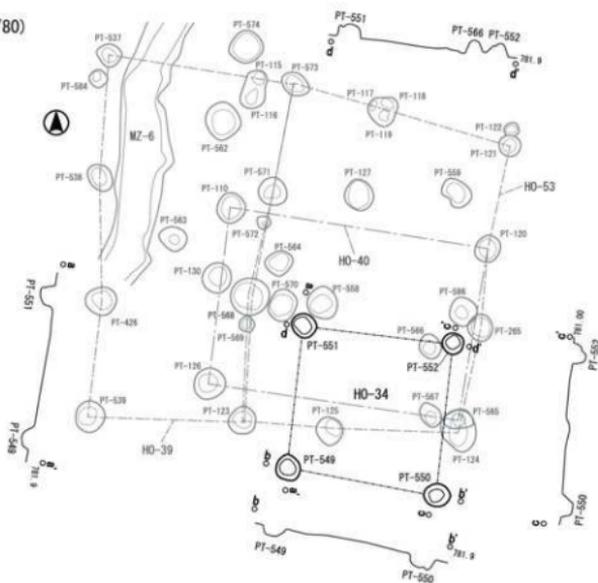


HO-33 (1/80)

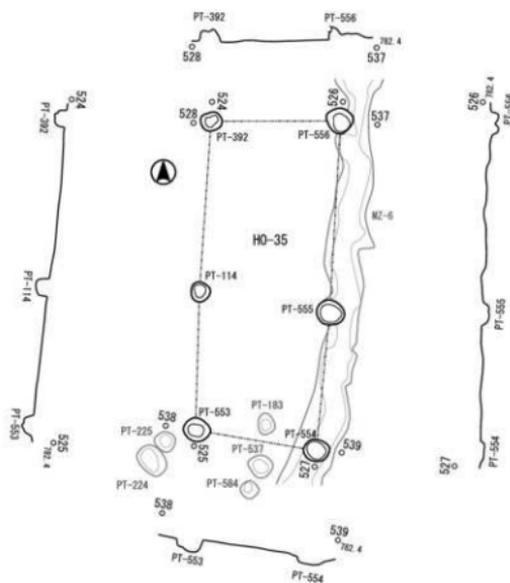


第 111 図 31 号・32 号掘立柱建物・出土遺物 33号掘立柱建物・出土遺物

HO-34 (1/80)

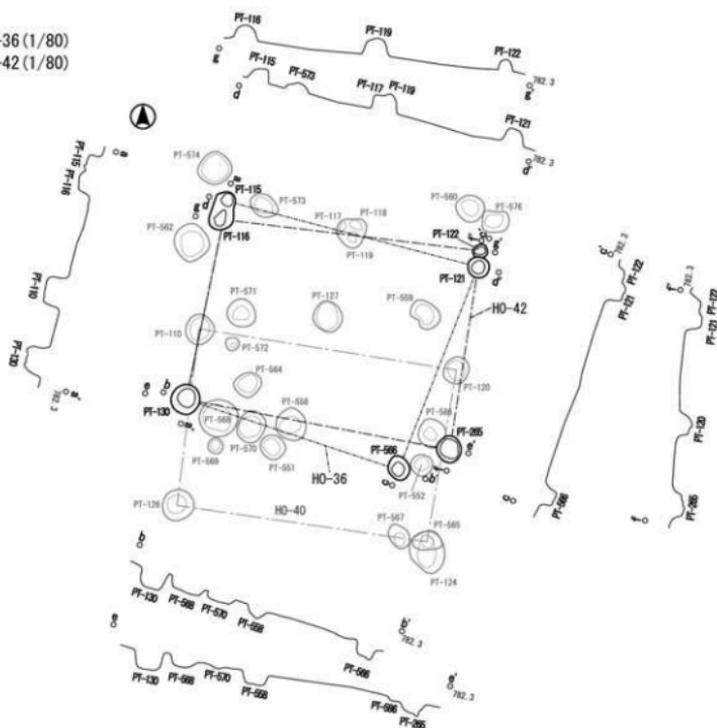


HO-35 (1/80)

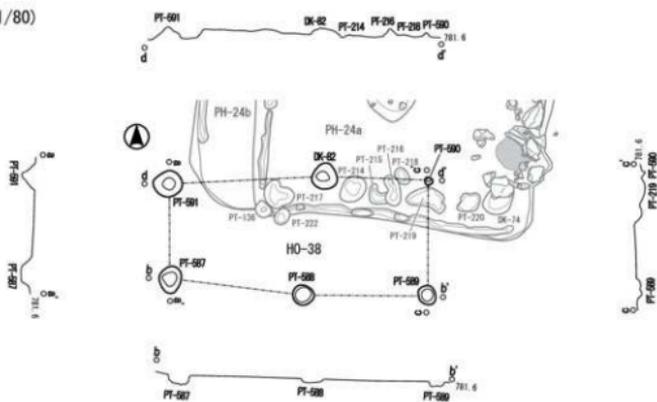


第 112 图 34号掘立柱建物 35号掘立柱建物

HO-36 (1/80)
HO-42 (1/80)

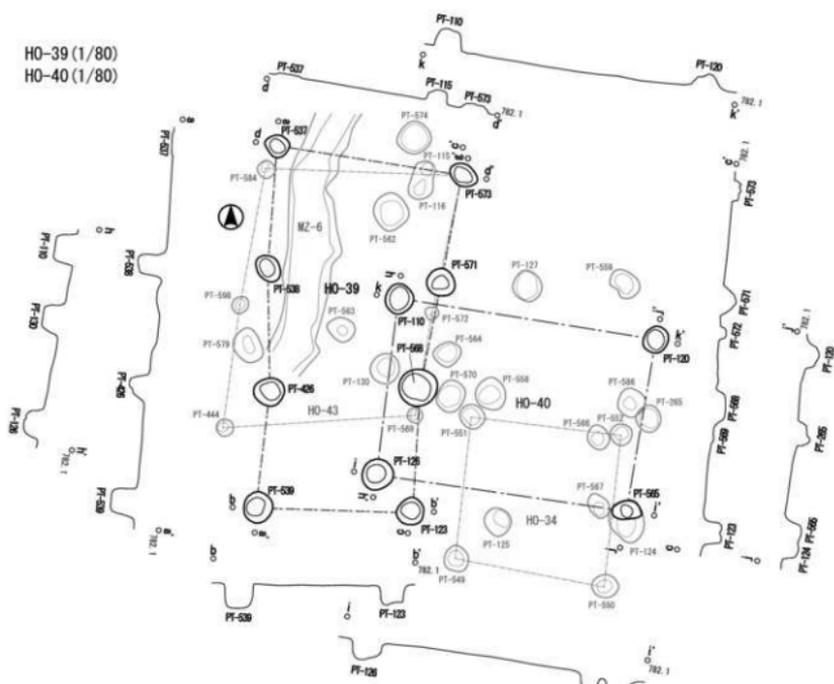


HO-38 (1/80)

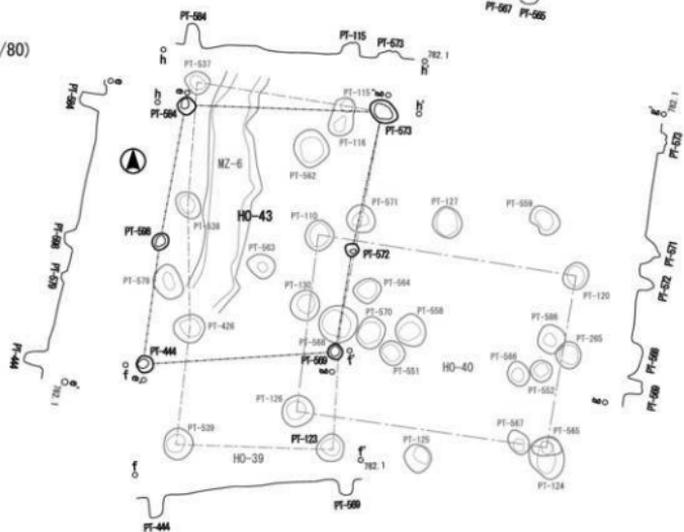


第 113 図 36 号・42号掘立柱建物 38号掘立柱建物

HO-39 (1/80)
HO-40 (1/80)

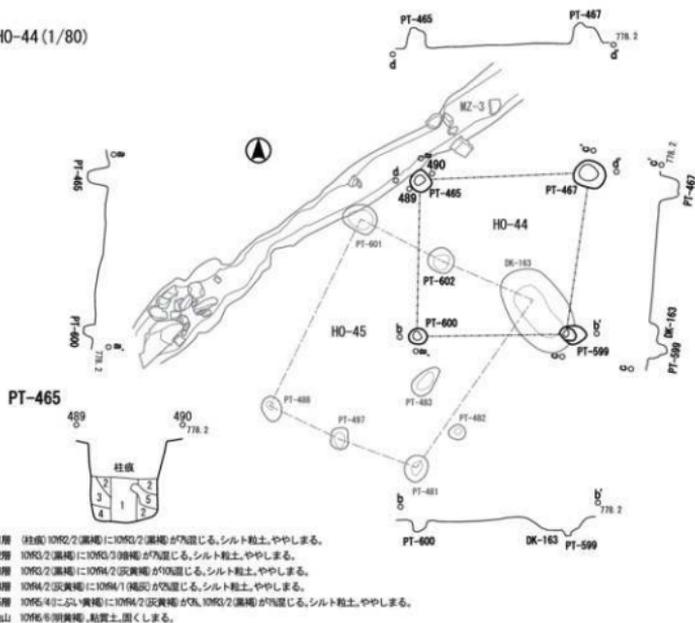


HO-43 (1/80)

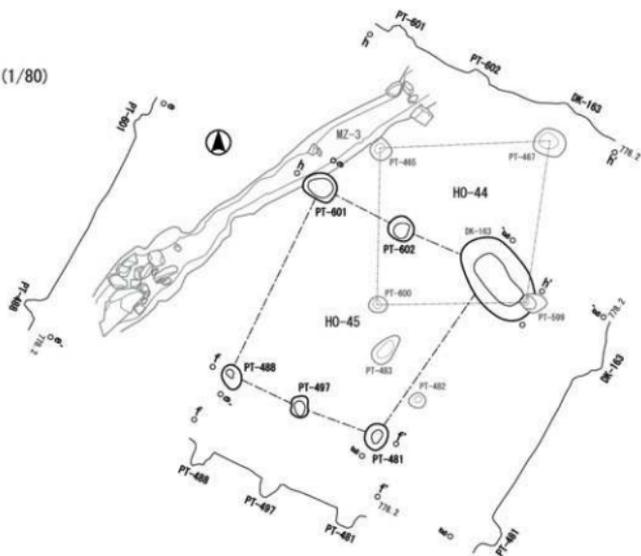


第 114 图 39 号・40 号掘立柱建物 43 号掘立柱建物

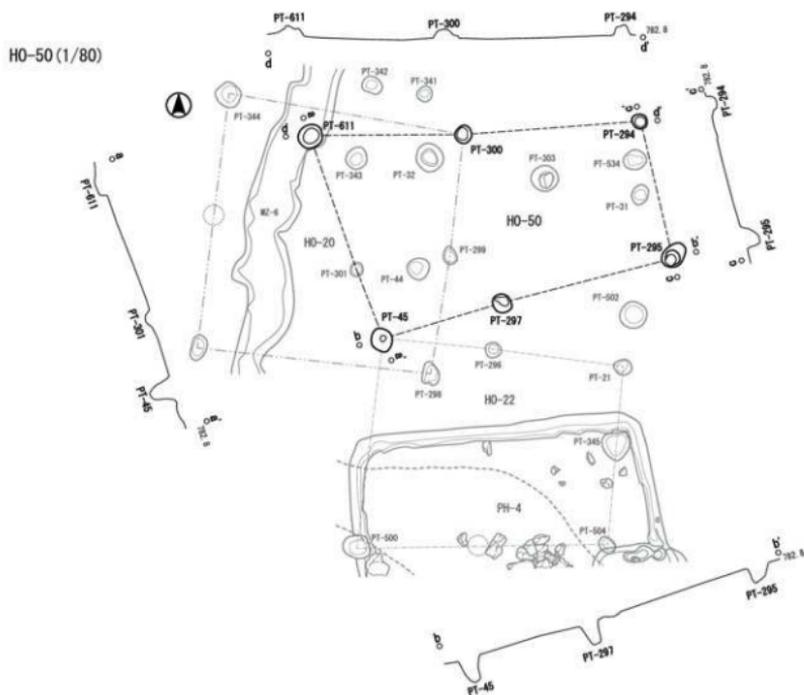
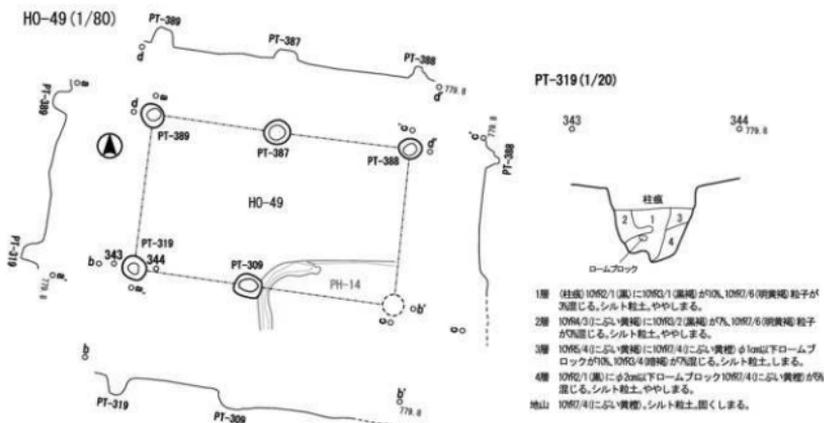
HO-44 (1/80)



HO-45 (1/80)

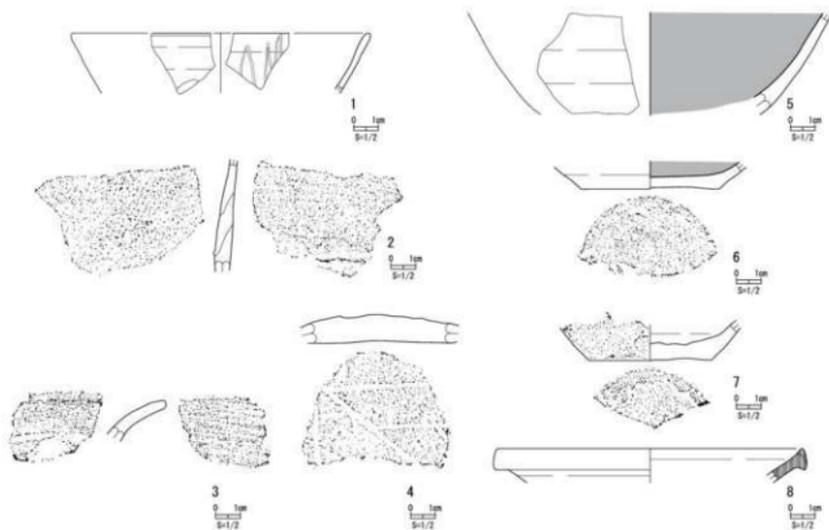
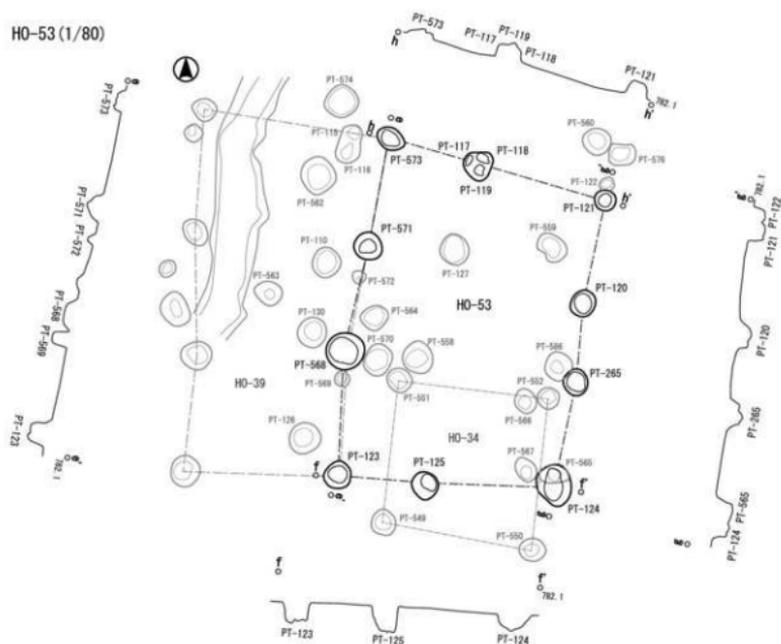


第 115 図 44号掘立柱建物・柱穴断面図 45号掘立柱建物



第 117 図 49号掘立柱建物・柱穴断面図 50号掘立柱建物

HO-53 (1/80)

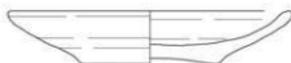


第 119 图 53号掘立柱建物・出土遺物

13

390
779.4

- 1層 1094/3(こぶい)黄褐色に1095/3(こぶい)黄褐色が90%、1094/1(磁器)が0%、φ0.1mm以下ローム粒1095/6(黄褐色)が0%、φ0.1mm以下焼土粒子が90%混じる。シルト粘土。しまる。
- 2層 1094/2(黄褐色)に1092/1(黒褐色)が0%、φ0.1mm以下ローム粒1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。しまる。IIの堆積物のようなφ0.2~3mmの砂粒(片礫)が全体に混じる。
- 3層 1094/3(こぶい)黄褐色に1092/2(黒褐色)が0%、φ0.1mm以下ローム粒1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土に砂質土が混じる。しまる。IIの堆積物のようなφ0.2~1mmの砂粒(片礫)が90%混じる。
- 4層 1092/2(黒褐色)に1092/1(黒褐色)が0%、φ0.2~1.5mmロームブロック1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 5層 1092/2(黒褐色)に1092/1(黒褐色)が0%、1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 地山 1095/8(黄褐色)に1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。しまる。
- 2-3層の断面以外の部分で長さ10~16cmの礫がのる。

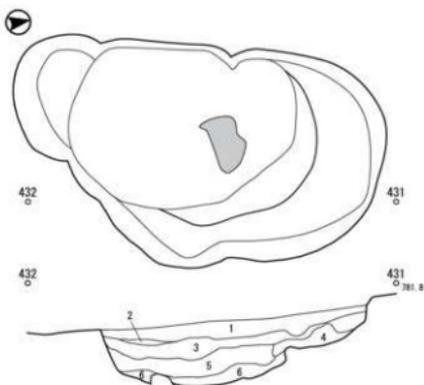
1
0 1cm
S=1/22
0 2cm
S=1/4

389

390
779.9

- 1層 1092/3(赤褐色)に1094/3(こぶい)黄褐色が0%、φ0.1~0.5mmローム粒1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 2層 1092/1(黒)に1092/2(黒褐色)が90%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 3層 1092/3(赤褐色)に1094/3(こぶい)黄褐色が0%、φ0.5mmローム粒1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 4層 1092/3(赤褐色)にφ1~2mm礫が0%、φ2mmロームブロック1095/6(黄褐色)が0%、φ0.2~0.5mmローム粒1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 5層 1094/3(こぶい)黄褐色に1092/2(黒褐色)・1095/6(黄褐色)が0%、φ1~2mmロームブロック1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 6層 1094/4(赤)に1095/6(黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 7層 1095/6(黄褐色)に1094/2(灰黄褐色)が90%混じる。シルト粘土。ややしまる。
- 地山 1095/6(黄褐色)に1094/3(こぶい)黄褐色が90%混じる。粘質土。しまる。

DK-143 (1/40)



1層 10R2の(黒縄)に10R2の(黒縄)が10L, ローム粒10R5/4(3)に(5)の(黄縄)が9%, 炭化物粒子が2%混じる。シルト粘土。粘性あり。しまる。

2層 10R2の(黒縄)に10R4/3(2)の(5)の(黄縄)が9%混じる。シルト粘土。粘性あり。しまる。

3層 10R2の(黒縄)に10R4/4(3)が9%, 10R5/4(2)の(5)の(黄縄)が7%, 炭土粒子が9%, ローム粒10R5/6(黄縄)が9%, 炭化物粒子が7%混じる。シルト粘土。粘性あり。しまる。

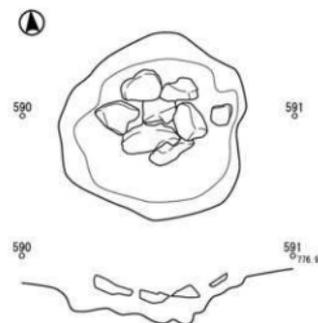
4層 10R6の(明黄縄)に10R5/3(2)の(5)の(黄縄)・10R4/3(2)の(5)の(黄縄)が10%混じる。シルト粘土。粘性やや中あり。しまる。

5層 10R2の(黒縄)に10R2の(黒縄)が10L, 10R4/3(2)の(5)の(黄縄)・小礫が9%, ローム粒10R5/4(3)の(5)の(黄縄)が9%, 炭土粒子が7%以下混じる。シルト粘土。粘性あり。しまる。

6層 10R2の(黒縄)に10R5/4(2)の(5)の(黄縄)が10%, 小礫が10%混じる。シルト粘土。粘性あり。固くしまる。

地山 10R5/6(黄縄)に10R2の(黒縄)が10%混じる。シルト粘土。粘性あり。固くしまる。
 炭土 0R5/9(明赤縄)。

DK-153 (1/20)



第 122 図 143 号土坑 153 号土坑

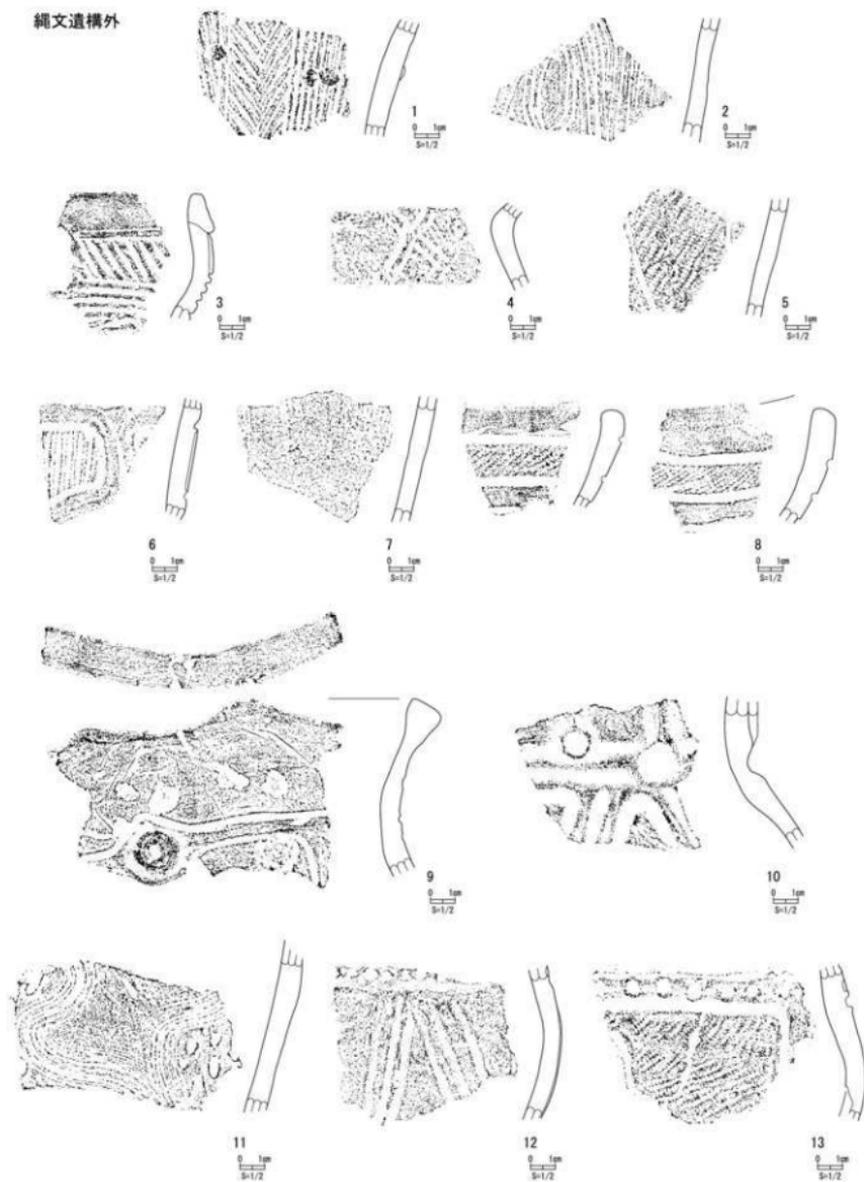


143 号土坑半截状況

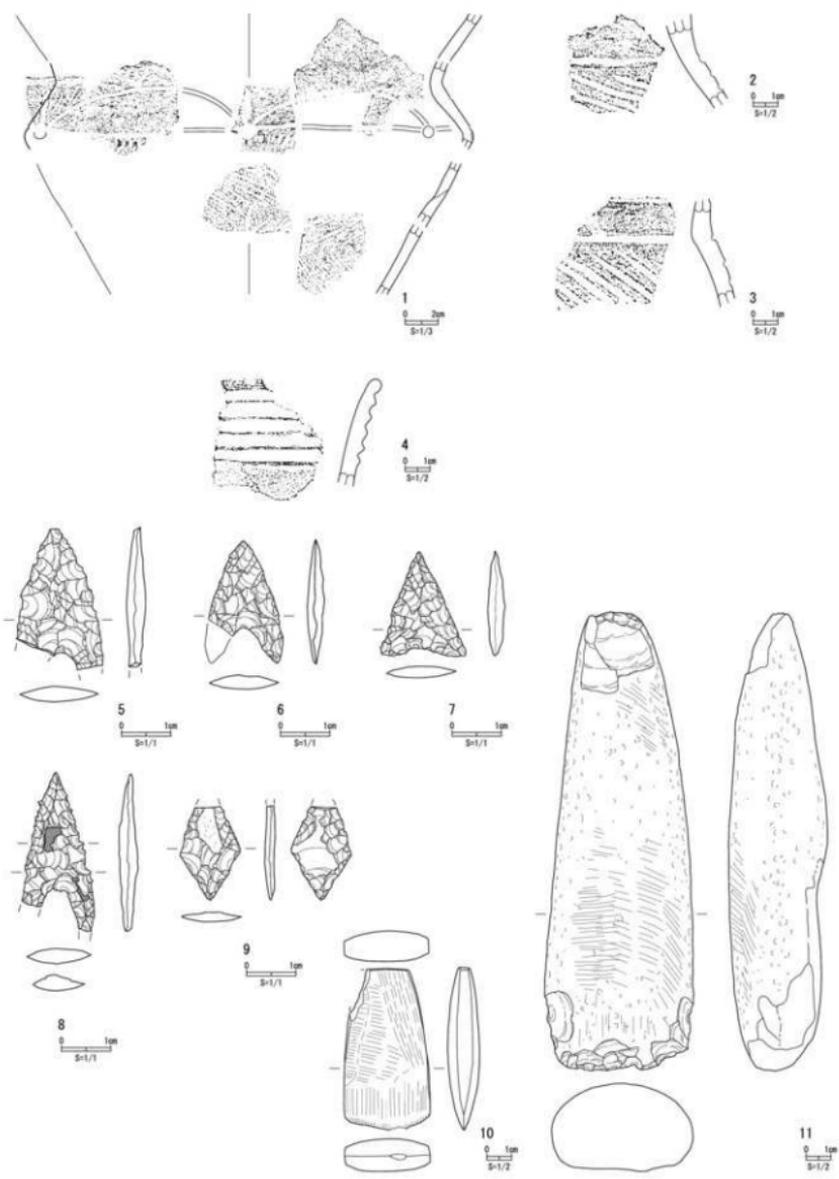


153 号土坑

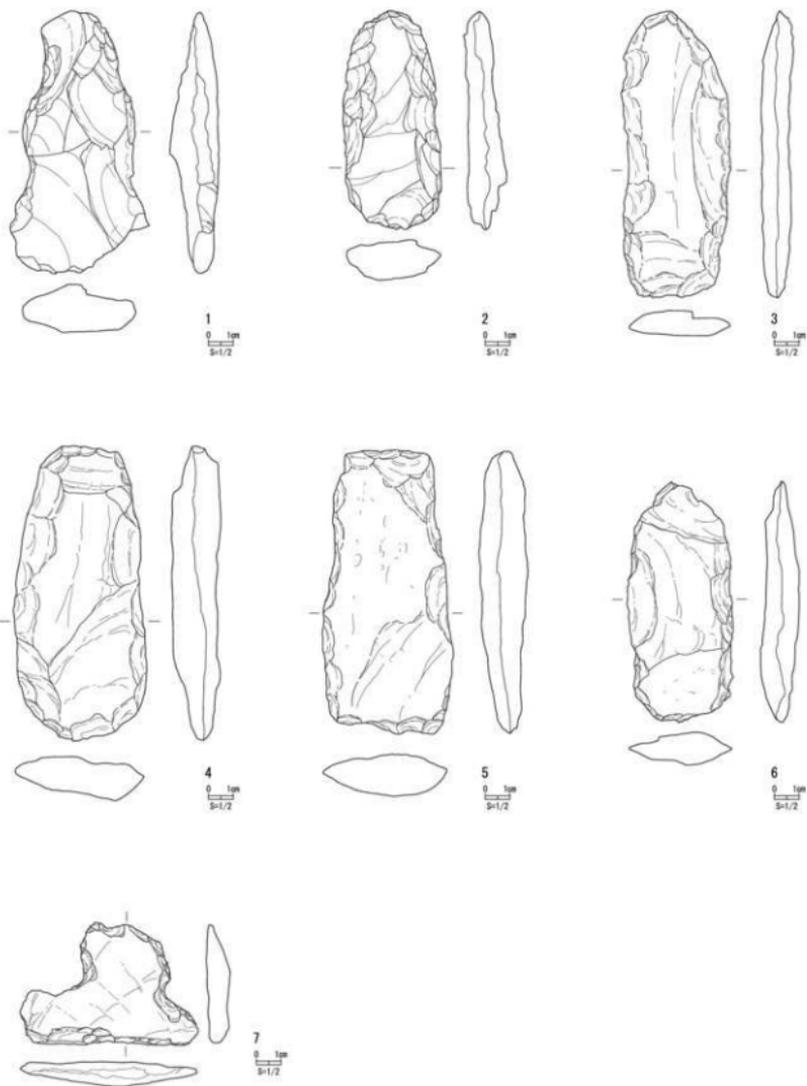
絹文遺構外



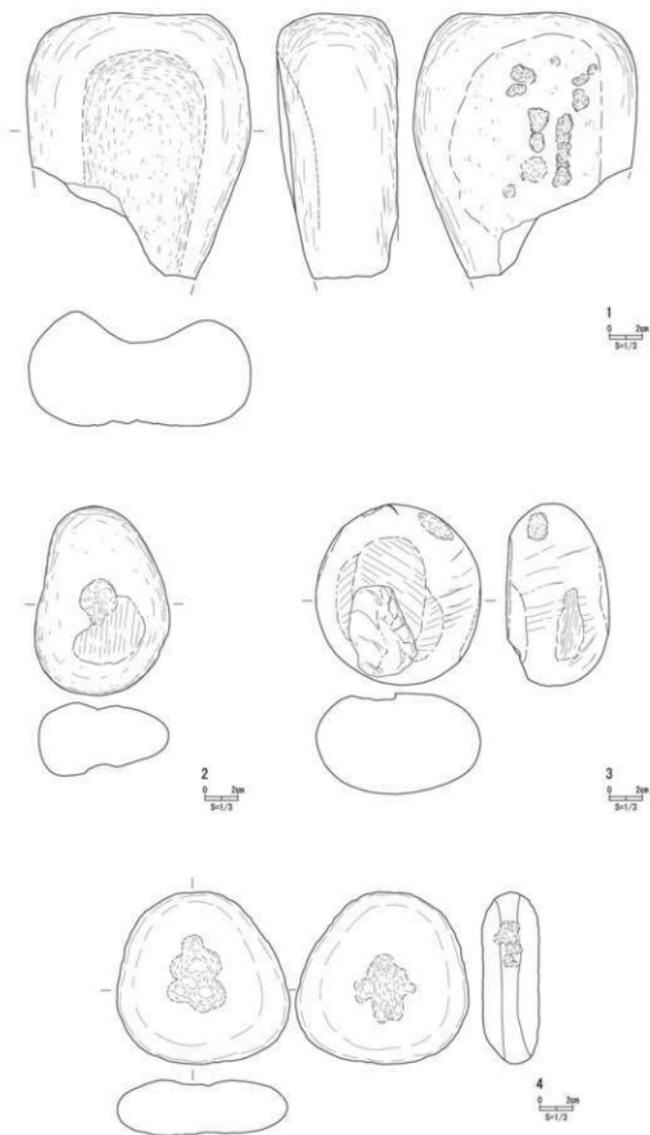
第 123 図 遺構外遺物



第 124 図 遺構外遺物

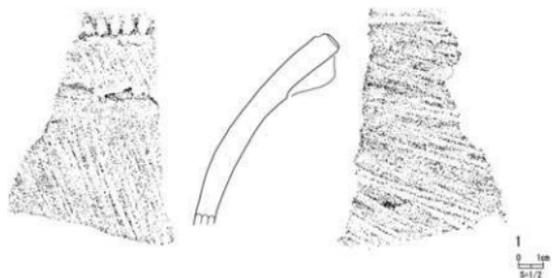


第 125 図 遺構外遺物

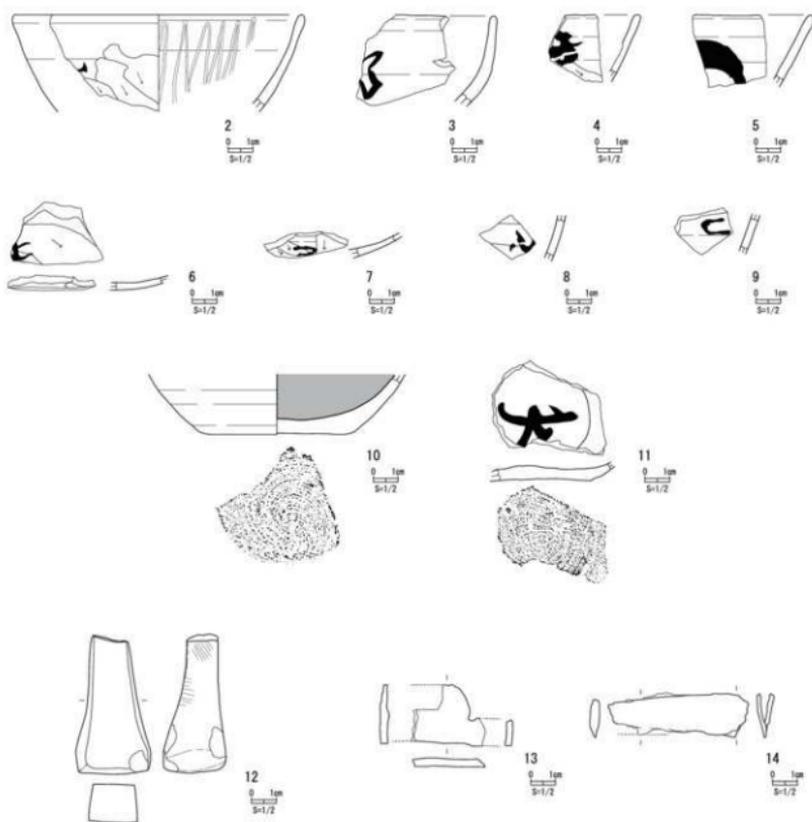


第 126 図 遺構外遺物

弥生遺構外



平安遺構外



第 127 図 遺構外遺物

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | 備考 | | |
|-------|-------------------------|------------|------------|------------|------|--------|-----|-----------|-----------|----------|-----|----------|----|--|---------------------------------|
| | | | | | | 土質 | しまり | 土色 主たる | 土色 従たる | 土色 とる | 炭化物 | 焼土 粒子 | | | |
| DK-1 | PH-1 西壁中央 | 130 | 96 | 47 | A | A | 2 | 黒褐 | | | | | | | 近世基、PH-1を切る。 |
| DK-2 | PH-1 北壁中央 | 87 | - | 30 | A | A | 2 | 黒褐 | | | | | | | 近世基、PH-1を切る。DK-2・3と切り合いが新旧関係不明。 |
| DK-3 | PH-1 北壁 | 130 | - | 30 | A | A | 2 | 黒褐 | | | | | | | 近世基、PH-1を切る。 |
| DK-4 | PH-1 北西角 | 126 | 110 | 10 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | 近世基、PH-1を切る。 |
| DK-5 | PH-1 内 | 90 | 63 | 15 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | 近世基、PH-1を切る。DK-6に切られる。 |
| DK-6 | PH-1 内 | 97 | 87 | 10 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | 近世基、PH-1・DK-6を切る。 |
| DK-7 | (A2折込)PH-1 東壁から東へ28.5m | 107 | 96 | 21 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| DK-8 | (A2折込)PH-1 南東角から東へ26m | 206 | 160 | 37 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| DK-9 | (A2折込)PH-1 南東角から東へ28.5m | 150 | 130 | 46 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| DK-10 | (A2折込)PH-1 北西角から北西へ3m | 138 | 107 | 57 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| DK-11 | (A2折込)PH-1 北西角から北西へ5.3m | 130 | 103 | 22 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | 暗褐△ |
| DK-12 | (A2折込)PH-1 西壁から西へ6.5m | 170 | 90 | 21 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| DK-13 | (A2折込)PH-1 西壁から西へ8m | 110 | 94 | 20 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| DK-14 | (A2折込)PH-1 北西角から北西へ9m | 150 | 120 | 13 | A | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | | | |
| DK-15 | (A2折込)PH-1 西壁から西へ2.5m | 125 | 112 | 38 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| DK-16 | (A2折込)PH-1 南西角から南西へ1m | 170 | 90 | 50 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| DK-17 | (A2折込)PH-1 南西角から南西へ3m | 110 | 106 | 23 | A | A | 2 | 暗褐 | 黒褐○ | | | | | | 黄褐○ △ |
| DK-18 | (A2折込)PH-1 南西角から南西へ5.5m | 160 | 90 | 45 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | DK-115を切る。 |
| DK-19 | (A2折込)PH-1 南西角から西へ8m | 102 | 84 | 42 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| DK-20 | (A2折込)PH-1 東壁から東へ1m | 102 | 83 | 19 | A | A | 2 | 黄褐 | 暗褐○ | | | | | | 黒褐○ |
| DK-21 | PH-1 内 | 42 | 31 | 13 | A | A | 3 | 暗褐 | にぶい黄褐○ | | | | | | △ △ |
| DK-22 | PH-9 内 | 99 | 84 | 12 | A | A | 2 | 黄褐 | にぶい黄褐○ | | | | | | △ △ |
| DK-23 | PH-9 内 | 80 | 75 | 11 | A | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | | | △ |
| DK-24 | PH-9 内南東角 | 150 | 100 | 11 | A | A | 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| DK-25 | PH-17 内 | 53 | 49 | 10 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | |
| DK-26 | PH-17 内 | 63 | 59 | 12 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | △ |
| DK-27 | PH-2 内 | 71 | 66 | 30 | 22 | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | △ |
| DK-28 | PH-2 内 | 67 | 60 | 40 | A | A | 2 | 黒褐 | 反黄褐○ | | | | | | |
| DK-29 | PH-18 内 | 46 | 43 | 7 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | PH-8床面を切って掘り込んでいる。 |
| DK-30 | PH-18 内 | 49 | 42 | 13 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | ○ |
| DK-31 | PH-18 内 | 39 | 37 | 11 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | ○ ◎ |
| DK-32 | PH-19 内 | 57 | 45 | 11 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| DK-33 | PH-2 内 | 73 | 73 | 11 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | △ △ |
| DK-34 | PH-5 内 | 42 | 33 | 23 | A | A | 2 | 暗褐 | 明黄褐△ | | | | | | |
| DK-35 | PH-5 内 | 66 | 57 | 22 | A | A | 2 | 暗褐 | 黒褐○ | 明黄褐△ | | | | | |
| DK-36 | PH-5 内 | 97 | 85 | 19 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | ○ |
| DK-37 | PH-6 内 | 80 | 32 | 15 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | |
| DK-38 | PH-6 内 | 97 | 72 | 13 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | △ |
| DK-39 | PH-6 内 | 66 | 48 | 9 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | △ ○ |
| DK-40 | PH-2 内 | 65 | 47 | 13 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | |
| DK-41 | PH-3 内 | 94 | 66 | 3 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | |
| DK-42 | PH-3 内 | 42 | 40 | 5 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | |
| DK-43 | PH-2 内 | 70 | 40 | 14 | A | A | 2 | 暗褐 | 明黄褐○ | | | | | | |
| DK-44 | PH-3 内 | 70 | 44 | 4 | A | A | 2 | 暗褐 | 明黄褐△ | | | | | | |
| DK-45 | PH-2 内 | 83 | 57 | 27 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | △ |
| DK-46 | PH-3 内 | 40 | 37 | 7 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | △ |
| DK-47 | PH-2 内 | 124 | 110 | 8 | A | A | 2 | 暗褐 | 明黄褐△ | | | | | | DK-46を切る。 |
| DK-48 | PH-2 内 | 110 | 106 | 8 | A | A | 2 | 暗褐 | 明黄褐△ | | | | | | DK-47に切られる。 |
| DK-49 | PH-2 内 | 55 | 50 | 14 | A | A | 2 | 暗褐 | にぶい黄褐○ | | | | | | △ |
| DK-50 | PH-2 内 | 86 | 76 | 22 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | △ △ |
| DK-51 | PH-2 内 | 42 | 35 | 14 | A | A | 2 | 暗褐 | 明黄褐△ | | | | | | △ |
| DK-52 | PH-2 内 | 121 | 97 | 17 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | △ ○ |
| DK-53 | PH-2 内 | 74 | 68 | 22 | A | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | △ ○ |
| DK-54 | PH-21 内 | 65 | 57 | 11 | A | A | 2 | 暗褐 | にぶい黄褐○ | 黄褐△ | | | | | △ ○ |
| DK-55 | PH-21 内 | 75 | 51 | 15 | A | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | △ |
| DK-56 | PH-2 内 | 60 | 50 | 14 | A | A | 2 | 暗褐 | 褐○ | | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 新彰状 | 埋土観察所見 | | | | | | | | | | 備考 | |
|--------|-----------------------|------------|------------|------------|-----|--------|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|----------|----|--|
| | | | | | | 土質 | しりり | 土色 主たる | 土色 主たる | 土色 主たる | 土色 主たる | 土色 主たる | 土色 主たる | 炭化物 | 焼土 粒子 | | |
| DK-57 | Ph-3内 | 46 | 40 | 3 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-58 | Ph-7内 | 58 | 40 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | | | | | | | | | |
| DK-59 | Ph-7内 | 64 | 58 | 27 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 灰白○ | | | | | | | |
| DK-60 | Ph-7内 | 120 | 65 | 37 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-61 | Ph-7内 | 63 | 63 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-62 | Ph-21内 | 63 | - | 12 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐◎ | | | | | | | | |
| DK-63 | Ph-21内 | 67 | - | 7 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-64 | Ph-21内 | 73 | - | 11 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-65 | 欠番 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| DK-66 | Ph-8内 | 60 | 54 | 19 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-67 | Ph-8内 | 88 | 80 | 13 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-68 | Ph-23内 | 100 | 90 | 5 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-69 | Ph-23内 | 87 | 87 | 11 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-70 | 仮折込1HD-27南東角から北東へ2.5m | 72 | 60 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-71 | 仮折込1HD-6北東角から北東へ3.5m | 112 | 100 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-72 | Ph-28内 | 60 | 56 | 14 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-73 | Ph-4内 | 55 | 53 | 3 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-74 | Ph-24内 | 46 | 40 | 16 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-75 | Ph-24内 | 90 | 72 | 21 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-76 | Ph-24内 | 60 | 60 | 12 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-77 | Ph-24内 | 50 | 47 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-78 | Ph-7内 | 90 | - | 14 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい黄褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-79 | Ph-7内 | 50 | - | 13 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい黄褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-80 | Ph-7内 | 103 | 43 | 15 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-81 | Ph-7内 | 125 | 94 | 43 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-82 | 38号掘立柱建物 | 46 | 40 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-83 | Ph-7内 | 67 | 53 | 27 | イ | A | 2 | 暗褐 | にぶい黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-84 | Ph-7内 | 46 | 43 | 8 | イ | A | 2 | にぶい黄褐 | 黒褐○ | | | | | | | | |
| DK-85 | Ph-7内 | (43) | - | 29 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-86 | Ph-13内 | 54 | 43 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | | | | | | | | | |
| DK-87 | Ph-13内 | 70 | 43 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-88 | Ph-11内 | 101 | 64 | 15 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-89 | Ph-11内 | 112 | 108 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-90 | Ph-11内 | 120 | 74 | 14 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-91 | Ph-27内 | 64 | 64 | 11 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-92 | 仮折込1Ph-24南東角から南東へ1.5m | 170 | 160 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-93 | Ph-18東壁 | 70 | (60) | 43 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-94 | HD-47南西角から南東へ2m | 132 | 74 | 16 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-95 | HD-26南東角から南へ1m | 140 | 76 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-96 | 仮折込1Ph-7北西角から西へ6m | 63 | 50 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐△ | | | | | | | |
| DK-97 | Ph-27内 | 60 | 50 | 11 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい黄褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-98 | Ph-27内 | 130 | 66 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい黄褐○ | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-99 | 仮折込1Ph-17北東角から東へ20.5m | 71 | 58 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-100 | 仮折込1Ph-1南東角から南東へ24m | 170 | 170 | 40 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-101 | HD-26南西角から南東へ3.5m | 83 | 67 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-102 | 仮折込1Ph-1南西角から南西へ5m | 100 | 80 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-103 | 仮折込1Ph-1北西角から西へ5.5m | 150 | 76 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-104 | 仮折込1Ph-1南壁から南へ0.5m | 130 | 76 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-105 | Ph-27内 | 106 | 100 | 15 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-106 | Ph-27内 | 106 | 101 | 13 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-107 | Ph-27内 | 70 | 61 | 11 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-108 | 仮折込1Ph-1北西角から北西へ9.5m | 110 | 91 | 26 | イ | A | 3 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| DK-109 | 仮折込1Ph-1東壁から東へ3m | 116 | 67 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-110 | 仮折込1Ph-1南西角から南西へ4m | 57 | 53 | 35 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-111 | 仮折込1Ph-1東壁から東へ1.5m | 150 | 100 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| DK-112 | 仮折込1Ph-1東壁から東へ4m | 140 | 85 | 25 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面 形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | 備考 | |
|--------|---------------------------------|------------|------------|------------|----------|-----------|------------|------------|-----------|------------|-----------|-----|----|---------------|
| | | | | | | 土質 | しまり | 土色 主たる | 土色 従たる | 土色 主たる | 土色 従たる | 炭化物 | | 埴土 粒子 |
| DK-113 | PH-14 内 | 90 | 60 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | ○ | |
| DK-114 | (A2 折込) PH-17 北西角から北西へ 5m | 95 | 57 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-115 | (A2 折込) PH-1 南西角から西へ 7m | 101 | - | 35 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | DK-118 に切られる。 |
| DK-116 | (A2 折込) PH-1 北西角から西へ 7.5m | 107 | 91 | 11 | イ A 3 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | | |
| DK-117 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 1m | 133 | - | 40 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | | DK-130 に切られる。 |
| DK-118 | (A2 折込) PH-1 南西角から南西へ 4m | 101 | 75 | 5 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-119 | (A2 折込) PH-1 南西角から南へ 3m | 96 | 85 | 9 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-120 | (A2 折込) PH-1 南西角から西へ 8m | 44 | 40 | 38 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-121 | (A2 折込) PH-1 西壁から西へ 10.5m | 190 | 105 | 58 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-122 | (A2 折込) PH-1 西壁から西へ 6.5m | 106 | 75 | 22 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-123 | (A2 折込) PH-1 西壁から西へ 10.5m | 120 | 80 | 22 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-124 | (A2 折込) PH-1 南西角から西へ 4m | 210 | 85 | 26 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | |
| DK-125 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 4.5m | 101 | 70 | 17 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | DK-126 に切られる。 |
| DK-126 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 5m | 150 | 105 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | DK-125 を切る。 |
| DK-127 | PH-27 内 | 90 | 50 | 11 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | △ | | | | | |
| DK-128 | PH-27 内 | 60 | 23 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | △ | | | | | |
| DK-129 | PH-13 内 | 200 | 125 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | ○ | |
| DK-130 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 1.5m | 150(123) | 115 | 60 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | DK-117 を切る。 |
| DK-131 | (A2 折込) PH-1 北西角から西へ 8m | 113 | 90 | 12 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-132 | (A2 折込) PH-1 西壁から西へ 12m | 90 | 40 | 37 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-133 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 4m | 130 | 90 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-134 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 4.5m | 140 | 80 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | 黄褐○ | | | | |
| DK-135 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 6m | 130 | 91 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | 黄褐△ | | | | |
| DK-136 | (A2 折込) PH-1 東壁から東へ 14m | 115 | 80 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 明黄褐○ | | | | | | |
| DK-137 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 9m | 160 | 57 | 24 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | | |
| DK-138 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 3m | 120 | 80 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | DK-139 に切られる。 |
| DK-139 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 2m | 120 | 70 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | DK-138 を切る。 |
| DK-140 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 7m | 130 | 100 | 24 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-141 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 3m | 91 | - | 10 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-142 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 9m | 113 | 76 | 35 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-143 | (A2 折込) PH-6 南西角から南へ 7.5m | 200 | 170 | 80 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | にぶい黄 褐○ | △ | △ | | |
| DK-144 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 8m | 80 | 70 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | | |
| DK-145 | (A2 折込) PH-1 北西角から北西へ 8m | 87 | 86 | 21 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | | |
| DK-146 | 16号掘立柱建物 | 61 | 61 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | 褐△ | | | | |
| DK-147 | 16号掘立柱建物 | 60 | 57 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | |
| DK-148 | PH-15 内 | 146 | 84 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | 褐△ | | | | | | |
| DK-149 | 16号掘立柱建物 | 83 | 80 | 34 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | | |
| DK-150 | 16号掘立柱建物 | 100 | 93 | 52 | イ A 2 | 黒褐 | 褐○ | 暗褐○ | | | | | | |
| DK-151 | PH-15 内 | 70 | 50 | 13 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | △ | △ | | |
| DK-152 | PH-15 内 | 195 | 95 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | | |
| DK-153 | (A2 折込) HD-17 南東角から南東へ 41.5m | 70 | 70 | 23 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐○ | 黄褐○ | | | | | | |
| DK-154 | 16号掘立柱建物 | 91 | 85 | 60 | イ A 2 | 暗褐 | にぶい黄 褐○ | 灰黄褐○ | | | | | ○ | |
| DK-155 | 16号掘立柱建物 | 93 | 85 | 46 | イ A 2 | 暗褐 | にぶい黄 褐○ | にぶい黄 褐○ | | | | | | |
| DK-156 | 16号掘立柱建物 | 88 | 88 | 45 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-157 | 16号掘立柱建物 | 97 | 86 | 47 | イ A 2 | 暗褐 | にぶい黄 褐○ | | | 黒褐○ | | | | |
| DK-158 | 16号掘立柱建物 | 110 | 91 | 50 | イ A 2 | 黒褐 | 黒○ | 黄褐○ | | | △ | | | |
| DK-159 | 16号掘立柱建物 | 91 | 73 | 76 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐○ | にぶい黄 褐○ | | | △ | | | |
| DK-160 | 16号掘立柱建物 | 90 | 82 | 41 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-161 | 16号掘立柱建物 | 88 | 86 | 48 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | △ | | |
| DK-162 | PH-15 内 | 70 | 50 | 13 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | ○ | |
| DK-163 | 45号掘立柱建物 | 150 | 90 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | | | | |
| DK-164 | 16号掘立柱建物 | 100 | 75 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | |
| DK-165 | PH-15 内 | 38 | 38 | 13 | イ A 2 | にぶい黄 褐 | 暗褐○ | 明黄褐△ | | | | | | |
| DK-166 | (A2 折込) PH-15 北壁中央 | 140 | 60 | 30 | イ A 2 | 暗褐 | にぶい黄 褐○ | | | | | | | |
| DK-167 | HD-47 内 | 85 | 74 | 30 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 深さ (m) | 断面形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | 備考 |
|-------|------------------|-----------|-----------|-----------|------|--------|-----|-----------|---------|---------|-----|-----------|----|
| | | | | | | 土質 | しりり | 土色 主たる | 土色 1 | 土色 2 | 炭化物 | 焼土 粒子 | |
| PF-1 | PH-9東壁中央 | 40 | 40 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | △ | △ | |
| PF-2 | PH-9東壁から西へ3.5m | 32 | 29 | 15 | ア | A | 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-3 | 30号独立柱建物 | 33 | 32 | 25 | ア | A | 2 | にぶい黄褐 | 黒褐◎ | 黄褐△ | | | |
| PF-4 | PH-17北壁中央 | 40 | 31 | 24 | ア | A | 2 | にぶい黄褐 | 暗褐○ | 黒褐○ | | | |
| PF-5 | 穴蓋 | | | | | | | | | | | | |
| PF-6 | 穴蓋 | | | | | | | | | | | | |
| PF-7 | 穴蓋 | | | | | | | | | | | | |
| PF-8 | 穴蓋 | | | | | | | | | | | | |
| PF-9 | 穴蓋 | | | | | | | | | | | | |
| PF-10 | 穴蓋 | | | | | | | | | | | | |
| PF-11 | PH-2西壁 | 44 | 32 | 32(19) | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-12 | 46号独立柱建物 | 37 | 31 | 6 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | ○ | △ | |
| PF-13 | 19号独立柱建物 | 35 | 34 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-14 | 19号独立柱建物 | 44 | 34 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-15 | 19号独立柱建物 | 38 | 38 | 28 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-16 | 19号独立柱建物 | 39 | 37 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-17 | PH-19内 | 29 | 28 | 8 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-18 | PH-5内 | 50(31) | 42(28) | 42 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-19 | 19号独立柱建物 | 37 | 36 | 12 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | |
| PF-20 | PH-5内 | 47(25) | 46(25) | 40 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-21 | 22号独立柱建物 | 26 | 24 | 25 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-22 | PH-5内 | 55 | 48 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-23 | PH-5内 | 49 | 43 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい黄褐△ | | ○ | | |
| PF-24 | 19号独立柱建物 | 35 | 35 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-25 | PH-5南壁 | 49(30) | 31 | 49 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-26 | PH-5南壁 | 40 | 27 | 38(16) | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | |
| PF-27 | HD-19内 | 28 | 25 | 15 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-28 | 26号独立柱建物 | 46 | 42 | 36 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-29 | 31号独立柱建物 | 31 | 30 | 24 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-30 | 26号独立柱建物 | 37 | 34 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-31 | 21号独立柱建物 | 33 | 32 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-32 | 21号独立柱建物 | 44(27) | 40(27) | 17 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-33 | 33号独立柱建物 | 43 | 41 | 36 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-34 | 32号独立柱建物 | 26 | 25 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-35 | 25号独立柱建物 | 37 | 36 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-36 | 26号独立柱建物 | 47 | 40 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-37 | HD-24南西角から西へ3.5m | 36 | 30 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-38 | 31号独立柱建物 | 32 | 24 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-39 | HD-26内 | 40 | 32 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-40 | 33号独立柱建物 | 41 | 39 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | |
| PF-41 | HD-26内 | 40 | 40 | 15 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-42 | HD-26内 | 32 | 30 | 24 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-43 | 31号独立柱建物 | 30 | 19 | 23 | イ | A | 2 | にぶい黄褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | |
| PF-44 | 21号独立柱建物 | 45(44) | 42(33) | 35 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-45 | 22号、50号独立柱建物 | 36 | 32 | 43 | ア | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-46 | PH-6内 | 33 | 30 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-47 | PH-6内 | 50 | 29 | 16 | イ | A | 2 | 暗褐 | にぶい黄褐○ | | | | |
| PF-48 | PH-6内 | 18 | 16 | 10 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-49 | PH-6内 | 42 | 25 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-50 | PH-2内 | 30 | 15 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | |
| PF-51 | PH-2内 | 12 | 10 | 27 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐△ | | | | |
| PF-52 | 46号独立柱建物 | 45 | 44 | 25 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | |
| PF-53 | PH-3内 | 15 | 15 | 10 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | |
| PF-54 | PH-3内 | 25 | 22 | 3 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-55 | PH-3内 | 17 | 17 | 4 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-56 | PH-2内 | 33 | 21 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-57 | PH-2内 | 14 | - | 14 | イ | A | 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | |
| PF-58 | PH-2内 | 40 | 33 | 9 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | △ | | |
| PF-59 | PH-2内 | 50 | 38 | 4 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | △ | PF-60を切る。 | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面 形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | 備考 |
|--------|------------------------|------------|------------|------------|----------|-----------|-----|------------|-----------|-----------|-----------|-----|-------------|
| | | | | | | 土質 | しまり | 土色 土なる | 土色 土なる | 土色 土なる | 土色 土なる | 炭化物 | |
| PF-60 | PH-2内 | 25(17) | 17 | 21 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | △ | PF-59に切られる。 |
| PF-61 | PH-2内 | 23 | 22 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | PF-61に切られる。 |
| PF-62 | PH-2内 | 30 | 30 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | △ | PF-61を切る。 |
| PF-63 | PH-2内 | 24 | - | 6 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | △ | |
| PF-64 | 46号掘立柱建物 | 46 | 38 | 13 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | △ | ○ | |
| PF-65 | PH-2内 | 34 | 22 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | △ | △ | |
| PF-66 | PH-2内 | 42 | 23 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-67 | PH-2内 | 21 | 21 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | |
| PF-68 | PH-2内 | 37 | 29 | 32 | イ A 2 | 黒褐 | | | | | | | |
| PF-69 | PH-3内 | 21 | 20 | 7 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-70 | PH-3内 | 19 | 17 | 10 | イ A 2 | 暗褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-71 | PH-3内 | 25 | 24 | 10 | イ A 2 | 暗褐 | | | | | | | |
| PF-72 | PH-6内 | 38 | 33 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | |
| PF-73 | PH-6内 | 25 | 18 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | ○ | | |
| PF-74 | PH-7内 | 43 | 32 | 15 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-75 | PH-7内 | 35 | 33 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-76 | PH-20内 | 22 | 19 | 12 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-77 | PH-20内 | 23 | 16 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-78 | H0-26南西角から南東へ2.5m | 43 | 40 | 35 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-79 | 25号掘立柱建物 | 35 | 33 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-80 | 26号掘立柱建物 | 49 | 39 | 33 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-81 | (A2折込)H0-26北西角から北東へ3m | 41 | 36 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-82 | 25号掘立柱建物 | 34 | 32 | 25 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-83 | 31号掘立柱建物 | 37 | 35 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-84 | H0-26内 | 33 | 33 | 21 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-85 | 33号掘立柱建物 | 32 | 32 | 31 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-86 | 31号掘立柱建物 | 35 | 31 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-87 | 25号掘立柱建物 | 30 | 29 | 42 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-88 | H0-25内 | 27 | 23 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-89 | 25号掘立柱建物 | 33 | 33 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-90 | H0-25内 | 26 | 27 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-91 | 31号掘立柱建物 | 27 | 25 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-92 | 33号掘立柱建物 | 27 | 26 | 31 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-93 | H0-26南西角から南東へ1.5m | 30 | 30 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-94 | 13号掘立柱建物 | 32 | 28 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐○ | 黄褐△ | | | | |
| PF-95 | PH-9南東角から南へ3m | 35 | 27 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐○ | 黄褐△ | | | | |
| PF-96 | (A2折込)PH-17東壁から南東へ3.5m | 26 | 26 | 52 | イ A 2 | 黒褐 | | | | △ | | | |
| PF-97 | 23号掘立柱建物 | 28 | 25 | 15 | イ A 2 | 黒 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-98 | PH-6内 | 43 | 31 | 10 | イ A 2 | 暗褐 | | にさい黄 褐○ | | | | | |
| PF-99 | PH-21内 | 20 | 18 | 10 | イ A 2 | 暗褐 | | にさい黄 褐○ | | | | | |
| PF-100 | PH-6内 | 25 | 20 | 15 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-101 | PH-6内 | 26 | 13 | 11 | イ A 2 | 暗褐 | | 黒褐○ | | | △ | | |
| PF-102 | PH-6内 | 16 | 14 | 14 | イ A 2 | 暗褐 | | 黒褐○ | 黄褐△ | | | | |
| PF-103 | PH-8内 | 39 | 33 | 12 | イ A 2 | にさい黄 褐 | | 暗褐○ | | | | | |
| PF-104 | PH-6内 | 27 | 26 | 14 | イ A 2 | 暗褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-105 | PH-6内 | 41 | 40 | 15 | イ A 2 | 暗褐 | | 黒褐△ | 黄褐△ | | | | |
| PF-106 | PH-23内 | 23 | - | 7 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-107 | PH-23内 | 23 | - | 7 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-108 | PH-23内 | 27 | 27 | 5 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | ○ | | |
| PF-109 | PH-23内 | 13 | 13 | 7 | イ A 2 | 暗褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-110 | 40号掘立柱建物 | 48 | 43 | 34 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-111 | 28号掘立柱建物 | 27 | 23 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-112 | 28号掘立柱建物 | 31 | 26 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-113 | 28号掘立柱建物 | 27 | 25 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-114 | 35号掘立柱建物 | 30 | 27 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-115 | 36号掘立柱建物 | 33 | 28 | 21 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-116 | 42号掘立柱建物 | 39 | 34 | 25 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-117 | 53号掘立柱建物 | 33 | 20 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-118 | 53号掘立柱建物 | 26 | 21 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-119 | 53号掘立柱建物 | 30 | 30 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面 形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | 備考 | |
|--------|---------------------|------------|------------|------------|----------|--------|---------|-----------|------------|---------|---------|-----|----------------------------------|--------------------------|
| | | | | | | 土質 | しり り | 土色 | 主たる 土色 | 土色 1 | 土色 2 | 炭化物 | | 焼土 砂子 |
| PF-120 | 40号、53号独立柱建物 | 43 | 40 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-121 | 36号、53号独立柱建物 | 36 | 35 | 24 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-122 | 42号独立柱建物 | 30 | 21 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-123 | 39号、53号独立柱建物 | 42 | 37 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-124 | 53号独立柱建物 | 66 | 50 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-125 | 53号独立柱建物 | 42 | 42 | 43 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-126 | 40号独立柱建物 | 50 | 47 | 28 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-127 | H0-42内 | 49 | 42 | 31 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-128 | 27号独立柱建物 | 36 | 36 | 36 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-129 | 27号独立柱建物 | 38 | 35 | 25 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-130 | 36号、42号独立柱建物 | 48 | 46 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-131 | PH-10内 | 28 | 28 | 13 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-132 | PH-11内 | 35 | 35 | 9 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-133 | PH-7内 | 28 | 28 | 17 | イ | A | 2 | にぶい 黄褐 | | | ○ | | | |
| PF-134 | PH-7内 | 32 | 26 | 13 | イ | A | 2 | にぶい 黄褐 | | | ◎ | ○ | | |
| PF-135 | PH-7内 | 47 | 13 | 8 | イ | A | 2 | 暗褐 | にぶい 黄褐○ | | ○ | | | |
| PF-136 | PH-24南壁 | 22 | 22 | 36 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい 黄褐△ | | | | | |
| PF-137 | PH-24北壁 | 30 | 30 | 38 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | |
| PF-138 | PH-7内 | 50 | 53 | 22 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | ○ | PF-130に切られる。PF-140との 新旧関係は不明。 | |
| PF-139 | PH-7内 | 47 | - | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | ○ | PF-138・140を切る。 | |
| PF-140 | PH-7内 | 33 | 30 | 13 | イ | A | 2 | にぶい 黄褐 | 黒褐○ | | | | PF-130に切られる。PF-138との 新旧関係は不明。 | |
| PF-141 | 5号独立柱建物 | 45 | 39 | 42 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい 黄褐○ | | | | | |
| PF-142 | 5号独立柱建物 | 33 | 33 | 24 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-143 | 欠番 | | | | | | | | | | | | | |
| PF-144 | 5号独立柱建物 | 47 | 43 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい 黄褐△ | | | | | |
| PF-145 | 3号独立柱建物 | 32 | 28 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-146 | 3号独立柱建物 | 28 | 22 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-147 | 3号独立柱建物 | 50 | 46 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-148 | 3号独立柱建物 | 43 | 41 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | △ | PF-167を切る。 | |
| PF-149 | 4号独立柱建物 | 30 | 30 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-150 | 3号独立柱建物 | 48 | 46 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | △ | | |
| PF-151 | 4号独立柱建物 | 31 | 31 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | △ | | |
| PF-152 | 欠番 | | | | | | | | | | | | | |
| PF-153 | 6号独立柱建物 | 37 | 33 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-154 | 6号独立柱建物 | 42 | 41 | 25 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-155 | 6号独立柱建物 | 47 | 47 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-156 | PH-7内 | 22 | 18 | 20 | イ | A | 2 | にぶい 黄褐 | 黒褐○ | | | | | |
| PF-157 | 3号独立柱建物 | 34 | 30 | 16 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-158 | 3号独立柱建物 | 30 | 26 | 17 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-159 | 3号独立柱建物 | 26 | 25 | 13 | イ | A | 2 | 黒褐 | | | | | | |
| PF-160 | PH-13内 | 29 | 28 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | | | | | | |
| PF-161 | PH-13内 | 30 | 26 | 17 | イ | A | 2 | 黒褐 | | | | | | |
| PF-162 | 5号独立柱建物 | 40 | 39 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-163 | 仮折込、PH-28北東角から北東へ1m | 31 | 30 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-164 | 4号独立柱建物 | 37 | 34 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-165 | 4号独立柱建物 | 22 | 21 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-166 | 4号独立柱建物 | 28 | 25 | 13 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-167 | 4号独立柱建物 | 29 | 23 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | PF-148に切られる。 |
| PF-168 | 4号独立柱建物 | 21 | 21 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-169 | 3号独立柱建物 | 40 | 37 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-170 | 3号独立柱建物 | 34 | 33 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | PF-182と切り合う。新旧関係は 不明。 |
| PF-171 | 4号独立柱建物 | 26 | 25 | 15 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-172 | 1号独立柱建物 | 22 | 22 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PF-173 | 2号独立柱建物 | 45 | 43 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面 形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | 備考 |
|--------|------------------------|------------|------------|------------|----------|--------|-----|--------|------|-----|-----|-----|----------------------|
| | | | | | | 土質 | しりり | 土なる | 土色 | 従たる | 土色と | 炭化物 | |
| PF-174 | PH-12 内 | 43 | 26 | 24 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-175 | 2号独立柱建物 | 43 | 39 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-176 | 2号独立柱建物 | 40 | 38 | 12 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-177 | 2号独立柱建物 | 49 | 49 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-178 | 2号独立柱建物 | 30 | 30 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-179 | 1号独立柱建物 | 20 | 19 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-180 | 1号独立柱建物 | 30 | 27 | 39 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-181 | 1号独立柱建物 | 27 | 25 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-182 | 3号独立柱建物 | 32 | 27 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | PF-170と切り合う。新田関係は不明。 |
| PF-183 | HD-35 内 | 29 | 25 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | ○ | △ | | |
| PF-184 | 1号独立柱建物 | 31 | 27 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-185 | 1号独立柱建物 | 27 | 25 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-186 | 2号独立柱建物 | 42 | 40 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-187 | 1号独立柱建物 | 18 | 15 | 24 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-188 | PH-10 内 | 19 | 15 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-189 | PH-10 内 | 20 | 20 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-190 | 10号独立柱建物 | 58 | 58 | 42 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐△ | | | | | |
| PF-191 | 7号独立柱建物 | 33 | 33 | 40 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐△ | | | | | |
| PF-192 | 7号独立柱建物 | 31 | 29 | 31 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐○ | | | | | |
| PF-193 | 7号独立柱建物 | 37 | 35 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐△ | | | | | |
| PF-194 | 7号独立柱建物 | 40 | 37 | 34 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐△ | | | | | |
| PF-195 | 10号独立柱建物 | 39 | 39 | 39 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-196 | 10号独立柱建物 | 42 | 37 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-197 | 7号独立柱建物 | 42 | 35 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-198 | (A2折込)HD-7北東角から北東へ5.5m | 23 | 22 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | にぶい黄褐△ | | | | | |
| PF-199 | HD-10 内 | 40 | (40) | 25 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-200 | HD-10 内 | 19 | (19) | 25 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-201 | (A2折込)HD-7南東角から南東へ4m | 44 | 44 | 56 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-202 | 2号独立柱建物 | 39 | 37 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-203 | 2号独立柱建物 | 49 | 49 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-204 | 7号独立柱建物 | 37 | 36 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐△ | | | | | |
| PF-205 | 7号独立柱建物 | 28 | 26 | 33 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐△ | | | | | |
| PF-206 | 7号独立柱建物 | 29 | 29 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐○ | | | | | |
| PF-207 | 2号独立柱建物 | 46 | 40 | 21 | イ A 2 | 黒褐 | | にぶい黄褐◎ | 明黄褐○ | | | | 20cm程の柱痕あり。 |
| PF-208 | 2号独立柱建物 | 31 | 28 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-209 | 1号独立柱建物 | 20 | 18 | 9 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-210 | 1号独立柱建物 | 17 | 17 | 30 | ア A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-211 | PH-13 南東角から東へ0.5m | 52 | 47 | 42 | イ A 2 | 黒褐 | | 暗褐○ | | | | | |
| PF-212 | 4a号独立柱建物 | 25 | 24 | 12 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐△ | | | | | |
| PF-213 | 4a号、4b号独立柱建物 | 30 | 28 | 8 | イ A 2 | | | | | | | | |
| PF-214 | PH-24 内 | 40 | 35 | 11 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | △ | |
| PF-215 | PH-24 内 | 24 | 20 | 8 | イ A 2 | にぶい黄褐 | | 暗褐○ | | | | | |
| PF-216 | PH-24 内 | 50 | 24 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-217 | PH-24 内 | 45 | 34 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-218 | PH-24 内 | 30 | 18 | 8 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-219 | PH-24 内 | 58 | 30 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | △ | |
| PF-220 | PH-24 内 | 40 | 28 | 8 | イ A 2 | 黒褐 | | | | | | △ | |
| PF-221 | PH-24 内 | 34 | 30 | 15 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-222 | PH-24 南壁 | 29 | 24 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-223 | PH-24 内 | 22 | 22 | 19 | イ A 2 | 暗褐 | | 黒褐○ | | | | 黄褐△ | |
| PF-224 | HD-35 南西角から南西へ1m | 49 | 40 | 15 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-225 | HD-35 南西角から南西へ0.5m | 32 | 29 | 15 | イ A 2 | 暗褐 | | 黒褐○ | | | | 黄褐△ | |
| PF-226 | 28号独立柱建物 | 29 | 26 | 24 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-227 | PH-27 東壁 | 34 | 26 | 29(6) | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-228 | PH-27 内 | 25 | 25 | 11 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | △ | |
| PF-229 | 4b号独立柱建物 | 24 | 22 | 5 | イ A 2 | | | | | | | | |
| PF-230 | 6号独立柱建物 | 40 | 37 | 12 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | |
| PF-231 | 欠番 | | | | | | | | | | | | |
| PF-232 | 28号独立柱建物 | 30 | 28 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | | | | 備考 | |
|--------|------------------------|------------|------------|------------|-------|--------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|------|--|--|----|----------------------------|
| | | | | | | 土質 | しりり | 土色 | 主たる | 土色↑ | 土色↓ | 炭化物 | 焼土粉子 | | | | |
| PF-233 | 10号独立柱建物 | 46 | 46 | 29 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-234 | 10号独立柱建物 | 38 | 36 | 36 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-235 | 10号独立柱建物 | 44 | 40 | 35 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-236 | 10号独立柱建物 | 38 | 34 | 44 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-237 | 10号独立柱建物 | 41 | 36 | 34 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-238 | 9号独立柱建物 | 37 | 37 | 35 | イ A 2 | 黒褐 | | | | | | | | | | | |
| PF-239 | 9号独立柱建物 | 35 | 34 | 32 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | △ | | | | | |
| PF-240 | 9号独立柱建物 | 32 | 32 | 55 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-241 | 9号独立柱建物 | 36 | 29 | 44 | イ A 2 | 黒褐 | | | | | | | | | | | |
| PF-242 | 9号独立柱建物 | 31 | 30 | 36 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-243 | 9号独立柱建物 | 34 | 26 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-244 | 9号独立柱建物 | 32 | 29 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-245 | 仮折込 10-9 北西角から北西へ3m | 22 | 21 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-246 | 28号独立柱建物 | 25 | 25 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-247 | 28号独立柱建物 | 27 | 26 | 36 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | | | |
| PF-248 | 仮折込 10-10 南西角から南東へ2.5m | 32 | 31 | 19 | イ A 2 | 黒褐 | | | | | | | | | | | |
| PF-249 | 52号独立柱建物 | 27 | 27 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-250 | 52号独立柱建物 | 30 | 30 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-251 | 仮折込 10-52 南西角から西へ3m | 23 | 19 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-252 | 52号、56号独立柱建物 | 28 | 27 | 29 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-253 | 52号、54号独立柱建物 | 33 | 32 | 37 | イ A 2 | 黒褐 | | | | | | | | | | | |
| PF-254 | 10-55 内 | 30 | 29 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-255 | 55号独立柱建物 | 26 | 22 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-256 | 56号独立柱建物 | 26 | 22 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-257 | 54号独立柱建物 | 29 | 26 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-258 | 14号独立柱建物 | 36 | 29 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-259 | 10-14 南東角から東へ0.5m | 31 | 30 | 21 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-260 | 18号独立柱建物 | 25 | 22 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-261 | 18号独立柱建物 | 23 | 21 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-262 | 仮折込 10-18 南西角から南へ5m | 29 | 29 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-263 | 仮折込 10-18 北西角から西へ5m | 24 | 22 | 25 | イ A 2 | 黒褐 | | | | | | | | | | | |
| PF-264 | 仮折込 10-18 南東角から南東へ10m | 20 | 20 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-265 | 42号、53号独立柱建物 | 44 | 43 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-266 | 19号独立柱建物 | 24 | 21 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | | | |
| PF-267 | 仮折込 10-11 北西角から北西へ6.5m | 28 | 28 | 9 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-268 | 仮折込 10-11 北西角から北西へ5.5m | 28 | 24 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-269 | 仮折込 10-11 北西角から北西へ4.5m | 20 | 20 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-270 | 仮折込 10-11 北西角から北西へ4m | 18 | 17 | 6 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-271 | 仮折込 10-11 北西角から北西へ3m | 27 | 25 | 11 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-272 | 仮折込 10-11 北西角から北西へ2m | 30 | 25 | 13 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-273 | 仮折込 10-11 北西角から北へ1.5m | 27 | 25 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-274 | 11号独立柱建物 | 34 | 34 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | | | |
| PF-275 | 仮折込 10-27 南西角から南西へ5m | 30 | 24 | 9 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-276 | 仮折込 10-27 南西角から南西へ5m | 30 | 26 | 11 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-277 | 仮折込 10-27 南西角から南西へ4.5m | 22 | 22 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-278 | 仮折込 10-27 南西角から南西へ4m | 27 | 23 | 9 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-279 | 仮折込 10-27 南西角から南西へ3.5m | 23 | 23 | 5 | イ A 2 | 暗褐 | にぶい黄褐○ | | | | | | | | | | |
| PF-280 | 仮折込 10-27 南西角から南へ3.5m | 30 | 28 | 18 | イ A 2 | 暗褐 | | | | | | | | | | | |
| PF-281 | 仮折込 10-27 南西角から南へ3.5m | 28 | 24 | 12 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-282 | 14号独立柱建物 | 25 | — | 25 | イ A 2 | 暗褐 | | | | | | | | | | | |
| PF-283 | 10号独立柱建物 | 48 | 44 | 36 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-284 | 仮折込 10-10 南西角から南へ1.5m | 46 | 34 | 24 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-285 | 10号独立柱建物 | 55 | 53 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-286 | 9号独立柱建物 | 34 | 33 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-287 | 仮折込 10-11 北西角から北西へ5m | 28 | 20 | 11 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-288 | 9号独立柱建物 | 34 | 31 | 43 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-289 | 9号独立柱建物 | 29 | 27 | 38 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-290 | 10-14 内 | 32 | 32 | 40 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |
| PF-291 | 10-14 内 | 25 | 23 | 47 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | | | |
| PF-292 | 10-14 南壁 | 45 | 40 | 36.25 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | | | φ1~3mのロームブロック10R6(黄褐)が混じる。 |
| PF-293 | 10-14 南壁 | 40 | 30 | 41.00 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面 形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | 備考 |
|--------|--------------------------|------------|------------|------------|----------|--------|-----|------------|----------------|----------|-----|----------|----|
| | | | | | | 土質 | しまり | 土主 なる | 土色 ↑ 従たる | 土色 とる | 炭化物 | 埴土 粒子 | |
| PF-294 | 50号独立柱建物 | 25 | 23 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐○ | | | | | |
| PF-295 | 50号独立柱建物 | 42 | 32 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | |
| PF-296 | 22号独立柱建物 | 27 | 26 | 37 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | |
| PF-297 | 50号独立柱建物 | 32 | 30 | 39 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | |
| PF-298 | 20号独立柱建物 | 40 | 28 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | |
| PF-299 | 20号独立柱建物 | 31 | 22 | 19 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐○ | | | | | |
| PF-300 | 20号、50号独立柱建物 | 28 | 27 | 15 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | |
| PF-301 | H0-50内 | 22 | 22 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | |
| PF-302 | PH-14内 | 32 | 21 | 19 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | △ | | | |
| PF-303 | 21号独立柱建物 | 41 | 41 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-304 | PH-14内 | 32 | 26 | 10 | イ A 2 | 暗褐 | | 黄褐△ | | | △ | | |
| PF-305 | PH-14内 | 20 | 20 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | △ | |
| PF-306 | PH-14内 | 24 | 18 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | △ | △ | | |
| PF-307 | PH-14内 | 50 | 40 | 33 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | △ | |
| PF-308 | (A2折込)H0-29東角から南西へ2.5m | 32 | 25 | 11 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-309 | 49号独立柱建物 | 43 | 37 | 31 | イ A 2 | 黒褐 | | 暗褐○ | | 黄褐△ | | | |
| PF-310 | 55号独立柱建物 | 26 | 23 | 38 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐△ | | | | | |
| PF-311 | 56号独立柱建物 | 33 | 32 | 32 | イ A 2 | 黒褐 | | 褐△ | | | | | |
| PF-312 | (A2折込)PH-7北西角から西へ7m | 40 | 34 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 暗褐○ | | 褐△ | | | |
| PF-313 | 12号独立柱建物 | 30 | 30 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-314 | H0-12内 | 42 | 36 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | | にぶい黄 褐○ | | 黄褐△ | | | |
| PF-315 | H0-12南東角から東へ1m | 53 | 33 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 黒○ | | 黄褐○ | | | |
| PF-316 | PH-27内 | 46 | 43 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-317 | 12号独立柱建物 | 36 | 33 | 31 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-318 | 12号独立柱建物 | 30 | 30 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-319 | 49号独立柱建物 | 36 | 36 | 33 | イ A 2 | 黒 | | にぶい黄 褐◎ | | 明黄褐△ | | | |
| PF-320 | (A2折込)H0-49南西角から西へ4m | 35 | 29 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-321 | 24号独立柱建物 | 30 | 28 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-322 | 46号独立柱建物 | 30 | 28 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-323 | 46号独立柱建物 | 25 | 25 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | △ | | |
| PF-324 | (A2折込)PH-17東壁から東へ25m | 20 | 20 | 19 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-325 | (A2折込)PH-17東壁から東へ20m | 34 | 29 | 25 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-326 | (A2折込)PH-17東壁から東へ20m | 40 | 40 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-327 | (A2折込)PH-2北東角から北東へ25m | 27 | 25 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-328 | (A2折込)PH-17北東角から北東へ18.5m | 46 | 43 | 53 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-329 | (A2折込)PH-17東壁から東へ13m | 34 | 34 | 36 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-330 | (A2折込)PH-17東壁から東へ9m | 33 | 33 | 32 | イ A 2 | 暗褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-331 | (A2折込)PH-17北東角から北東へ10.5m | 29 | 23 | 15 | イ A 2 | 暗褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-332 | (A2折込)PH-17北東角から北東へ20m | 44 | 36 | 32 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-333 | (A2折込)PH-17北東角から北東へ22.5m | 20 | 20 | 20 | イ A 2 | 暗褐 | | 黒褐○ | | 黄褐△ | | | |
| PF-334 | (A2折込)PH-1南東角から南東へ10.5m | 25 | 24 | 12 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-335 | (A2折込)PH-1東壁から東へ8m | 27 | 25 | 12 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-336 | (A2折込)PH-17北西角から西へ2m | 40 | 35 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | | 暗褐△ | | | | | |
| PF-337 | 26号独立柱建物 | 32 | 26 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-338 | H0-26南西角から南東へ3.5m | 30 | 27 | 19 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-339 | H0-33内 | 35 | 28 | 12 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-340 | H0-26南東角から南西へ2m | 33 | 30 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-341 | H0-23北東角から東へ4m | 22 | 21 | 11 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-342 | H0-23北東角から東へ3m | 30 | 28 | 25 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-343 | H0-23北東角から南東へ3m | 31 | 26 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-344 | 20号独立柱建物 | 42 | 32 | 13 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐○ | | | | | |
| PF-345 | PH-4内 | 42 | 41 | 5 | イ A 2 | 黒褐 | | 明黄褐△ | | | | | |
| PF-346 | 11号独立柱建物 | 33 | 33 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-347 | 32号独立柱建物 | 41 | 37 | 35 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-348 | 11号独立柱建物 | 30 | 27 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | | 黄褐△ | | | | | |
| PF-349 | H0-11北西角から東へ0.5m | 23 | 22 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | | 暗褐○ | | 黄褐△ | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | | | | 備考 | |
|--------|--------------------------|------------|------------|------------|------|--------|-----|-----------|------------|------------|---------|-----|----------|--|--|----|--------------|
| | | | | | | 土質 | しりり | 土色 主たる | 土色 1 | 土色 2 | 土色 3 | 炭化物 | 焼土 砂子 | | | | |
| PF-350 | 11号独立柱建物 | 30 | 28 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-351 | Ph-27内 | 26 | 25 | 14 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-352 | Ph-27内 | 22 | 21 | 15 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-353 | Ph-27内 | 27 | 27 | 16 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-354 | 23号独立柱建物 | 34 | 32 | 33 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐◎ | 褐○ | | | | | | | |
| PF-355 | 欠番 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PF-356 | HD-23内 | 31 | 31 | 50 | ア | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-357 | HD-12 南東角から西へ 1m | 20 | 20 | 7 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-358 | 12号独立柱建物 | 33 | 32 | 12 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-359 | 12号独立柱建物 | 28 | 28 | 25 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-360 | HD-12内 | 30 | 28 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-361 | 12号独立柱建物 | 29 | 28 | 28 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-362 | 12号独立柱建物 | 30 | 30 | 10 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-363 | HD-12内 | 36 | 30 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | にぶい黄 褐△ | | | | | | | |
| PF-364 | 12号独立柱建物 | 32 | 31 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい黄 褐△ | | | | | | | | |
| PF-365 | 12号独立柱建物 | 31 | 27 | 17 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-366 | HD-12 南東角から南へ 0.5m | 24 | 23 | 9 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-367 | HD-12 南西角から南西へ 1m | 34 | 32 | 22 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-368 | 24号独立柱建物 | 30 | 29 | 20 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | ○ | | | | |
| PF-369 | 24号独立柱建物 | 31 | 30 | 17 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | ○ | | | | |
| PF-370 | 32号独立柱建物 | 31 | 28 | 17 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | ○ | | | | |
| PF-371 | 32号独立柱建物 | 35 | 35 | 20 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | ○ | | | | |
| PF-372 | HD-23内 | 27 | 27 | 35 | ア | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-373 | 25号独立柱建物 | 40 | 30 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐◎ | | | | | | | | |
| PF-374 | HD-25内 | 39 | 34 | 25 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐◎ | | | | | | | | |
| PF-375 | 26号独立柱建物 | 46 | 35 | 17 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐◎ | | | | | | | | |
| PF-376 | 23号独立柱建物 | 40 | 28 | 35 | イ | A | 2 | 黒 | 黒褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-377 | 23号独立柱建物 | 29 | 24 | 15 | イ | A | 2 | 黒 | | | | | | | | | |
| PF-378 | 欠番 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PF-379 | 23号独立柱建物 | 36 | 30 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-380 | 23号独立柱建物 | 30 | 25 | 35 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-381 | 11号独立柱建物 | 40 | 39 | 22 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黒褐△ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-382 | 11号独立柱建物 | 39 | 38 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-383 | 11号独立柱建物 | 36 | 35 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-384 | 11号独立柱建物 | 40 | 38 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-385 | 11号独立柱建物 | 36 | 36 | 27 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-386 | 11号独立柱建物 | 30 | 27 | 22 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-387 | 49号独立柱建物 | 36 | 35 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-388 | 49号独立柱建物 | 30 | 28 | 15 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-389 | 49号独立柱建物 | 35 | 32 | 36 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-390 | Ph-13内 | 20 | 19 | 14 | イ | A | 2 | 暗褐 | にぶい黄 褐○ | | | | | | | | |
| PF-391 | Ph-13内 | 29 | 26 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-392 | 35号独立柱建物 | 30 | 26 | 18 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-393 | 23号独立柱建物 | 23 | 23 | 26 | イ | A | 2 | にぶい黄 褐 | 黒褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-394 | Ph-16内 | 34 | 31 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-395 | Ph-16内 | 36 | 30 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-396 | Ph-14内 | 30 | 28 | 13 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-397 | 仮折込 1)Ph-15 北壁から北へ 1.5m | 30 | 28 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-398 | 仮折込 1)HD-12 南東角から南東へ 2m | 25 | 20 | 13 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-399 | 仮折込 1)HD-16 北東角から北へ 1.5m | 33 | 29 | 11 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-400 | Ph-16内 | 31 | 31 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐△ | | | | | | | | |
| PF-401 | Ph-16内 | 21 | 18 | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | にぶい黄 褐△ | | | | | | | | |
| PF-402 | Ph-18から北へ 1m | 47 | 43 | 29 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-403 | Ph-16内 | 28 | 27 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-404 | HD-29から東へ 0.5m | 31 | 26 | 31 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐○ | | | | | | | PF-405に切られる。 |
| PF-405 | 13号独立柱建物 | 32 | 25 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-406 | 29号独立柱建物 | 35 | 29 | 27 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐○ | | | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | 備考 |
|---------|-----------------------------|------------|------------|------------|-------|--------|------------|------------|-----------|-----------|-----|----------|----|
| | | | | | | 土質 | しまり | 土色 主たる | 土色 従たる | 土色 量じる | 炭化物 | 埴土 粒子 | |
| PF-407 | 13号掘立柱建物 | 33 | 32 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-408 | 30号掘立柱建物 | 35 | 26 | 31 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-409 | 24号掘立柱建物 | 32 | 28 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-410 | H0-47内 | 62 | 59 | 37 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | |
| PF-411 | 24号掘立柱建物 | 28 | 28 | 41 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-412 | 46号掘立柱建物 | 53 | 50 | 43 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-413 | 30号掘立柱建物 | 39 | 36 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐○ | | | | | | |
| PF-414 | 15号掘立柱建物 | 62 | 61 | 35 | イ A 2 | 黒褐 | 褐◎ | 黄褐○ | | | | 柱痕あり。 | |
| PF-415 | 15号掘立柱建物 | 57 | 54 | 38 | イ A 2 | 黒褐 | 褐○ | 黄褐△ | | | | | |
| PF-416 | (A2折込)PH-2北東角から北東へ 23.5m | 34 | 33 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | |
| PF-417 | 15号掘立柱建物 | 69 | 62 | 40 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-418 | (A2折込)PH-2北東角から北東へ23m | 56 | 50 | 34 | イ A 2 | 黒褐 | にぶい黄 褐◎ | 黄褐◎ | | | | | |
| PF-419 | (A2折込)PH-2北東角から北東へ23m | 33 | 32 | 24 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐○ | 黄褐○ | | | | | |
| PF-420 | (A2折込)PH-2北東角から北東へ 24.5m | 32 | 30 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | 褐◎ | 暗褐○ | | | | | |
| PF-421 | 13号掘立柱建物 | 22 | 19 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-422 | 13号掘立柱建物 | 26 | 21 | 22 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-423 | 13号掘立柱建物 | 26 | 25 | 21 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-424 | 穴番 | | | | | | | | | | | | |
| PF-425 | (A2折込)PH-1南壁から南へ1m | 29 | 23 | 15 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-426 | 39号掘立柱建物 | 43 | 42 | 30 | イ A 2 | 褐 | 黒褐○ | | | | | | |
| PF-427 | (A2折込)PH-6南東角から南へ5m | 36 | 32 | 33 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-428 | 16号掘立柱建物 | 43 | 38 | 19 | イ A 3 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐○ | | | | | |
| PF-429 | PH-15内 | 36 | 31 | 40 | イ A 3 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-430 | (A2折込)PH-6南東角から南へ5.5m | 50 | 35 | 30 | イ A 3 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-431 | PH-15内 | 46 | 29 | 43 | イ A 3 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | ○ | | |
| PF-432 | PH-15南壁 | 36 | 30 | 33 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-433 | PH-15南壁 | 32 | 30 | 38 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-434 | PH-15東壁 | 33 | 27 | 63 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-435 | PH-15内 | 26 | 25 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | 褐△ | | | | | |
| PF-436 | PH-15内 | 22 | 21 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | |
| PF-437 | PH-15内 | 27 | 23 | 18 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | |
| PF-438 | PH-15内 | 26 | 24 | 11 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-439 | PH-15内 | 35 | 32 | 34 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-440 | PH-15内 | 25 | 22 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-441 | PH-15内 | 21 | 20 | 8 | イ A 2 | 黒褐 | 明黄褐△ | | | | | | |
| PF-442 | PH-15内 | 23 | 23 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-443 | PH-15内 | 36 | 36 | 58 | イ A 2 | 黄褐 | 黒褐○ | 褐△ | | | | | |
| PF-444 | 43号掘立柱建物 | 27 | 27 | 36 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | |
| PF-445 | (A2折込)H0-52南東角から東へ1.5m | 29 | 24 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-446 | H0-52南西角から西へ1m | 28 | 28 | 28 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-447 | (A2折込)H0-52南東角から南東へ0.5m | 43 | 43 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-448 | H0-52南東角から南西へ1m | 27 | 24 | 31 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-449 | 54号掘立柱建物 | 28 | 23 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-450 | 14号掘立柱建物 | 27 | 25 | 35 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-451 | 56号掘立柱建物 | 32 | 32 | 38 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-452 | 55号掘立柱建物 | 26 | 26 | 23 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-453 | 14号掘立柱建物 | 30 | 28 | 32 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-454 | 54号掘立柱建物 | 22 | 20 | 19 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-455 | 55号掘立柱建物 | 24 | 24 | 17 | イ A 2 | 黒褐 | にぶい黄 褐△ | | | | | | |
| PF-456 | 29号掘立柱建物 | 55 | 28 | 43 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | |
| PF-457 | (A2折込)PH-2北東角から北東へ23m | 53 | 42 | 35 | イ A 2 | 黒褐 | | | | | | | |
| PF-458 | (A2折込)PH-2北東角から北東へ25m | 28 | 26 | 24 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | |
| PF-459 | 15号掘立柱建物 | 74 | 74 | 37 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐◎ | 黄褐○ | | | | | |
| PF-460 | 15号掘立柱建物 | 67 | 67 | 31 | イ A 2 | 黒褐 | 灰黄褐◎ | にぶい黄 褐△ | | | | | |
| PF-460b | 15号掘立柱建物 | | | | | | | | | | | | |
| PF-461 | 15号掘立柱建物 | 67 | 65 | 44 | イ A 2 | 黒 | 黒褐◎ | 暗褐○ | | | | 柱痕あり。 | |
| PF-462 | 15号掘立柱建物 | 63 | 61 | 28 | イ A 2 | 黒 | 黒褐◎ | にぶい黄 褐○ | | | | 柱痕あり。 | |
| PF-463 | 15号掘立柱建物 | 70 | 60 | 41 | イ A 2 | 黒 | 黒○ | 暗褐○ | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面 形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | | | | 備考 | |
|--------|----------------------------|------------|------------|------------|----------|--------|-----|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|-----|----------|--|----|--------------------|
| | | | | | | 土質 | しりり | 土色 | 主たる 色 | 土色 となる | 土色 となる | 土色 となる | 炭化物 | 焼土 粒子 | | | |
| PF-404 | 欠番 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PF-405 | 44号独立柱建物 | 33 | 33 | 34 | イ | A | 2 | 黒褐 | 灰黄褐○ | 暗褐○ | | | | | | | |
| PF-406 | 16号独立柱建物 | 42 | 36 | 27 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐○ | | | | | | | |
| PF-407 | 44号独立柱建物 | 49 | 46 | 37 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-408 | HD-16内 | 50 | 40 | 34 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-409 | PH-15内 | 26 | 19 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-410 | 16号独立柱建物 | 54 | 54 | 13 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-471 | 17号独立柱建物 | 49 | 45 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | △ | | | | | | 柱痕あり。 |
| PF-472 | 17号独立柱建物 | 43 | 41 | 42 | イ | A | 2 | 黒褐 | | | | | | | | | |
| PF-473 | 17号独立柱建物 | 39 | 37 | 36 | イ | A | 2 | 黒褐 | | | | | | | | | |
| PF-474 | 17号独立柱建物 | 45 | 45 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-475 | 17号独立柱建物 | 34 | 31 | 41 | ア | A | 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-476 | 欠番 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PF-477 | 17号独立柱建物 | 50 | 40 | 37 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-478 | 17号独立柱建物 | 40 | 40 | 47 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-479 | 17号独立柱建物 | 34 | 32 | 38 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-480 | PH-15内 | 55 | 24 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-481 | 45号独立柱建物 | 43 | 37 | 29 | イ | A | 2 | 黒褐 | にふい 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-482 | HD-45南角から北へ0.5m | 25 | 25 | 54 | ア | A | 2 | 黒褐 | にふい 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-483 | HD-45内 | 56 | 30 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | にふい 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-484 | 【2折込】PH-16 北東周溝角から南西へ2m | 45 | 35 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | にふい 黄褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-485 | 【2折込】PH-16 南東周溝角から南西へ14.5m | 38 | 35 | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | にふい 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-486 | 【2折込】PH-16 南東周溝角から南東へ3m | 46 | 37 | 31 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黒褐○ | | | | | | | | |
| PF-487 | 欠番 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| PF-488 | 45号独立柱建物 | 35 | 31 | 36 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-489 | PH-15内 | 23 | 23 | 27 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-490 | PH-15内 | 30 | 30 | 34 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-491 | 19号独立柱建物 | 25 | 25 | 18 | イ | A | 2 | 暗褐 | にふい 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-492 | 19号独立柱建物 | 32 | 30 | 11 | イ | A | 2 | にふい 黄褐 | | | | | | | | | |
| PF-493 | PH-5内 | 23 | 23 | 3 | イ | A | 2 | にふい 黄褐 | 明黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-494 | 19号独立柱建物 | 34 | 24 | 3 | イ | A | 2 | にふい 黄褐 | 明黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-495 | 18号独立柱建物 | 31 | 30 | 24 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-496 | 【2折込】HD-17 南東角から南東へ26.5m | 45 | 44 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | | | | |
| PF-497 | 45号独立柱建物 | 30 | 25 | 33 | イ | A | 2 | 暗褐 | にふい 黄褐○ | 黄褐△ | | | | | | | |
| PF-498 | 25号、33号独立柱建物 | 35 | 35 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | 14cm径の柱痕あり。柱痕は黒色土。 |
| PF-499 | 20号独立柱建物 | 50 | 40 | 17 | イ | A | 2 | 黒褐 | にふい 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-500 | 22号独立柱建物 | 31 | (19) | 21 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | 17cm径の柱痕あり。 |
| PF-501 | 21号独立柱建物 | 36 | 30 | 9 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-502 | 21号独立柱建物 | 43 | 42 | 17 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | | | | |
| PF-503 | 46号独立柱建物 | 40 | 38 | 29 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-504 | 22号独立柱建物 | 30 | 22 | 9 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-505 | 47号独立柱建物 | 35 | 35 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-506 | 47号独立柱建物 | 40 | 31 | 27 | イ | A | 2 | 黒褐 | にふい 黄褐○ | 黒褐△ | | | | | | | 22cm径の柱痕あり。 |
| PF-507 | 24号、47号独立柱建物 | 36 | 35 | 24 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-508 | 47号独立柱建物 | 33 | 30 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-509 | 24号独立柱建物 | 28 | 28 | 17 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-510 | 33号独立柱建物 | 53 | 50 | 24 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-511 | 32号独立柱建物 | 33 | 32 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | | | | |
| PF-512 | 24号独立柱建物 | 20 | 19 | 15 | イ | A | 2 | 暗褐 | 褐△ | | | | | | | | |
| PF-513 | 24号独立柱建物 | 20 | 20 | 24 | イ | A | 3 | 暗褐 | 褐○ | | | | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 通構 番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面 形状 | 埋土観察所見 | | | | | | 備考 |
|----------|--------------------|------------|------------|------------|----------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|--------------|
| | | | | | | 土質 | しまり | 土色 主たる | 土色 従たる | 土色 主たる | 土色 従たる | |
| PT-514 | 24号掘立柱建物 | 31 | 25 | 15 | イ A 3 | 暗褐 | | 褐○ | | | | |
| PT-515 | HD-25内 | 21 | 21 | 8 | イ A 3 | 暗褐 | 黒褐○ | 褐△ | | | | |
| PT-516 | HD-26 北東角から北西へ2m | 33 | 33 | 14 | イ A 3 | 暗褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-517 | 21号掘立柱建物 | 28 | 23 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-518 | 33号掘立柱建物 | 50 | 34 | 33 | イ A 3 | 暗褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-519 | HD-26 南西角から南東へ2m | 26 | 25 | 6 | イ A 2 | にぶい黄 褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-520 | HD-26 北東角から北西へ3.5m | 42 | 40 | 8 | イ A 2 | にぶい黄 褐 | 暗褐△ | | | | | |
| PT-521 | 21号、33号掘立柱建物 | 45 | 45 | 20 | イ A 2 | 暗褐 | 褐○ | | | | | |
| PT-522 | 21号掘立柱建物 | 34 | 33 | 9 | イ A 2 | 暗褐 | 褐○ | | | | | |
| PT-523 | 27号掘立柱建物 | 33 | 31 | 21 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-524 | 27号掘立柱建物 | 37 | 34 | 27 | イ A 2 | 暗褐 | 褐○ | 黒褐△ | | | | |
| PT-525 | 27号掘立柱建物 | 31 | 25 | 14 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐△ | | | | |
| PT-526 | 27号掘立柱建物 | 27 | 25 | 9 | イ A 2 | 暗褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-527 | 27号掘立柱建物 | 30 | 27 | 25 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐○ | 褐△ | | | | |
| PT-528 | 27号掘立柱建物 | 38 | 33 | 27 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-529 | 27号掘立柱建物 | 43 | 37 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐△ | | | | |
| PT-530 | 28号掘立柱建物 | 32 | 32 | 10 | イ A 2 | 暗褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-531 | 27号掘立柱建物 | 30 | 28 | 8 | イ A 3 | 黒褐 | 褐○ | にぶい黄 褐○ | | | | |
| PT-532 | 27号掘立柱建物 | 32 | 32 | 10 | イ A 3 | 黒褐 | 褐○ | にぶい黄 褐○ | | | | |
| PT-533 | 27号掘立柱建物 | 36 | 33 | 25 | イ A 2 | 暗褐 | | | | | | |
| PT-534 | HD-50内 | 32 | 26 | 25 | イ A 2 | にぶい黄 褐 | 暗褐△ | | | | | |
| PT-535 | 27号掘立柱建物 | 30 | 23 | 5 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐△ | | | | |
| PT-536 | 27号掘立柱建物 | 32 | 28 | 19 | イ A 2 | 黒褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-537 | 39号掘立柱建物 | 33 | 33 | 10 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | | |
| PT-538 | 39号掘立柱建物 | 40 | 37 | 36 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | | |
| PT-539 | 39号掘立柱建物 | 47 | 42 | 42 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | | |
| PT-540 | 29号掘立柱建物 | 30 | 26 | 37 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐△ | | | | |
| PT-541 | 29号掘立柱建物 | 60 | 50 | 26 | | | | | | | | |
| PT-542 | 29号掘立柱建物 | 43 | 40 | 32 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐△ | | | | | |
| PT-543 | 29号掘立柱建物 | 43 | 41 | 20 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐△ | | | | | |
| PT-544 | 30号掘立柱建物 | 35 | 34 | 28 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐○ | | | | | |
| PT-545 | 30号掘立柱建物 | 24 | 21 | 19 | イ A 2 | 暗褐 | 褐△ | | | | | |
| PT-546 | 30号掘立柱建物 | 30 | 20 | 26 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐△ | | | | | |
| PT-547 | 25号掘立柱建物 | 40 | 35 | 33 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PT-548 | 26号掘立柱建物 | 38 | 38 | 9 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PT-549 | 34号掘立柱建物 | 37 | 37 | 18 | イ A 2 | 暗褐 | にぶい黄 褐△ | | | | | |
| PT-550 | 34号掘立柱建物 | 37 | 37 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | |
| PT-551 | 34号掘立柱建物 | 38 | 38 | 22 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PT-552 | 34号掘立柱建物 | 31 | 31 | 21 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PT-553 | 35号掘立柱建物 | 38 | 35 | 22 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐○ | 黄褐△ | | | | |
| PT-554 | 35号掘立柱建物 | 43 | 33 | 22 | イ A 2 | 暗褐 | | | | | | |
| PT-555 | 35号掘立柱建物 | 36 | 36 | 15 | イ A 2 | 暗褐 | | | | | | |
| PT-556 | 35号掘立柱建物 | 36 | 36 | 15 | イ A 2 | 暗褐 | 黒褐○ | 黄褐△ | | | | |
| PT-557 | 欠番 | | | | | | | | | | | |
| PT-558 | HD-40内 | 46 | 46 | 18 | イ A 2 | 暗褐 | | | | | | |
| PT-559 | 51号掘立柱建物 | 45 | 33 | 9 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | |
| PT-560 | 51号掘立柱建物 | 44 | 39 | 22 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PT-561 | 51号掘立柱建物 | 40 | 30 | 16 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | | PT-560に切られる。 |
| PT-562 | 51号掘立柱建物 | 57 | 53 | 4 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐○ | | | | | |
| PT-563 | HD-39内 | 44 | 40 | 38 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | 17cm径の柱痕あり |
| PT-564 | HD-36内 | 41 | 40 | 32 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PT-565 | 40号掘立柱建物 | 44 | 35 | 30 | イ A 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PT-566 | 36号掘立柱建物 | 36 | 33 | 22 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PT-567 | PH-34内 | 31 | 30 | 29 | イ A 2 | 暗褐 | | | | | | |
| PT-568 | 39号、53号掘立柱建物 | 64 | 50 | 20 | イ A 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | | |
| PT-569 | 43号掘立柱建物 | 25 | 24 | 28 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | |
| PT-570 | HD-40内 | 50 | 43 | 14 | イ A 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 遺構番号 | 位置 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 断面 形状 | 埋土観察所見 | | | | | | | 備考 |
|--------|-------------------------|------------|------------|------------|----------|--------|-----|----|-----------|----------------|----------------|------------|----|
| | | | | | | 土質 | しきり | 土色 | 主たる 土色 | 土色 ↓ 土色↑ | 土色 ↓ 土色↑ | 炭化物 | |
| PF-571 | 39号、53号独立柱建物 | 48 | 46 | 23 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | |
| PF-572 | 43号独立柱建物 | 32 | 32 | 26 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-573 | 39号、43号、53号独立柱建物 | 42 | 35 | 15 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-574 | HD-51 北西角から南西へ2m | 46 | 44 | 4 | イ | A | 2 | 暗褐 | | | | | |
| PF-575 | HD-51内 | 46 | 46 | 8 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-576 | HD-42 北東角から北へ0.5m | 35 | 30 | 14 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-577 | HD-42 北東角から北へ1.5m | 49 | 43 | 9 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 黄褐△ | | | |
| PF-578 | 51号独立柱建物 | 36 | 30 | 14 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-579 | HD-43内 | 56 | 42 | 33 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-580 | 51号独立柱建物 | 34 | 28 | 28 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | PF-561を切る。 | |
| PF-581 | (仮折込)H-21 北東角から北東へ3m | 47 | 45 | 13 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黒褐△ | 黄褐△ | | | |
| PF-582 | 穴番 | | | | | | | | | | | | |
| PF-583 | 穴番 | | | | | | | | | | | | |
| PF-584 | 43号独立柱建物 | 28 | 27 | 39 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-585 | 穴番 | | | | | | | | | | | | |
| PF-586 | HD-40内 | 41 | 36 | 22 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | |
| PF-587 | 38号独立柱建物 | 46 | 35 | 19 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-588 | 38号独立柱建物 | 34 | 34 | 8 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-589 | 38号独立柱建物 | 30 | 28 | 9 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-590 | 38号独立柱建物 | 14 | 13 | 6 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-591 | 38号独立柱建物 | 45 | 40 | 32 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-592 | 穴番 | | | | | | | | | | | | |
| PF-593 | HD-23内 | 24 | 24 | 43 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-594 | 18号独立柱建物 | 29 | 28 | 30 | ア | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-595 | HD-18内 | 33 | 33 | 11 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-596 | HD-14 北東角から南へ1m | 50 | 44 | 35 | イ | A | 2 | 暗褐 | | | | | |
| PF-597 | HD-56内 | 28 | 28 | 35 | ア | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-598 | 43号独立柱建物 | 28 | 21 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | | | | |
| PF-599 | 44号独立柱建物 | 34 | 28 | 30 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-600 | 44号独立柱建物 | 25 | 23 | 20 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-601 | 45号独立柱建物 | 47 | 42 | 18 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-602 | 45号独立柱建物 | 39 | 37 | 13 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-603 | 26号独立柱建物 | 15 | 15 | 8 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐△ | | | | |
| PF-604 | 33号独立柱建物 | 27 | 25 | 18 | イ | A | 2 | | | | | | |
| PF-605 | 47号独立柱建物 | 33 | 25 | 28 | イ | A | 2 | 暗褐 | 褐○ | | | | |
| PF-606 | 47号独立柱建物 | 33 | 30 | 16 | イ | A | 2 | 暗褐 | 褐△ | | | | |
| PF-607 | 23号独立柱建物 | 31 | — | 30 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐△ | | | |
| PF-608 | 23号独立柱建物 | 27 | 26 | 40 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐△ | | | |
| PF-609 | HD-23内 | 40 | 32 | 46 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐△ | | | |
| PF-610 | HD-23内 | 27 | 27 | 42 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | 褐△ | | | |
| PF-611 | 50号独立柱建物 | 39 | 39 | 16 | イ | A | 2 | | | | | | |
| PF-612 | 27号独立柱建物 | 32 | 29 | 18 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |
| PF-613 | 52号独立柱建物 | 37 | 37 | 22 | イ | A | 2 | | | | | | |
| PF-614 | 52号独立柱建物 | 36 | 36 | 27 | イ | A | 2 | | | | | | |
| PF-615 | 52号独立柱建物 | 37 | 35 | 18 | イ | A | 2 | | | | | | |
| PF-616 | 52号独立柱建物 | 32 | 26 | 30 | イ | A | 2 | | | | | | |
| PF-617 | 52号独立柱建物 | 27 | 25 | 30 | イ | A | 2 | | | | | | |
| PF-618 | 52号独立柱建物 | 33 | 29 | 23 | イ | A | 2 | | | | | | |
| PF-619 | 27号独立柱建物 | 23 | 20 | 35 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-620 | (仮折込)HD-52 南西角から西へ2m | 33 | 31 | 28 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-621 | (仮折込)HD-52 南西角から西へ1m | 30 | 28 | 13 | イ | A | 2 | 暗褐 | 黄褐△ | | | | |
| PF-622 | HD-52 南東角 | 24 | 22 | 22 | イ | A | 2 | 暗褐 | | | | | |
| PF-623 | HD-18 南東角から東へ1m | 27 | 27 | 24 | イ | A | 2 | 暗褐 | | | | | |
| PF-624 | (仮折込)HD-17 南西角から南へ24.5m | 40 | 32 | 36 | イ | A | 2 | 黒褐 | 暗褐○ | に白い黄褐△ | | | |
| PF-625 | 26号独立柱建物 | 40 | 40 | 25 | イ | A | 2 | 黒褐 | 黄褐○ | | | | |

第2表 土坑ピット観察表

| 図号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|------|-------------------------------|------------|---------|---------|---------|--------|--------------------|------------|-----|---|---|--|
| 7図1 | 甲-11 床直 | 甲斐型杯 | (10.8) | | | 20.0 | 内・S96.6 外・S96.6 | 口縁部→ 胴部 | 1/5 | ロクロ成形、体 部外周下半ヘラ ケズリ、内面放 射状線文 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 住居南側西側の床直 体部外面に遺着 |
| 7図2 | 甲-15・12 甲-1 一括 | 甲斐型杯 | (11.2) | 4.3 | 5.0 | 48.0 | 内・S96.6 外・S96.6 | 口縁部→ 底部 | 1/2 | ロクロ成形、体 部外周下半ヘラ ケズリ、内面放 射状線文、底部 回転未切り痕 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | カマド手前（南側） と住居西側西隣の 溝1の底で出土。体部 外面に遺着。底部 に焼成後の十字形の 線刻有り |
| 7図3 | 甲-1 一括 | 甲斐型杯 | | | | 6.0 | 内・S96.6 外・S96.6 | 口縁部 | | ロクロ成形、体 部外周口ロナデ、 内面放射状 線文 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 体部外面に遺着 |
| 8図1 | 甲-13 床直 甲-16 甲-1 一括 | 甲斐型壺 | (21.0) | | | 100.0 | 内・S96.6 外・S96.6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部外周縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 富母粒子が混じる、 ざらついた胎土 | カマド手前とカマド 手前の床直 |
| 8図2 | 甲-1 一括 甲-1 カマド | 甲斐型椀 飯甕 | | | | 91.0 | 内・T96.6 外・T96.6 | 胴部 | 破片 | 外面縦のカキメ、 内面縦のナデ調 整 | 長石、石英、黒色、 白色、赤色鉱物粒 子、富母粒子が混 じる、ややざらつ いた胎土 | カマド出土。調整は 厚手 |
| 8図3 | 甲-1 一括 | 黒色杯 | (12.0) | | | 5.0 | 内・M5.0 外・T96.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外周口ロナ デ、内面ミガキ | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じる、 ややざらついた胎 土 | 内面黒色処理 |
| 8図4 | 甲-12 床直 甲-1 カマド 甲-1 一括 | ロクロ壺1 類 | (13.2) | | | 86.0 | 内・T96.6 外・T96.4 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部内外面ナデ 調整 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 住居南側西隣の床直 とカマド |
| 8図5 | 甲-1 13 | ロクロ壺1 類 | (17.0) | | | 86.0 | 内・T96.4 外・T96.6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部内外面ナデ 調整 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | カマド（北側）の 住居東側西隣 |
| 8図6 | DK-21 2 | ロクロ壺2 類 | | | | 48.0 | 内・T96.4 外・T96.6 | 胴部 | 破片 | 体部外周口ロナ デの体部間でナ デ、内面縦方向に 傾かてナデ、 厚手 | 石英、黒色、白色、 赤色鉱物粒子が混 じる、ややざらつ いた胎土 | DK-21 |
| 8図7 | DK-21 1・3 DK-21 一括 | ロクロ壺2 類 | | | | 100.0 | 内・T96.7 外・T96.6 | 胴部 | 破片 | 体部内外面口ロ ロナデ | 石英、黒色、白色、 赤色鉱物粒子が混 じる、ややざらつ いた胎土 | DK-21 |
| 8図8 | 甲-1 カマド | 武藏型 | | | | 41.0 | 内・T96.6 外・T96.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面ヘラケ ズリ、内面口ロ ロナデ | 石英、黒色、白色、 赤色鉱物粒子、富 母粒子が混じる、 ややざらついた胎 土 | カマド |
| 11図1 | 甲-2 14・16・17・ 25 甲-2 床直 | 甲斐型杯 | (13.7) | 4.8 | 6.6 | 116.0 | 内・S96.8 外・S96.8 | 口縁部→ 底部 | 1/2 | ロクロ成形、体 部外周口ロナデ、 外面下半回転 軸ヘラケズリ、 内面放射状線文、 肩部放射状ケ ズリ、回転未切 り痕残る | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 住居床直とカマド 甲斐型壺の工人が 作った杯 体部外面に遺着 |
| 11図2 | 甲-2 18 | 甲斐型杯 | 11.4 | 4.4 | 5.4 | 59.0 | 内・S96.6 外・S96.6 | 口縁部→ 底部 | 3/5 | ロクロ成形、体 部外周下半ヘラ ケズリ、内面放 射状線文、底部 ヘラケズリ、中 心部に回転未切 り痕 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | カマド 体部外面に遺着 |
| 11図3 | 甲-2 14 甲-2 カマド | 甲斐型杯 | (12.8) | 5.0 | 6.7 | 96.0 | 内・S96.6 外・S96.6 | 口縁部→ 底部 | 1/2 | ロクロ成形、体 部外周下半ヘラ ケズリ、内面口 ロナデ、底部 ヘラケズリ、回 転未切り痕残る | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | カマド |
| 11図4 | 甲-2 2・4 甲-2 一括 | 甲斐型杯 | 13.4 | 4.8 | 6.7 | 143 | 内・S96.6 外・S96.8 | 口縁部→ 底部 | 2/3 | ロクロ成形、体 部外周下半ヘラ ケズリ、内面口 ロナデ、下半 放射状線文、底 部ヘラケズリ、 回転未切り痕残 る | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 住居南側 体部外面に遺着 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|---------|--|------------|---------|---------|---------|--------|----------------------------|------------|-----|---|---|--|
| 11 図 5 | Ph-2 40 Ph-2 床下 Pt-6 | 甲斐型杯 | (11.2) | 4.3 | 5.4 | 72.0 | 内 : SR6.6 外 : SR6.8 | 口縁部～ 底部 | 2/3 | ロクロ成形。体 部外周下半ヘラ ケズリ。内面に 放射状線文。底 部ヘラケズリ。 回転糸切り痕残 る | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 住居床下とカマド手 前(北側)と Pt-6 体部外周に墨書 |
| 11 図 6 | Dk-50 6 Dk-50 一括 | 甲斐型杯 | (11.1) | 4.2 | 5.4 | 96.0 | 内 : SR6.6 外 : SR6.6 | 口縁部～ 底部 | 2.5 | 体部外周ロクロ ナデ、ヘラケズ リ。内面放射状 線文。底面放射 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子。霏 母粒子が混入する。 甲斐型杯としては ややキメの粗い胎 土 | Dk-50 |
| 11 図 7 | Ph-2 50 Ph-2 床下・床直 Ph-2 一括 Dk-50 3 Dk-50 一括 Pt-50 | 甲斐型杯 | 12.0 | 4.5 | 5.5 | 91.0 | 内 : SR6.6 外 : SR6.6 | 口縁部～ 底部 | 2/3 | ロクロ成形。体 部外周下半ヘラ ケズリ。内面ナ 子調整。底部ヘ ラケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 住居床直・床下、住 居南倉庫裏り、Dk-50、 Pt-50 |
| 12 図 1 | Dk-45 一括 Dk-42 一括 | 甲斐型杯 | (10.9) | (4.5) | (5.2) | 23.0 | 内 : 2 SR6.6 外 : 2 SR6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/3 | 体部外周ロクロ ナデ、ヘラケズ リ。内面放射状 線文。底部ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | Dk-45 と Dk-42 体部外周に焼成後の十 字形の線刻あり |
| 12 図 2 | Ph-2 床下 Ph-2 47 Dk-42 一括 | 甲斐型杯 | (12.9) | 5.9 | (6.4) | 46.0 | 内 : SR6.6 外 : SR6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/5 | ロクロ成形。体 部外周下半ヘラ ケズリ。内面放 射状線文。底部 ヘラケズリ。回 転糸切り痕残る | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 住居床下と住居南側 と Dk-42 |
| 12 図 3 | Ph-2 1 Ph-2 一括 | 甲斐型杯 | | | 5.7 | 23.0 | 内 : SR6.8 外 : SR6.6 | 胴部～底 部 | 破片 | 体部外周ヘラケ ズリ。内面放射 状線文。底部ヘ ラケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 住居北倉庫階 底部に焼成後の十字 形の線刻あり |
| 12 図 4 | Ph-2 床直 | 甲斐型杯 | (13.6) | | | 12.0 | 内 : SR6.6 外 : SR6.8 | 口縁部 | 破片 | 内周面ロクロナ デ | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 住居床直 体部外周に墨書あり |
| 12 図 5 | Ph-2 床下 | 甲斐型杯 | | | | 3.0 | 内 : 7 SR6.6 外 : SR6.6 | 胴部 | 破片 | 体部外周ヘラケ ズリ。内面放射 状線文 | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 住居床下 体部外周に墨書あり |
| 12 図 6 | Ph-2 一括 | 甲斐型杯 か皿 | | | | 1.0 | 内 : SR6.6 外 : SR6.6 | 胴部 | 破片 | 体部外周ロクロ ナデ。内面放射 状線文 | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 体部外周に墨書あり |
| 12 図 7 | Pt-40 一括 | 甲斐型小 形壺 | (8.5) | | | 11.0 | 内 : 7 SR6.2 外 : SR6.2 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外周縦方向 カキメ。体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霏母粒子が混入する。 ざらついた胎土 | Pt-40 |
| 12 図 8 | Ph-2 床下 Dk-40 3・5 Dk-40 一括 | 甲斐型小 形壺 | (14.9) | | | 75.0 | 内 : SR6.2 外 : SR6.3 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外周縦方向 カキメ。体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霏母粒子が混入する。 ざらついた胎土 | 住居床下と Dk-40 |
| 12 図 9 | Ph-2 24・34 | 甲斐型小 形壺 | (12.3) | | | 61.0 | 内 : SR6.6 外 : SR6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外周縦方向 カキメ。体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霏母粒子が混入する。 ざらついた胎土 | カマド |
| 12 図 10 | Ph-2 11 Ph-2 床下 Ph-2 一括 Dk-40 | 甲斐型壺 | 24.0 | | | 76.0 | 内 : SR6.3 外 : SR6.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外周縦方向 カキメ。体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霏母粒子が混入する。 ざらついた胎土 | 住居床下とカマド手 前と Dk-40 |
| 12 図 11 | Dk-50 2 Dk-50 一括 | 甲斐型壺 | 26.9 | | | 63.0 | 内 : SR6.6 外 : 2 SR6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外周縦方向 カキメ。体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霏母粒子が混入する。 ざらついた胎土 | Dk-50 |
| 13 図 1 | Ph-2 13・21・22・ 25・30・32・33・ 35 Ph-2 カマド | 甲斐型壺 | 24.0 | | | 419.0 | 内 : 2 SR6.4 外 : SR6.4 | 口縁部～ 胴部 | 1/3 | 体部外周縦方向 カキメ。体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霏母粒子が混入する。 ざらついた胎土 | カマド |
| 13 図 2 | Ph-2 15 Ph-2 床直 Ph-2 一括 Dk-50 4 | 甲斐型壺 | (19.2) | | | 150.0 | 内 : 7 SR7.4 外 : 7 SR6.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外周縦方向 カキメ。体部内 面縦方向カキメ | 白色、黒色磁粉粒 子、乳白色薄片が 混入する。ややキメ の粗かな胎土。霏 母粒子は少ない。 | 住居床直とカマド手 前と Dk-50 |
| 13 図 3 | Ph-2 44 | 甲斐型壺 | | | 7.2 | 86.0 | 内 : 7 SR6.3 外 : SR6.4 | 底部 | 破片 | 体部外周縦方向 カキメ。体部外 面縦方向カキメ。 底部木炭痕 | 長石、石英、黒色、 霏母粒子が混入する。 ざらついた胎土 | 住居中央 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 土色・調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|------|--|------------|---------|---------|---------|--------|------------------------|-------------------|------|---------------------------------------|-------------------------------------|---|
| 13図4 | PH-2 床直・床下 DK-51・52・53・54・ 45一括 PH-59・60・61一括 | 武蔵型壺 | 14.4 | | 8.4 | 142.0 | 内・596/4 外・596/4 | 口縁部、 胴部、底 部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ、内面ナデ調整、底部ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色磁物粒子が混じる。 | 住居の床直・床下、DK-45・49・51・52・53、PH-59・60・61 |
| 13図5 | PH-2 43 | 武蔵型壺 | | | | 38.0 | 内・7.596/4 外・7.596/6 | 胴部 | 破片 | 外面ケズリ、内面ナデ | 長石、石英、黒色、赤色磁物粒子が混じる。炭母少量混入する。 | カマド手前 |
| 13図6 | PH-2 床直 PH-2 42 DK-49 2 DK-49 一括 DK-52 一括 | ロク口壺1 類 | 13.8 | | | 107.0 | 内・596/6 外・596/6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 長石、石英、黒色、赤色磁物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 住居床直、カマド手前(北側)、DK-49、DK-52 |
| 13図7 | PH-2 7 | ロク口壺3 類 | 20.3 | | | 34.0 | 内・7.596/4 外・7.597/4 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 口縁部外面ロクロナデ、外面胴部は塗れた皮等でなでたような調整 | 長石、石英、赤色、黒色磁物粒子。炭母が混入する。乳白色短片が混入する。 | カマド横(北側) |
| 13図8 | PH-59 一括 | ロク口壺2 類 | 16.4 | | | 28.0 | 内・7.596/4 外・596/6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、外面胴部は粗ばきでなでている | 長石、石英、黒色磁物粒子が混入する。ややざつぱり胎土 | PH-59 |
| 13図9 | PH-2 9・10 PH-67 1 | ロク口壺4 類 | | 8.5 | | 200.0 | 内・596/4 外・1094/1 | 底 | 破片 | 外面は風化して調整不明、内面はロクロナデ調整、底面回転糸切り痕 | 長石、石英、赤色磁物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | 住居南側と住居中央北側とPH-67まるで縄文土器のような厚手で粗いつくりの底部 |
| 14図1 | PH-2 19・20・23 | 須恵器平 | 15.0 | 6.1 | 9.0 | 174.0 | 内・1094/1 外・596/4 | 口縁部→ 底 | 2/5 | 内外面ロクロナデ、底部は回転糸切り痕にナデ、付け高台 | 白色磁物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | カマド |
| 14図2 | PH-2 46 | 須恵器平 | 11.8 | 4.3 | 6.0 | 67.0 | 内・7.595/1 外・7.595/1 | 口縁部→ 底 | 2/5 | 内外面ロクロナデ、底面回転糸切り痕 | 白色磁物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | 住居南側壁際 |
| 14図3 | DK-6 1 | 須恵器平 | 12.0 | 3.9 | 5.8 | 60.0 | 内・2.597/2 外・2.597/2 | 口縁部→ 底 | 1/3 | 内外面ロクロナデ、底面回転糸切り痕 | 長石、石英、赤色、黒色磁物粒子が混入する。ややキメの粗い胎土 | DK-6 |
| 14図4 | PH-2 床下 DK-49 1 DK-49 一括 DK-59 一括 | 須恵器平 | 13.6 | 4.3 | 6.4 | 85.0 | 内・2.597/2 外・2.598/2 | 口縁部→ 底 | 3/5 | 体部外面ロクロナデ、内面放射状縄文、底面回転糸切り痕にナデ、底部ヘラナデ | 長石、石英、黒色、赤色磁物粒子が混入する。ややキメの粗い胎土 | 住居床下とDK-49とDK-59の間に敷居の須恵器 |
| 14図5 | PH-2 3 | 須恵器広口壺 | 25.0 | | | 96.0 | 内・596/2 外・96/0 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色磁物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | 住居南西角の西側壁際 |
| 14図6 | PH-2 一括 | 須恵器蓋 | | | | 31.0 | 内・596/1 外・596/1 | - | 破片 | 体部外面ロクロナデ、外面上端は回転ヘラケズリ、内面ロクロナデ | 白色磁物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | |
| 14図7 | DK-50 一括 | 徳成粘土塊 | | | | 14.0 | 内・1097/4 外・1096/4 | - | - | | 石英、黒色、白色、赤色磁物粒子が混入する。 | DK-50 |
| 17図1 | PH-3 9 PH-3 一括 | 甲斐型平 | 11.4 | 4.3 | 4.7 | 83.0 | 内・7.596/6 外・7.596/6 | 口縁部→ 底 | 4/5 | 体部外面ロクロナデ、ヘラケズリ、内面放射状縄文、底面回転糸切り痕ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色磁物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | カマド横(北側) 体部外面に塗書 |
| 17図2 | PH-3 18 PH-3 一括 | 甲斐型平 | 10.4 | 4.4 | 4.9 | 96.0 | 内・7.596/6 外・596/6 | 口縁部→ 底 | ほぼ完全 | 体部外面ロクロナデ、ヘラケズリ、内面放射状縄文、底面回転糸切り痕ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色磁物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | 住居南東角 底面に徳成後の縞刻有り |
| 17図3 | PH-3 一括 DK-69 4 | 甲斐型平 | 11.4 | 4.3 | 6.0 | 30.0 | 内・596/6 外・596/6 | 口縁部→ 底 | 1/5 | 体部外面ロクロナデ、ヘラケズリ、内面放射状縄文、底面回転糸切り痕ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色磁物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PH-3とDK-69(PH-23)内 |
| 17図4 | PH-3 一括 | 甲斐型平 | | | | 3.0 | 内・596/6 外・596/6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、内面放射状縄文 | 長石、石英、黒色、赤色磁物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | 体部外面に徳成後の十字形の縞刻有り胎土 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|--------|---|--------|---------|---------|---------|--------|------------------------|--------|-----|---------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 17 図 5 | Ph-3 一拵 | 甲斐型杯 | | | | 3.0 | 内・S95.6 外・S96.6 | 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土。 | 体部外面に黒書 |
| 18 図 1 | Ph-3 22・3・15・16・13・21 Ph-3 一拵 | 甲斐型壺 | 25.2 | | | 692.0 | 内・7.594.3 外・7.596.6 | 口縁部～底部 | 1/4 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ | 石英、白色、赤色、黒色鉱物粒子が混ざるややキメ細かい胎土。霽雨粒子は少ない | カマドと住居南東角と住居南側 |
| 18 図 2 | Ph-3 19 | 甲斐型小形壺 | | | 6.8 | 211.0 | 内・1095.4 外・1096.4 | 胴部～底部 | 1/3 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ、底部木炭痕 | 石英、白色、赤色、黒色鉱物粒子が混ざるややキメ細かい胎土。霽雨粒子は少ない | 住居南東角の東側壁寄り |
| 18 図 3 | Ph-3 一拵 | 甲斐型壺 | 24.0 | | | 40.0 | 内・7.593.3 外・7.592.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、霽雨粒子が混じる。ざらついた胎土 | |
| 18 図 4 | Ph-3 一拵 | 甲斐型壺 | 22.0 | | | 39.0 | 内・7.594.3 外・7.594.3 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、霽雨粒子が混じる。ややざらついた胎土 | |
| 18 図 5 | Ph-3 14 Ph-3 一拵 | 甲斐型壺 | 23.4 | | | 82.0 | 内・7.593.3 外・7.594.4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、霽雨粒子が混じる。ざらついた胎土 | 住居南東角 |
| 18 図 6 | 5-041-2014(試掘分) Ph-3 | 黒色杯 | | | 5.7 | 46.0 | 内・102.0 外・1030.4 | 底部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り痕付高台 | 長石、石英、黒色、霽雨粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 内面黒色処理 |
| 18 図 7 | Ph-3 カマド | ロク口裏2類 | | | | 26.0 | 内・7.594.3 外・7.596.6 | 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、外面は何かでなでている | 長石、石英、黒色、霽雨粒子が混じる。ややざらついた胎土 | カマド |
| 19 図 1 | Ph-3 4 | 須恵器杯 | (12.2) | 4.2 | 6.0 | 56.0 | 内・2.596.2 外・2.596.2 | 口縁部～底部 | 1/3 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 白色鉱物粒子が混じる。底面は軟質 | 住居南側壁際 |
| 19 図 2 | Ph-3 一拵 Dk-44 2 Dk-69 6 Dk-69 一拵 | 須恵器杯 | (11.4) | 4.0 | (5.8) | 38.0 | 内・7.596.1 外・7.596.1 | 口縁部～底部 | 1/3 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 霽雨粒子が目立たないキメの細かい胎土。焼痕は軟質 | 住居と Dk-44 と Dk-69 (Ph-23 内) |
| 19 図 3 | Ph-3 一拵 Dk-44 2 | 須恵器杯 | (12.2) | 4.0 | (6.0) | 27.0 | 内・2.596.1 外・596.1 | 口縁部～底部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 白色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 住居と Dk-44(Ph-3 内) |
| 19 図 4 | Ph-3 11 | 須恵器杯 | (16.0) | | | 47.0 | 内・14.1 外・14.1 | 口縁部～胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色鉱物粒子が多く混じる。キメの細かい胎土。焼痕は良好 | カマド棟(北側)の住居東側壁際 |
| 19 図 5 | Ph-3 一拵 Ph-23 一拵 Dk-44 1 | 須恵器杯 | (14.0) | | | 25.0 | 内・1095.1 外・14.0 | 口縁部～胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | Ph-3 と Ph-23 と Dk-44 (Ph-2) |
| 19 図 6 | Ph-3 一拵 | 須恵器蓋 | (14.4) | | | 9.0 | 内・995.1 外・995.2 | - | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | |
| 19 図 7 | Ph-3 12 | 須恵器蓋 | (17.2) | | | 28.0 | 内・995.1 外・14.1 | - | 破片 | 内外面ロクロナデ、外面上端は回転ヘラケズリ | 白色鉱物粒子が多く混じる。キメの細かい胎土 | カマド棟(北側) |
| 20 図 1 | Ph-23 1 | 甲斐型杯 | | | 5.2 | 64.0 | 内・S95.6 外・S96.6 | 胴部～底部 | 1/3 | 体部外面ロクロナデ、ヘラケズリ、内面放射状縦文、底部回転糸切り痕ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色、霽雨粒子が混じる。きめ細かい胎土 | カマド棟(北側) |
| 20 図 2 | Ph-23 一拵 | 黒色杯 | (12.2) | 4.2 | (5.6) | 29.0 | 内・S96.6 外・S96.6 | 口縁部～底部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、内面ミガキ、底部ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、霽雨粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 体部外面に焼成後の結晶付り 内面は二次焼成で赤変している |
| 20 図 3 | Ph-23 一拵 Ph-22 カマド Ph-22 一拵 Dk-69 2・3 Dk-69 一拵 Dk-69 一拵 Ph-108 一拵 | 武蔵型壺 | 22.4 | | | 179.0 | 内・S95.4 外・S96.6 | 口縁部 | 破片 | 口縁部外面ロクロナデ、胴部ヘラケズリ、内面ロクロナデの痕何かでなでている | 石英、黒色、白色、赤色、霽雨粒子。霽雨粒子が混じる。ざらついた胎土 | 23号住居カマド、22号住居、Dk-69、Dk-69、Ph-108 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|---|------------|---------|---------|---------|--------|----------------------------|--------|-----|---|--------------------------------|---------------------------------------|
| 20図4 | PH-23 一括 | 武藏型甕 | | | 6.0 | 30.0 | 内: S95.6 外: 7. S95.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ、内面ナデ調整、底部ヘラケズリ | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が混じる、ざらついた胎土 | |
| 20図5 | PH-23 5 PH-23 一括 | ロク口甕2 系 | (11.8) | | | 37.0 | 内: 7. S95.6 外: 7. S95.4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 内外面ナデ調整 | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が混じる、ざらついた胎土 | カマド |
| 20図6 | PH-23 4・7 PH-23 一括 | 須恵器杯 | (13.3) | 4.3 | 6.5 | 100.0 | 内: S95/1 外: S95/1 | 口縁部～底部 | 4/5 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 鉱物粒子が多く混じり、多孔質、軟質の胎土 | カマド 体部内面、見込みに火傷痕 |
| 20図7 | PH-23 6・8 PH-23 カマド | 須恵器杯 | (12.8) | 4.0 | 7.0 | 101.0 | 内: S94/1 外: S95/1 | 口縁部～底部 | 1/2 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 鉱物粒子が多く混じり、多孔質、軟質の胎土 | カマド 体部内面、底部に火傷痕 |
| 20図8 | PH-23 3 | 須恵器杯 | (12.6) | 4.0 | 5.9 | 51.0 | 内: S95/1 外: S95/1 | 口縁部～底部 | 1/4 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 鉱物粒子が多くざらつく | カマド(北側) 体部内面、底部、見込みに火傷痕 |
| 20図9 | PH-23 カマド PH-23 一括 DK-69 1 DK-44 1 | 須恵器杯 | (12.0) | 3.5 | 7.4 | 51.0 | 内: S95/1 外: S95/1 | 口縁部～底部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、底部ヘラケズリ | 白色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | カマドと DK-44 と DK-69 |
| 20図10 | PH-23 一括 | 須恵器杯 | (13.2) | 4.2 | 6.6 | 25.0 | 内: S95/1 外: S95/1 | 口縁部～底部 | 1/5 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 鉱物粒子が多く混じり、多孔質、軟質の胎土 | 体部内面、見込みに火傷痕 |
| 20図11 | DK-69 5 | 須恵器杯 | | | 8.0 | 33.0 | 内: N5.0 外: N5.0 | 底部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕付高台 | 白色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | DK-69 |
| 24図1 | PH-4 一括 | 甲斐型皿 | (12.0) | | | 7.0 | 内: S95.6 外: S95.6 | 口縁～胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、回転ヘラケズリ、内面滑巻状施文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | |
| 24図2 | PH-4 30 | 甲斐型皿 | (14.0) | | | 34.0 | 内: 1094/2 外: S95.6 | 口縁部～胴部 | 1/5 | 体部外面ロクロナデ、回転ヘラケズリ、内面ミガキ、付け高台は割れている | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | PH-4の住居中央 甲斐型皿、皿の胎土だが器部は黒色の高台付皿、厚手 |
| 24図3 | PH-4 1 | 甲斐型杯 | | | 4.6 | 36.0 | 内: 2. S95.6 外: S95.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、ヘラケズリ、内面ロクロナデ、底部ヘラケズリ | 典型的な甲斐型よりも鉱物粒子が大きく、量も多い | 住居北東 |
| 24図4 | PH-4 一括 | 甲斐型杯 | | | 4.0 | 12.0 | 内: S95.6 外: S95.6 | 底部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ、内面放射状施文、底部回転糸切り後ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | 体部外面に塗書 |
| 24図5 | PH-4 一括 | 甲斐型杯 | | | | 2.0 | 内: S95.6 外: S95.6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、内面放射状施文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | 体部外面に塗書 |
| 24図6 | PH-4 45 PH-4 カマド | 甲斐型甕 | (25.4) | | | 119.0 | 内: S94.4 外: S94.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向力キメ、体部内面縦方向力キメ | 長石、石英、黒色、霞母粒子が混じる、ざらついた胎土 | カマド |
| 24図7 | PH-4 29 PH-4 一括 | 甲斐型甕 | (29.0) | | | 127.0 | 内: S94.4 外: S94.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向力キメ、体部内面縦方向力キメ | 長石、石英、黒色、霞母粒子が混じる、ざらついた胎土 | カマド頂(南側)の住居東側壁際 |
| 24図8 | PH-4 7 PH-4 一括 | 甲斐型甕 | (27.0) | | | 187.0 | 内: 7. S94.4 外: S94.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向力キメ、体部内面縦方向力キメ | 長石、石英、黒色、霞母粒子が混じる、ざらついた胎土 | カマド頂(北側)の住居東側壁際 |
| 24図9 | PH-4 25・43・44・46・53 | 甲斐型甕 | | | 8.6 | 382.0 | 内: 2. S93.4 外: 2. S94.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面縦方向力キメ、体部内面縦方向力キメ、底部木葉痕 | 長石、石英、黒色、霞母粒子が混じる、ざらついた胎土 | カマドと住居南東角 |
| 24図10 | PH-4 一括 | 黒色杯 | (13.0) | 4.2 | 5.2 | 62.0 | 内: 2. S92/1 外: 2. S93/3 | 口縁部～底部 | 1/3 | 体部外面ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸切り痕 | 石英、黒色、赤色、白色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | 内面黒色処理 |
| 24図11 | PH-4 10・18・17 PH-4 一括 | 黒色杯 | 14.8 | (4.0) | 6.4 | 144.0 | 内: N1.5.0 外: 7. S94.3 | 口縁部～底部 | 1/3 | 体部外面ロクロナデ、内面放射状施文と口縁部内面に沿って施文、底部回転糸切り後、付け高台 | 長石、石英、黒色、赤色、白色鉱物粒子が混じる、ざらついた胎土 | カマド手前 内面黒色処理 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|---------|---|-------------|---------|---------|---------|--------|------------------------|------------|----------|--|---|---|
| 25 図 1 | Ph-4 33 | 黒色皿 | 13.7 | | | 102.0 | 内 10.0 外 7.5Ph-4 | 口縁部～ 底部 | ほぼ 完全 | 内外面ロクロナ デ、底部回転糸 切り傷、付け高 台は割かれている | 石英、白色、黒色、 赤色鉱物粒子が混 ざるややざらつた 胎土 | 住居南西角の壁際 体部外縁、底部に遺 書 内面黒色処理 |
| 25 図 2 | Ph-4 一括 | 黒色杯 | 12.2 | | | 17.0 | 内 11.5 外 10Ph-4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ、内面ミガ キ | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じ る、ややざらつた胎 土 | 体部外面に遺書 内面黒色処理 |
| 25 図 3 | Ph-4 31 | 黒色杯 | 14.0 | 5.0 | 6.0 | 36.0 | 内 5Ph-6 外 5Ph-6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ、内面ミガ キ、底部回転糸 切り傷 | 石英、白色、黒色、 赤色鉱物粒子が混 ざるややざらつた 胎土 | 住居南東角の南側壁 際出土。 つくりは黒色杯と同 じだが、胎土は赤色 鉱物粒子が入る。内 面は二次焼成で赤変 している |
| 25 図 4 | Ph-4 一括 | 黒色杯 | | | | 4.0 | 内 11.5 外 7.5Ph-4 | 胴部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ、内面ミガ キ | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じ る、ややざらつた胎 土 | 体部外面に遺書 内面黒色処理 |
| 25 図 5 | Ph-4 一括 | 黒色杯 | | | | 1.0 | 内 11.5 外 10Ph-4 | 胴部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ、内面ミガ キ | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じ る、ややざらつた胎 土 | 体部外面に遺書 内面黒色処理 |
| 25 図 6 | Ph-4 一括 | 遠江型土 師器蓋 | | | 6.0 | 30.0 | 内 7.5Ph-4 外 7.5Ph-4 | 底部 | 破片 | 体部外縁縁方向 のヘラズリ、 体部内縁縁方向 カキメ、蓋蓋は 手づくね調整後 に軽く削でなで た程度 | 白色、黒色鉱物粒 子がわずかにまじ る細かな胎土 | |
| 25 図 7 | Ph-4 24 | ロク口器 1 類 | 13.6 | | | 19.0 | 内 7.5Ph-6 外 7.5Ph-4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | カマド棟(北側)の 住居南側壁際 |
| 25 図 8 | Ph-4 2・42 | 須恵器杯 | 14.0 | 3.7 | 6.0 | 139.0 | 内 10Ph-4 外 10Ph-4 | 口縁部～ 底部 | 3/4 | 内外面ロクロナ デ、底部回転糸 切り傷 | 石英、黒色、白色 鉱物粒子が混じ る、ざらつた胎土 | カマドと住居北側 |
| 25 図 9 | Ph-4 一括 | 須恵器蓋 | 13.6 | | | 30.0 | 内 10.0 外 10.0 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ | 白色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土、胎土色調は 2.5Ph-2 (灰赤色) | |
| 25 図 10 | Ph-4 12 Ph-4 一括 | 反鉢埴 | | | 8.0 | 57.0 | 内 2.5Ph-1 外 2.5Ph-1 | 胴部～底 部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ、付け高台 | 白色鉱物粒子が混 じる、精密できめ 細かな胎土 | カマド手前 側毛塗り |
| 25 図 11 | Ph-4 一括 | 反鉢蓋 | | | | 27.0 | 内 10Ph-1 外 2.5Ph-2 | 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ | 白色鉱物粒子が混 じる、精密できめ 細かな胎土 | |
| 26 図 1 | Ph-29 13 Ph-4 一括 | 甲斐型杯 | 12.0 | 3.4 | 5.8 | 50.0 | 内 7.5Ph-4 外 5Ph-6 | 口縁部～ 底部 | 1/3 | 内外面ロクロナ デ、底部回転糸 切り傷 | 石英、黒色、赤色 鉱物粒子が特に多 く混じる、きめ細 かな胎土 | カマド |
| 26 図 2 | Ph-29 4 Ph-29 カマド | 甲斐型杯 | 14.0 | 3.8 | 6.2 | 37.0 | 内 5Ph-8 外 5Ph-8 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ、底部回転糸 切り傷 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | カマド |
| 26 図 3 | Ph-4 14・15・22 Ph-4 一括 Ph-29 1・7・8・ 10・11・12 Ph-29 カマド | 甲斐型蓋 | 10.2 | | | 1007.0 | 内 7.5Ph-3 外 7.5Ph-3 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外縁縁方向 カキメ、体部内 面縁方向カキメ | 石英、白色鉱物粒 子、炭屑粒子が混 じる、ざらつた胎 土 | カマドとカマド手前 とカマド棟(南東角) |
| 26 図 4 | Ph-4 34・16 Ph-4 一括 | 甲斐型蓋 | | | 7.2 | 172.0 | 内 7.5Ph-4 外 10Ph-3 | 胴部～底 部 | 破片 | 体部外縁縁方向 カキメ、内面縁 方向カキメの後 戻込みに近い所 のみナデ調整あり | 石英、白色鉱物粒 子、炭屑粒子が混 じる、ざらつた胎 土 | 29号住居のカマド棟 (北側)と29号住居 の東側 |
| 26 図 4 | Ph-29 5 | 黒色杯 | | | | 62.0 | 内 7.5Ph-1 外 7.5Ph-6 | 底部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ、内面縁文 底部回転糸切り 傷、付け高台は 割かれている | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じ る、ややざらつた胎 土 | カマド 内面黒色処理 |

第 3 表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|---------|---|--------------|---------|---------|---------|--------|--------------------------|------------|-----|---|---|--|
| 26 図 5 | PH-20 2 PH-4 14 PH-4 一括 | 土師器壺 | 12.0 | | | 114.0 | 内: 10R4.2 外: 10R3.2 | 口縁部、 胴部 | 破片 | 体部外面は縦方向 カキメの溝ヘラケズリ、内面 は磨土工事で縦 横方向に揃いで いる | 石英、黒色、灰色、 白色、赤色磁粉粒 子が混じる。 | カマド |
| 26 図 6 | PH-4 37・38 PH-4 一括 | 灰釉陶 | 12.8 | 3.8 | 6.8 | 129.0 | 内: 2.9R/1 外: 2.9R/1 | 口縁部～ 底部 | 3/4 | 内外面ロクロナ デ、底面回転糸 切り後付け高台 | 白色磁粉粒子が混 じる。磨密できめ 細かな胎土 | 29号住居北東角 厨毛室 |
| 26 図 7 | PH-4 35 PH-4 一括 | 灰釉陶 | 12.0 | 3.8 | 6.6 | 126.0 | 内: 2.9R/1 外: 2.9R/2 | 口縁部～ 底部 | 3/4 | 内外面ロクロナ デ、底面回転糸 切り後付け高台 | 白色磁粉粒子が混 じる。磨密できめ 細かな胎土 | 4号住居中央出土見 込み部がやや平滑に 磨利。厨毛室 |
| 28 図 1 | PH-5 12 | 甲斐型杯 | 10.8 | 4.5 | 5.0 | 85.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 3/4 | 体部外面ロクロ ナデ、ヘラケズ リ、内面放射状 縞文、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居北東角の北側壁 際 (PH-19 と隣接) 体部外面と底面に墨 書 |
| 28 図 2 | PH-5 8 PH-5 一括 | 甲斐型杯 | 10.4 | 3.9 | 5.0 | 75.0 | 内: 2.9R6.6 外: 2.9R6.6 | 口縁部～ 底部 | 3/4 | 体部外面ロクロ ナデ、ヘラケズ リ、内面放射状 縞文、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居南東角の東側壁 際 体部外面に墨書 |
| 28 図 3 | PH-5 一括 5-041-2014 (試験 時) PH-5 一括 | 甲斐型杯 | 10.4 | 4.4 | (4.8) | 90.0 | 内: 5R6.8 外: 5R6.8 | 口縁部～ 底部 | 1/2 | 体部外面ロクロ ナデ、ヘラケズ リ、内面放射状 縞文、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 28 図 4 | PH-5 29 | 甲斐型杯 | 14.4 | | | 22.0 | 内: 2.9R6.6 外: 2.9R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ、ヘラケズ リ、内面放射状 縞文 | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | カマド南 (南前) の 住居東側壁際 |
| 28 図 5 | PH-5 一括 | 甲斐型杯 | | | | 2.0 | 内: 7.5R6.4 外: 7.5R6.6 | 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に墨書 |
| 28 図 6 | PH-5 一括 | 甲斐型皿 | 14.4 | | | 21.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ、回転ヘラ ケズリ、内面は 縞文の幅が広め の高巻状縞文 | 長石、石英、黒色、 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 28 図 7 | DK-34 一括 | 甲斐型壺 | 22.5 | | | 26.0 | 内: 5R4.4 外: 5R4.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霞母粒子が混じる、 ざらついた胎土 | DK-34 |
| 28 図 8 | PH-5 10 | 甲斐型壺 | 25.2 | | | 46.0 | 内: 5R4.6 外: 5R4.6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霞母粒子が混じる、 ざらついた胎土 | カマド手前 |
| 28 図 9 | PH-5 一括 | 甲斐型模 劔小形壺 | 11.6 | | | 17.0 | 内: 7.5R6.6 外: 7.5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 典型的な甲斐型壺 より磁粉粒子が少 なく、霞母粒子は 少ない、ややきめ 細かな胎土 | |
| 28 図 10 | PH-5 24・22・23・ 16・28・13 PH-5 一括 PH-5 カマド | 甲斐型壺 | 25.7 | | | 336.0 | 内: 7.5R4.3 外: 7.5R4.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霞母粒子が混じる、 ざらついた胎土 | カマド 28 皿 と同一個体 |
| 28 図 11 | PH-5 6 | 甲斐型壺 | | | 8.4 | 159.0 | 内: 7.5R3.3 外: 7.5R3.4 | 胴部～底 部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ、 底部木炭灰 | 長石、石英、黒色、 霞母粒子が混じる、 ざらついた胎土 | 住居南東角の壁際 28 皿 と同一個体 |
| 29 図 1 | PH-5 一括 | 土師器壺 | | | | 157.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 胴部 | 破片 | 内外面ヘラケズ リ、厚手 | 石英、黒色、白色、 赤色、灰色磁粉粒 子が混じる。がき め細かな胎土 | |
| 29 図 2 | PH-5 一括 | ロクロ製 2 類 | | | 5.5 | 71.0 | 内: 7.5R6.6 外: 7.5R6.6 | 底部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ、底面回転糸 切り痕 | 石英、白色、黒色、 赤色磁粉粒子が混 ざるややざらつ いた胎土 | |
| 29 図 3 | PH-5 一括 | 須恵器杯 | | | | 9.0 | 内: 5R6.1 外: 2.5R6.1 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ | 白色磁粉粒子が混 じる。きめ細かな 胎土 | 体部外面に造成後の 十字形の刻痕有り |
| 29 図 4 | PH-5 一括 | 須恵器蓋 | | | | 8.0 | 外: 2.5R6.1 | つまみ | 破片 | ロクロ成形 | 白色磁粉粒子が混 じる。きめ細かな 胎土 | |

第 3 表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|---------|---|------------|---------|---------|---------|--------|---------------------------|-------------------|-----|--|--|---|
| 29 5 | Ph-5.4 Ph-5 一括 S-041-204 Ph-5 一括 | 須臾器蓋 | 17.5 | | | 73.0 | 内 16.0 外 7.95/1 | - | 破片 | 内外面口ロナ デ、外面上端は 回転ヘラケズリ | 白色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 住居中央 |
| 29 6 | Ph-5 一括 | 須臾器蓋 | | | | 53.0 | 内 17.5/14.2 外 5/10.2 | 胴部 | 破片 | 内外面口ロナ デ | 白色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | |
| 29 7 | Ph-5 一括 | 須臾器蓋 | 18.6 | | | 5.0 | 内 16.0 外 16.0 | - | 破片 | 内外面口ロナ デ | 白色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | |
| 29 8 | Ph-5 一括 | 須臾器蓋 | 18.4 | | | 4.0 | 内 14.0 外 14.0 | - | 破片 | 内外面口ロナ デ | 白色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | |
| 32 1 | Ph-6 19 Ph-6 一括 | 甲斐型黒 色皿 | 17.0 | | 7.5 | 37.0 | 内 11.5/0 外 5/16.6 | 口縁部～ 胴部、底 部 | 破片 | 体部外面の口縁 はナデ、胴部は ヘツミが平、底 部には無彫刻 内面は攪拌工具 で磨削にも磨か れている。底部 は細粒玉珠のよ うな顔が残る。 | 石英、白色、黒色、 赤色磁物粒子、雲 母粒子が混じる、 きめ細かい胎土 | カマド 内面黒色処理 |
| 32 2 | Ph-6 カマド Ph-6 一括 | 甲斐型杯 | 11.0 | | | 10.0 | 内 10/16.3 外 2.5/16.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面ヘラミ が平、内面ナデ 深型、口縁内面 に 1mm 程度の沈 着が見られる | 非常に細かい石英、 白色、黒色、赤色 磁物粒子、雲母 粒子が混じる、き め細かい胎土 | カマド |
| 32 3 | Dk-39.8 Dk-39 一括 Ph-6 一括 | 甲斐型杯 | 13.0 | 3.8 | 5.0 | 35.0 | 内 17.5/16.6 外 7.5/16.6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口ロナ ナデ、ヘラケズ リ、内面口ロナ ナデ、底部ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 住居と Dk-39 |
| 32 4 | Ph-6 12 Ph-6 一括 | 甲斐型皿 | 12.4 | 2.4 | 4.6 | 78.0 | 内 2.5/16.8 外 2.5/16.8 | 口縁部～ 底部 | 4.5 | 体部外面口ロナ ナデ、ヘラケズ リ、内面口ロナ ナデ、底部回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 住居北東角の北側壁 際 |
| 32 5 | Ph-6 一括 | 甲斐型杯 | | | 5.2 | 31.0 | 内 5/16.6 外 5/16.6 | 胴部～底 部 | 破片 | 体部外面ヘラケ ズリ、内面口ロ ナナデ、底部ヘ ラケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 体部外面に着色 |
| 32 6 | Ph-6 一括 | 甲斐型杯 | | | | 3.0 | 内 5/16.6 外 5/16.6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面口ロナ ナデ、ヘラケズ リ、内面攪拌状 積欠 | 長石、石英、黒色、 赤色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 体部外面に着色 |
| 32 7 | Ph-6 一括 | 甲斐型杯 | | | | 5.0 | 内 5/16.6 外 5/16.6 | 胴部 | 破片 | 内外面口ロナ ナデ | 長石、石英、黒色、 赤色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 体部外面に着色 |
| 33 1 | Ph-6 1 | 甲斐型壺 | 30.0 | | | 67.0 | 内 5/14.4 外 7.5/10.2 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 雲母粒子が混じる、 ざらついた胎土 | カマド手前 |
| 33 2 | Ph-6 3 | 甲斐型壺 | 28.0 | | | 125.0 | 内 5/14.3 外 5/14.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 雲母粒子が混じる、 ざらついた胎土 | 住居南東角の南側壁 寄り |
| 33 3 | Ph-6 一括 | 黒色杯 | | | | 16.0 | 内 11.5/0 外 10/12.4 | 胴部～底 部 | 破片 | 体部外面口ロナ ナデ、内面ミガ キ | 長石、石英、黒色 磁物粒子が混じる、 ややざらついた胎 土 | 体部外面に着色 内面黒色処理 |
| 33 4 | Ph-6 カマド | 須臾器蓋 | 19.5 | | | 8.0 | 内 16.0 外 16.0 | 口縁部 | 破片 | 内外面口ロナ ナデ | 白色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | カマド |
| 33 5 | Ph-6 一括 | 須臾器蓋 | | | 19.6 | 81.0 | 内 16.0 外 14.0 | 胴部～底 部 | 破片 | 内外面口ロナ ナデ、底部ヘラケ ズリの残、付付 | 白色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | |
| 33 6 | Ph-6 6 | 須臾器蓋 | | | | 167.0 | 内 19.5/1 外 19.5/1 | 胴部 | 破片 | 体部外面口直 内面当て空堀有 り | 白色磁物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 住居中央南西寄り 内面は平瀬に磨耗 |
| 33 7 | Ph-6 10 Ph-6 一括 Ph-6 カマド | 反輪皿 | 14.6 | 3.1 | 7.4 | 69.0 | 内 2.5/7.3 外 2.5/7.2 | 口縁部～ 底部 | 1/2 | 内外面口ロナ ナデ、付付高台 | 白色磁物粒子が混 じる、極めてき め細かい胎土 | カマドとカマド境 (北側)の住居東側 壁際 跡を遡り、見込みが 平瀬に磨耗 |

第 3 表 土器観察表

| 図号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|---|------------|------------|------------|------------|-----------|--------------------------|-------------------|-----|--|---|---|
| 33図8 | PH-6 7 PH-6 一括 | 灰胎皿 | (14.0) | | 7.0 | 50.0 | 内: 2.57/1 外: 2.57/2 | 口縁部、 底部 | 破片 | 内外面口ロナ 子、付け裏台 | 白色胎土粒子が埋 まる。緻密でき め細かい胎土 | 住居南西側の西側壁 際出土 胎土盛り、見込み部 分が平瀬に露出 |
| 33図9 | PH-6 一括 | 灰胎皿 | 14.2 | 2.8 | 6.2 | 135.0 | 内: 5/7/1 外: 5/7/1 | 口縁部→ 底部 | 3/4 | 内外面口ロナ 子、付け裏台 | 白色胎土粒子が埋 まる。緻密でき め細かい胎土 | 胎土盛り 見込みが平瀬に露出、 胎土盛り |
| 33図10 | PH-6 一括 | 灰胎皿 | | | 8.0 | 32.0 | 内: 2.57/2 外: 2.57/2 | 胴部→底 部 | 破片 | 内外面口ロナ 子、付け裏台 | 白色胎土粒子が埋 まる。緻密でき め細かい胎土 | 胎土盛り |
| 33図11 | PH-6 4 | 灰胎皿 | (14.0) | | | 17.0 | 内: 2.57/1 外: 2.57/1 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 内外面口ロナ 子 | 白色胎土粒子が埋 まる。緻密でき め細かい胎土 | 住居南東側の南側壁 寄り 胎土盛り |
| 33図12 | PH-6 一括 DK-39 一括 | 灰胎皿 | (14.0) | | | 11.0 | 内: 2.57/1 外: 2.57/1 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 内外面口ロナ 子 | 白色胎土粒子が埋 まる。緻密でき め細かい胎土 | 住居と DK-39 別土盛り |
| 38図1 | PH-7 一括 | 甲斐型杯 | (11.4) | | | 17.0 | 内: 5/9/6 外: 5/9/6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナ 子、ヘラケズ リ、内面放射状 線文 | 長石、石英、黒色、 赤色胎土粒子が埋 まる。きめ細かい 胎土 | |
| 38図2 | PH-7 一括 | 甲斐型杯 | (10.1) | 4.0 | 5.0 | 44.0 | 内: 5/9/6 外: 5/9/6 | 口縁部→ 底部 | 1/3 | 体部外面口ロナ 子、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色胎土粒子が埋 まる。きめ細かい 胎土 | |
| 38図3 | 5-04-2014 PH-7 一括 | 甲斐型杯 | | | | 5.8 | 内: 5/9/6 外: 5/9/6 | 底部 | 1/3 | 体部外面口ロナ 子、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後 | 長石、石英、黒色、 赤色胎土粒子が埋 まる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に墨書 |
| 38図4 | PH-74 一括 | 甲斐型杯 | | | | 5.5 | 内: 5/9/6 外: 5/9/6 | 底部 | 破片 | 体部外面ヘラケ ズリ、内面口ロ ナ子、底面回 転糸切り後ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色胎土粒子が埋 まる。きめ細かい 胎土 | PH-74 底部に墨書 |
| 38図5 | PH-7 2 PH-7 一括 | 甲斐型杯 | | | 6.0 | 32.0 | 内: 5/9/6 外: 5/9/6 | 胴部→底 部 | 破片 | 体部外面口ロナ 子、ヘラケズ リ、内面口ロ ナ子、底部ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色胎土粒子が埋 まる。きめ細かい 胎土 | 住居南東側の壁際 |
| 38図6 | PH-7 一括 | 甲斐型黒 色杯 | | | 4.0 | 33.0 | 内: 10/9/3 外: 10/9/4 | 胴部→底 部 | 破片 | 体部外面ヘラケ ズリ、内面口ロ ナ子、底面回 転糸切り後ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色胎土粒子が埋 まる。きめ細かい 胎土 | 内面黒色色埋 |
| 38図7 | DK-78 一括 | 甲斐型杯 | | | | 10.0 | 内: 5/9/6 外: 5/9/6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナ 子、ヘラケズ リ、内面放射状 線文 | 長石、石英、黒色、 赤色胎土粒子が埋 まる。きめ細かい 胎土 | DK-78 体部外面に墨書 |
| 38図8 | PH-7 一括 | 甲斐型杯 | | | | 4.0 | 内: 5/9/6 外: 5/9/4 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナ 子、内面放射 状線文 | 長石、石英、黒色、 赤色胎土粒子が埋 まる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に墨書 |
| 38図9 | PH-7 カマド | 甲斐型杯 | | | | 4.0 | 内: 5/9/6 外: 5/9/6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナ 子、ヘラケズ リ、内面口ロ ナ子 | 長石、石英、黒色、 赤色胎土粒子が埋 まる。きめ細かい 胎土 | カマド 体部外面に墨書 |
| 38図10 | PH-7 1・10・12・ 22・24・33 PH-7 一括 PH-7 カマド PH-7 貼床下 DK-61 1 DK-58 一括 | 甲斐型壺 | 22.0 | 33.5 | 7.0 | 763.0 | 内: 7.5/9/4 外: 7.5/9/4 | 口縁部、 胴部、底 部 | 破片 | 体部外面縦方向 力キメ、体部内 面縦方向力キメ | 典型的な甲斐型壺 よりきめ細かい胎 土で、裏面胎土は 少ない | 住居貼床下、カマド、 カマド手前、カマド 横(南側)、住居南 東側の南側壁際、DK- 61、DK-58 |
| 38図11 | PH-7 6 | 甲斐型壺 | 25.5 | | | 66.0 | 内: 5/9/6 外: 5/9/6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 力キメ、体部内 面縦方向力キメ | 長石、石英、黒色、 富母粒子が埋まる、 ざらついた胎土 | 住居中央 |
| 38図12 | PH-7 23 | 甲斐型壺 | 29.4 | | | 36.0 | 内: 5/9/4 外: 5/9/4 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 力キメ、体部内 面縦方向力キメ | 長石、石英、黒色、 富母粒子が埋まる、 ざらついた胎土 | カマド |
| 39図1 | PH-7 29・30・35 | 甲斐型壺 | | | 8.2 | 151.0 | 内: 7.5/9/3 外: 7.5/9/4 | 胴部→底 部 | 破片 | 体部外面縦方向 力キメ、体部内 面縦方向力キメ、 底面有線文 | 長石、石英、黒色、 富母粒子が埋まる、 ざらついた胎土 | カマド |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|--------|--|--------|---------|---------|---------|--------|----------------------------|-----------|-----|--|--------------------------------|---|
| 39図 2 | PF-138 1 PF-138 一括 | 甲斐型壺 | | | 13.0 | 77.0 | 内 : S93/1 外 : 2.S94/4 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ、底部木炭 | 長石、石英、黒色、霏母粒子が混じる。ざらついた胎土 | PF-138 |
| 39図 3 | Ph-7 一括 DK-60 一括 | 甲斐型壺 | | | 19.0 | 46.0 | 内 : 7.S93/3 外 : 7.S94/3 | 底部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ、底部木炭もあるが平らに調整した底有り | 長石、石英、黒色、霏母粒子が混じる。ざらついた胎土 | 住居と DK-60 |
| 39図 4 | Ph-7 一括 | 甲斐型小形壺 | 13.0 | | | 19.0 | 内 : 7.S95/4 外 : 7.S96/6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ | きめ細かい胎土で霏母粒子は入らない | |
| 39図 5 | Ph-7 4・19・1 Ph-7 一括 DK-64 1 DK-64 一括 PF-138 一括 | ロク口壺3類 | 24.2 | | | 396.0 | 内 : 7.S96/4 外 : 7.S96/4 | 口縁部、胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、体部外面に叩き痕有り | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 住居結床下、西側壁際の南西寄り、カマド、カマド様(南側)、DK-64、PF-138 |
| 39図 6 | Ph-7 7 Ph-7 一括 | 須恵器椀 | | | 8.0 | 183.0 | 内 : S95/1 外 : S95/1 | 胴部～底部 | 3/4 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、付け高台 | 白色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | カマド手前 |
| 39図 7 | Ph-7 一括 | 須恵器杯 | 12.0 | | | 6.0 | 内 : N6/0 外 : N6/0 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | |
| 41図 1 | Ph-8 8 | 甲斐型壺 | 23.0 | | | 79.0 | 内 : S94/3 外 : 2.S94/4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、霏母粒子が混じる。ざらついた胎土 | カマド |
| 41図 2 | Ph-8 6・7・16・20 | 甲斐型壺 | 23.0 | | | 230.0 | 内 : S94.6 外 : S94.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、霏母粒子が混じる。ざらついた胎土 | カマドとカマド様(北側)の住居南側壁際 |
| 41図 3 | Ph-6 13 | 須恵器杯 | | | 7.2 | 54.0 | 内 : S95/1 外 : S95/1 | 底部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、付け高台 | 白色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | カマド |
| 43図 1 | Ph-9 15 | 甲斐型皿 | | | 5.2 | 36.0 | 内 : 7.S96/6 外 : 7.S96/6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、ヘラケズリ、内面ロクロナデ、底部ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | カマド |
| 43図 2 | Ph-9 2 | 甲斐型杯 | 10.0 | | | 22.0 | 内 : S95.6 外 : S95.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、内面放射状模文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | カマド様(南側)のDK-23、24上 |
| 43図 3 | Ph-9 残下 5-041-204 Ph-9 一括 | 甲斐型壺 | 23.0 | | | 93.0 | 内 : 2.S94/4 外 : 2.S94/4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、霏母粒子が混じる。ざらついた胎土 | 住居床下 |
| 43図 4 | Ph-9 1・12・17 Ph-9 一括 DK-23 1 PF-1 一括 | ロク口壺2類 | 13.4 | 16.0 | 7.4 | 329.0 | 内 : S96.6 外 : S96.6 | 口縁部、胴部～底部 | 1/3 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 石英、白色、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | カマド、カマド様(北側)、DK-23、PF-1 |
| 43図 5 | Ph-9 10 Ph-9 一括 | ロク口壺1類 | 12.0 | | | 9.0 | 内 : 10.N6/2 外 : 10.N6/4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面は唐状工用によるロクロナデ、内面ロクロナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 住居南側壁際 |
| 43図 6 | Ph-9 9 | ロク口壺4類 | 21.0 | | | 60.0 | 内 : 7.S95/4 外 : 7.S96/4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、胴部ヘラケズリ、内面ロクロナデ | 黒色、赤色鉱物粒子の混入、少量の石英と白色鉱物粒子が混じる。 | カマド様(北側)のDK-23と接合 39H-10 |
| 43図 7 | Ph-9 10 Ph-9 一括 5-041-204 Ph-9 一括 | 須恵器杯 | 14.0 | 4.3 | 6.0 | 60.0 | 内 : 2.S96/1 外 : 2.S96/1 | 口縁部～底部 | 1/3 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 黒色、白色鉱物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 住居南側壁際 |
| 43図 8 | Ph-9 一括 | 須恵器杯 | 14.0 | 3.5 | 5.2 | 22.0 | 内 : N6/0 外 : N6/0 | 口縁部、底部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕 | 白色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | |
| 43図 9 | Ph-9 10 Ph-9 一括 | 須恵器杯 | 10.0 | 4.3 | 7.0 | 71.0 | 内 : N6/0 外 : N6/0 | 口縁部～底部 | 1/4 | 内外面ロクロナデ、底部回転糸切り痕、付け高台 | 白色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 住居南側壁際 |
| 43図 10 | Ph-9 14・16 Ph-9 一括 | 須恵器壺 | | | | 97.0 | 内 : N6/0 外 : N6/0 | 胴部～胴部 | 破片 | 内外面叩き痕有り | 白色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | カマド |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|------|--|------------|---------|---------|---------|------------------------|--------------------------|------------|-----|--|--|-------------------------------|
| 45図1 | PH-10 19・24 | 甲斐型杯 | (12.2) | (4.3) | (4.0) | 36.0 | 内: 7.5R6.6 外: 7.5R7.6 | 口縁部～ 底部 | 1/4 | 体部外面口ロナ ナデ、ヘラケズ リ、内面口ロナ ナデ、底部ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | カマドとカマド積 (土割)の拡張住居 裏側壁際 |
| 45図2 | PH-10 13 PH-10 一括 | 甲斐型杯 | (15.0) | 4.7 | (6.4) | 41.0 | 内: 7.5R4.3 外: 7.5R4.3 | 口縁部～ 底部 | 1/4 | 体部外面口ロナ ナデ、ヘラケズ リ、内面口ロナ ナデ、底部ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | カマド積(南側) |
| 45図3 | PH-10 8・9・10 5-041-2014 PH-10 一括 | 甲斐型杯 | 11.3 | 4.5 | 4.4 | 83.0 | 内: 7.5R5.4 外: 7.5R5.6 | 口縁部～ 底部 | 2/3 | 体部外面口ロナ ナデ、ヘラケズ リ、内面口ロナ ナデ、底部ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居南西角の西側壁 際 体部外面に塗書 |
| 45図4 | PH-10 一括 | 甲斐型杯 | (14.7) | | | 6.0 | 内: 10.0 外: 5R5.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面口ロナ ナデ | 長石、石英、黒色 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 内面黒色処理 |
| 45図5 | PH-10 18 | 甲斐型壺 | (22.6) | | | 83.0 | 内: 5R6.6 外: 5R4.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面横方向カキメ | 長石、石英、黒色 雲母粒子が混じる。 ざらついた胎土 | カマド 45図6と同一個体 |
| 45図6 | PH-10 23 | 甲斐型壺 | | 9.4 | 20.0 | 内: 5R3.3 外: 5R3.3 | 胴部～底 部 | 破片 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面横方向カキメ、 雲母大雲母 | 長石、石英、黒色 雲母粒子が混じる。 ざらついた胎土 | カマド 45図5と同一個体 |
| 46図1 | PH-10 一括 | 甲斐型小 形壺 | (11.7) | | | 14.0 | 内: 5R6.6 外: 5R4.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面横方向カキメ | 長石、石英、黒色 雲母粒子が混じる。 ざらついた胎土 | カマド |
| 46図2 | PH-10 1・12・22 | 甲斐型壺 | (20.6) | | | 160.0 | 内: 5R4.4 外: 5R3.4 | 口縁部～ 胴部 | 1/3 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面横方向カキメ | 長石、石英、黒色 雲母粒子が混じる。 ざらついた胎土 | カマドと住居北東角 の壁際と拡張住居 裏側壁際 |
| 46図3 | PH-10 一括 | 黒色杯 | (14.2) | | | 8.0 | 内: 10.5 外: 10R6.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナ ナデ、内面ミガ キ | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じる。 ややざらついた胎 土 | 体部外面に塗書 内面黒色処理 |
| 46図4 | PH-10 一括 | 黒色杯 | | 5.0 | 8.0 | 内: 10R4.1 外: 10R6.4 | 胴部～底 部 | 破片 | 破片 | 体部外面口ロナ ナデ、内面ミガ キ、底部回転糸 切り痕 | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じる。 ややざらついた胎 土 | 内面黒色処理 |
| 46図5 | PH-10 11 PH-10 一括 | ロク口壺1 類 | | 6.8 | 22.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 胴部～底 部 | 破片 | 破片 | 内外面口ロナ ナデ、底部回転糸 切り痕 | 赤色、白色、黒色 鉱物粒子が混じる。 ややざらついた胎 土 | 住居中央南側 |
| 46図6 | PH-10 一括 | 清巻器杯 | (12.9) | | | 8.0 | 内: 2.5R1.1 外: 2.5R1.1 | 口縁部 | 破片 | 内外面口ロナ ナデ | 白色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 46図7 | PH-10 6 | 灰釉陶 | (15.9) | | | 15.0 | 内: 10R7.1 外: 10R7.1 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面口ロナ ナデ | 白色鉱物粒子が混 じる。極めてき め細かい胎土 | カマド積(南側)の 住居南側壁際 跡(土盛り) |
| 46図8 | PH-10 7 | 灰釉陶 | (14.9) | | | 20.0 | 内: 10R7.1 外: 10R7.1 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面口ロナ ナデ | 白色鉱物粒子が混 じる。極めてき め細かい胎土 | 住居西側壁寄り |
| 47図1 | PH-11 一括 | 甲斐型杯 | (13.6) | | | 5.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面口ロナ ナデ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文 | 長石、石英、黒色 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 47図2 | PH-11 一括 | 甲斐型皿 | | 6.0 | 20.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 胴部～底 部 | 破片 | 破片 | 体部外面回転ヘ ラケズリ、内面 口ロナナデ、見 込みに不規則な 線文、底部回転 糸切り痕ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 47図3 | 5-041-2014 PH-11 一括 | 甲斐型杯 | | 4.6 | 29.0 | 内: 5R6.6 外: 2.5R5.6 | 底部 | 破片 | 破片 | 体部外面ヘラケ ズリ、内面放射 状線文、底部回 転糸切り痕ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 47図4 | PH-11 一括 | 甲斐型杯 | | | 4.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 胴部 | 破片 | 破片 | 体部外面口ロナ ナデ、内面放射 状線文 | 長石、石英、黒色 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に塗書 |
| 47図5 | PH-11 一括 | ロク口壺 | | | 6.0 | 内: 7.5R6.4 外: 5R5.6 | 胴部 | 破片 | 破片 | 内外面口ロナ ナデ | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じる。 ややざらついた胎 土 | 体部外面に塗書 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|--------|-------------------------------|------------|---------|---------|---------|--------|--------------------------|------------|-----|---|---|------------------------------|
| 48 図 1 | Ph-12、25 一括 | 甲斐型杯 | (11.5) | | | 7.0 | 内：SfR5.6 外：SfR5.6 | 口縁部～ 腹部 | 破片 | 体部外面口クロ ナデ、内面放射 状文 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 48 図 2 | Ph-25 14 | 甲斐型杯 | | | (5.6) | 18.0 | 内：SfR5.6 外：SfR5.6 | 腹部～底 部 | 破片 | 体部外面口クロ ナデ、ヘアケズ リ、内面放射状 文、底部回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | Ph-12 の南側 |
| 48 図 3 | Ph-12 一括 | 須恵器杯 | | | (8.4) | 9.0 | 内：2.Sf7/1 外：2.Sf7/1 | 腹部～底 部 | 破片 | 内外面口クロナ デ、底部回転糸 切り痕 | 典型的な須恵器よ り多孔質で軟質な 胎土 | 体部外面に墨書 |
| 48 図 4 | Ph-12 3 | 須恵器杯 | (14.2) | | | 11.0 | 内：R5.0 外：R5.1 | 口縁部～ 腹部 | 破片 | 内外面口クロナ デ | 白色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居中央 |
| 49 図 1 | Ph-25 3・20 | 甲斐型皿 | (13.6) | 2.2 | (5.6) | 37.0 | 内：SfR5.6 外：2.SfR5.6 | 口縁部～ 底部 | 1/4 | 体部外面口クロ ナデ、ヘラケズ リ、内面口クロ ナデ、底部回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 典型的な甲斐型杯 より赤褐色の胎土 が多く、ざらつく | 住居南東側壁寄り |
| 49 図 2 | Ph-25 4 | 甲斐型皿 | | | (8.2) | 111.0 | 内：2.SfR4.4 外：2.SfR4.6 | 腹部～底 部 | 破片 | 体部外面縦方向 力キメ、体部内 面縦方向力キメ、 底部木葉痕 | 長石、石英、黒色、 雲母粒子が混じる。 ざらついた胎土 | 住居東側壁寄り |
| 49 図 3 | Ph-25 10 | 羽蓋 | | | | 47.0 | 内：SfR4.3 外：7.SfR4.2 | 胴部分 | 破片 | 口ロ成形 | 白色鉱物粒子、雲 母粒子が入りこま ざらついた胎土 | 住居東側壁寄り |
| 49 図 4 | Ph-25 17 | 須恵器杯 | | | (6.0) | 22.0 | 内：2.Sf6.2 外：2.Sf6.2 | 腹部～底 部 | 破片 | 内外面口クロナ デ、底部回転糸 切り痕 | 白色鉱物粒子が混 じる。ややきめ細 かな胎土 | 住居東側壁際 |
| 49 図 5 | Ph-25 12・15・16 Ph-12、25 一括 | 反輪椀 | (14.5) | 4.3 | (7.0) | 66.0 | 内：2.Sf6.1 外：2.Sf6.2 | 口縁部～ 底部 | 1/3 | 内外面口クロナ デ、付け臺付 | 白色鉱物粒子が混 じる。締密できめ 細かい胎土 | 住居南側壁寄り、中 央、西側壁寄り 薪毛塗り |
| 49 図 6 | Ph-25 9 | 反輪椀 | (16.2) | | | 27.0 | 内：2.Sf6.2 外：2.Sf6.2 | 口縁部～ 腹部 | 破片 | 体部外面口クロ ナデ、下半ヘラ ケズリ、内面口 クロナデ | 白色鉱物粒子が混 じる。締密できめ 細かい胎土 | 住居北東角 漆け附け |
| 49 図 7 | Ph-25 7 | 反輪皿 | (14.7) | 2.7 | (7.2) | 16.0 | 内：2.Sf7/3 外：2.Sf7/3 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口クロ ナデ、下半ヘラ ケズリ、内面口 クロナデ、付け 高台 | 白色鉱物粒子が混 じる。締密できめ 細かい胎土 | 住居東側壁寄り |
| 52 図 1 | Ph-13 5 | 甲斐型杯 | 12.6 | 5.0 | 5.6 | 160.0 | 内：SfR5.6 外：SfR5.6 | 口縁部～ 底部 | 完整 | 体部外面口クロ ナデ、ヘラケズ リ、内面放射状 文、底部回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居南東角の南側壁 際 体部外面に墨書 |
| 52 図 2 | Ph-13 4 | 甲斐型杯 | | | 6.0 | 57.0 | 内：SfR5.6 外：SfR5.6 | 腹部～底 部 | 1/4 | 体部外面口クロ ナデ、ヘアケズ リ、内面放射状 文、底部回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居南東角 |
| 52 図 3 | Ph-13 一括 | 甲斐型杯 | (12.2) | | | 4.0 | 内：SfR5.6 外：SfR5.6 | 口縁部～ 腹部 | 破片 | 体部外面口クロ ナデ、ヘラケズ リ、内面口クロ ナデ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に墨書 |
| 52 図 4 | Ph-13 25 Ph-13 一括 | 甲斐型小 形甕 | (14.9) | | | 49.0 | 内：7.SfR4.4 外：7.SfR7.4 | 口縁部～ 腹部 | 破片 | 体部外面縦方向 力キメ、体部内 面縦方向力キメ | 典型的な甲斐型甕 より鉱物粒子が少 なく、雲母粒子を 含まないきめ細か な胎土 | カマド |
| 52 図 5 | Ph-13 26 | 甲斐型小 形甕 | (15.5) | | | 19.0 | 内：2.SfR4.6 外：2.SfR4.6 | 口縁部～ 腹部 | 破片 | 体部外面縦方向 力キメ、体部内 面縦方向力キメ | 長石、石英、黒色、 雲母粒子が混じる。 ざらついた胎土 | カマド |
| 52 図 6 | Ph-13 一括 | 甲斐型小 形甕 | (14.1) | | | 25.0 | 内：SfR4.3 外：SfR4.3 | 口縁部～ 腹部 | 破片 | 体部外面縦方向 力キメ、体部内 面縦方向力キメ | 長石、石英、黒色、 雲母粒子が混じる。 ざらついた胎土 | |
| 52 図 7 | Ph-13 一括 | 甲斐型甕 | (18.5) | | | 30.0 | 内：SfR4.4 外：SfR4.4 | 口縁部～ 腹部 | 破片 | 体部外面縦方向 力キメ、体部内 面縦方向力キメ | 長石、石英、黒色、 雲母粒子が混じる。 ざらついた胎土 | |

第 3 表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|---|--------|---------|---------|---------|--------|------------------------|--------|------|--|--------------------------------|-----------------------------------|
| 52図8 | DK-07一括 | ロク口甕4箱 | 21.6 | | | 61.0 | 内 7.5R6.4 外 7.5R6.4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、胴部ヘラナデ、内面ロクロナデ | 多量の石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が混じる、ざらついた胎土 | DK-07 43と接合 (併40) |
| 52図9 | PH-13 2・3 DK-13一括 | 須恵器杯 | 12.8 | 4.7 | 6.2 | 133.0 | 内 2.5R7.1 外 2.5R7.1 | 口縁部～底部 | 2/3 | 内外面ロクロナデ、底面回転糸切り後 | 石英、黒色、白色鉱物粒子が混じる、ややきめの細かい胎土 | カマド手前と住居南側壁寄り 体部外面に塗書 |
| 52図10 | PH-13一括 | 須恵器蓋 | 13.8 | | | 20.0 | 内 5R5.1 外 5R5.1 | - | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | |
| 54図1 | PH-14 31・35 DK-113 2 DK-113一括 | 甲斐型杯 | 11.2 | 4.4 | 5.5 | 84.0 | 内 2.5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～底部 | ほぼ完全 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面ロクロナデ、底面回転糸切り後ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | カマド積 (南側) と DK-113 体部外面に塗書 |
| 54図2 | PH-14 23 PH-14一括 DK-113 図2 DK-113一括 | 甲斐型杯 | 10.7 | 4.1 | 4.8 | 101.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～底部 | 完全 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面放射状縞文、底面回転糸切り後ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | カマド積 (南側) と DK-113 体部外面に塗書 |
| 55図1 | DK-113 3 DK-113 図3 | 甲斐型杯 | 11.3 | 4.2 | 5.8 | 64.0 | 内 2.5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～底部 | 1/2 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面放射状縞文、底面回転糸切り後ヘラケズリ | 典型的な甲斐型杯より赤色鉱物粒子が多い、きめの細かい胎土 | DK-113 |
| 55図2 | PH-14一括 DK-113 図1 DK-113一括 | 甲斐型杯 | 11.0 | 4.2 | 5.0 | 92.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～底部 | 3/4 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面放射状縞文、底面回転糸切り後ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | 住居と DK-113 |
| 55図3 | PH-14 35 DK-113 2 | 甲斐型皿 | | | 6.4 | 55.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 胴部～底部 | 1/3 | 体部外面ロクロナデ、回転ヘラケズリ、内面見込みから放射状縞文、底面回転糸切り後ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | カマド積 (南側) と DK-113 |
| 55図4 | PH-14 24・36 PH-14一括 PH-14 カマド DK-113一括 | 甲斐型皿 | 15.2 | 2.7 | 5.4 | 118.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～底部 | 3/4 | 体部外面ロクロナデ、回転ヘラケズリ、内面見込みから放射状縞文、底面回転ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | カマドとカマド積 (南側) と DK-113 体部外面に塗書 |
| 55図5 | PH-14 3・5・6 PH-14一括 | 甲斐型杯 | 12.0 | 4.5 | 5.3 | 124.0 | 内 7.5R6.6 外 7.5R6.4 | 口縁部～底部 | 3/4 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面ロクロナデ、底面回転糸切り後ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | 住居中央 体部外面に塗書 |
| 55図6 | PH-14一括 | 甲斐型杯 | 10.0 | 3.8 | 4.8 | 47.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～底部 | 1/3 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面放射状縞文、底面回転糸切り後ヘラケズリ | 典型的な甲斐型杯より赤色鉱物粒子が多い、きめの細かい胎土 | 体部外面に塗書 |
| 55図7 | PH-14一括 | 甲斐型杯 | 10.0 | 3.9 | 4.8 | 40.0 | 内 7.5R6.6 外 7.5R6.6 | 口縁部～底部 | 1/4 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面ロクロナデ、底面回転糸切り後ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | |
| 56図1 | PH-14一括 | 甲斐型杯 | 13.6 | | | 30.0 | 内 5R6.8 外 5R6.8 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面放射状縞文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | |
| 56図2 | PH-14一括 | 甲斐型杯 | 10.4 | | | 28.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面ロクロナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | |
| 56図3 | PH-14一括 | 甲斐型杯 | | | | 8.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、ヘラズリ、内面放射状縞文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめの細かい胎土 | 体部外面に焼成後の十字形の縞取り有り |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 図説 | 胎土 | 出土位置等 |
|---------|--------------------------------------|---------|---------|---------|---------|--------|------------------------|--------|-----|---|--------------------------------------|------------------|
| 56 図 4 | PH-14 一括 | 甲斐型杯 | | | | 3.0 | 内 5R4.6 外 5R6.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、ヘラケズリ、内面放射状縞文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が定じる、きめ細かい胎土 | 体部外面に焼成後の縦割有り |
| 56 図 5 | 5-041-204 PH-14 一括 | 甲斐型皿 | 14.0 | 2.7 | 5.0 | 80.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～底部 | 1/2 | 体部外面口クロナデ、回転ヘラケズリ、内面見込みから口縁部まで渦巻状縞文、底部回転ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が定じる、きめ細かい胎土 | |
| 56 図 6 | PH-14 2・38 PH-14 一括 | 甲斐型皿 | 14.0 | 2.5 | 5.7 | 119.0 | 内 2.5R6.6 外 2.5R6.6 | 口縁部～底部 | 3/4 | 体部外面口クロナデ、回転ヘラケズリ、内面見込みから口縁部まで渦巻状縞文、底部回転ヘラケズリ | 典型的な甲斐型外・皿より赤色鉱物粒子が多い、きめ細かな胎土 | 住居西側掘溝 |
| 56 図 7 | PH-14 一括 | 甲斐型皿 | | | 7.0 | 22.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面回転ヘラケズリ、内面見込みから放射状縞文、底部回転ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が定じる、きめ細かい胎土 | 底部に穿孔あり |
| 57 図 1 | PH-14 22 | 甲斐型壺 | 26.0 | | | 35.0 | 内 5R4.4 外 5R4.3 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、雲母粒子が定じる、ざらついた胎土 | カマド横（南側） |
| 57 図 2 | PH-14 一括 PF-292 一括 | 甲斐型小形壺 | (18.2) | | | 105.0 | 内 10R4.2 外 10R4.3 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、頸部下方にナデ、内面縦方向カキメ | 典型的な甲斐型壺より鉱物粒子が少なく、雲母粒子は入らない | 住居と PF-292 |
| 57 図 3 | PF-307 1 PF-307 一括 | 甲斐型壺 | 21.4 | | | 59.0 | 内 5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、雲母粒子が定じる、ざらついた胎土 | PF-307 |
| 57 図 4 | PH-14 28 | 甲斐型小形壺 | (14.2) | | | 36.0 | 内 7.5R6.6 外 5R6.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、頸部下方にナデ、内面縦方向カキメ | 典型的な甲斐型壺より鉱物粒子が少なく、雲母粒子は入らない | カマド横（南側） |
| 57 図 5 | PH-14 26 | 甲斐型壺 | | | 8.0 | 44.0 | 内 5R4.3 外 5R4.4 | 底部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、底部木炭痕 | 長石、石英、黒色、雲母粒子が定じる、ざらついた胎土 | カマド横（南側） |
| 57 図 6 | PH-14 16・18 | 甲斐型壺 | | | 9.0 | 97.0 | 内 7.5R2.4 外 7.5R6.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面を焼いた後に粘でなでた痕有り、内面縦方向カキメ、底部木炭痕 | 典型的な甲斐型壺より鉱物粒子が少なく、雲母粒子は含まない | カマド手前 |
| 57 図 7 | PH-14 15・17 PH-14 一括 PH-14 カマド | 甲斐型小形壺 | (12.4) | | | 41.0 | 内 7.5R2.4 外 7.5R2.4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、頸部下方にナデ、内面縦方向カキメ | 典型的な甲斐型壺より鉱物粒子が少なく、雲母粒子は入らない | カマドとカマド手前 |
| 57 図 8 | PH-14 8 | 甲斐型壺 | (16.0) | | | 27.0 | 内 5R6.6 外 5R6.8 | - | 破片 | 体部外面口クロナデ、外面上縁は回転ヘラケズリ、内面渦巻状縞文 | 典型的な甲斐型外より赤色鉱物粒子が多い、きめ細かな胎土 | 住居中央 |
| 57 図 9 | PH-14 14 | 甲斐型蓋 | | | | 12.0 | 外 7.5R2.4 | つまみ | 破片 | 口ロ成形 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が定じる、きめ細かい胎土 | カマド横（北側）の住居東側掘溝 |
| 57 図 10 | PH-14 22 PH-14 一括 | 口ロ壺 1 類 | (10.0) | | | 36.0 | 内 5R6.6 外 5R4.4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 内外面口クロナデ | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子、雲母粒子が少量定じる、ややざらついた胎土 | カマド横（南側） |
| 57 図 11 | PH-14 32 PH-14 一括 DK-113 一括 | 武蔵型壺 | (13.8) | | | 105.0 | 内 2.5R4.4 外 2.5R6.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ後、頸部から口縁部にかけて雲母をさらに掻き落とす、内面口クロナデ | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が入る、ややざらついた胎土 | カマド横（南側）と DK-113 |
| 58 図 1 | PH-14 29 | 黒色杯 | (13.6) | | | 17.0 | 内 4E.0 外 10R6.4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、内面ミガキ | 長石、石英、黒色、雲母粒子が定じる、ややざらついた胎土 | カマド横（南側）内面黒色処理 |
| 58 図 2 | PH-14 一括 | 黒色杯 | | | 7.0 | 22.0 | 内 4E.0 外 7.5R6.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、ヘラケズリ、内面ミガキ、底部回転糸切り後ヘラケズリ | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が定じる、ややざらついた胎土 | 内面黒色処理 |

第 3 表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|-----------------------------------|------|------------|---------|------------|--------|--|-----------|-----|--|--|------------------------------------|
| 58図3 | PI-201 一括 | 黒色杯 | | | | 9.0 | 内 10.0 外 5.96.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナナデ、内面ミガキ | 長石、石英、黒色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | PI-201 内面黒色胎物 体部外面二環成後の縁刻有り |
| 58図4 | PI-14 一括 | 清毒器杯 | (12.2) | | 6.0 | 21.0 | 内 16.0 外 16.0 | 口縁部、胴部～底部 | 破片 | 内外面口ロナナデ、底部回転糸切り痕 | 白色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | |
| 58図5 | PI-14 一括 | 清毒器杯 | (12.0) | 3.9 | 6.8 | 26.0 | 内 15.1 外 15.1 | 口縁部～底部 | 破片 | 内外面口ロナナデ、底部回転糸切り痕 | 白色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | |
| 58図6 | PI-14 20 | 清毒器杯 | (12.2) | | | 11.0 | 内 16.0 外 16.0 | 口縁部～胴部 | 破片 | 内外面口ロナナデ | 白色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | カマド |
| 58図7 | PI-14 一括 | 清毒器蓋 | (14.3) | | | 60.0 | 内 15.1 外 15.1 | - | 破片 | 内外面口ロナナデ、外面は蓋の縁から回転ヘラケズリ | 白色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | |
| 58図8 | PI-14 7 | 清毒器蓋 | (11.6) | | | 49.0 | 内 14.0 外 14.0 | 口縁部～胴部 | 破片 | 内外面口ロナナデ | 白色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。胎土色調は 2.5.95.1 (赤灰色) | 住居中央 |
| 58図9 | PI-14 37 | 清毒器蓋 | | | | 35.0 | 内 14.0 外 14.0 | 胴部 | 破片 | 内外面口ロナナデ | 白色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | カマド横 (南側) |
| 58図10 | PI-14 9 PI-14 一括 | 清毒器蓋 | | | | 50.0 | 内 2.5.96.1 外 3.94.1 | 胴部 | 破片 | 内外面口ロナナデ | 白色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | カマド手前 |
| 58図11 | PI-14 11・12 | 清毒器蓋 | | | | 46.0 | 内 2.5.95.1 外 2.91.1 | 胴部 | 破片 | 内外面印き痕有り | 白色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | 住居北側壁際 |
| 59図1 | PI-14 39 | 羽口 | 外径 15.4 | | 内径 11.8 | 443.0 | 内 5.96.6 外 5.96.6 | - | 破片 | | 石英、黒色、白色、赤色胎物粒子、雲母粒子が入る | 住居西側壁際出土 |
| 61図1 | DK-151 図5 | 甲斐型杯 | (12.0) | | | 18.0 | 内 7.5.96.6 外 7.5.96.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面放射状暗文。度部回転糸切り痕 | 典型的な甲斐型杯より赤色胎物粒子が多い。きめ細かい土。 | DK-151 |
| 61図2 | DK-151 2 DK-151 図2 | 甲斐型杯 | 17.0 | | | 41.0 | 内 7.5.96.6, 2.5.96.6 外 7.5.96.6, 5.96.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面口ロナナデ、回転ヘラケズリ、内面放射状暗文 | 典型的な甲斐型杯より赤色胎物粒子が多い。きめ細かい土。 | DK-151 |
| 62図1 | PI-15 34 PI-15 一括 PI-15 カマド | 甲斐型杯 | (12.8) | 4.6 | 6.0 | 85.0 | 内 7.5.96.6 外 7.5.96.6 | 口縁部～底部 | 1/2 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面見込みから口縁まで放射状暗文。度部ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | カマドとカマド横 (南側) 体部外面と底部に墨書 |
| 62図2 | PI-15 一括 | 甲斐型杯 | (10.4) | 3.7 | 5.7 | 53.0 | 内 5.96.6 外 5.96.6 | 口縁部～底部 | 1/3 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面放射状暗文。度部回転糸切り後、ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | 体部外面に墨書 |
| 62図3 | PI-15 29 | 甲斐型杯 | 11.5 | 4.5 | 5.4 | 105.0 | 内 5.96.4 外 5.96.6 | 口縁部～底部 | 2/3 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面放射状暗文。度部回転糸切り後、ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | 住居南側壁際寄り 体部外面に墨書 |
| 62図4 | PI-15 32 PI-15 一括 | 甲斐型杯 | 11.5 | 4.6 | 5.5 | 123.0 | 内 5.96.6 外 5.96.6 | 口縁部～底部 | 2/3 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面放射状暗文。度部回転糸切り後、ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | カマド横 (南側) の 住居南側壁際寄り 体部外面に墨書 |
| 62図5 | PI-15 43 | 甲斐型杯 | 11.4 | 4.4 | 5.3 | 120.0 | 内 5.96.6 外 5.96.6 | 口縁部～底部 | 3/4 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面放射状暗文。度部回転糸切り後、ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | カマド横 (北側) 体部外面に墨書 |
| 62図6 | PI-15 33 | 甲斐型杯 | (10.8) | 4.2 | 5.7 | 23.0 | 内 5.96.6 外 5.96.6 | 口縁部～底部 | 破片 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面放射状暗文。度部回転糸切り痕 | 長石、石英、黒色、赤色胎物粒子が混じる。きめ細かい土。 | カマド横 (南側) 体部外面に墨書、口 唇部にも條の痕か |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|--|------|---------|---------|---------|--------|----------------------------|------------|----------|--|---|-----------------------------|
| 62図7 | Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 10.6 | 4.1 | 5.7 | 18.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後、ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に塗書 |
| 63図1 | Ph-15 11 Ph-15 一括 5-041-2044 Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 11.0 | 4.1 | 5.6 | 81.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 3/4 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後、ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居南西壁際 体部外面に焼成後の 線刻有り |
| 63図2 | Ph-15 6 Ph-15 一括 5-041-2044 Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 10.6 | 3.8 | 5.2 | 69.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/2 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後、ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居南西壁寄り |
| 63図3 | Ph-15 35 | 甲斐型杯 | 10.4 | 4.2 | 5.5 | 37.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後、ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居南東角 |
| 63図4 | 5-041-2044 Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 13.4 | 5.0 | 6.2 | 129.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 底部 | ほぼ 完整 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文と胴部から 見込みにかけて の放射線文、底面 回転糸切り後ヘ ラケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 63図5 | Ph-15 18 Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 10.6 | 4.0 | 5.5 | 81.0 | 内 : 2.5R6.6 外 : 2.5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 2/3 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居中央 体部外面に焼成後の 線刻有り |
| 63図6 | Ph-15 2・3 Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 10.9 | 4.2 | 4.8 | 61.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/2 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後、ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居北東角 |
| 63図7 | Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 10.0 | 4.0 | 5.0 | 18.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に焼成後の 線刻有り |
| 63図8 | Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 9.9 | 4.4 | 4.3 | 26.0 | 内 : 7.5R6.6 外 : 7.5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 63図9 | Ph-15 7 | 甲斐型杯 | 11.7 | 4.2 | 6.1 | 20.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居南西壁寄り |
| 63図10 | Ph-15 31 Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 11.4 | 4.2 | 5.7 | 116.0 | 内 : 2.5R6.8 外 : 2.5R6.8 | 口縁部～ 底部 | ほぼ 完整 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 典型的な甲斐型杯 より表面がさらつ く | 住居南西壁寄り |
| 63図11 | Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 11.5 | | | 29.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 1/4 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 64図1 | Ph-15 36 | 甲斐型杯 | 11.4 | | | 14.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | カマド壁（南側）の 住居東側壁際 |
| 64図2 | Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | 11.4 | | | 18.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ、ヘラケズ リ、内面放射状 線文 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 64図3 | Ph-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 13.0 | 内 : 5R6.6 外 : 5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ、内面放射 状線文 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に塗書 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|--|------|---------|---------|---------|--------------------|------------------------|--------|--|-----------------------------------|--|---|
| 64図4 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 2.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、内面放射状焼文 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 64図5 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 8.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、内面放射状焼文 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 64図6 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 8.0 | 内・2.S95.6 外・2.S95.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、ヘラケズリ、内面放射状焼文 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 64図7 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 3.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、内面放射状焼文 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 64図8 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 4.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ、内面放射状焼文 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 64図9 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 5.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、内面放射状焼文 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 64図10 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 11.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、ヘラケズリ、内面放射状焼文 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 64図11 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 13.0 | 内・2.S95.6 外・2.S95.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、口縁ヘラケズリ、内面放射状焼文 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 64図12 | PH-15 B | 甲斐型杯 | | 4.4 | 23.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 底部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ、内面放射状焼文。底面ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 住居南側溝寄り 底面に塗着 | |
| 64図13 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | 5.2 | 6.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面口クロナデ、ヘラケズリ、内面放射状焼文。底面ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 | |
| 64図14 | PH-15 22 | 甲斐型杯 | | 7.5 | 32.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面口縁ヘラケズリ、内面放射状焼文。見込み中心部に円形(三重)の繪文。底面南寄り出し高台 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 住居中央 | |
| 64図15 | PH-15 一括 | 甲斐型杯 | | | | 4.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 底部 | 破片 | 体部内面放射状焼文。底面口縁へらケズリ | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 底部外面に塗着 |
| 64図16 | PH-15 一括 | 甲斐型蓋 | (18.3) | | | 27.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | - | 破片 | 体部外面口クロナデ、上面口縁へらケズリ、内面滑巻状焼文 | 長石、石英、黒色、赤色胎土粒子が混じる。きめ細かい胎土 | |
| 65図1 | PH-15 2-10-16-41-54- 46-15-57-55- 50-56-52 PH-15 一括 PH-15 カマド | 甲斐型壺 | (21.7) | | | 741.0 | 内・S94.4 外・S94.4 | 口縁部～胴部 | 1/2 | 体部外面縦方向カキメ。体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、雲母粒子が混じる。ざらついた胎土 | カマドとカマド棟 雲母粒子が混じる。 (左側)と住居南側 壁寄り |
| 65図2 | PH-15 一括 5-041-2014 PH-15 一括 | 甲斐型壺 | (27.0) | | | 40.0 | 内・S95.4 外・S95.4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ。体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、雲母粒子が混じる。ざらついた胎土 | |
| 65図3 | PH-15 カマド PH-15 一括 | 土師器壺 | | | | 34.0 | 内・S94.4 外・S94.4 | 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ。体部内面縦方向カキメ(両目筋の幅細いカキメ) | 石英、黒色、白色、赤色胎土粒子。雲母粒子が混じる。カキメが、少量で輪子も小さいで、ややきめ細かい胎土 | カマド出土 甲斐型壺と同質の胎土 |
| 65図4 | PH-15 37-38 | 甲斐型壺 | (30.0) | | | 269.0 | 内・7.S94.2 外・7.S94.4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ。体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、雲母粒子が混じる。ざらついた胎土 | カマド棟(南側)の 住居東側壁際 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|------|---|--------|---------|---------|---------|--------|------------------------|--------|-----|--|---|---------------------------------|
| 65図5 | Ph-15 39・40・46・24 Ph-15 一括 Ph-15 カマド DK-151 図3 | ロク口甕2類 | 13.5 | 15.8 | 7.2 | 372.0 | 内・7.59F.4 外・7.59R.3 | 口縁部～底部 | 1/3 | 内外面ロクロナデ、底面回転糸切り痕 | 石英、黒色、白色、赤色結核粒子が混入する。ややざらついた胎土 | カマドとカマド棟(南側)と DK-151 |
| 65図6 | Ph-15 17 Ph-15 一括 | ロク口甕2類 | | | 6.2 | 120.0 | 内・7.59E.4 外・7.59R.3 | 胴部～底部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、底面回転糸切り痕 | 石英、黒色、白色、赤色結核粒子が混入する。ややざらついた胎土 | カマド手前 |
| 66図1 | Ph-15 21 Ph-15 一括 | 黒色杯 | 13.7 | 4.5 | 6.6 | 113.0 | 内・11.5.0 外・59E.6 | 口縁部～底部 | 1/2 | 体部外面ロクロナデ、内面ケズリ、内面ミガキ、底面ヘラケズリ | 長石、石英、黒色結核粒子が混入する。ややざらついた胎土 | 住居中央 内面黒色処理 体部外面に焼成後の線刻有り |
| 66図2 | Ph-15 一括 | 須恵器杯 | | 5.8 | | 14.0 | 内・16.0 外・16.0 | 胴部～底部 | 破片 | 内外面須恵器杯より白色結核粒子が欠き多いが、きめ細かい胎土 | | |
| 66図3 | Ph-15 一括 | 須恵器杯 | | | | 8.0 | 内・25.1 外・35.1 | 口縁部～胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | |
| 66図4 | Ph-15 一括 | 須恵器蓋 | 15.4 | | | 12.0 | 内・16.0 外・16.0 | - | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | |
| 66図5 | Ph-15 一括 | 須恵器蓋 | 13.5 | | | 10.0 | 内・16.0 外・16.0 | - | 破片 | 内外面ロクロナデ、外面上縁は回転糸切り痕 | 白色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | |
| 66図6 | Ph-15 12 | 須恵器蓋 | 13.6 | | | 14.0 | 内・109E.1 外・109E.1 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | 住居南側壁寄り |
| 66図7 | Ph-15 44 Ph-15 一括 | 須恵器蓋 | | | | 113.0 | 内・16.0 外・16.0 | 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | 住居南側壁寄り |
| 66図8 | Ph-15 一括 | 須恵器蓋 | | | | 51.0 | 内・16.0 外・16.0 | 胴部 | 破片 | 体部外面叩き痕有り、内面ロクロナデ | 白色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | |
| 66図9 | Ph-15 8・28 | 須恵器蓋 | | | | 459.0 | 内・2.59E.1 外・7.59E.2 | 胴部 | 破片 | 内外面叩き痕有り、外面には縁にヘラナデ | 白色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | 住居南側壁寄り |
| 68図1 | Ph-16 1・2 | 甲斐型皿 | 16.2 | 2.8 | 6.8 | 135.0 | 内・59R.4 外・59R.6 | 口縁部～底部 | 1/2 | 体部外面ロクロナデ、回転ヘラケズリ、内面見込みから口縁部まで赤褐色斑、底面回転ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | カマド |
| 68図2 | Ph-16 5・6・7・8・10・12 Ph-16 一括 Ph-16 カマド | 甲斐型甕 | 26.4 | | | 657.0 | 内・2.59R.4 外・2.59R.6 | 口縁部～胴部 | 1/3 | 体部外面縦方向カキメ、内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、赤色結核粒子が混入する。ざらついた胎土 | カマド |
| 68図3 | Ph-16 4 | 甲斐型甕 | | | | 100.0 | 内・7.59E.4 外・7.59E.6 | 胴部 | 破片 | 体部内外面縦方向に刻みナデ層 | 石英、黒色、白色、赤色結核粒子が混入する。ややざらついた胎土 雲母粒子は含まない | カマド |
| 68図4 | Ph-16 9 Ph-16 カマド Ph-16 一括 | 武蔵型甕か? | | | | 43.0 | 内・109R.3 外・7.59R.3 | 胴部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ、内面ロクロナデ | 石英、黒色、白色、赤色結核粒子が混入する。ややざらついた胎土 | カマド |
| 68図5 | Ph-16 一括 | 黒色杯 | 11.5 | | | 8.0 | 内・12.0 外・109E.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、内面ミガキ | 長石、石英、黒色結核粒子が混入する。ややざらついた胎土 | 内面黒色処理 |
| 68図6 | S-041-2014 Ph-16 一括 | ロク口甕1類 | 12.0 | | | 4.0 | 内・59E.8 外・59E.6 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 長石、石英、黒色、赤色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | |
| 68図7 | Ph-16 一括 | 須恵器杯 | 11.0 | | | 4.0 | 内・51.1 外・51.1 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土 | |
| 68図8 | Ph-16 一括 | 須恵器蓋 | | | | 65.0 | 内・2.59E.2 外・7.59R.3 | 胴部 | 破片 | 体部内外面に叩き痕有り | 白色結核粒子が混入する。きめ細かい胎土。胎土色調は2.59E.1(赤灰色) | |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|---------------------------------------|-----------|---------|---------|---------|--------|----------------------------|------------|-----|---|--|--|
| 70図 1 | 内-17 13 | 甲斐型杯 | 11.6 | 4.0 | 5.0 | 64.0 | 内 : 595/6 外 : 7.595/6 | 口縁部→ 底部 | 1/2 | 体部外面ロクロナ 子、ヘラケズリ、 内面は粉状 織文、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 典型的な甲斐型杯 より赤色鉱物粒子 が多いが、きめ細かい な胎土 | カマド頂 (南側) 底部に遺書 |
| 70図 2 | 内-17 10 | 甲斐型杯 | 11.2 | 4.5 | 5.4 | 69.0 | 内 : 7.596/6 外 : 7.596/6 | 口縁部→ 底部 | 1/3 | 体部外面ロクロ ナ子、ヘラケズ リ、内面は奥込 みに内伏の織文、 底面は粉状の織 文、底面回転糸 切り後ヘラケズ リ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 住居南東側 |
| 70図 3 | 内-17 一括 | 甲斐型杯 | | | | 4.0 | 内 : 7.597/6 外 : 7.597/6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナ 子 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 体部外面に遺書 |
| 70図 4 | 内-17 一括 | 甲斐型壺 | | | | 14.0 | 内 : 595/6 外 : 594/6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、内面横 方向カキメ | 長石、石英、黒色、 雲母粒子が混じる、 さらついた胎土 | |
| 70図 5 | 内-17 カマド | 焼成粘土 塊 | | | | 7.0 | 内 : 1096/4 外 : 1096/4 | - | 破片 | 体部外面ナデ調 整、内面は布目 整あり | 石英、大きめの灰 色鉱物粒子、黒色、 白色、赤色鉱物粒 子が混じる、さら ついた胎土 | カマド |
| 70図 6 | 内-17 13 | 黒色杯 | 12.2 | 3.7 | 6.5 | 105.0 | 内 : 815.0 外 : 597.6 | 口縁部→ 底部 | 2/3 | 体部外面ロクロ ナ子、内面ニガ キ、底面ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じる、 ややさらついた胎 土 | カマド頂 (南側) 体部外面に焼成後の 線刻有り 内面黒色処理 |
| 70図 7 | 内-17 1・3 内-17 一括 | 須恵器杯 | 12.2 | 4.0 | 6.5 | 101.0 | 内 : 2.97/1 外 : 2.97/2 | 口縁部→ 底部 | 3/4 | 内外面ロクロナ 子、底面回転糸 切り痕 | 鉱物粒子多くさら つく | 住居西側控壁 体部内外面、底面、 見込みに火燗痕 |
| 70図 8 | 内-17 12 内-17 一括 | 須恵器杯 | 11.6 | 4.0 | 5.5 | 92.0 | 内 : 2.96/1 外 : 2.97/2 | 口縁部→ 底部 | 2/3 | 内外面ロクロナ 子、底面回転糸 切り痕 | 鉱物粒子多くさら つく | カマド頂 (南側) 体部内外面、底面、 見込みに火燗痕 |
| 71図 1 | 内-17 13・14 | 須恵器杯 | 12.0 | 3.8 | 5.9 | 108.0 | 内 : 2.96/1 外 : 2.96/1 | 口縁部→ 底部 | 3/4 | 内外面ロクロナ 子、底面回転糸 切り痕 | 白色鉱物粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | カマド頂 (南側) 体部内外面、底面、 見込みに火燗痕 |
| 71図 2 | 内-17 4・11 内-17 一括 内-17 カマド | 須恵器杯 | 12.9 | 4.1 | 6.4 | 103.0 | 内 : 596/2 外 : 596/2 | 口縁部→ 底部 | 2/3 | 内外面ロクロナ 子、底面回転糸 切り痕 | 鉱物粒子が多く混 じる、多孔質、軟 質の胎土 | 住居北東角とカマド 頂 (南側) 体部内外面、底面、 見込みに火燗痕 |
| 71図 3 | 内-17 8 内-17 一括 | 須恵器杯 | | | | 11.0 | 内 : 2.97/1 外 : 2.97/1 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナ 子 | 鉱物粒子多くさら つく | カマド頂 (北側) の 住居南側控壁 体部外面に焼成後の 十字形の線刻有り 体部外面に火燗痕 |
| | 内-17 14 | 須恵器杯 | 12.2 | 4.2 | 6.0 | 83.0 | 内 : 2.97/1 外 : 2.97/1 | 口縁部→ 底部 | 2/3 | 内外面ロクロナ 子、底面回転糸 切り痕 | 鉱物粒子多くさら つく | カマド頂 (南側) の 住居南側控壁 体部内外面、底面、 見込みに火燗痕 |
| 71図 4 | 内-17 5・6・12 内-17 一括 | 須恵器杯 | 12.6 | 4.2 | 6.5 | 85.0 | 内 : 597/1 外 : 597/1 | 口縁部→ 底部 | 1/2 | 内外面ロクロナ 子、底面回転糸 切り痕 | 鉱物粒子多くさら つく | 住居北東角とカマド 頂 (北側) の住居東 側控壁とカマド頂 (南側) 体部内外面、底面、 見込みに火燗痕 |
| 71図 5 | 内-17 2 内-17 一括 | 須恵器杯 | 12.2 | 4.1 | 5.9 | 40.0 | 内 : 2.97/1 外 : 2.97/1 | 口縁部→ 底部 | 1/3 | 内外面ロクロナ 子、底面回転糸 切り痕 | 鉱物粒子多くさら つく | 住居西側控壁 体部内外面、底面、 見込みに火燗痕 |
| 71図 6 | 内-17 7 | 須恵器杯 | 12.7 | 4.0 | 6.6 | 20.0 | 内 : 2.97/1 外 : 2.97/1 | 口縁部→ 底部 | 破片 | 内外面ロクロナ 子、底面回転糸 切り痕 | 鉱物粒子多くさら つく | カマド頂 (北側) 体部内外面、見込 みに火燗痕 |
| 71図 7 | 内-17 20 内-17 カマド 内-17 一括 | 須恵器杯 | 12.1 | 4.0 | 6.6 | 23.0 | 内 : 1087/1 外 : 1087/1 | 口縁部→ 底部 | 破片 | 内外面ロクロナ 子 | 鉱物粒子多くさら つく | カマドとカマド頂 (南側) 体部内外面、底面、 火燗痕 |
| 71図 8 | 内-17 18・21 内-17 カマド 内-17 カマド図 1 | 須恵器杯 | 12.5 | | | 45.0 | 内 : 597/1 外 : 597/1 | 口縁部→ 胴部 | 1/3 | 内外面ロクロナ 子 | 鉱物粒子が多く混 じる、多孔質、軟 質の胎土 | カマド |
| 71図 9 | DK-25 一括 | 灰釉壺 | 5.0 | | | 13.0 | 内 : 597/1 外 : 2.987/2 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナ 子 | 白色鉱物粒子が混 じる、密できめ 細かい胎土 | DK-25 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|------|---------------------------------|------------|---------|---------|---------|--------|------------------------|--------------|------------|--|--|--------------------------|
| 74図1 | Ph-18 一括 | 甲斐型杯 | (11.8) | 4.5 | 4.5 | 42.0 | 内・Sf6.6 外・Sf6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/3 | 体部外面口ロナ ナ子、ヘラケズ リ、内面口ロナ ナ子、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 底部に焼成後の線刻 有り |
| 74図2 | Ph-18 8 Ph-18 一括 DK-00 一括 | 甲斐型杯 | (12.6) | 4.3 | (5.5) | 46.0 | 内・Sf6.6 外・Sf6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/3 | 体部外面口ロナ ナ子、ヘラケズ リ、内面口ロナ ナ子、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 典型的な甲斐型杯 より赤色鉱物粒子 が多い | 住居南西 |
| 74図3 | Ph-18 一括 | 甲斐型皿 | (14.4) | 2.6 | (6.9) | 16.0 | 内・Sf6.6 外・Sf6.6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口ロナ ナ子、回転ヘラ ケズリ、内面滴 垂状縁文、底面 回転ヘラケズリ | 典型的な甲斐型杯 より赤色鉱物粒子 が多い | |
| 74図4 | Ph-18 一括 | 甲斐型壺 | (28.2) | | | 66.0 | 内・Sf6.3 外・Sf6.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 向カキメ、体部内 面縦方向向カキメ | 長石、石英、黒色、 霏母粒子が混入し る。ざらついた胎 土 | |
| 74図5 | Ph-18 一括 | 甲斐型壺 | (18.0) | | | 40.0 | 内・Sf6.2 外・7.Sf6.2 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 向カキメ、体部内 面縦方向向カキメ | 長石、石英、黒色、 霏母粒子が混入し る。ざらついた胎 土 | |
| 74図6 | Ph-18 一括 | 甲斐型模 倣壺 | | | | 30.0 | 内・Sf6.2 外・7.Sf6.4 | 胴部 | 破片 | 口ロナ成形、体 部内面縦方向カ キメ、内面ナデ 調整 | 典型的な甲斐型壺 よりきめ細かい胎 土で、霏母粒子は 少ない | 墓室は埋土 |
| 74図7 | Ph-18 一括 | 武蔵型壺 | | | | 21.0 | 内・Sf6.4 外・7.Sf6.0 | 胴部 | 破片 | 体部外面ヘラケ ズリ、内面口ロ ロナ子 | 石英、黒色、白色、 赤色鉱物粒子が混 入する。ややざら ついた胎土 | |
| 74図8 | Ph-18 4 | 黒色埴 | 14.4 | 4.7 | 6.0 | 219.0 | 内・Nf 5.0 外・7.Sf6.6 | 口縁部～ 底部 | (ほぼ 完全) | 体部外面口ロナ ナ子、内面ミガ キ、底面ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混入 する。ややざらつ いた胎土 | 住居北西 内面黒色処理 底部に採付層 |
| 75図1 | Ph-18 10 Ph-18 一括 | 駿東型壺 | (14.4) | 15.2 | (6.6) | 306.0 | 内・Sf6.3 外・Sf6.3 | 口縁部～ 底部 | 1/3 | 体部外面は頸部 から胴上部2/3 まで縦方向カキ メ、胴下部1/3 は横方向カキメ、 内面ナデ調整、 底面内外ヘラケ ズリ | 鉱物粒子が多くざ らつたが、霏母粒 子は入らない | カマド横(南東角) |
| 75図2 | Ph-18 12 | 須恵器杯 | (17.5) | | | 19.0 | 内・Sf6.1 外・Sf6.1 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面口ロナ ナ子 | 白色鉱物粒子が混 入する。きめ細か な胎土 | 住居北側壁際 |
| 75図3 | Ph-18 5 Ph-18 一括 | 須恵器壺 | | | (32.0) | 32.0 | 内・Nf 0 外・Nf 0 | 頸部～胴 部、底部 | 破片 | 体部外面は叩き しめたとナデ調整 内面口ロナナ子 | 白色鉱物粒子が混 入する。きめ細か な胎土 | 住居西側壁際 |
| 75図4 | Ph-18 14 | 瓶子 | (4.6) | 11.1 | 4.8 | 166.0 | 内・2.Sf6.1 外・2.Sf6.1 | 口縁部～ 底部 | (ほぼ 完全) | 口ロナ成形、底 面ナデ調整 | 白色鉱物粒子が混 入する。調整でき る細かな胎土 | 住居西側壁寄り |
| 77図1 | Ph-19 8 Ph-19 一括 | 甲斐型杯 | 11.8 | 4.4 | 5.0 | 79.0 | 内・7.Sf6.6 外・7.Sf6.6 | 口縁部～ 底部 | 3/4 | 体部外面口ロナ ナ子、ヘラケズ リ、内面口ロナ ナ子、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 住居北西 体部外面に墨書 |
| 77図2 | Ph-19 4 | 甲斐型杯 | (11.5) | 4.1 | 6.2 | 60.0 | 内・Sf6.6 外・Sf6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/2 | 体部外面口ロナ ナ子、ヘラケズ リ、内面放射状 縁文、見込みに 一重の円形ナデ、 底面ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 住居南側壁寄り |
| 77図3 | Ph-19 一括 | 甲斐型杯 | | | | 7.0 | 内・Sf6.6 外・7.Sf6.6 | 胴部～底 部 | 破片 | 体部外面口ロナ ナ子、ヘラケズ リ、内面放射状 縁文、底面ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | 体部外面に墨書 |
| 77図4 | Ph-19 一括 | 甲斐型皿 | (13.0) | 2.2 | (5.0) | 34.0 | 内・7.Sf6.6 外・Sf6.6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口ロナ ナ子、ヘラケズ リ、内面口ロナ ナ子、底面ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 入する。きめ細かい 胎土 | |
| 77図5 | Ph-19 5 Ph-19 一括 | 黒色埴 | (19.4) | 7.1 | (10.0) | 129.0 | 内・2.Sf6.6 外・2.Sf6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/4 | 体部外面口ロナ ナ子、内面ミガ キ、付付層 | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混入 する。ややざらつ いた胎土 | 住居中央 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|---------------------|------------|---------|---------|---------|--------|--------------------------|------------|-----|---|----------------------------------|---------------------------------|
| 78図1 | PH-19一括 | 黒色杯 | 12.6 | 4.5 | 6.0 | 100.0 | 内: N1.5.0 外: S9E.6 | 口縁部～ 底部 | 2/3 | 体部外面口ロナナ子、内面ミガキ、底部回転糸切り痕 | 長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | 内面黒色処理 |
| 78図2 | PH-19.3 | 黒色杯 | 13.2 | 4.0 | 6.0 | 158.0 | 内: N1.5.0 外: 109E.4 | 口縁部～ 底部 | 3/4 | 体部外面口ロナナ子、内面ミガキ、底部回転糸切り痕 | 長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | 住居南側壁際 内面黒色処理 体部外面に墨書 |
| 78図3 | PH-19一括 | 黒色杯 | | | | 1.0 | 内: N1.5.0 外: 109E.4 | 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナナ子、内面ミガキ | 長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | 内面黒色処理 体部外面に墨書 |
| 78図4 | PH-19一括 | ロク口甕2 類 | | | 6.6 | 22.0 | 内: 7.59E.6 外: 109E.4 | 底部 | 破片 | 内外面口ロナナ子、底部回転糸切り痕 | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | |
| 78図5 | PH-19一括 | ロク口甕2 類 | 11.1 | | | 12.0 | 内: 7.59E.3 外: 7.59E.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面は蓋状工具による口ロナナ子、内面ナテ調整 | 石英、白色、赤色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | |
| 78図6 | PH-19一括 | ロク口甕2 類 | | | | 15.0 | 内: 7.59E.3 外: 7.59E.4 | 胴部 | 破片 | 体部外面は蓋状工具による口ロナナ子、内面ナテ調整 | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | |
| 78図7 | PH-19.10 | 須恵器蓋 | 16.8 | | | 76.0 | 内: N1.0 外: S9A.1 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面口ロナナ子 | 白色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土、胎土色調 S9E.2 | カマド |
| 78図8 | PH-19一括 | 須恵器蓋 | 15.6 | | | 24.0 | 内: S9.1 外: S9.1 | - | 破片 | 内外面口ロナナ子 | 白色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | |
| 80図1 | PH-20.17 PH-20一括 | 甲斐型杯 | 12.4 | 4.5 | 4.8 | 37.0 | 内: S9E.6 外: S9E.6 | 口縁部～ 底部 | 1/3 | 体部外面口ロナナ子、ヘラケズリ、内面放射状線文、底部ヘラケズリ | 典型的な甲斐型杯より鉱物粒子が多い、きめ細かい胎土 | 住居南側壁寄り |
| 80図2 | PH-20一括 | 甲斐型杯 | 11.8 | | | 9.0 | 内: S9E.6 外: S9E.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面口ロナナ子 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | |
| 80図3 | PH-20一括 | 甲斐型杯 | | | | 8.0 | 内: 2.59E.6 外: 2.59E.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナナ子、ヘラケズリ、内面放射状線文 | 典型的な甲斐型杯より赤色鉱物粒子が多い | 体部外面に墨書 |
| 80図4 | PH-20.23 PH-20一括 | 甲斐型甕 | 29.3 | | | 193.0 | 内: 7.59E.3 外: 7.59E.3 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面横方向カキメ | 長石、石英、黒色、霞母粒子が混じる、ざらついた胎土 | 住居中央 |
| 80図5 | PH-20.12 | 甲斐型甕 | 30.4 | | | 91.0 | 内: 2.59E.4 外: 2.59E.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面横方向カキメ | 長石、石英、黒色、霞母粒子が混じる、ざらついた胎土 | 住居南側壁寄り |
| 80図6 | PH-20.28 PH-20一括 | 甲斐型甕 | 31.2 | | | 65.0 | 内: S9E.6 外: S9E.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面横方向カキメ | 長石、石英、黒色、霞母粒子が混じる、ざらついた胎土 | 住居南東角 |
| 80図7 | PH-20一括 | 甲斐型甕 | 30.4 | | | 54.0 | 内: S9E.6 外: S9E.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面横方向カキメ | 長石、石英、黒色、霞母粒子が混じる、ざらついた胎土 | |
| 80図8 | PH-20.32 PH-20一括 | 甲斐型甕 | 19.0 | | | 73.0 | 内: S9E.4 外: S9E.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面横方向カキメ | 長石、石英、黒色、霞母粒子が混じる、ざらついた胎土 | 住居南東角 |
| 80図9 | PH-20.44 | 黒色杯 | 12.4 | 4.8 | 5.5 | 165.0 | 内: N1.5.0 外: 109E.4 | 口縁部～ 底部 | 3/4 | 体部外面口ロナナ子、内面ミガキ、底部回転糸切り痕 体部外面下平は酸化、割傷しへこんでいる | 石英、赤色、白色、灰色、黒色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | カマド 内面黒色処理 |
| 80図10 | PH-20.37 | 黒色杯 | 11.8 | 4.3 | 5.5 | 123.0 | 内: N1.5.0 外: 7.59E.6 | 口縁部～ 底部 | 完整 | 体部外面口ロナナ子、内面ミガキ、底部回転糸切り痕 | 石英、赤色、白色、灰色、黒色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | カマド 内面黒色処理 |
| 80図11 | PH-20.21 PH-20一括 | 黒色杯 | 11.9 | 4.0 | 5.5 | 88.0 | 内: N1.5.0 外: 7.59E.6 | 口縁部～ 底部 | 1/2 | 体部外面口ロナナ子、内面ミガキ、底部回転糸切り痕 | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が混じる、ややざらついた胎土 | カマド壁(南側)の 住居南東角奥壁際 内面黒色処理 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 | |
|------|---|--------|---------|---------|---------|--------|------------------------|------------------------|-----------|--|---------------------------------------|--|-----------------|
| 81図1 | Ph-20 8 Ph-20 一括 | 黒色杯 | (11.7) | 3.9 | 5.9 | 69.0 | 内-N1.5/0 外-N10R2 | 口縁部～ 底部 | 1/3 | 体部外面ロクロナデ、内面ミガキ、底面回転糸切り痕 | 石灰、赤色、白色、灰色、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | カマド種(北側)の住居東側壁際 内面黒色処理 | |
| 81図2 | Ph-20 18 | 黒色杯 | (11.6) | 4.5 | 4.4 | 88.0 | 内-N1.5/0 外-7.5R4.3 | 口縁部～ 底部 | 2/3 | 体部外面ロクロナデ、底面に近い内側のみヘラケズリ、内面ミガキ、底面回転糸切り痕 | 石灰、黒色、白色、赤色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 住居北西角 内面黒色処理 | |
| 81図3 | Ph-20 19 | 黒色杯 | (12.8) | 4.1 | 6.0 | 120.0 | 内-N1.5/0 外-N10R6.4 | 口縁部～ 底部 | 2/3 | 体部外面ロクロナデ、内面ミガキ、底面回転糸切り痕 | 石灰、赤色、白色、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 住居北西角 内面黒色処理 | |
| 81図4 | Ph-20 16 | 黒色杯 | 12.8 | 4.7 | 6.0 | 161.0 | 内-N1.5/0 外-7.5R6.4 | 口縁部～ 底部 | 完整 | 体部外面ロクロナデ、内面ミガキ、底面回転糸切り痕 | 石灰、赤色、白色、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 住居南側壁寄り 内面黒色処理 | |
| 81図5 | Ph-20 一括 | 黒色杯 | | | (5.0) | 17.0 | 内-N10.0 外-5R6.6 | 胴部～底 部 | 破片 | 長石、石灰、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 内面黒色処理 体部外面に塗書 | | |
| 81図6 | Ph-20 20・26 | 黒色皿 | 13.2 | 2.6 | (6.2) | 146.0 | 内-7.5R7.1 外-7.5R7.4 | 口縁部～ 底部 | ほぼ 完整 | 体部外面ロクロナデ、内面ミガキ、底面回転糸切り痕(付け高台) | 長石、石灰、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 住居中央 内面黒色処理 | |
| 81図7 | Ph-20 一括 | 黒色皿 | (13.8) | | | 40.0 | 内-N10.0 外-N10R7.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、内面ミガキ | 長石、石灰、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 内面内黒処理 | |
| 82図1 | Ph-20 33 Ph-20 一括 | ロクロ型2類 | (16.0) | | | 46.0 | 内-7.5R7.4 外-7.5R7.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 石灰、赤色、白色、灰色、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | カマド種(南側) | |
| 82図2 | Ph-20 27・35 Ph-20 一括 Ph-20 カマド | ロクロ型2類 | | | | 7.4 | 426.0 | 内-7.5R6.3 外-7.5R6.4 | 胴部～底 部 | 1/2 | 体部外面は意匠工具を当てたロクロナデ、内面ロクロナデ、底面回転糸切り痕 | 長石、石灰、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | カマド |
| 82図3 | Ph-20 9・10・15 Ph-20 一括 Ph-20 カマド | ロクロ型2類 | (14.2) | 15.8 | (7.0) | 359.0 | 内-7.5R7.4 外-7.5R7.4 | 口縁部～ 底部 | 1/2 | 体部外面は意匠工具を当てたロクロナデ、内面ロクロナデ、底面回転糸切り痕 | 長石、石灰、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 住居中央と北東カマド | |
| 82図4 | Ph-20 8 Ph-20 一括 | ロクロ型2類 | | | | 4.4 | 112.0 | 内-7.5R6.4 外-7.5R6.4 | 胴部～底 部 | 破片 | 内外面ロクロナデ、体部外面は意匠に近い内側のみヘラケズリ、底面静止糸切り痕 | 長石、石灰、黒色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | カマド種(北側)の住居東側壁際 |
| 82図5 | Ph-20 5 | 須臾器書 | 20.0 | | | 34.0 | 内-N10.0 外-N14.0 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色磁物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 住居北東角 | |
| 82図6 | Ph-20 31 | 須臾器書 | | | | 244.0 | 内-2.5S.1 外-SB4.1 | 胴部 | 破片 | 内外面叩き痕有り | 白色磁物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | カマド手前 内面に部分的な塗料あり | |
| 84図1 | Ph-21 7 | 甲斐型埴 | | | (5.8) | 32.0 | 内-SR6.6 外-SR6.6 | 胴部～底 部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、ヘラケズリ、内面込みから意匠的意、胴部から見込みにかけての胎土部にてた跡有り、底面ヘラケズリ | 長石、石灰、黒色、赤色磁物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | カマド種(南側)の住居東側壁際 | |
| 84図2 | Ph-21 4 | 甲斐型埴 | 20.0 | | | 46.0 | 内-SR4.6 外-SR4.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面縦方向カキメ | 長石、石灰、黒色、赤色磁物粒子が混じる。さらついた胎土 | 住居南側 | |
| 84図3 | Ph-21 9・5・1 | 武蔵型埴 | 24.6 | | | 122.0 | 内-7.5R6.4 外-7.5R6.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ、ヘラケズリ、内面ナデ磨 | 石灰、黒色、白色、赤色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | カマドとカマド種(北側)と住居中央 | |
| | Ph-21 8・13・2・3・10・11・12・14 Ph-21 カマド | 武蔵型埴 | | | | 309.0 | 内-7.5R6.4 外-7.5R6.4 | 胴部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ、内面ナデ調整 | 石灰、黒色、白色、赤色磁物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | カマドとカマド種(北側)とカマド手前 体部内外面に煤け痕(内面は少量) | |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|---------------------------------------|------------|---------|---------|---------|--------|--------------------------|------------|----------|--|---|------------------------------------|
| 84図4 | DK-55 一括 | ロク口甕2 箱 | (10.5) | | | 15.0 | 内: 7.5R6.6 外: 7.5R6.6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ | 長石、石英、黒色 磁粉粒子が混じる。 ややざらついた胎 土 | DK-55 |
| 84図5 | PH-21 6 | 須恵器杯 | (13.6) | 4.4 | 6.2 | 36.0 | 内: 10R7/1 外: 10R7/1 | 口縁部→ 底部 | 1/4 | 内外面ロクロナ デ。底部回転糸 切り痕 | 典型的な須恵器よ り磁粉粒子が多く、 ボロボロした感じ | 住居中央 |
| 84図6 | DK-55 一括 | 須恵器杯 | (14.5) | | | 14.0 | 内: 5R6/1 外: 5R6/1 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ | 典型的な須恵器よ り磁粉粒子が多い | DK-55 |
| 85図1 | PH-22 8・9 | 甲斐型杯 | (17.4) | | | 31.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ。ヘラケズ リ。内面ロクロ ナデ | 長石、石英、黒色。 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | カマド |
| 85図2 | PH-22 3・6・10 PH-22 一括 DK-22 カマド | 甲斐型杯 | 16.1 | 5.2 | 6.2 | 146.0 | 内: 7.5R4/3 外: 7.5R4/3 | 口縁部→ 底部 | 2/3 | 体部外面ロクロ ナデ。ヘラケズ リ。内面ロクロ ナデ。底部回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色。 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | カマドと住居南東角 壁際 |
| 85図3 | PH-22 4 PH-22 一括 | 須恵器杯 | (13.2) | 4.6 | 6.6 | 29.0 | 内: 2.5R7/1 外: 2.5R7/1 | 口縁部→ 底部 | 破片 | 内外面ロクロナ デ。底部回転糸 切り痕 | 白色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居南西角の石割壁 際 体部内外面。底部に 火傷痕 |
| 87図1 | PH-22 1 | 甲斐型杯 | (10.9) | 4.2 | 5.2 | 49.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 口縁部→ 底部 | 1/3 | 体部外面ロクロ ナデ。ヘラケズ リ。内面放射状 暗文。底部回転 糸切り痕 | 長石、石英、黒色。 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | PH-22 体部外面に墨書 |
| 87図2 | PH-24 一括 | 甲斐型杯 | (11.3) | 4.3 | 5.4 | 35.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 口縁部→ 底部 | 1/3 | 体部外面ロクロ ナデ。ヘラケズ リ。内面放射状 暗文。底部回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色。 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 87図3 | PH-24 一括 | 甲斐型杯 | (11.7) | | | 11.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ。ヘラケズ リ。内面放射状 暗文 | 長石、石英、黒色。 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に墨書 |
| 87図4 | PH-24 一括 DK-75 一括 | 甲斐型皿 | (14.4) | 2.9 | 5.6 | 52.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 口縁部→ 底部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ。回転ヘラ ケズリ。内面見 込みから放射状 暗文。底部回転 ヘラケズリ | 長石、石英、黒色。 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居と DK-75 |
| 87図5 | PH-24 22 PH-24 一括 | 甲斐型皿 | | | 5.1 | 61.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 胴部→底 部 | 1/3 | 体部外面ロクロ ナデ。回転ヘラ ケズリ。内面見 込みから放射状 暗文。底部回転 ヘラケズリ | 長石、石英、黒色。 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居北側壁寄り 底部に墨書 見込みは平滑に摩耗 |
| 87図6 | PH-24 一括 | 甲斐型皿 | | | | 5.0 | 内: 5R6.6 外: 5R6.6 | 胴部→底 部 | 破片 | 体部外面回転ヘ ラケズリ。内面 回転ヘラケズ リ | 長石、石英、黒色。 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 体部外面に墨書 |
| 87図7 | PH-24 一括 | 甲斐型蓋 | | | | 11.0 | 外: 5R6.6 | | 破片 | ロクロ成形 | 長石、石英、黒色。 赤色磁粉粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 87図8 | PH-24 31・41 | 甲斐型甕 | (25.4) | | | 153.0 | 内: 7.5R4/4 外: 7.5R4/3 | 口縁部→ 胴部 | 破片 | 体部外縁縁方向 カキメ。内面縁 方向カキメ | 長石、石英、黒色。 當母粒子が混じる。 ざらついた胎土 | カマド |
| 87図9 | DK-75 1 | 黒色杯 | (12.8) | 4.1 | 6.6 | 179.0 | 内: N1 5/0 外: 10R6/4 | 口縁部→ 底部 | ほぼ 完形 | 体部外面ロクロ ナデ。ヘラケズ リ。内面ミガキ。 底部回転糸切り 痕 | 長石、石英、黒色 磁粉粒子が混じる。 ややざらついた胎 土 | DK-75 内面黒色地埋 |
| 87図10 | PH-24 一括 | 黒色杯 | (13.3) | 4.3 | 6.2 | 91.0 | 内: N2/0 外: 5R6.6 | 口縁部→ 底部 | 1/3 | 体部外面ロクロ ナデ。ヘラケズ リ。内面ミガキ。 底部回転糸切り 痕 | 長石、石英、黒色 磁粉粒子が混じる。 ややざらついた胎 土 | 内面黒色地埋 |
| 88図1 | PH-24 一括 | 黒色杯 | | | 8.8 | 39.0 | 内: N2/0 外: 7.5R4/3 | 胴部→底 部 | 破片 | 体部外面ロクロ ナデ。ヘラケズ リ。内面ミガキ。 底部ヘラケズリ | 長石、石英、黒色 磁粉粒子が混じる。 ややざらついた胎 土 | 内面黒色地埋 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|-------|--|------------|-------------|---------|-------------|--------|------------------------|-------------------|-----|--|---|--|
| 88図 2 | Ph-24 一括 | 黒色杯 | | | | 5.0 | 内・N1.5.0 外・N07.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面口クロ ナデ、内面ミガ キ | 長石、石英、黒色 鉱物粒子が混じる。 ややざらついた胎 土 | 内面黒色処理 体部外面に塗書 |
| 88図 3 | Ph-24 23 Ph-24 一括 | 武蔵型壺 | (14.4) | | | 80.0 | 内・Z.5Y6.3 外・Z.5Y6.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメとナテ調 整、内面ナテ調 整 | 石英、黒色、白色、 赤色鉱物粒子が混 じる。ややざらつ いた胎土 | 住居中央 |
| 88図 4 | Ph-24 一括 | 武蔵型壺 | (16.0) | | | 33.0 | 内・5Y6.4 外・Z.5Y6.2 | 口縁部、 胴部 | 破片 | 体部外面ヘラケ ズリ後、内面口 クロナテ | 石英、黒色、白色、 赤色鉱物粒子が混 じる。ややざらつ いた胎土 | |
| 88図 5 | Ph-24 一括 | ロク口壺2 類 | (10.0) | | | 13.0 | 内・N07.4 外・5Y6.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面口クロナ デ | 石英、黒色、白色、 赤色鉱物粒子が混 じる。ざらついた 胎土 | |
| 88図 6 | Ph-24 27 Ph-24 一括 | ロク口壺2 類 | | | | 51.0 | 内・Z.5Y6.4 外・5Y6.6 | 胴部 | 破片 | 内外面口クロナ デ | 石英、黒色、白色、 赤色鉱物粒子が混 じる。ざらついた 胎土 | カマド棟(南側)の P1-220上 |
| 88図 7 | Ph-24 一括 | 須磨器鉢 | (12.0) | | (5.0) | 19.0 | 内・N6.0 外・N6.0 | 口縁部、 胴部～底 部 | 破片 | 内外面口クロナ テ、底面回転糸 切り痕 | 大きめの白色鉱物 粒子が多めに混 じる。ややざらつ いた胎土 | |
| 88図 8 | Ph-24 一括 | 須磨器蓋 | | | | 29.0 | 内・Z.5Y5.1 外・Z.5Y5.1 | - | 破片 | 内外面口クロナ デ | 白色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | |
| 88図 9 | DK-75 1 | 羽口 | 外径 (6.0) | | 内径 (1.8) | 71.0 | 内・Z.5Y6.4 外・Z.5Y6.4 | - | 破片 | | 石英、黒色、白色、 赤色鉱物粒子が混 じる。 | DK-75 |
| 90図 1 | Ph-27 7 | 甲斐型杯 | 10.9 | 4.2 | 4.3 | 103.0 | 内・Z.5Y6.6 外・Z.5Y6.6 | 口縁部～ 底部 | 実形 | 体部外面口クロ ナテ、ヘラケズ リ、内面放射状 障文、底面ヘラ ケズリ | 典型的な甲斐型杯 より鉱物粒子が多 いが、きめ細かい 胎土 | カマド棟(南側) |
| 90図 2 | Ph-27 9 | 甲斐型杯 | (11.2) | 4.0 | (5.1) | 37.0 | 内・5Y6.6 外・5Y6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/3 | 体部外面口クロ ナテ、ヘラケズ リ、内面放射状 障文、底面ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | カマド棟(南東角) の南側壁際 |
| 90図 3 | Ph-27 1・3・5 Ph-27 一括 | 甲斐型杯 | 11.4 | 4.3 | 4.8 | 74.0 | 内・5Y6.4 外・5Y6.6 | 口縁部～ 底部 | 2/3 | 体部外面口クロ ナテ、ヘラケズ リ、内面放射状 障文、底面ヘラ ケズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居西側壁寄り |
| 90図 4 | Ph-27 4 Ph-27 一括 | 甲斐型杯 | (11.5) | 4.2 | (5.7) | 26.0 | 内・Z.5Y6.4 外・5Y6.6 | 口縁部～ 底部 | 破片 | 体部外面口クロ ナテ、ヘラケズ リ、内面放射状 障文、底面回転 糸切り後ヘラケ ズリ | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | 住居西側 体部内面に煤付着 |
| 90図 5 | Ph-27 13 Ph-27 一括 | 甲斐型皿 | (14.5) | 2.8 | (5.4) | 60.0 | 内・Z.5Y6.6 外・Z.5Y6.6 | 口縁部～ 底部 | 1/2 | 体部外面口クロ ナテ、回転ヘラ ケズリ、内面見 込みから放射状 障文、底面回転 糸切り後、削り 出し基台 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | カマド |
| 90図 6 | Ph-27 17・27 Ph-27 一括 DK-107 一括 PF-351 一括 | 甲斐型鉢 | | | 10.0 | 311.0 | 内・5Y6.6 外・5Y6.4 | 胴部～底 部 | 破片 | 体部外面口クロ ナテ、回転ヘラ ケズリ、内面見 込みから放射状 障文、底面回転 糸切り後、削り 出し基台 | 長石、石英、黒色、 赤色鉱物粒子が混 じる。きめ細かい 胎土 | カマド棟(北側)、住 居中央、DK-107、PF- 351 |
| 91図 1 | Ph-27 11・16・ 19・23・25・27・8・ 10・18・24・26 Ph-27 カマド Ph-27 一括 | 甲斐型壺 | 26.0 | | | 488.0 | 内・5Y6.4 外・5Y6.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霞石粒子が混じる。 ざらついた胎土 | カマドとカマド棟 (南側)と住居西側 壁寄り 体部内面に煤付着 |
| 91図 2 | Ph-27 11・21 Ph-27 カマド Ph-27 一括 PF-228 1 | 甲斐型壺 | 27.0 | | | 283.0 | 内・5Y6.4 外・5Y6.4 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霞石粒子が混じる。 ざらついた胎土 | カマドとカマド棟 (南側)とPF-228 |
| 91図 3 | Ph-27 12 Ph-27 カマド | 甲斐型小 壺型 | (15.0) | | | 24.0 | 内・Z.5Y6.4 外・5Y6.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向 カキメ、体部内 面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、 霞石粒子が混じる。 ざらついた胎土 | カマドとカマド棟 (南側) 体部内面に煤付着 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 土色・調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 | |
|------|------------------------|--------|---------|---------|---------|--------|------------------------|--------------------------|--------|--|---|--------------------------------|--|
| 90図1 | PH-28 一括 | 甲斐型杯 | 12.4 | 3.3 | 3.5 | 15.0 | 内: 10R6/4 外: 10R6/4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面口ロナナデ、底面回転系切り後ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | | |
| 90図2 | PH-28 一括 | 甲斐型杯 | 11.6 | | | 12.0 | 内: 5R5/6 外: 5R5/6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面口ロナナデ | 典型的な甲斐型杯より赤色鉱物粒子が多い | | |
| 90図3 | DK-72 一括 | 甲斐型黒色杯 | 14.5 | | | 8.0 | 内: 10R7/1 外: 5R4/4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面口ロナナデ | 典型的な甲斐型杯より鉱物粒子が多い、きめ細かい胎土 | DK-72 内面黒色処理 | |
| 90図4 | PH-28 1 | 甲斐型黒色杯 | | | | 6.9 | 28.0 | 内: 10R7/1 外: 10R6/4 | 胴部～底面 | 1/4 | 体部外面ヘラケズリ、内面放射状線文だが線文が赤褐色と線文の間に、底面ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | 住居南倉庫寄り 内面黒色処理 |
| 90図5 | PH-28 5・7 PH-28 カマド | 甲斐型黒色杯 | | | | 4.8 | 52.0 | 内: 10R7/1 外: 5R5/6 | 胴部～底面 | 2/3 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面放射状線文、胴部～底面見込みにかけての底面部分にては放射状線文、底面ヘラケズリ | 典型的な甲斐型杯より赤色鉱物粒子が多い、きめ細かい胎土 | 住居南倉庫寄り 内面黒色処理 |
| 90図6 | PH-28 一括 | 甲斐型杯 | | | | | 1.0 | 内: 5R5/6 外: 5R5/6 | 胴部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ、内面口ロナナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | 体部外面に遺着 |
| 90図7 | PH-28 3 PH-28 一括 | 甲斐型皿 | 12.4 | 2.9 | 3.4 | 46.0 | 内: 5R5/6 外: 5R5/6 | 口縁部～底面 | 1/2 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面口ロナナデ、底面回転系切り後ヘラケズリ | 典型的な甲斐型杯より赤色鉱物粒子が少なく、量も多い、きめ細かい胎土 | 住居南東角 体部外面に遺着 | |
| 90図8 | PH-28 14 | 甲斐型壺 | | | | 6.3 | 81.0 | 内: 7.5R3/3 外: 7.5R2/2 | 胴部～底面 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面縦方向カキメ、底面木炭痕 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、さつらつした胎土 | 住居南西内の壁際 底面に近い体部外面に、成形後に付着したと思われる半の葉風2ヶ所にあり |
| 90図9 | PH-28 25・12 | 甲斐型壺 | 27.5 | | | | 169.0 | 内: 5R4/4 外: 5R4/6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、さつらつした胎土 | カマド |
| 94図1 | PH-28 17 PH-28 カマド | 甲斐型壺 | 32.8 | | | | 152.0 | 内: 5R2/2 外: 5R2/2 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ、内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、さつらつした胎土 | 住居中央とカマド |
| 94図2 | PH-28 22 | 黒色皿 | 14.6 | | | | 26.0 | 内: 10R7/1 外: 10R6/4 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面口ロナナデ、内面ミガナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる、ややさつらつした胎土 | カマド 内面黒色処理 |
| 94図3 | PH-28 一括 | 須恵器杯 | | | | 5.6 | 27.0 | 内: 5R5/1 外: 5R5/1 | 胴部～底面 | 破片 | 内外面口ロナナデ、底面回転系切り痕 | 白色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | 見込みが平滑に磨耗 |
| 94図4 | PH-28 10 | 須恵器杯 | | | | 5.1 | 52.0 | 内: 5R5/1 外: 5R5/1 | 底面 | 破片 | 内外面口ロナナデ、底面回転系切り痕 | 白色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | 住居北西角の北側壁寄り |
| 94図5 | PH-28 一括 | 須恵器杯 | 15.0 | | | | 9.0 | 内: 5R7/1 外: 5R7/1 | 口縁部～胴部 | 破片 | 内外面口ロナナデ | 鉱物粒子が多く混じり、多孔質、軟質の胎土 | |
| 94図6 | PH-28 一括 | 須恵器蓋 | 13.4 | | | | 19.0 | 内: 10R7/1 外: 10R6/2 | - | 破片 | 内外面口ロナナデ | 白色鉱物粒子が混じる、きめ細かい胎土 | |
| 94図7 | PH-28 一括 | 灰釉埴 | | | | 6.4 | 21.0 | 内: 10R7/1 外: 10R6/2 | 胴部～底面 | 破片 | 内外面口ロナナデ、付け高台 | 白色鉱物粒子が混じる、非常にきめ細かい胎土 | |
| 95図1 | PH-28 1 | 甲斐型杯 | 11.9 | 3.8 | 5.6 | 31.0 | 内: 5R5/6 外: 5R5/6 | 口縁部～底面 | 破片 | 体部外面口ロナナデ、ヘラケズリ、内面放射状線文、底面回転系切り後、ヘラケズリ | 典型的な甲斐型杯よりボロボロした感じ | 硬化面 | |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|---------|---------------------|--------|---------|---------|---------|--------|------------------------|-----------|-----|--|----------------------------------|-------------------------------|
| 98 図 1 | PF-204 一括 | 甲斐型埴 | | | | 1.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 胴部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-204 体部外面に墨書有り |
| 98 図 2 | PF-204.1 | 須恵器蓋 | | | | 29.0 | 内・7.S95.1 外・7.S95.1 | - | 破片 | 内外面ロクロナデ。外面上端は面取ヘラケズリ | 白色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-204 |
| 99 図 1 | PF-196 一括 | 甲斐型埴 | | | 5.4 | 16.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ。面取ヘラケズリ。内面見込みから放射状縞文。底面回転ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-196 |
| 11 図 1 | PF-417 一括 | 甲斐型埴 | 12.0 | | | 6.0 | 内・S96.6 外・S96.6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ。ヘラケズリ。内面放射状縞文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-417 |
| 11 図 2 | PF-463 一括 | 甲斐型黒色埴 | 13.6 | | | 10.0 | 内・S92.1 外・7.S96.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ。ヘラケズリ。内面放射状縞文だが縞文を縞文と縞文の間に挟む | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-463 内面黒色処理 |
| 12 図 1 | DK-158 一括 | 甲斐型埴 | 15.0 | | | 7.0 | 内・2.S95.6 外・2.S95.6 | 口縁部～胴部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ。内面放射状縞文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | DK-158 |
| 14 図 1 | PF-472 一括 | 黒色埴 | | | 7.0 | 19.0 | 内・R0.0 外・7.S96.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ。内面ミガキ。底面ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。ややざらつた胎土 | PF-472 内面黒色処理 体部外面に墨書 |
| 106 図 1 | PF-21 一括 | 黒色埴 | | | | 6.0 | 内・2.S95.6 外・2.S95.6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ。内面ミガキ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。ややざらつた胎土 | PF-21 |
| 106 図 2 | PF-21 一括 | 反輪埴 | | | | 3.0 | 内・S92.1 外・S92.1 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色鉱物粒子が混入する。程度できめ細かい胎土 | PF-21 |
| 106 図 3 | PF-21 一括 | 須恵器蓋 | 17.2 | | | 7.0 | 内・S92.1 外・S94.1 | - | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-21 |
| 106 図 4 | PF-21 一括 | 武藏型埴 | | | 5.5 | 163.0 | 内・7.S95.4 外・7.S95.4 | 口縁部、胴部、底部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ。内面ロクロナデの痕跡かまでなでている。底面ヘラケズリ | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子。霏母粒子が混入する。ざらつた胎土 | PF-21 |
| 107 図 1 | PF-369 一括 | 甲斐型埴 | 11.0 | | | 4.0 | 内・7.S96.6 外・7.S96.6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ。ヘラケズリ。内面ロクロナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-369 |
| 107 図 2 | PF-321 一括 | 須恵器埴 | 14.2 | | | 5.0 | 内・S95.1 外・S95.1 | 口縁部 | 破片 | 内外面ロクロナデ | 白色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-321 |
| 111 図 1 | PF-29 一括 | 甲斐型埴 | | | 9.0 | 34.0 | 内・S92.2 外・7.S92.2 | 底部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ。体部内面縦方向カキメ。底面木炭痕 | 長石、石英、黒色、霏母粒子が混入する。ざらつた胎土 | PF-29 |
| 111 図 2 | IG-6 | 甲斐型埴 | | | 3.0 | 46.0 | 内・2.S95.6 外・S95.6 | 胴部～底部 | 破片 | 体部外面ヘラケズリ。内面ロクロナデ。底面ヘラケズリ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-33 内 9D-33 の柱穴) 体部外面に墨書 |
| 111 図 3 | PF-92.1 | 甲斐型埴 | 22.8 | | | 56.0 | 内・S92.4 外・S92.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ。体部内面縦方向カキメ | 長石、石英、黒色、霏母粒子が混入する。ざらつた胎土 | PF-92 |
| 116 図 1 | Ph-2 床下 Ph-18 一括 | 須恵器埴 | | | 7.0 | 26.0 | 内・2.S97.2 外・2.S97.2 | 胴部～底部 | 破片 | 内外面ロクロナデ。底面回転糸切り痕 | 鉱物粒子多くざらつく | Ph-2 床下、Ph-18 |
| 119 図 1 | PF-125 一括 | 甲斐型埴 | 12.0 | | | 3.0 | 内・S95.6 外・S95.6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面ロクロナデ。ヘラケズリ。内面放射状縞文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混入する。きめ細かい胎土 | PF-125 |
| 119 図 2 | PF-123 一括 | 甲斐型埴 | | | | 24.0 | 内・7.S92.2 外・7.S92.2 | 胴部 | 破片 | 体部外面縦方向カキメ。内面は強い斜向かまでなでている | 長石、石英、黒色、霏母粒子が混入する。ざらつた胎土 | PF-123 |

第 3 表 土器観察表

| 図版 番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 高さ (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|------------|---|------------|------------|------------|------------|-----------|----------------------------------|------------|-----|--|--|-----------------------|
| 119図 3 | PT-124 一括 | 甲斐型壺 | | | | 8.0 | 内: 596/6 外: 596/6 | 口縁部 | 破片 | 体部外面口クロナナ子、内面縁方 向カキメ | 長石、石英、黒色、 霰母粒子が混じる、 さらついた胎土 | PT-124 |
| 119図 4 | PT-125 一括 | 甲斐型壺 | | | | 49.0 | 内: 7.596/4 外: 7.596/4 | 底部 | 破片 | 底部木炭痕 | 典型的な甲斐型壺 より胎土粒子が少な く霰母粒子は含ま ない | PT-125 |
| 119図 5 | PT-125 一括 | 黒色坏 | | | | 16.0 | 内: 40/0 外: 7.596/6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ子、内面ミガ キ | 長石、石英、黒色 胎土粒子が混じる、 ややさらついた胎 土 | PT-125 内面黒色処理 |
| 119図 6 | PT-125 一括 | 黒色坏 | | | 5.6 | 18.0 | 内: 40/0 外: 7.596/6 | 底部 | 破片 | 体部外面口クロ ナナ子、内面ミガ キ、底面縁部未 切り痕 | 石英、赤色、白色、 黒色胎土粒子が混 じる、ややさらつ いた胎土 | PT-125 |
| 119図 7 | PT-123 一括 | 口クロ壺2 期 | | | 5.0 | 20.0 | 内: 7.596/6 外: 7.596/4 | 底部 | 破片 | 体部外面は鑿状 工具で残っている。 内面口クロナ ナナ子、底面縁部 系切り痕 | 石英、黒色、白色、 赤色胎土粒子が混 じる、ややさらつ いた胎土 | PT-123 |
| 119図 8 | PT-125 一括 | 灰釉壺 | 12.4 | | | 5.0 | 内: 597/1 外: 597/3 | 口縁部 | 破片 | 口クロ成形 | 白色胎土粒子が混 じる、底面できめ 細かい胎土 | PT-125 |
| 121図 1 | 内4 1口 | かわらけ | 11.4 | 2.2 | 5.5 | 73.0 | 内: 7.596/4 外: 7.596/4 | 口縁部一 底部 | 1/2 | 内外面口クロナ ナナ子、底面縁部 未切り痕 | 赤色胎土粒子が混 じる、きめ細かい 胎土 | 1号溝出土 |
| 121図 2 | 取-1 1・7・17 取-1 一括 内-22 2 内-22 一括 | 土師貫貫 | | | 16.6 | 331.0 | 内: 596/4 外: 7.596/6 1096/1 | 胴部一底 部 | 破片 | 体部外面ヘナナ 子、内面ナナ子、 底部ナナ子 | 石英、黒色、白色、 赤色胎土粒子が混 じる。 | 1号溝、22号住居 |
| 123図 1 | 19-35 | 深鉢 | | | | 37.0 | 内: 596/6 外: 596/6 | 胴部 | 破片 | 平行沈線の間に 矢羽状沈線、粘 土粒を指文捺付 痕、内面ミガキ | 石英、黒色、白色、 赤色胎土粒子が混 じる。 | 跡継C式 |
| 123図 2 | 遺跡一括 | 深鉢 | | | | 28.0 | 内: 596/4 外: 596/6 | 胴部 | 破片 | 平行沈線、同じ 沈線で押押しの 文様、内面ミガ キ | 石英、黒色、白色、 赤色胎土粒子が混 じる。 | 跡継C式 |
| 123図 3 | 遺跡一括 | 深鉢 | | | | 73.0 | 内: 596/6 外: 596/6 | 口縁部 | 破片 | 集合沈線、口縁 は無文部二本 沈線が走る、内 面ミガキ | 石英、黒色、白色 胎土粒子が混じる、 さらついた胎土 | 5号ヶ台式 |
| 123図 4 | 19-30 | 深鉢 | | | | 32.0 | 内: 7.596/4 外: 7.596/4 | 胴部 | 破片 | 結節文、手載 竹管状工具によ る扇形状の沈線 | 石英、黒色、白色 胎土粒子、霰母粒 子が混じる、さら ついた胎土 | 5号ヶ台式 |
| 123図 5 | 107-1 墓地 | 深鉢 | | | | 21.0 | 内: 596/4 外: 596/4 | 胴部 | 破片 | 縄文、沈線、内 面ミガキ | 石英、黒色胎土粒 子、霰母粒子が混 じる、さらついた 胎土 | 5号ヶ台式 |
| 123図 6 | 19-13 | 深鉢 | | | | 24.0 | 内: 1097/1 外: 7.596/6 | 胴部 | 破片 | 押印区画文内に 沈線、内面ミガ キ | 石英、黒色、灰色、 白色、赤色胎土粒 子が混じる、やや きめ細かい胎土 | 内面は黒色化してい る 溝内式 |
| 123図 7 | 遺跡一括 | 深鉢 | | | | 35.0 | 内: 1096/3 外: 7.596/4 | 胴部 | 破片 | 磨面状工具によ る条痕文、内面 ミガキ | 石英、黒色、白色 胎土粒子が混じる、 さらついた胎土 | 替利V式 |
| 123図 8 | 堀 19-33 遺跡一括 | 深鉢 | | | | 67.0 | 内: 7.596/6 外: 7.596/4 | 口縁部、 胴部 | 破片 | 沈線と沈線の間 に縄文を施して いる、内面ミガ キ | 石英、黒色、白色、 赤色胎土粒子が混 じる。 | 称名寺式 |
| 123図 9 | 19-25 19-46 | 深鉢 | | | | 103.0 | 内: 596/6 外: 596/4 | 口縁部 | 破片 | 沈線、捺痕、縄文、 内面ミガキ | 石英、安山岩、黒色、 白色、赤色胎土粒 子が混じる。 | 堀之内1式 |
| 123図 10 | 取-2 2 | 深鉢 | | | | 56.0 | 内: 1097/3 外: 1097/3 | 胴部 | 破片 | | 石英、黒色、白色、 赤色胎土粒子が混 じる。 | 堀之内1式 |
| 123図 11 | 19-65 | 深鉢 | | | | 79.0 | 内: 596/6 外: 7.596/6 | 胴部 | 破片 | 磨面状工具によ るS字状の条痕 文、捺文、内 面ミガキ | 石英、黒色、灰色、 白色、赤色胎土粒 子が混じる。 | 堀之内1式 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 注記 | 器種 | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 底径 (cm) | 重量 (g) | 胎土色調 | 部位 | 残存度 | 調整 | 胎土 | 出土位置等 |
|----------|---|------|---------|---------|---------|--------|------------------------|------------|-----|--|----------------------------------|--------------------------------|
| 123 図 12 | 10-70 | 深鉢 | | | | 52.0 | 内・10R6.3 外・7.5R6.6 | 胴部 | 破片 | 横一列の刺突文。三本の文線が縦方向と斜め方向に走る。内面ミガキ | 石英、黒色、白色、灰色、赤色鉱物粒子が混じる。ややきめ細かい胎土 | 堀之内1式 |
| 123 図 13 | 通跡一拵 | 深鉢 | | | | 116.0 | 内・7.5R6.4 外・7.5R6.4 | 胴部 | 破片 | 沈線内縁文。刺突文。内面ミガキ | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 堀之内1式 |
| 124 図 1 | Ph-2 直下 Ph-2 体部 Ph-2 一拵 Ph-18 一拵 Ph-26 一拵 | 深鉢 | | | | 189.0 | 内・7.5R6.6 外・7.5R6.6 | 縁部、胴部 | 破片 | 無彫縁文。沈線、肩部刻み。矢羽状沈線。内面ミガキ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。 | 2号住居直下・体部、18号住居、26号住居 加吉利B式 |
| 124 図 2 | Ph-27 一拵 | 深鉢 | | | | 16.0 | 内・10R6.4 外・7.5R6.4 | 縁部 | 破片 | 外面に沈線。内外面ミガキ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。 | 加吉利B式 |
| 124 図 3 | 10-60 | 深鉢 | | | | 24.0 | 内・5R6.6 外・7.5R6.4 | 胴部 | 破片 | 一本の縦方向の沈線と沈線による斜線文。内面ミガキ | 石英、黒色、白色、灰色、赤色鉱物粒子が混じる。ややきめ細かい胎土 | 加吉利B式 |
| 124 図 4 | Ph-26 一拵 | 深鉢 | | | | 34.0 | 内・7.5R6.4 外・7.5R6.4 | 口縁部 | 破片 | 体部外面の口縁直下。断面が三角形の縁線が4本あり、その下は平らなものでなっている。内面は後方向ナデミガキ | 石英、黒色、白色、赤色鉱物粒子が混じる。 | A7種実在品あり 水1式 |
| 127 図 1 | 通跡一拵 | 深鉢 | | | | 76.0 | 内・7.5R6.3 外・7.5R6.4 | 口縁部～ 縁部 | 破片 | 口縁部の凸部は削がれている。内外面磨石工具による条線 | 黒色、白色、灰色、赤色鉱物粒子が混じる。 | 弥生前期 |
| 127 図 2 | Mc-2 1 | 甲斐型杯 | (11.6) | | | 12.0 | 内・5R6.6 外・5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナデ、ヘアケズリ。内面放射状縞文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 127 図 3 | Mc-1 | 甲斐型杯 | | | | 8.0 | 内・5R6.6 外・5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 内外面口ロナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 127 図 4 | 通跡一拵 | 甲斐型杯 | | | | 3.0 | 内・5R6.6 外・5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナデ、ヘアケズリ。内面巻状縞文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 127 図 5 | 通跡一拵 | 甲斐型杯 | | | | 6.0 | 内・5R6.6 外・5R6.6 | 口縁部～ 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナデ、ヘアケズリ。内面放射状縞文 | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 127 図 6 | 通跡一拵 | 甲斐型杯 | | | | 3.0 | 内・2.5R6.6 外・2.5R6.6 | 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナデ、ヘアケズリ。内面口ロナデ | 典型的な甲斐型杯より赤色鉱物粒子が多い | 体部外面に塗着 |
| 127 図 7 | Mc-1 | 甲斐型杯 | | | | 3.0 | 内・7.5R6.4 外・7.5R6.4 | 胴部 | 破片 | 体部外面口ロナデ、ヘアケズリ。内面口ロナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 127 図 8 | Mc-1 | 甲斐型杯 | | | | 2.0 | 内・7.5R6.4 外・7.5R6.4 | 胴部 | 破片 | 体部外面ヘアケズリ。内面口ロナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 127 図 9 | Mc-1 | 甲斐型杯 | | | | 2.0 | 内・5R6.6 外・5R6.6 | 胴部 | 破片 | 内外面口ロナデ | 長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。きめ細かい胎土 | 体部外面に塗着 |
| 127 図 10 | 10-54 | 黒色杯 | | | (5.7) | 36.0 | 内・10.5.0 外・10R7.4 | 胴部～ 底部 | 破片 | 体部外面口ロナデ。内面ミガキ。底面磨石痕切り痕 | 長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 内面黒色処理 |
| 127 図 11 | 10-34 | 黒色杯 | | | | 12.0 | 内・10.5.0 外・7.5R6.4 | 胴部～ 底部 | 破片 | 体部外面口ロナデ。内面ミガキ。底面磨石痕切り痕 | 長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。ややざらついた胎土 | 底面に塗着 内面黒色処理 |

第3表 土器観察表

| 図版番号 | 所属遺構 | 注記 | 器種 | 石材 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) |
|----------|------|------------------------------|---------|-----------|---------|--------|---------|---------|
| 29 図 9 | PH5 | PH-5 一括 | 砥石 | 凝灰質流紋岩 | 4.5 | 3.8 | 0.9 | 26.0 |
| 34 図 2 | PH6 | PH-6 15 | 砥石 (荒砥) | 安山岩 | 23.6 | 10.3 | 5.7 | 3215.0 |
| 52 図 11 | PH13 | PH-13 10 | 砥石 | 花崗岩質アブライト | 12.3 | 4.4 | 3.0 | 507.0 |
| 59 図 2 | PH14 | PH-14 40 | 砥石 | 花崗岩質アブライト | 39.7 | 21.0 | 15.7 | 22500.0 |
| 75 図 5 | PH18 | PH-18 | 砥石 | 凝灰質流紋岩 | 7.7 | 2.9 | 2.8 | 65.0 |
| 82 図 7 | PH20 | PH-20 一括 | 砥石 | 花崗岩質アブライト | 6.0 | 3.7 | 1.9 | 86.0 |
| 124 図 5 | IG | IG-14 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.8 | 1.6 | 0.3 | 1.4 |
| 124 図 6 | IG | IG-47 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.5 | 1.4 | 0.3 | 0.9 |
| 124 図 7 | IG | H26 年度試掘 5-014-2014 TR-24 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.1 | 1.5 | 0.2 | 1.0 |
| 124 図 8 | IG | MZ-1 | 局部磨製石鏃 | 黒曜石 | 3.2 | 1.3 | 0.3 | 1.1 |
| 124 図 9 | IG | IG-53 | 有茎鏃 | 黒曜石 | 1.9 | 1.2 | 0.2 | 0.4 |
| 124 図 10 | IG | PH-22 1 | 磨製石斧 | 蛇紋岩 | 6.6 | 3.4 | 1.3 | 52.0 |
| 124 図 11 | IG | H26 年度試掘 5-014-2014 TR-14 | 磨製石斧 | 緑色岩 | 18.7 | 5.7 | 3.5 | 754.0 |
| 125 図 1 | IG | PH-5 1 | 打製石斧 | 頁岩 | 10.7 | 5.6 | 2.0 | 104.0 |
| 125 図 2 | IG | PH-18 1 | 打製石斧 | 粘板岩 | 8.8 | 3.3 | 1.6 | 62.0 |
| 125 図 3 | IG | IG-62 | 打製石斧 | 泥岩ホルンフェルス | 11.6 | 4.1 | 1.0 | 87.0 |
| 125 図 4 | IG | H26 年度試掘 5-014-2014 TR-75 | 打製石斧 | 結晶片岩 | 12.0 | 5.2 | 1.4 | 157.0 |
| 125 図 5 | IG | H26 年度試掘 5-014-2014 TR-75 | 打製石斧 | 結晶片岩 | 11.6 | 5.0 | 1.7 | 146.0 |
| 125 図 6 | IG | MZ-1 18 | 打製石斧 | 粘板岩 | 9.7 | 4.2 | 1.3 | 78.0 |
| 125 図 7 | IG | PH-20 3 | 石匙 | 濃緑灰色粘板岩 | 4.9 | 7.2 | 1.0 | 35.0 |
| 126 図 1 | IG | 遺跡一括 未注記 (PH-5・PH-6 南側) | 石皿 | 安山岩 | 16.1 | 13.5 | 6.9 | 1890.0 |
| 126 図 2 | IG | PH-3 | 磨石類 | 安山岩 | 11.6 | 7.8 | 4.4 | 454.0 |
| 126 図 3 | IG | PH-13 1 | 磨石類 | 安山岩 | 11.0 | 10.0 | 6.1 | 1055.0 |
| 126 図 4 | IG | PH-28 15 | 磨石類 | 安山岩 | 10.4 | 10.4 | 3.0 | 472.0 |
| 127 図 12 | IG | IG-18 | 砥石 | 凝灰質流紋岩 | 5.6 | 2.0 | 1.5 | 46.0 |

第 4 表 石器観察表

| 図版番号 | 所属遺構 | 注記 | 器種 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) |
|----------|------|-----------|----------|---------|--------|---------|--------|
| 14 図 8 | PH2 | PT-52 1 | 刀子 | 6.7 | 1.4 | 0.5 | 12.0 |
| 34 図 1 | PH6 | PH-6 2 | 刀子か? | 2.8 | 1.4 | 0.2 | 2.0 |
| 59 図 3 | PH14 | PH-14 1 | 刀子 | 10.5 | 1.4 | 0.4 | 9.0 |
| 59 図 4 | PH14 | PH-14 41 | 刀子 | 9.0 | 1.3 | 0.5 | 10.0 |
| 66 図 10 | PH15 | PH-15 47 | 釘か? | 4.3 | 0.7 | 0.5 | 4.0 |
| 75 図 6 | PH18 | PH-18 9 | 手斧 | 9.2 | 3.9 | 2.8 | 164.0 |
| 78 図 9 | PH19 | PH-19 1・9 | 刀子 | 12.6 | 1.1 | 0.5 | 19.0 |
| 82 図 8 | PH20 | PH-20 2 | 釘の先端か? | 1.7 | 0.3 | 0.3 | 0.3 |
| 82 図 9 | PH20 | PH-20 1 | 釘か? | 3.4 | 0.6 | 0.5 | 3.0 |
| 82 図 10 | PH20 | PH-20 1 | 釘か? | 6.7 | 6.6 | 0.6 | 0.5 |
| 82 図 11 | PH20 | PH-20 29 | 平引金具 | 8.3 | 2.2 | 0.3 | 12.0 |
| 82 図 12 | PH20 | PH-20 6 | 鏃 | 8.9 | 3.9 | 0.4 | 16.0 |
| 82 図 13 | PH20 | PH-20 7 | 鏃 | 10.2 | 4.8 | 0.5 | 25.0 |
| 88 図 10 | PH24 | PH-24 13 | 鉄鍋? | 3.6 | 2.8 | 0.5 | 11.0 |
| 88 図 11 | PH24 | PH-24 11 | 不明 | 3.4 | 1.1 | 0.8 | 8.0 |
| 88 図 12 | PH24 | PH-24 6 | 刀子? | 3.7 | 3.0 | 0.3 | 9.0 |
| 88 図 13 | PH24 | PH-24 17 | 釘 | 2.4 | 1.4 | 0.6 | 6.0 |
| 88 図 14 | PH24 | PH-24 17 | 釘か? | 2.0 | 2.0 | 0.7 | 8.0 |
| 88 図 15 | PH24 | PH-24 20 | 鉄鍋? | 4.8 | 3.7 | 0.6 | 26.0 |
| 88 図 16 | PH24 | PH-24 21 | 小尻 (刀道具) | 4.7 | 3.2 | 2.6 | 27.0 |
| 88 図 17 | PH24 | PH-24 36 | 刀子 | 15.7 | 1.4 | 0.5 | 24.0 |
| 88 図 18 | PH24 | PH-24 5 | 鉄滓 | 7.5 | 5.3 | 2.3 | 150.0 |
| 88 図 19 | PH24 | PH-24 51 | 鉄滓 | 8.8 | 5.5 | 2.0 | 279.0 |
| 88 図 20 | PH24 | PH-24 1 | 鉄滓 | 10.1 | 9.1 | 2.5 | 338.0 |
| 127 図 13 | MZ6 | MZ-6 一括 | 不明 | 3.0 | 2.5 | 0.4 | 5.0 |
| 127 図 14 | MZ1 | MZ-1 10 | 刀子か? | 5.8 | 1.8 | 0.4 | 11.0 |

第 5 表 金属製品一覧表

第5章 調査の成果と総括

寺所遺跡は、9世紀第2四半期に集落経営が始まり、10世紀第3四半期をもって廃絶する。第128図に第1次調査から第3次調査までの遺構配置図を示す。本書で報告した3次調査地点で9世紀第2四半期と9世紀第3四半期の住居、掘立柱建物跡が多いのに対し、1次調査、2次調査地点では、9世紀第4四半期から10世紀第3四半期までが主体となり、遺跡全体の継続期間の前半と後半とで、集落の占地が南に移動したことがうかがえる。

3次調査地点と1次調査地点の間には、遺構が分布しない空白域が認められる。両者を分析する微地形は認められず、この区域が耕作等で特に擾乱、削平された様子もない。空白域の南北には、各時期の遺構が多寡はあれ併存していることから、空白域が何らかの意味をもったと推測されるが、それを考察し得る調査所見は得られなかった。

3次調査では、多数の掘立柱建物跡が検出された。1次調査でも3棟の建物が検出されているが、数量の差は歴然としている。3次調査区では中世段階の遺構、遺物が検出されたことから、掘立柱建物跡の一部は中世の所産とみることができるが、出土遺物のみを限り、多くが平安時代集落に帰属するものと想定される。この掘立柱建物跡の多さは、「普遍的に掘立柱建物址を伴出する」と評される(萩原1986)八ヶ岳南麓遺跡のなかでも際立っている。あいにく寺所遺跡の掘立柱建物跡では、建物の機能をうかがう資料が得られていない。15号掘立柱建物跡、16号掘立柱建物跡は、大型住居に近接して立地し、正倉的な印象を与えるものの、規模、構造も多様であることから、全てが同一の役割を担った建物ではなかろう。茅ヶ岳西麓の梅の木遺跡と上原遺跡は、後院牧「小笠原牧」経営に関った集落と評価され(佐野2003)、両遺跡では多数の掘立柱建物跡が検出されている。

15号住居で出土した「大伴万呂」墨書、24号住居で出土した刀鞘筋も特筆すべき遺物である。15号住居は、9世紀第2四半期の寺所遺跡で最大規模の住居跡である。大伴氏は寺本庵寺に係った有力豪族とされるが(猪股2004)、この墨書が古代有力豪族につながるものか不明である。

最後に、八ヶ岳南麓開発の初期段階における寺所遺跡の位置づけを考察し、総括としたい。

寺所遺跡が所在する長坂町大八田から大泉町谷戸にかけての一带は、中世に「大八幡荘」とも呼ばれ、史跡谷戸城跡は甲斐源氏の一族逸見氏の拠点とされる。南北朝には、足利直義安堵状に地頭職二階堂政頼の名がみえるなど、八ヶ岳南麓開発の拠点的地域であった。大八田の開発は、10世紀代の柳坪遺跡で「名田」、「保」、寺所遺跡第2次調査で「政所」、寺所第2遺跡で「政所」、「倉」の墨書がみえることから、平安時代後期には荘園化、私領化が進行して、中世開発の基盤が確立されていたと考えられる。泉川、鳩川の沖積作用により広く平坦な地勢が形成された大八田一帯は、平安時代においても開発拠点であったとみてよい。

県営土地改良事業に伴う発掘調査がさかんに行われるようになった1980年代以降、八ヶ岳南麓では、9世紀前半期に平安時代遺跡が一斉に出現する様相が明らかになり、公的権力あるいは在地有力者による「計画村落」形成が認められると評価され、その背景に墾田開発、牧開発(萩原1986)、あるいは承和二年(835)に葛原親王が与えられた「巨麻郡馬相野空野地五百町」を契機とした「へみの御牧」の開発(萩田2003)が想定された。

第130図に、9世紀第2四半期以前の堅穴住居が確認された遺跡を示した。奈良時代に条里制が施行された葦崎市藤井町一帯の堀川低地から北に連なる地点には、古墳時代後期から奈良・平安時代に継続する腰巻遺跡、8世紀代の土師器が出土した大豆生田遺跡が所在し、釜無川右岸には、一体の集落跡とみられる宮間田遺跡と御崎遺跡がある。これらの遺跡は、八ヶ岳南麓開発とは異なる背景をもとに成立、経営された集落の遺跡と目される。一方、八ヶ岳南麓には、8世紀代に遡る遺跡は確認されず、9世紀第2四半期に少数の遺跡が出現する。この段階の遺跡分布は、八ヶ岳南麓開発が南から北へ波紋のように徐々に広がっていったのではなく、南麓の東西でそれぞれに集団が、中継拠点を築きつつ北上し、南麓奥の開発適地に到達していた様相を示している。

八ヶ岳南麓東端の遺跡分布は、須玉川右岸に沿って腰巻遺跡の先に宮田・笠置遺跡、川又坂上遺跡、社口遺跡、青木北遺跡、東久保遺跡へと連なる。須玉川右岸の平坦な河岸段丘は通行に便利で、八ヶ岳南麓(地元では「台上」と呼び習わす)の東端には、須玉川の浸食により急崖地形が形成されているが、段丘面から台上に上がる古道がいくつも知られていて、交通の障壁はなっていない。これを須玉川ルートと呼んでおく。

須玉川ルートの終点にある社口遺跡、青木北遺跡、東久保遺跡は、個別に遺跡名が付けられているが、一体の集落である。東久保遺跡は、精錬鍛冶、鍛錬鍛冶に伴う130kgもの鉄滓が出土し、鍛冶遺構、掘立柱建物跡7棟が発見されている。当地域の一般的な平安時代集落遺跡ではみられない鍛冶関連遺構と遺物であり、特別な役割を担った集落であったと目される。

須玉川段丘ルートに沿った9世紀第2四半期から第3四半期の遺跡では、遠江型土師器が出土する(保坂2002)。須玉川河岸段丘上の宮田・笠浜遺跡、蟹坂遺跡、飯米遺跡、夏目原遺跡、西川遺跡に加え、ルート最終地点の東久保遺跡と社口遺跡でも確認されている。一方、南麓西側に分布する遺跡では、これまでのところ遠江型土師器は知られていないことから、2つの開発ルートをたどったのは、異なる系譜の集団であった可能性も示唆される。

八ヶ岳南麓西側に目を転じると、湯沢遺跡、大小久保遺跡、原町農業高校前遺跡、原町下原遺跡が連なっており分布する。原町農業高校前遺跡の地点で、鳩川は支流宮川と分岐し、宮川上流には蟻塚遺跡、鳩川(泉川)上流を遡ると大八田南端で柳坪南遺跡、柳坪遺跡、小屋敷遺跡、北端で寺所遺跡につながる進出ルートが浮かび上がる。これを鳩川ルートとする。

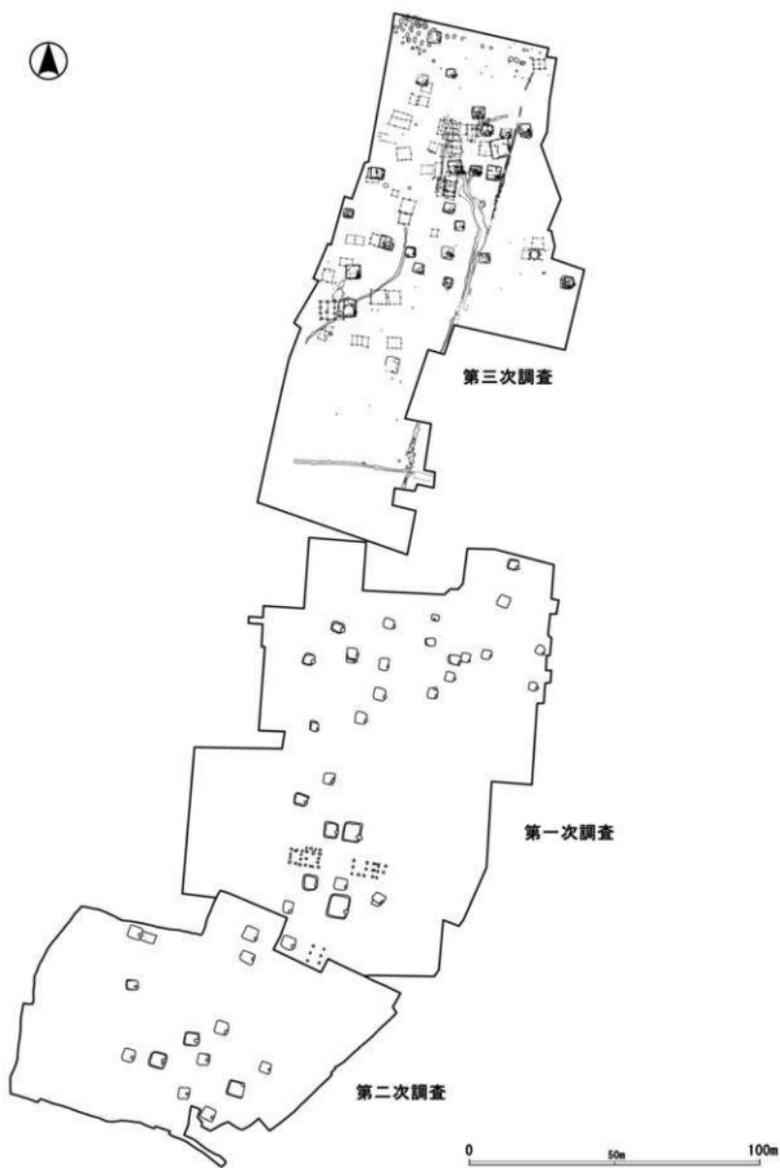
湯沢遺跡は9世紀第3四半期段階で大型掘立柱建物跡と柵列が登場し、官衙的な様相を帯びるとされ、大小久保遺跡は瓦、在地的な須恵器、土師器生産が行われた遺跡で、東久保遺跡と同様、特別な役割を帯びた集落であったことがうかがえる。柳坪南遺跡、柳坪遺跡、小屋敷遺跡がある地点は、現在も大八田の中心で、緩やかに南に傾斜する平坦な地形が広がる。南北朝期に二階堂政頼が地頭職を安堵された上大八田村、下大八田村、夏焼村はこの辺りに比定されると思われる。寺所遺跡はさらに南麓を北上し、大八田の平坦な地形の北端にあたる地点に位置する。南麓開発の最前線の拠点と位置づけられよう。

鳩川ルートは、古墳時代から集落遺跡が点在し、後期古墳が築造された地域をたどっており、開発ルートとして理解しやすい。しかし、八ヶ岳南麓の中央を西川に沿って北上するルートにも、同様に古墳時代以来の集落遺跡が点在しているにもかかわらず、西川を遡上するルートには9世紀第2四半期の遺跡が分布していない。今後、西川沿いに遺跡が確認される可能性はあるものの、須玉川ルートと鳩川ルートの二つの経路は、開発集団があえて東西に分かれて、南麓に進出した印象を抱かせる。遠江型土師器の分布、大伴氏のかかわり、国司勢力と巨麻郡司との関係など想像が膨らむが、ここで論じるには大きすぎる課題である。

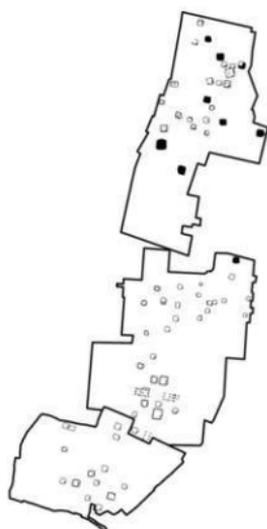
9世紀第3四半期になると集落数は急増し、一遺跡あたりの住居数も増加する。9世紀第2四半期段階の集落周辺はもとより、第130図で広く空白になっている領域にも、雨後の筍のように集落が形成される。各時期ごとの遺跡の詳細をさらに検討することで、八ヶ岳南麓開発の実態に迫ることができると期待されるが、本報告の総括を超えるため後日に期したい。

引用文献

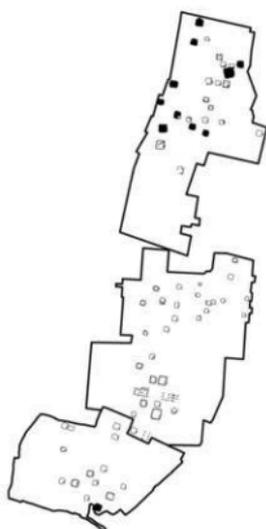
- 秋山 敬 2003 『甲斐の狂園』甲斐新書刊行会
佐野 隆 2008 「小笠原牧の考古学」入間田宜夫・谷口一夫編『牧の考古学』高志書院
萩原三雄 1986 「八ヶ岳南麓における平安集落の展開」『山梨考古学論集』I 山梨県考古学協会
保坂康夫 2003 「律令制展開期の生活の変化」『須玉町史通史編第1巻第1編原始・古代』須玉町
猪股喜彦 2004 「国府と甲斐国分寺」『山梨県史通史編1 原始・古代』山梨県



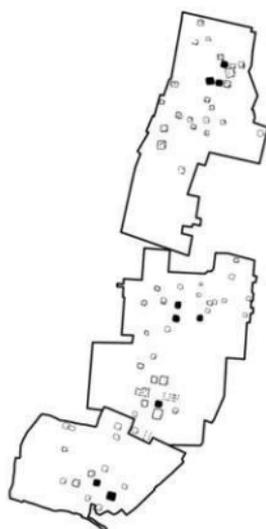
第 128 図 1 次～3 次調査全体図



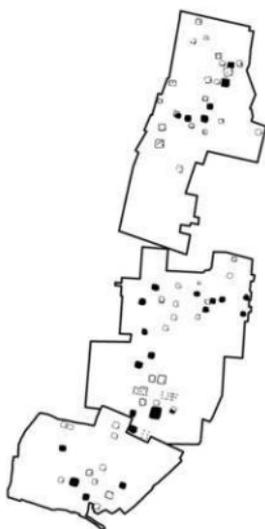
9世紀第2四半期



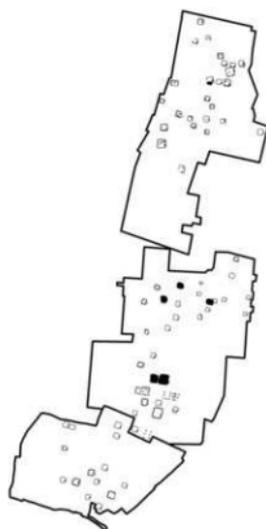
9世紀第3四半期



9世紀第4四半期～
10世紀第1四半期



10世紀第2四半期



10世紀第3四半期

第 129 図 時期毎の住居



1号住居

完掘時に西から撮影。
画面左側と下側で近世の墓坑に切られる。



1号住居カマド

検出時点でカマド袖石は抜き取られていた。
写真中央の立石はカマド底面に埋設されておらず、支脚石が不明である。



2号住居

完掘時に西から撮影。
写真左側の2基の土坑は、床面を切って掘り込まれた新しい遺構である。
写真右下の27号土坑は、本住居に付属する施設と思われる。

2号住居カマド

カマド検出時の状況。
袖石などは抜き取られ、灰白色粘土、
小礫、土師器破片が検出され、カマ
ド底の焼土面が確認された。



2号住居

床面下の掘り方を完了した状況を西
側から撮影。
柱穴のようなビットが目立つが、本
住居の柱穴と判断できず、これらの
ビットで構成される掘立柱建物も検
出されなかった。



3号住居

埋土発掘後に西側から撮影。
写真右斜上の黄色部は、本住居と重
複する 23号住居。
住居中央やや左側の黒色部は、炭化
材が集中した箇所、床面が被熱焼
土化していた。





3号住居カマド

カマド埋土を発掘した時点の状況。
カマド内で出土した扁平礫はカマド
天井を構成した礫と思われる。
カマド奥壁にトレンチを発掘した
が、煙道は確認されなかった。



3号住居カマド

袖石を残した時点で撮影。
支脚石は出土しなかった。



3号住居

床面で確認された周溝、土坑を発掘
した時点で撮影。
カマド右側の46号土坑は、カマドに
付属する貯蔵穴などの施設と思われる。
柱穴は検出されなかった。

23号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。
本住居は写真下方の3号住居に切られ、
東壁から南壁が残るのみであった。



23号住居カマド

カマドは原形をとどめない状況で検
出された。3号住居東壁から離れた袖
石も失われていたことから、本住居
の廃絶時に破壊されたと推測される。



4号住居

埋土発掘後に西側から撮影。
写真右斜上の黄色部は本住居より新
しい1号溝で、住居右上から中央に
かけての礎集積も1号溝埋土に含ま
れるものである。
本住居を発掘した時点では1号溝と
の重複関係が把握できず、溝跡埋土
と住居埋土を一括して発掘してし
まったが、土層断面観察と、礫に混
じって出土した中世のかわらけから、
1号溝が新しいことが確認された。





4号住居カマド

カマドは袖石の一部と中央の支脚石が残り、壁には煙道と思われる掘り込みが検出された。



4号住居・29号住居

床面で検出された周溝を発掘した時点で撮影。

写真右側の住居南壁が一部、突出し、床面には小さな穴が連続して検出された。発掘時には気づかなかったが、この突出部は29号住居の南壁であり、小さな穴の連続はその周溝である。出土遺物に明らかな時期差が認められ、29号住居が新しいことが確認された。



29号住居カマド

29号住居のカマドは、袖石の一部が残るのみであった。中世の1号溝によって破壊されたか、住居廃絶時に破壊されたかは不明である。

5号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。

写真左上は19号住居、一筋の変色部は4号溝である。

本住居は調査区内で最大規模の住居で、4基の柱穴が検出された。



5号住居カマド

カマドは原形をとどめておらず、袖石、支脚石は検出されなかった。燵破片がまとまって出土した。



6号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。床面直上から埋土下層にかけて礫が出土した。





6号住居カマド

袖石と天井石が検出されたが、粘土、支脚石は確認されず、住居廃絶時に一部が破壊されたと推測される。



6号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で撮影。
柱穴4基と周溝、間仕切り状の小溝が検出された。



7号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。

7号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で撮影。

周溝が検出されたが、写真下方の西壁沿いでは周溝と西壁の間が広く空いていた。写真の死角になっている西壁沿いでは周溝は検出されなかった。
写真右側の南壁沿いの掘り込みは本住居の掘り方である。



7号住居カマド

カマド検出時に撮影。

本住居のカマドは保存状態が良好で、灰白色粘土が混じる埋土が残されていた。



7号住居カマド

カマド埋土を断ち割った状況。

写真左右の袖石周りに灰白色粘土が良好に残り、カマド中央部は灰白色粘土の断片が混じる暗褐色土が堆積していた。





7号住居カマド

左右の袖石列の粘土を残した状態で撮影。
カマド内で土師器壺破片などがまとまって出土した。



7号住居カマド

粘土を外した状況。
右側の袖石列が良好に残り、支脚石も検出されたが、天井石は出土しなかった。カマド底面は強く被熱し、焼土が発達していた。



7号住居

掘り方まで発掘した時点で西から撮影。

8号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。
写真右側の南壁沿いで検出された2基のピットは本住居の出入り口に関連する施設と思われる。



8号住居カマド

カマド検出時の状況。
カマドは原形を留めず、灰白色粘土が広く散らばるように検出された。



8号住居カマド

カマド埋土を発掘した状況。
本来、袖石があったと思われる位置に灰白色粘土が断片的に残り、カマド中央に埋設された支脚石が検出された。





9号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。
カマド左側の1号ピットはカマドに
付属する施設と思われる。



9号住居カマド

灰白色粘土の断片と土師器壺破片が
散在していた。袖石等は検出されな
かった。



10号住居土層断面

南西側から撮影。
本住居は同一地点で建て替えられた
とみられ、床面で3条の周溝が検出
され、土層断面観察で新旧関係を確
認した。

10号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。
写真左側の北壁沿いで3条の周溝が明確に確認された。
写真下側の西壁では、建て替え時に住居中心軸の傾きが変更されたことによる壁面の凹凸が確認された。



10号住居

写真左側の焼土と黄褐色粘質土のまとまりがカマドである。カマドは原形を留めていない。
遺物はカマドの周辺で主に出土した。



10号住居

住居南西角の遺物の出土状況。





10号住居カマド

カマドは原形を留めず、袖石、灰白色粘土等は検出されなかった。



11号住居

土層断面を南東側から撮影。
写真左端の巨礫は地山礫である。



11号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。
床面上と埋土下層に礫が散在し、遺物はまばらに出土したのみであった。

11号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。

住居中央に小溝が検出された。
カマドは確認されなかった。



12号住居・25号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。
床面の円形の変色部は2号掘立柱建物の柱穴で、12号住居の床面を切って掘り込まれていた。

写真右上の突出部は25号住居で、床面は12号住居よりわずかに低く掘り込まれていた。



12号住居・25号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。

12号住居のカマドは25号住居の切られたためか残土を残すのみであった。25号住居のカマドは確認されなかった。

写真下側のピット列は2号掘立柱建物である。





13号住居

土階断面を南東側から撮影。



13号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。
床面上で礎、遺物がまばらに出土したのみである。



13号住居カマド

カマド埋土を発掘した時点で南西側から撮影。

13号住居カマド

袖石、天井石が原形を留めて検出された。右側の袖石に付着して黄褐色粘質土が確認された。



13号住居カマド

天井石とカマド埋土を除去して撮影。カマド中央のやや左奥側に立てて埋め込まれた扁平礫が支脚石と思われる。



13号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。カマド右側の86号土坑と87号土坑はカマドに付属する施設と思われる。住居の右斜め上で検出された211号ピットは平安時代の遺構と考えられるが、本住居との関係は分からない。





13号住居

住居掘り方を発掘した状況を西側から撮影。

写真右側、南壁沿いの4基のピットは出入り口施設と思われる。カマド手前側が不整形に浅く掘られていた。



14号住居

土層断面を南東側から撮影。



14号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。床面と埋土下層で礫がまばらに出土した。

土器破片は、写真右上のカマド周辺と写真左側の北壁沿いで主に出土した。

写真下方の西壁沿いで大形礫石が出土した。

14号住居

大形砥石の出土状況を南東側から撮影。西壁沿いの床面上で大形の砥石が出土した。写真左下方で羽口破片も出土した。西壁と大形砥石との間には周溝があり、砥石は周溝をよける位置にあった。



14号住居カマド

カマド検出時に西側から撮影。カマドの周辺には人頭大よりやや小さな礫がまわって出土した。



14号住居カマド

袖石等は検出されず、カマドは原形を留めずに破壊されていたが、灰白色粘土が床面上に広がって検出された。





14号住居

カマド横の住居南東角で土師器破片がまとまって出土し、床面で113号土坑を検出した。113号土坑は不整形であるがカマドに付属する施設と思われる。



14号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。
調査区内では大形の本住居では4基の柱穴が住居中心軸からやや南側に偏って検出された。
住居南壁を切るように掘られたピットが柱穴で、南壁直下の床面のピットは出入り口施設と思われる。



15号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。
床面の円形の変色部は本住居の柱穴と16号掘立柱建物の柱穴である。
住居中央のやや右上の床面は被熱焼土化していた。

15号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。

壁沿いの周溝のほか、床面で小溝を検出した。建て替え前の旧住居と判断したが、間仕切り溝などの可能性も考えられる。

写真では分かりにくいですが、壁沿いにも小穴が規則的に検出され、住居上屋を支持する補助的な柱が立てられていたと思われる。



15号住居

カマド横で検出された151号土坑を発掘した状況。

土師器破片がまとまって出土した。この土坑はカマドに付属する施設と考えられる。



15号住居

住居中央付近で検出された焼土。

床面が強く被熱焼土化している。

この焼土の表面と周辺から土を剛り取り水洗選別したが鍛造剥片などは検出されなかった。





15号住居カマド

検出状況を撮影。

カマド埋土は黄褐色粘質土、焼土化した粘土が混じる暗褐色土であった。



15号住居カマド

埋土を発掘した時点で撮影。

袖石と支脚石が残り、左右の袖石列に付着して黄褐色粘質土が検出された。



15号住居カマド

主要な構築礎を残した状態。

支脚石が残り、煙道が壁からやや突出して検出された。

16号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。
本住居は削平され、壁穴がわずかに残る程度であった。
住居中央左斜め下の円形の変色部は後世の擾乱である。



16号住居カマド

カマドの検出状況。
カマドは灰白色粘土の断片と焼土が、周溝から想定される東壁からやや外側に寄った位置で検出された。袖石などを埋設した小穴も不明瞭であった。



17号住居

埋土断面を南西から撮影。





17号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。
写真右側の住居南壁は耕作機器により破壊され失われている。



17号住居

カマド周辺の遺物出土状況を南西側
から撮影。



17号住居カマド

本住居は竪穴の保存状態も悪く、カ
マドも原形を留めず、袖石などは検
出されなかった。
後世の削平によりカマドが失われた
可能性も考えられるが、礎の出土状
況から住居廃絶時に破壊されたもの
と推測される。

17号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。



18号住居

埋土断面を南西側から撮影。



18号住居

写真左側の北壁沿いを中心に垂木状の炭化材と檜木束が出土した。火災住居と思われるが、埋土中の炭化材、炭土はそう多くなかった。





18号住居

埋土を発掘した時点で南西側から撮影。
礎は埋土下層から中層で出土し、炭
化材は北壁に斜めに落ち込んで検出
された。



18号住居

埋土、炭化材、礎を発掘した時点で
西側から撮影。

写真左端の床面にみえるピット1基
は46号掘立柱建物の柱穴である。写
真右端の変色部は住居出入り口施設
と思われる。



18号住居カマド

カマド検出時の状況。

カマド内には焼土化した粘質土が混
じる暗褐色土が堆積していた。

東壁の外側に煙道が突出し、焼土と
礎が出土した。

18号住居カマド

カマド埋土を発掘した状況。
左右の袖石2枚が原位置を留めている
ほかは、破壊されたと思われる。



18号住居

西壁沿いで炭化材、焼土とともに床
から浮いた状態で灰軸小形壺が出土
した。口縁部がやや欠損しているほ
かは完形である。



18号住居

床面で検出された遺構を発掘した時
点で西側から撮影。
写真右端の住居南壁沿いには浅く不
整形な掘り込みが2基並んで検出さ
れた。床面を切って掘り込まれ、壁
に沿って規則的に並ぶことから、住
居の出入口施設と推測した。





19号住居

埋土断面を南東方向から撮影。



19号住居

埋土を発掘した時点で西側から撮影。
大小の礫が出土した。



19号住居

カマド周辺の床面上に大きく扁平な
礫がまとめて出土した。被熱赤変
して破砕した礫が含まれ、カマド構
築材であった可能性がある。

19号住居

埋土、礎を発掘した時点で西側から撮影。



19号住居カマド

カマド検出時の状況。
左右の袖石と思われる礎は横倒しになって出土し、カマド周辺に被熱赤変した扁平礫が散らばっていた。
カマドに貼った粘土、粘質土は検出されなかった。



19号住居カマド

カマド内の埋土を発掘し、周囲の礎を取り除いた時点で撮影。
原位置を留める構築材は出土しなかったが、カマド中央に立てて埋められた支脚石を検出した。





20号住居

埋土断面を南東側から撮影。
埋土中から多量の礫が出土した。
写真手前側の住居南東方向の礫は床
面から高く浮き、住居中央部の礫は
床面に密着していたことから、これ
らの礫は埋土が堆積する過程で南東
方向から投棄されたと推測される。



20号住居

埋土発掘後に西側から撮影。
投棄されたとされる礫は写真右上
の住居南東方向に多く、写真左下
に向かって少なくなる。



20号住居

投棄された礫の出土状況。
住居中央部の礫は床面に密着し、写
真奥側、住居南東方向の礫は床面
から高く浮いていた。

20号住居カマド

カマド検出時の状況。
カマド上にも大きく扁平な礎が投棄
されていて、それらの礎を除去して
撮影した。



20号住居カマド

カマド埋土を発掘し、北西側から撮影。
カマド中央部に土師器坏が伏せた状
態で出土した。



20号住居カマド

袖石の一部は原位置を留めているよ
うであったが、カマドは住居廃絶時
に破壊されたと推測される。
カマド中央に支脚石が残され、支脚
石の上を上写真とは別に土師器坏が
伏せられていた。
上写真の坏も本来は、支脚石の上に伏
せたものがずれ落ちた可能性がある。





20号住居

住居北東角付近で鉄製鏝2点が出土した。



21号住居

埋土断面を南西側から撮影。
写真手前の黒い変色部は後世の攪乱である。



21号住居

埋土発掘後に西側から撮影。
カマドを掘り残したが、全く原形を留めず袖石等は出土しなかった。

21号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西側から撮影。
写真右端、住居南壁沿いのピットは
出入り口施設と思われる。



22号住居

埋土断面を南側から撮影。



22号住居

埋土発掘後に西側から撮影。





22号住居カマド
カマド検出時の状況。



22号住居カマド
左右の袖石列が原位置を留めていたが、
カマドは破壊されたと推測される。



22号住居
床面で検出された遺構を発掘した時
点で西側から撮影。

24号住居

埋土断面を南西から撮影。
写真左側に24a号住居と24b号住居
の切り合い部がある。24b号住居は
硬くしまった床面が検出されず、掘
り方で掘り込んでいる状況である。



24号住居

床面まで掘り下げた時点で西側から
撮影。
写真下側が24b号住居。写真上側の
礎石の集積部が24a号住居カマド。



24号住居カマド

24a号住居カマドの検出状況。
構築材と思われる粘質土断片と乱れ
た礎石が検出されたのみで、カマド
は破壊されていた。
24b号住居カマドは検出されなかった。





24号住居

床面で確認された遺構を発掘した時点で北西から撮影。



27号住居

埋土断面を南東から撮影。



27号住居

床面で確認された遺構を発掘した時点で西側から撮影。
住居中央部は硬くしまった床面が検出された。黒色の変色部は住居掘り方を埋め戻した箇所である。

27号住居

カマド周辺の遺物出土状況を南から撮影。
カマド南側で土師器片などがまとめられて出土した。



27号住居カマド

左側の袖石が原位置を留めているほかカマドは破壊されていた。



27号住居

床面で検出された遺構を発掘した時点で西から撮影。





27号住居 76号土坑

27号住居中心で検出された浅い土坑の底面は焼土化し、青黒く変色していた。
土坑埋土にも土壌化した炭化物が混じっている。
写真右端は、76号土坑上面で出土した土師器坏。



27号住居 221号ピット

床面から掘り込まれ、中段から細く深く掘られている。



28号住居

埋土断面を南東から撮影。

28号住居

埋土を発掘した時点で西から撮影。
床面に礫がまばらに出土し、遺物の
出土量は少なかった。



28号住居カマド

カマドは左側の袖石1個を除き、破
壊されていた。



1号掘立柱建物

南側から撮影。
写真上端に27号住居がわずかに写り
こんでいる。
1号掘立柱建物は、桁行2間、梁間2
間の長方形で、桁行柱間が梁間柱間
の約2倍であった。





2号掘立柱建物

西から撮影。

12号住居が掘立柱建物と重複する。桁行3間、梁間2間の長方形で、梁間柱間は桁行柱間の約1.5倍であった。



3号・4号掘立柱建物

ドローンによる空中からの撮影。写真左側が北方向である。

写真左側の柱列が3号掘立柱建物、右側が4号掘立柱建物。

当初は1棟の建物かと考えたが、南北方向の柱列が通らず、柱間も等しくないことから、3号、4号の2棟に分離した。

3号掘立柱建物は、ほぼ2間四方の正方形で、東西南北の柱列の柱間はほぼ等しい。



4号掘立柱建物

西から撮影。

4号掘立柱建物は、a号、b号と2棟の建物が同一地点で検出された。

写真左端に3号掘立柱建物の一部が写りこんでいる。

4号掘立柱建物は、南北1間、東西2間で、南北報告の柱間は東西方向の約2倍であった。

5号掘立柱建物

西から撮影。

1間四方の小形の掘立柱建物で、南北方向の柱間がやや広い。



6号掘立柱建物

北から撮影。

5号掘立柱建物と同様の1間四方の小形建物で、柱間も似ている。



7号・10号掘立柱建物

西から撮影。

手前側の柱列が10号掘立柱建物、写真上側が7号掘立柱建物。10号掘立柱建物から写真左上角に延びる変色部は3号溝。

写真で見ると7号掘立柱建物と10号掘立柱建物は、同一の建物跡のように柱列が揃っているが、柱間間隔が異なることから、隣接する建物と判断した。





9号掘立柱建物

西から撮影。
桁行3間、梁間2間の長方形で、梁間柱間がやや広い。



11号掘立柱建物

西から撮影。
桁行3間、梁間2間の長方形で、梁間柱間は桁行柱間の約1.5倍と広い。
9号掘立柱建物とは地点が異なるが構造、規模が類似する。



12号掘立柱建物

北から撮影。
2間四方のやや南北に長い建物である。
掘立柱建物に組めないビットがあり、建て替えも想定される。

13号掘立柱建物

西から撮影。

写真下側に29号掘立柱建物の柱列が写りこんでいる。

縦方向の細い溝は耕作機械による攪乱である。



14号掘立柱建物

西から撮影。

調査区東端にあたり、写真上側には黒色土が堆積した旧河道があり、水が湧いてくる。

14号掘立柱建物は1間四方の小形の建物で、南北方向の柱間が東西方向柱間の1.5倍である。

同一地点で同規模の建物が繰り返し建てられている。



15号掘立柱建物

西から撮影。

調査区北東角に位置する。2間四方の僧柱建物で、写真上側の柱列の中央柱は地山礫にあたりビットとして検出できなかった。





16号掘立柱建物

ドローンによる空中写真。上側が北方向。

桁行（写真の横方向）3間、梁間3間の掘立柱建物で、もっとも東側の柱列（写真右側）は、15号住居と重複する。

調査区内で最大規模の掘立柱建物である。



16号掘立柱建物柱穴

150号土坑の埋土断面を示す。

遺構確認面で柱痕が確認でき、上層黒色土の下位は黄褐色粘質土と黒色土が版築状に重なっている。

柱痕は30cmで、八ヶ岳南麓の平安時代の掘立柱建物のなかでは太いが、柱穴は不釣り合いなほどに大きい。



16号掘立柱建物柱穴

156号土坑の埋土断面を示す。

埋土下層の礫状の塊は風化した地山岩盤片である。

17号掘立柱建物

西から撮影。

桁行3間、梁間1間の長方形で、梁間は桁行柱間の1.5倍である。

写真下側の柱列は等間隔できれいに揃うが、写真上側のピットは柱芯が通らない。それでも梁間柱間が等しいことから、本建物を構成するものと考えた。



14号・18号・54号・55号・56号掘立柱建物

北から撮影。

調査区東端で検出された小形建物群。調査で認定した建物柱穴を黄色い水糸でつないで示した。

写真上側、もっとも奥側が18号掘立柱建物で、手前の斜めに写っている建物が55号、56号掘立柱建物。14号、54号掘立柱建物とその周囲を囲むが、写真下側からはみ出している。



19号掘立柱建物

北から撮影。

写真左側の浅い竪穴は5号住居である。桁行3間、梁間2間の長方形で、写真左側の柱列は5号住居と重複する。





20号掘立柱建物

北から撮影。

写真左上は4号住居。縦方向の溝跡は6号溝である。

20号掘立柱建物は6号溝をまたいで検出された1間×2間の建物で、ビットにピンポールを立てて示した。

写真左側には21号、50号掘立柱建物の柱列が写りこんでいる。



21号掘立柱建物

東側から撮影。

溝跡は6号溝。

ピンポールを立てたビットが21号掘立柱建物を構成する。



22号掘立柱建物

東から撮影。

写真左側は4号住居。上側は6号溝。22号掘立柱建物はピンポールを立てて示した。

4号住居と重複する柱列は中央のビットが失われて検出できなかった。

23号掘立柱建物

東から撮影。
ピンポールを立てて示した。
1間×2間の建物で、写真左側（南側）
の柱列は建て替えによると思われる
ピットが検出された。



24号掘立柱建物

北から撮影。
白線でつながれた建物群の間、写真
中央手前から奥側につづく南北に長い、
桁行3間、梁間2間の長方形の
建物である。



25号掘立柱建物

北から撮影。
ピンポールを立てて示した。
桁行3間、梁間1間の南北に長い建
物で、梁間は桁行柱間の2倍である。





26号掘立柱建物

西から撮影。

写真左上に2号住居と18号住居が写りこんでいる。26号掘立柱建物はピンポールを立てて示した。

桁行2間、梁間2間で、桁行柱間は梁間の1.5倍と広い。



27号掘立柱建物

東から撮影。

ピンポールを立てて示したのは建物北東部を構成する一部のピットのみで、写真撮影後に工作機械による筋状の攪乱下からさらにピットを検出している。

桁行4間、梁間2間で、梁間2間の柱間が変則的である。



28号掘立柱建物

東から撮影。

ピンポールを立てて示した。

桁行3間、梁間1間で、写真上側の桁行柱間が広く変則的である。梁間は、その他の桁行柱間の3倍の広さである。

29号掘立柱建物

北から撮影。
ピンポールを立てて示した。桁行2間、梁間1間の長方形で、梁間は桁行柱間の約1.5倍である。細い溝は耕作機械による攪乱である。



30号掘立柱建物

北から撮影。
ピンポールを立てて示した。
写真下側の焼土は9号住居のカマドである。
桁行2間、梁間1間の建物で、梁間は桁行柱間の2倍の広さである。



31号掘立柱建物

西から撮影。
ピンポールを立てて示した。
桁行2間、梁間1間の正方形の建物で、梁間は桁行柱間の2倍である。





32号掘立柱建物

西から撮影。
ピンポールを立てて示した。
1間四方で梁間、桁行とも柱間が広いことから、柱列にのるピットを精査したが検出されなかった。31号掘立柱建物と軸方向がほぼ一致し、同一の建物を構成する可能性は否定できない。



33号掘立柱建物

北から撮影。
ピンポールを立てて示した。
写真右側（西）柱列のピット数と左側とが食い違い、平面形もやや歪んでいる。



34号掘立柱建物

西から撮影。
ピンポールを立てて示した。
写真右端に21号住居が写りこんでいる。
1間四方で正方形の小形建物である。

35号掘立柱建物

南から撮影。ピンポールを立てて示した。写真右上に4号住居が写りこみ、6号溝が右側柱列に沿っている。桁行2間、梁間1間で南北に長い長方形である。あまりに長細いので梁間方向にさらなる柱穴がないか精査したが、柱列にのるビットは検出されなかった。



36号掘立柱建物

西から撮影。ピンポールを立てて示した。桁行2間、梁間1間の建物と考え、右写真を撮影したが、柱間が不揃いであること、同一地点で、1間四方と同じ形態の40号、42号掘立柱建物が検出されたことから、36号掘立柱建物も1間四方の建物と改めた。したがって右写真でピンポールを立てた中央ビット2基は別遺構とする。



38号掘立柱建物

東から撮影。ピンポールを立てて示した。写真右側は24号住居。35号掘立柱建物と同じく長細い建物で、梁間方向にさらなるビットを精査したが検出されなかった。





39号掘立柱建物

北から撮影。

ピンポールを立てて示した。

写真撮影時に1間×2間の建物と考えたが、調査記録の整理段階で、同一地点で重複する43号掘立柱建物とのピット構成を検討し、1間×3間の建物に変更した。

ただし、桁行方向の柱列がきれいに通らないことから、この判断は誤りである可能性も残る。



40号掘立柱建物

北から撮影。

写真上方に21号住居と22号住居が、下端には29号住居南壁が写りこんでいる。

当初、36号掘立柱建物と40号掘立柱建物を1棟の建物と認識し、8号掘立柱建物と認定したが、柱列が直線的に通らないため、8号を廃し、1間四方で同じ規模の2棟の建物に分離した。

左写真は1間×2間の建物としてピンポールを立てて撮影したが、写真上方、奥側の4本が本建物の柱穴である。



42号掘立柱建物

西から撮影。

写真上方に1号溝が写りこむ。

本建物も40号掘立柱建物と同様の理由で1間×2間の建物と判断しピンポールを立てて撮影したが、右側柱列のうち手前ともっとも奥の2基が本建物の柱穴で、ピンポールを立てたほかのピットは別遺構である。

43号掘立柱建物

北から撮影。

39号掘立柱建物と重複する。溝跡は6号溝。

桁行2間、梁間1間の長方形で、平面形はやや歪んでいる。

桁行柱間は梁間の1.5倍である。



44号掘立柱建物

東から撮影。

写真上方に3号溝が写りこむ。

1間四方の小形建物である。



45号掘立柱建物

南東から撮影。

1間×2間の建物で、写真右下角のビットは163号土坑と重複して失われている。





47号掘立柱建物

西から撮影。

写真上方に18号住居が写りこんでいる。

写真撮影時には2間×3間の建物と認識しピンボールを立てたが、柱列が直線的に通らず、検討の結果、24号掘立柱建物と47号掘立柱建物に分離した。

したがって写真下側の3基のピットは24号掘立柱建物に属するものである。



49号掘立柱建物

東から撮影。

写真左下は14号住居。

ピンボールを立てて示す。

桁行2間、梁間1間の建物で、梁間は桁行柱間よりやや広い。

写真左下角で14号住居と重複するピットはピンボールを立てたものの検出されなかった。



50号掘立柱建物

東から撮影。

左端に4号住居、上方に6号溝が写る。

1間×2間の長方形建物で、写真奥側の柱間が広く、台形状に開く平面形である。

51号掘立柱建物

北から撮影。

写真下端に4号、29号住居、上横に21号住居が写る。

1間×2間の正方形で東西方向の柱間は南北方向柱間の2倍である。



52号掘立柱建物

北から撮影。

調査区東端で多数の小形建物が重複する地点で検出。ビットを黄色い水糸でつないで建物を示した。

もっとも手前側の建物が52号掘立柱建物である。

2間四方で、東西方向の柱間が変則的である。



53号掘立柱建物

北から撮影。

写真上方に21号、22号住居が写りこむ。

桁行3間、梁間2間の建物であるが、桁行のビット列が直線的に通らない。それでも柱間に規則性が認められたため1棟の建物と認識した。





掘立柱建物

掘立柱建物が集中する地点のドローン写真。写真右側が北方向。20号掘立柱建物などが写りこんでいる。

中央の溝跡は5号、6号溝。

写真中央左側で縦に並んだ住居は上から4号、20号、6号住居。

右下は2号、18号、5号住居である。



調査地点遠景

平成27年度調査地点を南東からドローンで撮影。背景は八ヶ岳。平成28年2月23日撮影。

調査地点は昭和54年に試掘調査、ほ場整備が実施されたが、細地であったため本調査は実施されなかった。

寺所遺跡は、写真下側（南）で昭和54年と平成8年に発掘調査されている。

写真左側（西）に深く広い谷地形があり、史跡金生遺跡が対岸に位置する。写真中央のやや左上、八ヶ岳の手前の小山は史跡谷戸城跡。



調査地点遠景

調査地点を北からドローンで撮影。背景は巨摩山地と南アルプス。平成28年2月23日撮影。

寺所遺跡は、中世に「大八田庄」と呼ばれ、開発拠点となった沖積地に位置する。寺所遺跡のほかにも平安時代遺跡が点在する。

調査地点全景

調査地点を上空から撮影。平成 28 年 2 月 23 日撮影。写真左側が北。写真下側（西）に谷地形があり、上側（東）にも黒色土が堆積した旧河道がある。寺所遺跡は、この谷地形に東西を挟まれた細い尾根筋に沿って南北に展開する。



調査地点近景

調査地点を南西から撮影。背景の木立は、日蓮宗上行寺。平成 27 年 11 月 12 日撮影。



遺跡見学会

平成 27 年 11 月 21 日に地区住民等を対象に遺跡見学会を開催した。



報告書抄録

| | |
|--------|------------------------------------|
| ふりがな | てらどこいせき |
| 書名 | 寺所遺跡 |
| 副題 | 経営体育成基盤整備事業寺所地区ほ場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 北杜市埋蔵文化財調査報告第42集 |
| 著者 | 佐野隆 |
| 発行機関 | 北杜市教育委員会・山梨県中北農務事務所 |
| 編集機関 | 北杜市教育委員会(学術課) |
| 所在地/電話 | 山梨県北杜市明野町上手8310番地 0551-42-1375 |
| 印刷所 | 有限会社小宮山プリント社 山梨県北杜市高根町箕輪新町14 |
| 発行日 | 2018年(平成30年)3月30日 |

| | |
|------|---|
| ふりがな | やまなしけんほくとしおおいずみちょうにしいで |
| 所在地 | 山梨県北杜市大泉町西井出285ほか |
| 位置 | 北緯35°50'55" 東経138°23'19" |
| 調査原因 | 農業基盤整備事業 |
| 調査期間 | 2015年(平成27年)8月19日～2015年(平成27年)12月25日 |
| 調査機関 | 北杜市教育委員会 |
| 調査面積 | 10,962㎡ |
| 時期 | 縄文時代、平安時代、中世 |
| 主な遺構 | 平安時代住居跡27軒、土坑166基、柱穴620基、掘立柱建物跡52軒、溝跡6基 |
| 主な遺物 | 縄文時代の土器及び石器 平安時代の土師器、刀子・鉄織・鉄斧・鏡・小尻(刀装具)・釘などの金属製品、 大型砥石 中世の土器 |
| 特記事項 | 9世紀前半から10世紀後半に富まれた集落跡で、大型掘立柱建物を含む多数の掘立柱建物を伴う。 八ヶ岳南麓開発の拠点集落と推測される。 |

北杜市埋蔵文化財調査報告第 42 集

寺所遺跡

経営体育成基盤整備事業寺所地区ほ場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2018 年 3 月 23 日印刷

2018 年 3 月 30 日発行

発行 北杜市教育委員会（学術課）
山梨県北杜市明野町上手 8310 番地
TEL (0551) 42-1375

印刷 有限会社小宮山プリント社
山梨県北杜市高根町箕輪新町 14
